取扱説明書

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお取り扱いください。
また、お読みになった後も必要なときにすぐに見られるよう大切に保管してください。

◆ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載・無断複写することは禁止されています。
(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一、ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
(4) 本製品の故障や誤動作、停電あるいは天災などにより本製品が使用できなくなった場合、それに付随的に生じる損害（通話や録音等上に生じる機会損失など）に対しては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

◆ NTTの電話機などをレンタルで利用している方へ

本システムを導入されたことにより、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTT東日本またはNTT西日本にご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって**「機器使用料」が不要**となります。詳しくは、**局番なしの116番（無料）**にお問い合わせください。

はじめに

このたびは、「Aspireシリーズ」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
「Aspireシリーズ」は、オフィスで使用する電話機と、パソコンなどの通信とを一体化し、インターネットやブロードバンド、モバイル通信などに即応できるシステムです。また、操作面での向上だけでなく、設置面でのコンパクト化も実現しました。

この取扱説明書は、専用デジタル多機能電話機やデジタルコードレス電話機、一般電話機、IP電話機など、電話機ごとに章を分けて使いかたを説明しています。また、オプション機器を利用した操作も記載していますので、必要に応じてご覧ください。
その他、オプション機器に説明書が添付されている場合には、その説明書も併せてご覧ください。

「Aspireシリーズ」には、用途と規模に応じて、3種類の制御ユニットが用意されています。各制御ユニットのおもな機能と制限事項は、下表のとおりです。詳しくは「システムについて」(⇒P.6-2)を参照してください。

システム名称	制御ユニット	対応Ver.	規　模	内線の数	外線の数	おもな機能と制限事項
Aspire S	MBU-S1	V4以降	小	最大50	最大16	・通常の電話機能を利用可能 ・料金管理、ボイスメールはオプション ・INSネット1500は非対応
Aspire	NTCPU-A2	V3以降	中	最大128	最大64	・通常の電話機能を利用可能 ・料金管理、ボイスメールはオプション ・INSネット1500対応
	NTCPU-B2	V3以降	大	最大512	最大200	・通常の電話機能を利用可能 ・料金管理、標準ボイスメールを利用可能 (高機能ボイスメールはオプション) ・INSネット1500対応

各種機能を利用するには、機器の追加や工事設定が必要な場合があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

この取扱説明書に記載されている表示例や操作例は、NTCPU-A2またはNTCPU-B2制御ユニットを使用時の説明になっています。このため、内線番号、外線番号とも、3桁での記載になっています。MBU-S1制御ユニットを使用する場合は、内線番号が2桁になります。また、外線番号はバージョン4未満は1桁、バージョン4以降は2桁になりますので、ご注意ください。

デジタル多機能電話機について

デジタル多機能電話機には、漢字表示(標準)・カナ表示・表示なしの3タイプがあります。この取扱説明書では、漢字表示電話機の操作例と表示例で説明しています。文字入力以外の操作は各電話機で共通です。なお、表示なし多機能電話機では、ソフトキーを使う操作が利用できません。

- 本製品を改造しないでください。マニュアルに記載されていない改造・回路変更などを行った場合、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の設置および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となり、また事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。
- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

安全に正しくお使いいただくために　―　必ずお読みください　―

この取扱説明書では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本システムを安全に正しくお使いいただくために守っていただきたいことを、いろいろな絵表示を使って記載しています。
その絵表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解した上で本文をお読みください。

危 険：人が死亡するまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警 告：人が死亡するまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注 意：人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

お 願 い：本システムの本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は水濡れ注意）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

■使用環境、使用条件■

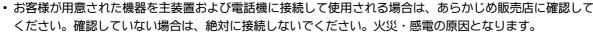
警 告

・主装置や電話機の内部に水が入ったりしないよう、また濡らさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

・表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

・付属のACアダプタ、充電器以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

・電源の延長コードは使用しないでください。過熱、発火の危険があります。

・お客様が用意された機器を主装置および電話機に接続して使用される場合は、あらかじめ販売店に確認してください。確認していない場合は、絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

・主装置および電話機を改造や分解し、内部に触れないでください。火災・感電の原因となります。分解・改造された主装置および電話機は、修理に応じられない場合があります。

■設置上の注意■

⚠ 警 告

・タコ足配線はしないでください。タコ足配線にすると、テーブルタップなどが過熱・劣化し、火災の原因となります。

・電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となります。

・開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。漏電して、感電の原因となります。

・主装置の電源ケーブルや電話機までの配線を傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりすると、電源ケーブルや電話機までの配線が破損し、火災・感電の原因となります。電源ケーブルおよび電話機までの配線が傷んだら、販売店に修理をご依頼ください。

・次のような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所
- 直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーなどの近くや屋外
- 湿気の多い場所や水・油・薬品などがかかる恐れがある場所
- ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所
- 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所
- テレビ・ラジオ・無線機など、磁気・電波を発生する場所
- 違法電波を受ける場所

⚠ 注 意

・壁掛けで使用するときは、落下にご注意ください。けがの原因となることがあります。

・壁掛け用に取りつける場合は、電話機の重みにより落下しないよう堅固に取付・設置してください。落下すると、けがの原因となることがあります。

・次のような場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所
- 振動・衝撃の多い場所

・電源ケーブルを熱器具に近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となります。

・本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■使用上の注意■

⚠ 警 告

・主装置の上や近くに、花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など、水や液体の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

⚠ 注 意

・機器で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。

・電池は極性表示（プラスとマイナスの向き）を確認してから機器内に挿入してください。間違えますと、電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。

・工事・保守者以外の方は、主装置のカバーを開けないでください。内部に触ると感電・けがの原因となることがあります。

・近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。

・長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■日常のお手入れ■

⚠ 注 意

・電源プラグとコンセントの間のほこりは、定期的に取り除いてください。火災の原因となることがあります。

■電話機が汚れたときは■

電話機の汚れは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
特に汚れのひどいときは、台所用中性洗剤を薄めてご使用のあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品や、科学雑巾のご使用は絶対に避けてください。本機の外装を変質・変色させる原因となります。

■保管について■

製品を保管する場合は、梱包状態のまま保存してください。保存場所は、各機器の使用と同等の環境（主装置：周囲温度0〜40℃、湿度10〜90%）を維持できる場所に保存してください。詳しくは、販売店にご相談ください。

■製品の運搬、開梱について■

⚠ 警 告

・製品の運搬、開梱を行う場合は、販売店にご相談ください。お客様による運搬、開梱は危険であるばかりでなく、振動、衝撃、落下等により故障する場合がありますのでおやめください。

■廃棄時の注意■

⚠ 注 意

- 使用済みの電池は、火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となることがあります。

■コードレス電話機の取り扱いについて■

《 無線機器一般 》

⚠ 警 告

- ふろ場やシャワー室など、水がかかる場所では使用しないでください。また、本機に水が入ったり、濡れたりしないように注意してください。漏電して、火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で、本機を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となります。
- 開口部から本機の内部に金属物を差し込まないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機のそばに花びんや植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。
- 本機を分解しないでください。火災・感電の原因となります。
- ACアダプタは、必ず指定のものを使用してください。指定以外のACアダプタを使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

⚠ 注 意

- デジタルコードレス電話機およびカールコードレス電話機は、デジタル信号で無線を行っているため傍受されにくくなっていますが、通常の手段を越えた方法で第三者が故意に内容を傍受する可能性があります。この点について十分に配慮して使用してください。機密が必要な通話は、有線の多機能電話機を使用することをお勧めします。
- 移動しながら使用するときは、位置や向きによって雑音が入ることがあります。
- 同一室内で、無線LAN、電子レンジなどを使用している場合、通話に雑音が入る場合があります。
- コードレス電話機のアンテナをあやまって目にささないようにしてください。
- 次のようなところには置かないでください。火災・感電の原因となります。
  - 直射日光があたるところ
  - 温度の高いところ
  - 調理台のそばなど、油飛びや湯気が当たるところ
  - ほこりの多いところ
- 次のようなところには置かないでください。倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。
  - ぐらついた台の上や傾いたところ
  - 不安定なところ
  - 振動や衝撃の多いところ

⚠ 注 意

- デジタルコードレス電話機およびカールコードレス電話機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

- デジタルコードレスおよびカールコードレス電話機の設置にあっては、設置業者による事前環境調査を行ってください。お客様による設置および移設工事、または設置業者であっても環境測定を行わない設置の場合、この機器が正しく動作しないばかりではなく、他の電気機器に影響を与える場合があります。

- 万一、デジタルコードレス電話機およびカールコードレス電話機から、移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかにこの機器の電波の発射を停止した上で（親機に接続されている電話機コードを引き抜き、子機の電池パックをはずします）、お買い上げの販売店に混線回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。

- 本機に異物や水などが入ったときは、すぐに電源を切り、電話機コードを抜いて販売店にご連絡ください。

《 漢字表示器付き カールコードレス電話機（DTR-16KR-1D(WH)）》

- 漢字表示器付き カールコードレス電話機は、2.4～2.4835GHzの全帯域を使用する無線設備です。移動体識別装置の帯域が回避不可能で、偏重方式は、「FH-SS方式」、与干渉距離は80mです。この機器（親機、子機ともに）には、それを示す右記のマークが貼付されています。

- この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

■異常時の対処■

⚠ 警 告

- 電源ケーブルが破損（芯線の露出、断線など）した場合は、交換してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。ケーブルの交換については、販売店にご依頼ください。

- 万一、主装置の内部に水などの液体が入った場合は、まず主装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

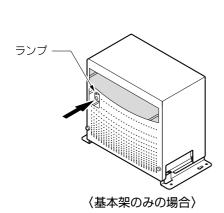
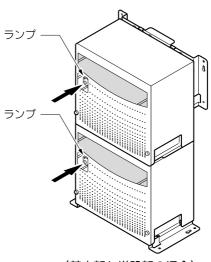
- 主装置の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、まず主装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

- 万一、次のような異常状態を発見したら、すぐに主装置の電源を切り、そのあと必ず電源プラグをコンセントから抜き、販売店に点検・修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
  - 主装置から異常音がする
  - 主装置本体のキャビネットが熱くなっている
  - 煙が出ている
  - へんな臭いがする

- 万一、本機を倒したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

<電源の切りかた>

- Aspire（NTCPU-A2またはNTCPU-B2制御ユニット）をご使用の場合
  (1) Powerスイッチを押す
  Powerランプが点滅を開始し、電源がOFFします。
  ※ 増設架を使用している場合は、基本架と増設架それぞれのPowerスイッチを押して、電源をOFFにしてください。

〈基本架のみの場合〉

〈基本架と増設架の場合〉

- Aspire S（MBU-S1制御ユニット）をご使用の場合
  (1) Powerスイッチを押す
  Powerランプが点滅を開始し、電源がOFFします。

デジタル多機能電話機で［特殊］ボタン→［3］を押すと“データセーブチュウ”と表示されることがあります。この状況で電源を切ってしまうと、登録内容が正しく書き込まれないことがあります。しばらく待ってから、もう1度［特殊］ボタン→［3］を押して“メインソフト バージョン ×××”が表示されることを確認してから、電源を切ってください。

<電源の入れかた>

- Aspire（NTCPU-A2またはNTCPU-B2制御ユニット）をご使用の場合
  (1) 電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認する
  (2) Powerスイッチを押す
  Powerランプが点灯し、システムが起動します。しばらくすると、電話機の表示器に時計表示が出ます。
  ※ 増設架を使用している場合は、基本架と増設架それぞれのPowerスイッチを押して、電源をONにしてください。

- Aspire S（MBU-S1制御ユニット）をご使用の場合
  (1) 電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認する
  (2) Powerスイッチを押す
  Powerランプが点灯し、システムが起動します。しばらくすると、電話機の表示器に時計表示が出ます。

目　次

デジタル多機能電話機を使う

マルチラインデジタルコードレス電話機（PHS）を使う

一般電話機を使う

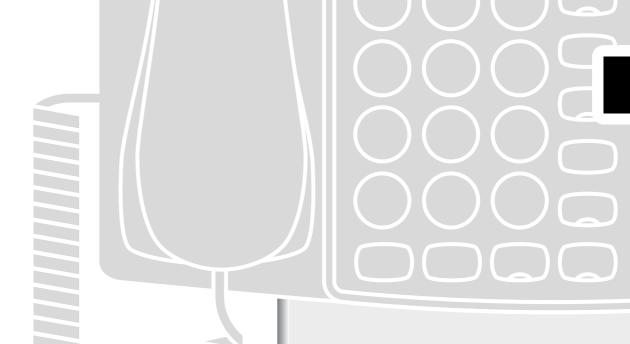
標準ボイスメールを使う

システムの運用例

システム管理者の方へ

※ システム管理者用として設定された電話機でのみ、設定や操作が行えます。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書では、次のマークを使って操作のしかたや注意事項、アドバイスなどを説明しています。

デジタル多機能電話機を使う

電話機のボタンと表示器の見かた

各ボタンの使いかた

ここでは、表示器およびソフトキーがついたデジタル多機能電話機での操作を例にして説明しています。
お買い上げの電話機が表示なしタイプの場合には、本文中に記載されている表示器およびソフトキーでの操作はありませんのでご了承ください。

■ 32 ボタン表示器付きの場合

大型ランプ
外線や内線からの着信時に点滅します。また、オプションのボイスメールを利用している場合、メッセージが録音されていると点滅します。

表示器
詳しくは「表示器の見かた」(⇒P.1-4)を参照してください。

Exit … Exitボタン
表示器を見ながらの操作を、途中でやめたいときなどに使います。

… ソフトキー
発信履歴を確認したり、短縮番号に登録されている相手先を検索したり、各機能の設定時に表示器に表示された項目を選択するときなどに使います。

Help … ヘルプボタン
ファンクションボタンに登録されている機能を確認するときなどに使います。

… ファンクションボタン(ランプ付き)
外線にかけるときに使います。また、相手の電話番号や内線番号を登録してワンタッチで電話をかけたり、いろいろな機能を登録してワンタッチで操作することもできます。

… ボリュームボタン
受話音量や着信ベル音量または、表示器の濃さを調整するときに使います。
※ 受話音量の調整については、カールコードレス電話機を除きます。

マイク … マイクランプ
マイクが使える状態のときに点灯します。

ダイヤルボタン

スピーカ

マイク
受話器を置いたままで話すとき、このマイクに向かって話します。

特殊 … 特殊ボタン(ランプ付き)
いろいろな機能を設定するときなどに使います。

フック … フックボタン
受話器を戻さないで外線通話を切るときや、キャッチホンサービスを利用するときに使います。

会議 … 会議ボタン(ランプ付き)
複数の人と同時に通話(会議通話)するときなどに使います。
会議ランプは、会議操作中に点灯します。また、内線通話の保留中にも点滅します。

再/短 … 再/短ボタン
最後にかけた相手にかけ直すときや、短縮ダイヤルを使ってかけるときなどに使います。

スピーカ … スピーカボタン(ランプ付き)
受話器を置いたまま、電話をかけるときに使います。

保留 … 保留ボタン
通話を保留にするときに使います。

転送 … 転送ボタン
通話を他の人に取り次ぐときに使います。

応答 … 応答ボタン(ランプ付き)
外線からの電話を受けるときに使います。
応答ランプは、外線から電話がかかってくると点滅します。

発信 … 発信ボタン(ランプ付き)
外線に電話をかけるときに使います。

パネルと示名条片の取り外しかた・取り付けかた

電話機のパネルを外すと、示名条片がかぶせてあります。この示名条片には、各ボタンに割り付けてある機能名やワンタッチで登録してある相手先の名称を書き込んで、ご利用ください。

■ パネルと示名条片の取り外しかた

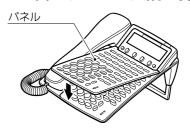
1 パネルの下部中央にあるツメに指をかける

2 軽く上に持ち上げて取り外す

3 示名条片を取り外す

■ 示名条片とパネルの取り付けかた

1 電話機のボタンに合わせて示名条片をかぶせる

2 パネルの上部を先に合わせてから“カチッ”と音がするまで四隅を押さえる

パネルは確実に取り付けてください。パネルでボタンが押されたままになると、電話をかけられないなど、誤動作することがあります。

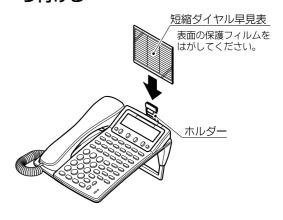
パネルにキズが付いているように見える

パネルの穴の周囲などに、光の具合によってはキズに見えるスジが入っていることがあります。これは、プラスチックの成形過程で生じるもので、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。

短縮ダイヤル早見表の取り付けかた

短縮ダイヤル早見表をカバーにはさみ込み、ホルダーに取り付けてください。

1 電話機背面のホルダー差込み口にホルダーを差し込む

2 短縮ダイヤル早見表をホルダーに取り付ける

表示器の見かた

デジタル多機能電話機の表示器には、電話機の状態により、次のように表示されます。

この取扱説明書に記載されている表示は、NTCPU-A2およびNTCPU-B2制御ユニットのものです。MBU-S1制御ユニットの場合、内線番号と外線番号は2桁で表示されます。

■ 電話機を使用していないとき

電話機を使用していないときは、次の情報が表示されます。なお、日付の表示方法は、工事段階で変更できます。
・上段：日付、曜日、時刻
・中段：内線番号、名前
・下段：ソフトキーのメニュー

名前の表示について

この表示は、電話機の内線番号の代わりに使用者の名前を表示することができます。詳しくは「電話機に使用者の名前を登録する」(⇒P.1-11)を参照してください。

電話機のポート番号などを知りたい

電話機の各種設定をするとき、内線ポート番号などのポート番号が必要になることがあります。このときは、Helpボタンを押してから発信ボタンを押してください。

元に戻すときは、Exitボタンを押します。

■ 外線に発信中のとき

外線に発信中は、使用中の外線名称と相手の電話番号が表示されます。

"LINE"の表示について

この表示は、使用中の外線の電話番号（加入者番号）や、その外線を使用する部署名など、別の名称に工事段階で変更できます。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線と通話中のとき

外線と通話中は、通話時間が表示されます。

外線名称　通話時間

LINE 001	05:30
ﾘﾋﾟｰﾄ 録音 会議	

電話をかけた場合と、かかってきた場合とで、表示は異なります。
この例は、かかってきた場合を示しています。
中段には、通話料金や相手の電話番号などが表示される場合があります。

■ 内線を呼出中のとき

内線を呼出中は、呼出中の表示と相手の名前が表示されます。

名前の表示について

電話をかけてきた相手先の電話機の設定によっては、相手の内線番号の代わりに、相手の名前が表示されます。詳しくは「電話機に使用者の名前を登録する」(⇒P.1-11)を参照してください。

■ 内線と通話中のとき

内線と通話中は、通話中の表示と相手の名前が表示されます。

名前の表示について

電話をかけてきた相手先の電話機の設定によっては、相手の内線番号の代わりに、相手の名前が表示されます。詳しくは「電話機に使用者の名前を登録する」(⇒P.1-11)を参照してください。

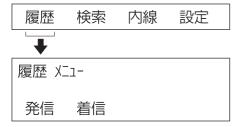
ソフトキーのメニューについて

デジタル多機能電話機の表示器には、ソフトキーのメニューが表示されています。各メニューの下のソフトキーを押すと、特番を使わずに、履歴や検索機能を利用することができます。
各機能の詳細については、本文を参照してください。

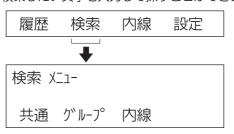
電話機を使用していないとき

電話機を使用していないときは、次のメニューが表示されています。

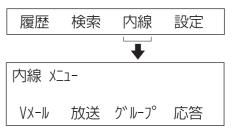
■ 履歴メニュー

発信履歴や着信履歴を表示させたいときに押します。

- 発信（発信履歴）
  1度かけた相手にかけ直す（再ダイヤル）ときに、使います。直前の発信から10件まで、履歴が表示されます。
- 着信（着信履歴）
  NTTのナンバー・ディスプレイを利用している場合、過去にかかってきた相手の履歴が50件（バージョン4未満は16件）まで表示されます。

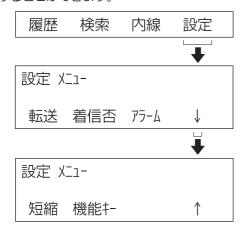
■ 検索メニュー

あらかじめ登録されている短縮ダイヤル番号や内線番号を、検索したい文字を入力して探すことができます。

- 共通（共通短縮）
  システム内の、どの電話機からでも使える共通の短縮番号を検索します。
- グループ（グループ短縮）
  電話機が登録されているグループ内の短縮番号を検索します。
- 内線
  システム内の内線番号を検索します。

■ 内線メニュー

ボイスメールにアクセスするときや、一斉呼出などを利用するときに押します。

- Vメール
  ボイスメールにアクセスします。ボイスメールにアクセスしたあとの操作については、「標準ボイスメールを使う」（⇒P. 4-1）または『高機能ボイスメール　取扱説明書』を参照してください。
  ※ NTCPU-A2 または MBU-S1 制御ユニットをご使用の場合、機能追加工事を行わないと、表示されません。
- 放送
  構内放送を利用して一斉放送やグループ放送をします。
- グループ
  内線グループの呼出（ページング）をします。
- 応答
  応答メニューから、次のメニューを表示します。
  - 代理（代理応答）　：自分と同じ内線グループ内の着信に代理応答します。
  - 放送（放送への応答）：構内放送での呼び出しに応答します。
  - グループ　：内線グループ呼出に応答します。

■ 設定メニュー

自分宛てにかかってきた電話に対し、転送や拒否などを設定することができます。

・転送
転送メニューから、次のメニューを表示します。各機能の詳細については「席を外すとき・電話に出られないとき」(⇒P. 1-38) を参照してください。

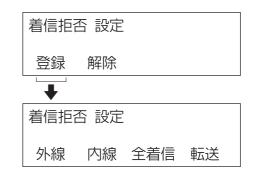
- 着信（着信転送）　：着信転送を設定または解除します。
- 不在（不在転送）　：不在着信転送を設定または解除します。
- 話中（話中転送）　：話中転送を設定または解除します。
- 不応答（不応答転送）：不応答転送を設定または解除します。
- フォローミー　：フォローミーを設定または解除します。

転送の種類を選ぶと、次のメニューが表示されます。“登録” または “解除” を選んで、それぞれの設定をしてください。

選んだ転送の種類

```
○○○○ 設定

登録　解除
```

・着信否（着信拒否）
着信拒否を設定または解除します。
“着信否” を選ぶと、次のメニューが表示されます。“登録” または “解除” を選んで、それぞれの設定をしてください。“登録” を選んだときは、さらに着信の種類を選ぶメニューが表示されます。

・アラーム
アラームメニューから、次のメニューを表示します。

- アラーム1：1回だけ鳴らすアラームを設定または解除します。
- アラーム2：毎日定刻に鳴らすアラームを設定または解除します。

・↓
次のメニューを表示します。

- 短縮　：短縮ダイヤルを登録します。
- 機能キー：ファンクションボタンに、いろいろな機能を割り付けます。
- ↑　：前のメニューに戻ります。

その他のメニュー

内線呼出中や内線通話中、外線通話中、会議通話中などには、次のようなメニューが表示されます。

■ 内線で呼出中のとき

内線で呼出中のときは、次のメニューが表示されます。

- 信/音
  相手を呼び出すときに、信号音で呼び出すか、音声で呼び出すかを切り替えます。
- ステップ
  呼び出している相手と同じ内線グループ内のほかの内線に、呼び出しを切り替えます（ステップコール)。
- メッセージ
  伝言を設定します。詳しくは「知っておくと便利な使いかた」の「電話機のランプで伝言があることを知らせる」(⇒P. 1-57) を参照してください。
- ↓
  次のメニューを表示します。
  - Vメール：呼び出している相手のメールボックスにつながり、メッセージを録音します。
    ※ NTCPU-A2またはMBU-S1制御ユニットをご使用の場合、機能追加工事を行わないと、表示されません。
  - 予約：内線予約を設定します。詳しくは「内線に電話をかける」の「相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す」(⇒P. 1-24) を参照してください。
  - ↑：前のメニューに戻ります。

■ 内線呼出で相手が通話中のとき

内線で呼び出した相手が通話中だったときは、次のメニューが表示されます。

- 話中呼
  話中呼出をします。
- ステップ
  呼び出している相手と同じ内線グループ内のほかの内線に、呼び出しを切り替えます（ステップコール)。
- メッセージ
  伝言を設定します。詳しくは「知っておくと便利な使いかた」の「電話機のランプで伝言があることを知らせる」(⇒P. 1-57) を参照してください。
- ↓
  次のメニューを表示します。
  - Vメール：呼び出している相手のメールボックスにつながり、メッセージを録音します。
    ※ NTCPU-A2またはMBU-S1制御ユニットをご使用の場合、機能追加工事を行わないと、表示されません。
  - 予約：内線予約を設定します。詳しくは「内線に電話をかける」の「相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す」(⇒P. 1-24) を参照してください。
  - 割込：通話に割り込みます。
  - ↑：前のメニューに戻ります。

■ 内線と通話中のとき

内線と通話中のときは、次のメニューが表示されます。

```
2-1 WED 2:10PM
通話              120
 会議
```

- 会議
  会議通話をします。詳しくは「知っておくと便利な使いかた」の「電話で会議する」(⇒P. 1-51) を参照してください。

■ 外線がふさがっているとき

かけようとした外線がふさがっているときは、次のメニューが表示されます。

```
    LINE 001
使用中
 予約
```

・予約
外線が空きしだい使用できるように、外線を予約します。

■ 外線で発信中または通話中のとき

外線に発信中や通話中のときは、次のメニューが表示されます。

```
    LINE 001
                 01234567
ﾘﾋﾟｰﾄ   録音   会議
```

・リピート
相手が出ないときや通話中のとき、自動でくり返し、かけ直します（リピートダイヤル）。
・録音
ボイスメールで通話録音をします。
※ NTCPU-A2 または MBU-S1 制御ユニットをご使用の場合、機能追加工事を行わないと、表示されません。
・会議
会議通話をします。詳しくは「知っておくと便利な使いかた」の「電話で会議する」（⇒P.1-51）を参照してください。

■ 会議通話を操作中のとき

通話中に会議通話の操作をすると、次のメニューが表示されます。

```
                会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ
再応答  検索
```

・応答
会議通話の操作により保留になった通話を再開します。
・検索
会議通話に参加させたい相手を、検索メニューで選ぶときに表示させます。

■ 会議通話したい相手を呼び出しているとき

会議通話に参加させたい人を呼び出しているときは、次のメニューが表示されます。

```
     2-1  WED  2:10PM
呼出                  121
 中止
```

・中止
呼出を中止します。

■ 会議通話したい相手と通話中のとき

会議通話したい相手と通話中のときは、次のメニューが表示されます。

```
                会議 通話
通話                  121
 登録
```

・登録
“登録”を押したあと、“開始”を押すと、通話中の相手を会議に参加させて会議通話を始められます。

■ 会議通話中のとき

会議通話をしているときは、次のメニューが表示されます。

```
                会議 通話
        120           121
 会議
```

・会議
さらに会議通話に参加させたい相手を呼び出します。

電話機の調整のしかた

音や表示器を調整する

ボリュームコントロール

次の調整を行うには、ボリュームボタンを使います。
- 受話器から聞こえる声（受話音量）
- スピーカから聞こえる声（スピーカ音量）
- 電話機のベルの音（着信音量）
- 通話中に着信したときのベルの音（話中着信音量）
- 表示器のコントラスト（濃淡）

■ 受話音量を変える

受話器で通話中に、ボリュームボタンを押してください（カールコードレス電話機を除く）。

［▲］大きくする　［▼］小さくする

■ スピーカ音量を変える

スピーカから音が出ているときに、ボリュームボタンを押してください。

［▲］大きくする　［▼］小さくする

■ 着信音量を変える

着信音が鳴っている間に、ボリュームボタンを押してください。

［▲］大きくする　［▼］小さくする

また、着信音が鳴っていない場合は、次の手順で調整します。

1 電話機を使っていない状態にする

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨③⑦を押す

937は、着信音量設定の特番（初期値）です。

4 スピーカから着信音が鳴る

5 ボリュームボタン［▲］または［▼］を押して調整する

6 (スピーカ)を押す

■ 話中時の着信音量を変える

1 電話機を使っていない状態にする

2 受話器を上げる

3 ⑨③⑦を押す

937は、話中着信音量設定の特番（初期値）です。

4 スピーカから話中着信音が鳴る

5 ボリュームボタン［▲］または［▼］を押して調整する

6 受話器を戻す

■ 表示器のコントラストを変える

表示器の明るさ（コントラスト）を調整したいときは、電話機を使用していない状態で、ボリュームボタンを押してください。

［▲］濃くする　［▼］淡くする

着信音の音色を選ぶ

着信音色切替

内線や外線から着信したときに鳴る着信音の音色を、8種類の中から選ぶことができます。
着信音を設定する前に、どのような音かを確認してから、設定してください。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨②⓪を押す

920は、着信音色切替の特番（初期値）です。

```
着信音 設定
1:内線 2:外線
```

3 内線または外線の番号を押す

1：内線
2：外線
例 ：1（内線）を押した場合

```
着信音 設定 内線
着信音1-8:?
```

4 着信音色の番号（1～8）を押す

例：1を押した場合

```
着信音 設定 内線
着信音 1 ｾｯﾄ
```

5 押した番号の着信音が鳴る

別の番号を押すと、その番号の着信音が鳴り、確認することができます。

6 着信音が決まったら、(スピーカ)を押す

これで、着信音の音色が設定できました。

ダイヤルボタンを押したときの音を設定する

キータッチトーン

デジタル多機能電話機のボタンを押すたびに“ピッ”という音を出すことができます。ボタンを押したことを音で確認できます。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①⑨を押す

919は、キータッチトーンの特番（初期値）です。

3 (スピーカ)を押す

これで、キータッチトーンが出るようになりました。

■ 解除のしかた

設定のしかたと同じ操作をもう1度行うと、解除することができます。

内線からの着信のしかたを選ぶ

内線呼出の音声／信号の呼出指定

内線から電話がかかってきたとき、最初に着信音を鳴らすか、または相手の声での呼び出しにするかを設定します。
着信側の電話機であらかじめ設定しておくだけで利用できます。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 内線の着信方法の番号を押す

- 信号着信を設定するとき： 916（初期値）
- 音声着信を設定するとき： 915（初期値）

3 (スピーカ)を押す

これで、内線の着信方法が設定できました。

電話機に使用者の名前を登録する

内線名称入力

電話機を使用していないときや、内線を呼出中、内線を使用中に使用者の名前を表示します。名前を登録しておくと、内線に電話をかけたとき、相手の電話機に、次のように表示します。

・お買い上げの状態：内線番号を表示しています。

着信 ‹‹‹ 100

・名前を登録した状態

着信 ‹‹‹ 総務　田中

■ 登録のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨②②を押す

922は、内線名称入力の特番（初期値）です。

3 名前を登録したい内線番号を押す

4 名前を入力する

入力のしかたは「文字入力のしかた」(⇒P. 1-19)を参照してください。

5 (保 留)を押す

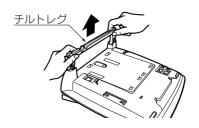
6 (スピーカ)を押す

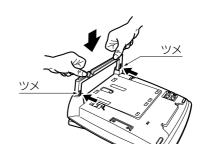
これで、使用者の名前が登録できました。

電話機の角度を調整する

電話機裏面にあるチルトレグ（あし）を引き出すと、電話機の角度を変えることができます。使いやすい角度に調整してください。

■ チルトレグを上げる

チルトレグの左右を持ち、左右とも“カチッ”と音がするまで平行に引き出します。

■ チルトレグを下げる

チルトレグの左右のツメを押し込みながら、ゴム足部分を押し込みます。

外線に電話をかける

発信ボタンを使ってかける

空外線自動選択

発信ボタンを押すと、そのとき空いている外線を使って電話をかけることができます。

■ かけかた

1 (発信)を押す

外線ボタンが緑点灯します。

```
LINE 001
```

2 受話器を上げる

3 電話番号を押す

```
LINE 001
                01234567
```

4 相手が出たら、通話する

受話器を上げるタイミング

上記手順のどこで受話器を上げても、かけることができます。

受話器を上げるだけで空いている外線を選びたい

受話器を上げるだけで、空いている外線を選ぶようにすることもできます（外線自動選択）。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線ボタンを使ってかける

ワンタッチオンフックダイヤル（ダイレクトライン方式の場合）

ランプが消えている外線ボタンを押すと、その外線を使って電話をかけることができます。

■ かけかた

1 (外線ボタン）を押す

押した外線ボタンが緑点灯します。

```
LINE 001
```

2 電話番号を押す

```
LINE 001
                01234567
```

3 受話器を上げる

4 相手が出たら、通話する

受話器を上げるタイミング

上記手順のどこで受話器を上げても、かけることができます。

電話番号を確認してからかける
プリセットダイヤル

ダイヤルした相手の電話番号に、間違いがないかを確認してから発信することができます。

■ かけかた

1 電話番号を押す

```
ﾌﾟﾘｾｯﾄ ﾀﾞｲﾔﾙ
              ﾀﾞｲﾔﾙ 01234567
```

2 (外線ボタン) を押す

外線ボタンが緑点灯します。

```
LINE 001
                    01234567
```

3 受話器を上げる

```
LINE 001
                    01234567
```

4 相手が出たら、通話する

受話器を上げるだけで空いている外線を選びたい

受話器を上げるだけで、空いている外線を選ぶようにすることもできます（外線自動選択）。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

索線ボタンを使ってかける
索線形外線発信

索線ボタンを押すと、あらかじめ指定してある外線グループの中から、空いている外線を使って電話をかけることができます。

索線ボタン、外線グループを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 (索線ボタン) を押す

索線ボタンまたは外線ボタンが緑点灯します。

```
LINE 001
```

3 電話番号を押す

```
LINE 001
                    01234567
```

4 相手が出たら、通話する

受話器を上げるタイミング

上記手順のどこで受話器を上げても、かけることができます。

索線ボタンってなに？

部署ごとなどで割り当てられたいくつかの外線を、グループとして1つのボタンに割り付けます。このボタンを索線ボタンと言います。

営業部の索線ボタン　総務部の索線ボタン　人事部の索線ボタン

営業部　総務部　人事部

外線グループってなに？

いくつかの外線を、部署ごとなどでグループ分けしたものを、外線グループと言います。電話をかけるときに外線グループを指定すると、そのグループ内の空外線を自動的に選んで発信できます。

特番を使ってかける
外線グループ捕捉／指定外線捕捉

電話機に、外線ボタンや索線ボタンを割り付けていない場合は、特番を使って外線に電話をかけることができます。
指定できる外線は、次のとおりです。
・外線グループ内の空いている外線＜外線グループ捕捉＞
・指定した外線＜指定外線捕捉＞

特番や外線グループを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線グループ内の空き外線を使うかけかた
- 外線グループ捕捉 -

1 受話器を上げる

2 ⑧①④を押す

814は、外線グループ捕捉の特番（初期値）です。

ｸﾞﾙｰﾌﾟ No.

3 外線グループ番号を押す

外線グループ内の空き外線を選びます。
外線グループ番号は、販売店にご確認ください。
・NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合：1〜3桁
・MBU-S1制御ユニットの場合　　　：1桁

LINE 001

4 電話番号を押す

LINE 001 01234567

5 相手が出たら、通話する

■ 指定した外線を使うかけかた - 指定外線捕捉 -

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑤を押す

815は、指定外線捕捉の特番（初期値）です。

外線 No.

3 外線番号を押す

外線番号とは、システムに収容されている回線に、工事段階で割り振られた番号のことです。
外線番号が1桁のときは、頭に“0”を付けてください。
例：外線番号1の場合
・NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合：001と押す
・MBU-S1制御ユニットの場合　　　：01と押す

LINE 001

4 電話番号を押す

LINE 001 01234567

5 相手が出たら、通話する

1度かけた相手にかけ直す
再ダイヤル

電話をかけた相手にもう1度かけたいとき、簡単に電話をかけ直すことができます。
かけた電話番号の履歴を、最大10件まで記憶できます。10件を超えた場合は、古い番号から順に上書きされます。また、記憶できる電話番号は、最大24桁までです。

■ 直前にかけた相手にかけ直す

1 （再/短）を押す

2 受話器を上げる

LINE 001 再ﾀﾞｲﾔﾙ 01234567

3 相手が出たら、通話する

■ 発信履歴から探してかけ直す

記憶されている10件の発信履歴から探してかけ直します。

1 (再/短)を押す

最後にかけた相手の電話番号が表示されます。

```
再ダイヤル[#] / 短縮
        01234567
```

2 (再/短)を押すと、発信履歴に記憶されている番号が切り替わる

再/短ボタンを押すごとに、発信履歴に記憶されている新しい番号から順に表示されます。
ここで操作を終了するときはExitボタンを押してください。

3 かけ直したい電話番号が表示されたら受話器を上げる

4 相手が出たら通話する

■ 1件だけ消去する

記憶されている発信履歴の番号を1件だけ消去します。

1 (再/短)を押して、削除したい番号を表示させる

```
再ダイヤル[#] / 短縮
        01234567
↑   ↓   登録  削除
```

2 “削除”のソフトキーを押す

```
再ダイヤル-02
        01234568
↑   ↓   登録  削除
```

3 “1件”のソフトキーを押す

```
再ダイヤル-02
        01234568
1件  全件
```

4 約5秒後に通常の表示に戻る

これで、発信履歴の番号が1件だけ消去できました。

■ 全て消去する

記憶されている発信履歴の番号を全て消去します。

《 ソフトキーを使う場合 》

1 (再/短)を押す

```
再ダイヤル[#] / 短縮
        01234567
↑   ↓   登録  削除
```

2 “削除”のソフトキーを押す

```
再ダイヤル[#] / 短縮
        01234567
1件  全件
```

3 “全件”のソフトキーを押す

```
発信履歴全件削除しますか?
        Yes   No
```

4 “Yes”のソフトキーを押す

```
発信履歴はありません
```

5 (スピーカ)を押す

これで、発信履歴の番号が全て消去できました。

《 特番を使う場合 》

1 (スピーカ)を押す

2 ⑧①⑦を押す

817は再ダイヤル消去の特番（初期値）です。

```
再ダイヤル 消去
```

3 (スピーカ)を押す

これで、発信履歴の番号が全て消去できました。

相手が出るまで自動でかけ直す
リピートダイヤル

外線に電話をかけて、相手が出ないときや通話中のとき、自動でくり返してかけ直すことができます。

■ 設定のしかた

1. 外線に発信中
2. 相手が不在、または通話中
3. (特殊)を押す
4. (再/短)を押す

```
    LINE 001
ﾘﾋﾟｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
```

5. 受話器を戻す

これで、リピートダイヤルが設定できました。

一定時間が経過すると、自動的に発信されます。
相手が出ないまま一定時間が経過すると、自動で発信を切断します。
リピートダイヤルは、次のいずれかの方法で解除されるまで、発信をくり返します。
- 相手が応答したとき
- リピートダイヤルを解除したとき
- リピートダイヤルで設定されている再呼出の回数に達したとき

リピートダイヤルの回数

リピートダイヤルは、次のタイミングで自動的にかけ直します。
- 呼出間隔：60秒
- 呼出回数：3回
- 呼出時間：30秒

この回数は、工事段階で設定します。

■ 発信中に解除する

相手を呼出中に解除するときは、次の操作です。

1. リピートダイヤルで発信中

```
ﾘﾋﾟｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ 01234567
```

2. 受話器を上げて戻す

これで、リピートダイヤルが解除できました。

■ 電話機が未使用時に解除する

電話機が未使用状態のときは、次の操作です。

1. 電話機が未使用の状態
2. (特殊)を押す
3. (再/短)を押す

これで、リピートダイヤルが解除できました。

短縮番号を使ってかける

短縮ダイヤル発信

電話をよくかける相手先の電話番号を、短縮番号に登録しておくと、短い番号でかけられるようになります。
短縮番号は、会社で共通して使用したい客先などの電話番号や、専用線などを使ってかける電話番号を登録するときに使用します。

短縮番号の登録には、次の3通りの方法があります。

- 共通短縮ダイヤル
  システム内のどの電話機からでも使える共通短縮番号です。
  登録可能な件数は000～899の900件または00～79の80件です。また、工事段階の設定で、グループ短縮ダイヤルと合わせて、最大2000件まで登録できます。
- グループ短縮ダイヤル
  電話機が登録されているグループ内の短縮番号です。
  グループは、最大64グループ（MBU-S1制御ユニットの場合は最大8グループ）まで分けられます。共通短縮ダイヤルと合わせて、最大2000件まで登録できます。
  グループ短縮ダイヤルを使用するには、工事段階の設定が必要です。
- 個別短縮ダイヤル
  電話機ごとに使える短縮番号です。
  電話機ごとに、900～919または80～99の最大20件まで登録できます。

短縮番号を使ってかけるには、次の2通りの方法があります。

- 再／短ボタンでかける
  短縮番号がわかっている場合のかけかたです。
  再／短ボタンを押してから、短縮番号を押してかけます。
- 検索機能を使ってかける
  短縮番号がわからない場合のかけかたです。
  ソフトキーを押したあと、相手の名前を頭文字などで検索してからかけます。

再／短ボタンを押したときに、共通短縮番号とグループ短縮番号のどちらを利用するかは、あらかじめ工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 再／短ボタンを使うかけかた

1 (再/短)を押す

2 短縮番号を押す
登録されている電話番号と名称が表示されます。

3 受話器を上げる
相手先番号へ発信されます。

4 相手が出たら、通話する

短縮番号で発信できない
ご使用の電話機では、短縮番号の利用を規制されていることが考えられます。システム管理者の方に確認してください。

グループ短縮番号もボタン1つで指定したい
ファンクションボタンにグループ短縮ボタンを設定しておくと、再／短ボタンのように使えます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

短縮番号を押した時点で発信されるようにしたい
左記手順2の操作で、自動的に空いている外線を選ぶようにすることができます（オンフックダイヤル）。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

表示器が付いていない電話機で、短縮番号を使いたい
次の手順で操作してください。
受話器を上げる → 再/短ボタン → 短縮番号

発信する外線を指定する場合は、次の手順で操作してください。
受話器を上げる → 下記のいずれかの操作をする → 再/短ボタン → 短縮番号
- 外線ボタンを押す
- 索線ボタンを押す
- [814]（外線グループ捕捉の特番）を押す
- [815]（指定外線捕捉の特番）→ 外線番号を押す

■ 消去のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 (＊)(0)(4)を押す
＊04は、共通・個別短縮ダイヤル設定の特番（初期値）です。

3 短縮番号を押す

4 (Exit)を押す

5 (スピーカ)を押す

これで、短縮番号の登録内容を消去できました。

■ 検索機能を使ってかける

1 “検索”のソフトキーを押す

```
検索 ﾒﾆｭｰ

 共通  ｸﾞﾙｰﾌﾟ  内線
```

共通短縮 グループ短縮 内線番号

2 検索したいソフトキーを押す

例：“共通”のソフトキーを押した場合

```
検索                    [ｱ]
共通短縮
```

3 検索したい文字を入力する

ダイヤルボタンの右上にかかれている文字に応じて、検索したい文字のボタンを押します。
カタカナと英数字とを切り替えるときは、フックボタンを押します。表示が［ア］⇔［A］と切り替わります。
文字の入力を間違えたときは、“削除”のソフトキーを押すと、1文字分を削除することができます。

カタカナ入力時の文字とダイヤルボタンの対応					
ア行	①	ナ行	⑤	ラ行	⑨
カ行	②	ハ行	⑥	ワ行	⓪
サ行	③	マ行	⑦		
タ行	④	ヤ行	⑧		

英数字入力時の文字とダイヤルボタンの対応					
-	①	JKL	⑤	WXYZ	⑨
ABC	②	MNO	⑥	-	⓪
DEF	③	PQRS	⑦		
GHI	④	TUV	⑧		

例：④を押した場合

```
検索                    [ｱ]
ﾀ
  ↑      ↓     発信   削除
```

4 “↓”のソフトキーを押す

```
共通001                 田中
                  0123456789
  ↑      ↓     発信   削除
```

5 “発信”のソフトキーを押す

6 受話器を上げる

7 相手が出たら、通話する

■ 登録のしかた

短縮番号として使える番号や、登録できる件数などについては、工事段階で変更できます。詳しくは、販売店にご確認ください。

短縮ダイヤルには、番号のほかに、ポーズやフッキング信号（下表参照）などを含め、最大24桁までの電話番号を登録することができます。また、相手の名前を、半角英数字かカタカナで最大12文字まで登録することができます。

登録内容	登録時に押すボタン	表示
0～9、＊、#	0～9、＊、#	0～9、＊、#
ポーズ	転送	P
フッキング信号	フック	R
応答待ちコード	応答	@

- 個別短縮への登録は、各電話機で行うことができますが、共通短縮への登録は、システム管理者に限られています。
- 応答待ちコードを含めて登録した場合、応答待ちコード以降に登録した番号が、相手の応答後に送出されます。
- PBX回線が収容されている場合には、電話番号の前に外線発信番号「0」を付けて登録する必要があります。詳しくは、販売店にご確認ください。
- Aspire Sでは、短縮ダイヤルを登録直後にシステムの電源を切る場合、登録した短縮ダイヤルがシステムに書き込まれたことを確認してください。詳しくは「<電源の切りかた>」（⇒P.vii）を参照してください。

1 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

2 ㊀⓪④を押す

＊04は、共通・個別短縮登録の特番（初期値）です。グループ短縮を登録するときは、＊05（初期値）を押します。

```
短縮 登録
```

3 短縮番号を押す

例：010と押す

4 電話番号を押す

短縮 0010
0312345678

5 (保留)を押す

名前を入力しない場合は、手順7に進みます。

※ カナ表示電話機をお使いの場合、名前を入力しないときは手順8に進んでください。

6 相手の名前を入力する

相手の名前は、半角で12文字まで、全角で6文字まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、「文字入力のしかた」(⇒右記) を参照してください。

短縮 0010 挿英半
鈴木部長 PHS
数字 ← →

※ カナ表示電話機をお使いの場合は手順8に進んでください。

7 (保留)を押す

手順6で入力した名前の読みカナが表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。

短縮 0010 挿ｶﾅ半
ｽｽﾞｷﾌﾞﾁｮｳ PH
英字 ← →

8 (保留)を押す

短縮 登録

9 (スピーカ)を押す

これで、短縮番号の登録ができました。

複数の短縮番号を登録したい

手順8のあと、手順3からくり返します。

別の電話番号に変更したい

同じ短縮番号に新しい電話番号を登録すると、古い電話番号は消去され、新しい電話番号におき替わります。

■ 文字入力のしかた

《 漢字表示電話機の場合 》

各ボタンを押したときに表示される文字は、「漢字表示電話機　文字入力一覧表」(⇒P. 1-21) を参照してください。

文字入力モードと表示について

フックボタンまたは電話帳ボタンを押すごとに、文字入力モードが次のように切り替わります。

- 挿漢全 ：全角ひらがな・漢字入力モード
  ↓
- 挿ｶﾅ半 ：半角カタカナ入力モード
  ↓
- 挿英半 ：半角英字入力モード
  ↓
- 挿数半 ：半角数字入力モード

濁点、半濁点を入力するには

全角ひらがな・漢字、半角カタカナ入力モードで、＊を押します。

次のボタンは、漢字表示電話機（電子電話帳機能付／センター電話帳機能付）にのみ付いています。

例：“鈴木部長 PHS”と入力する場合

1 “すずき”と入力する

③を3回（す)、“→”のソフトキーまたは十字キーの(カーソル移動）、③を3回（す）、＊を1回（゛)、②を2回（き）と押します。

※ センター電話帳への文字入力時は、“←”と“→”のソフトキーが表示されません。十字キーのを使用してください。

2 “変換”のソフトキーまたはを押す

変換候補が表示されます。

挿漢全
すずき
1鈴木2鱸3すずき4スズキ

3 ①を押す

変換結果が確定されます。

4 “ぶちょう”と入力する

⑥を3回（ふ）、*を1回（゛）、④を2回（ち）、⑧を6回（ょ）、①を3回（う）と押します。

5 “変換”のソフトキーまたは▽を押す

変換候補が表示されます。

```
                 挿漢全
鈴木ぶちょう
1部長2ぶちょう3ブチョウ
```

6 ①を押す

変換結果が確定されます。

```
                 挿漢全
鈴木部長■
カナ   ←   →
```

7 フックを2回押して、文字入力モードを半角英字入力モードに切り替える

```
                 挿英半
鈴木部長■
数字   ←   →
```

8 #を押す

半角スペースが入力されます。

9 “PHS”と入力する

⑦を1回（P）、④を2回（H）、⑦を4回（S）と入力します。

```
                 挿英半
鈴木部長 PHS
数字   ←   →
```

10 保留または○（確定）を押す

入力した名前が確定されます。

これで、名前を入力できました。

文字の入力を間違えた

間違えた文字の上または右にカーソルを移動して、会議ボタンまたはクリア/戻るボタンを押すと、1文字ずつ消去できます。

《 カナ表示電話機の場合 》

各ボタンを押したときに入力される文字は、「カナ表示電話機　文字入力一覧表」(⇒P. 1-23) を参照してください。

例：“スズキB”と入力する場合

1 ③サを3回押す

```
=ｽ
```

2 #を1回押す

```
=ｽ
```

3 ③サを3回押す

```
=ｽｽ
```

4 *を1回押す

```
=ｽｽﾞ
```

5 ②カを2回押す

```
=ｽｽﾞｷ
```

6 #を1回押す

```
=ｽｽﾞｷ
```

7 フックを押す

```
-ｽｽﾞｷ
```

8 ②カを2回押す

```
-ｽｽﾞｷB
```

入力を間違えたときは

会議ボタンを押すと、一文字ずつ消去されます。修正したい文字まで戻って、入力し直してください。

■ 漢字表示電話機　文字入力一覧表

入力モードを切り替えるときは、フックボタンを押します。

全角ひらがな・漢字入力モード時

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
①ア	あ	い	う	え	お	ぁ	ぃ	ぅ	ぇ	ぉ	「あ」に戻る
②カ	か	き	く	け	こ	「か」に戻る					
③サ	さ	し	す	せ	そ	「さ」に戻る					
④タ	た	ち	つ	て	と	っ	「た」に戻る				
⑤ナ	な	に	ぬ	ね	の	「な」に戻る					
⑥ハ	は	ひ	ふ	へ	ほ	「は」に戻る					
⑦マ	ま	み	む	め	も	「ま」に戻る					
⑧ヤ	や	ゆ	よ	ゃ	ゅ	ょ	「や」に戻る				
⑨ラ	ら	り	る	れ	ろ	「ら」に戻る					
⓪ワ	わ	を	ん	「わ」に戻る							
⊛	゛	゜	ー	.	「	」	、	・	「゛」に戻る		
＃	空白（スペース）										

半角カタカナ入力モード時

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
①ア	ｱ	ｲ	ｳ	ｴ	ｵ	ｧ	ｨ	ｩ	ｪ	ｫ	「ｱ」に戻る
②カ	ｶ	ｷ	ｸ	ｹ	ｺ	「ｶ」に戻る					
③サ	ｻ	ｼ	ｽ	ｾ	ｿ	「ｻ」に戻る					
④タ	ﾀ	ﾁ	ﾂ	ﾃ	ﾄ	ｯ	「ﾀ」に戻る				
⑤ナ	ﾅ	ﾆ	ﾇ	ﾈ	ﾉ	「ﾅ」に戻る					
⑥ハ	ﾊ	ﾋ	ﾌ	ﾍ	ﾎ	「ﾊ」に戻る					
⑦マ	ﾏ	ﾐ	ﾑ	ﾒ	ﾓ	「ﾏ」に戻る					
⑧ヤ	ﾔ	ﾕ	ﾖ	ｬ	ｭ	ｮ	「ﾔ」に戻る				
⑨ラ	ﾗ	ﾘ	ﾙ	ﾚ	ﾛ	「ﾗ」に戻る					
⓪ワ	ﾜ	ｦ	ﾝ	「ﾜ」に戻る							
⊛	゛	゜	ー	。	「	」	、	・	「゛」に戻る		
＃	空白（スペース）										

半角英字入力モード時

ダイヤルボタン	半角入力モード														
	ダイヤルボタンを押す回数														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
①ア	1	@	[	¥	]	^	_	`	{	|	}	→	←	「1」に戻る	
②カ	A	B	C	a	b	c	「A」に戻る								
③サ	D	E	F	d	e	f	「D」に戻る								
④タ	G	H	I	g	h	i	「G」に戻る								
⑤ナ	J	K	L	j	k	l	「J」に戻る								
⑥ハ	M	N	O	m	n	o	「M」に戻る								
⑦マ	P	Q	R	S	p	q	r	s	「P」に戻る						
⑧ヤ	T	U	V	t	u	v	「T」に戻る								
⑨ラ	W	X	Y	Z	w	x	y	z	「W」に戻る						
⓪ワ	0	!	”	#	$	%	&	’	(	)	「0」に戻る				
⊛	*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	「*」に戻る		
#	空白（スペース）														

（注）“→”、“←” は、漢字電話機では、正しく表示されません。

半角数字入力モード時

ダイヤルボタン	
①ア	1
②カ	2
③サ	3
④タ	4
⑤ナ	5
⑥ハ	6
⑦マ	7
⑧ヤ	8
⑨ラ	9
⓪ワ	0
⊛	*
#	#

■ カナ表示電話機　文字入力一覧表

カタカナ入力モードと英数字入力モードを切り替えるときは、フックボタンを押します。

カタカナ入力モード時

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
①ア	ア	イ	ウ	エ	オ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	「ア」に戻る				
②カ	カ	キ	ク	ケ	コ	「カ」に戻る									
③サ	サ	シ	ス	セ	ソ	「サ」に戻る									
④タ	タ	チ	ツ	テ	ト	ッ	「タ」に戻る								
⑤ナ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	「ナ」に戻る									
⑥ハ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	「ハ」に戻る									
⑦マ	マ	ミ	ム	メ	モ	「マ」に戻る									
⑧ヤ	ヤ	ユ	ヨ	ャ	ュ	ョ	「ヤ」に戻る								
⑨ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ	「ラ」に戻る									
⓪ワ	ワ	ヲ	ン	「ワ」に戻る											
⊛	゛	゜	ー	。	「	」	、	・	「゛」に戻る						
⊕#	確定	空白（スペース）													

英数字入力モード時

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
①ア	1	@	[	¥	]	^	_	`	{	|	}	→	←	「1」に戻る		
②カ	A	B	C	a	b	c	2	「A」に戻る								
③サ	D	E	F	d	e	f	3	「D」に戻る								
④タ	G	H	I	g	h	i	4	「G」に戻る								
⑤ナ	J	K	L	j	k	l	5	「J」に戻る								
⑥ハ	M	N	O	m	n	o	6	「M」に戻る								
⑦マ	P	Q	R	S	p	q	r	s	7	「P」に戻る						
⑧ヤ	T	U	V	t	u	v	8	「T」に戻る								
⑨ラ	W	X	Y	Z	w	x	y	z	9	「W」に戻る						
⓪ワ	0	!	”	#	$	%	&	’	(	)	「0」に戻る					
⊛	*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	「*」に戻る			
#	確定	空白（スペース）														

■ 確認のしかた

1 Help ◯を押す

チェック

2 (再/短)を押す

チェック
短縮

3 短縮番号を押す

チェック　本社
短縮 010 0123456789

4 Exit ◯を押す

内線に電話をかける

内線を呼び出す

内線相互接続

内線に電話をかけることができます。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

呼出　120

3 相手が出たら、通話する

相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す

内線予約／内線コールバック

内線にかけても相手が通話中のとき、相手の通話が終わりしだい呼び出す、または知らせが入るようにすることができます。

・内線予約
　相手の電話が終わるまで、受話器を持ったまま待ち、電話が終わりしだい呼び出すようにする
・内線コールバック
　いったん電話を切り、相手の電話が終わったら知らせが入るようにする

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 内線を呼出

2 話中音が聞こえる

話中　120

3 ⑧⓪④を押す

804は、外線・内線予約の特番（初期値）です。

内線予約　120

これで、内線予約が設定できました。

そのままの状態で待っていると、相手の電話が終わりしだい、相手を呼び出します。
電話をいったん切って待つとき（内線コールバック）は、次の手順4に進みます。

4 受話器を戻す

内線予約	120

これで、内線コールバックが設定できました。

相手の通話が終わると、呼返音が鳴るので、受話器を上げると相手を呼び出します。

■ 解除のしかた

受話器を上げたまま待っている（内線予約中）場合は、いったん受話器を戻します。

1 内線コールバックを設定中

内線予約	120

2 (スピーカ)を押す

3 ⑧⓪⑤を押す

805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。

予約解除

4 (スピーカ)を押す

これで、内線コールバックが解除できました。

よく内線予約・内線コールバックを利用する方へ

電話機のファンクションボタンに予約ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す

リセットコール／ステップコール

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに、ほかの人を呼び出し直すことができます。

リセットコールとステップコールは、内線呼出中だけ利用できます。相手が出たあとでかけ直すときは、電話をいったん切ってください。

■ 別の内線番号を呼び出すとき - リセットコール -

リセットコールをするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま別の内線番号を押して、かけ直すことができます。

1 内線を呼出中

呼出	120

2 相手が出ない、または話中音が聞こえる

3 別の内線番号を押す

呼出	130

4 相手が出たら、通話する

■ 同じ内線グループ内の内線を呼び出すとき - ステップコール -

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線にかけても相手が出ないとき、相手と同じ内線グループ内の内線にかけ直します。

1 内線を呼出中

呼出	120

2 ⑧⓪⑦を押す

807は、ステップコールの特番（初期値）です。
最初に呼び出していた相手と同じ内線グループの人を呼び出します。

呼出	121

3 相手が出たら、通話する

内線グループってなに？

内線グループとは、電話機を部署ごとなどで分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線を呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

よくステップコールを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにステップコールボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

電話機の周囲にいる人に呼びかける

信号／音声呼出切替

内線にかけても相手が出ないとき、電話機のスピーカから音声を出して、周囲の人に呼びかけることができます。音声に切り替えたあと、元の信号音での呼出に戻すこともできます。

■ かけかた

1 内線を呼出中

呼出	120

2 ①を押す

3 音声呼出に切り替わる

1を押すたびに、音声呼出と信号音呼出が切り替わります。

特番を使って切り替えることもできます

手順2で、信号／音声呼出切替の特番806(初期値)を押しても、切り替えることができます。
特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ほかの部署にかける

内線代表呼出／内線代理着信

社内の電話機を、部署単位などでグループ分けできます。その部署に対し、次の2通りの方法で電話をかけることができます。

- 部署の代表番号にかける（内線代表呼出）
  内線番号とは別に、部署全体の内線番号（代表番号）を決めておくことができます。その代表番号を押すと、部署内の空いている電話機を呼び出します。
- 部署内の誰かの内線番号にかけ、相手が通話中のとき、ほかの内線を呼び出す（内線代理着信）
  かけたい部署に所属する誰かの内線番号にかけ、その人が通話中の場合は、部署内の空いている電話機を呼び出します。

■ 部署の代表番号にかける - 内線代表呼出 -

内線代表呼出をするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

2 内線代表番号を押す

3 相手が出たら、通話する

内線代表呼出で着信する電話機

内線代表呼出で着信する際の着信順には、パイロット方式と簡易UCD方式の2種類があります。

- パイロット方式：
  常に着信順が1番目に設定されている電話機に着信する
- 簡易UCD方式：
  前回着信した電話機の次の順番に設定されている電話機に着信する

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

■ 相手が通話中のとき、別の内線を呼び出す

- 内線代理着信 -

内線代理着信をするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

3 電話をかけた相手が通話中のとき、自動的に他の内線を呼び出す

転送　>> 151

4 相手が出たら、通話する

電話を受けた相手の内線番号が表示されます。

通話 151

内線代理着信で着信する電話機

内線代理着信で着信する際の着信方式には、次の2種類があります。

- 話中時の転送先が円を描いている場合
  電話機A→電話機B→電話機C→電話機Aというように、順次転送されます。
  もし、全ての電話機が話中の場合には、電話をかけてきた相手に話中音を流します。

- 話中時の転送先が1台の電話機に集中している場合
  どの電話機にかけても、通話中の場合には決まった電話機に転送されます。

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

受話器を上げるだけで特定の内線にかける

内線ホットライン

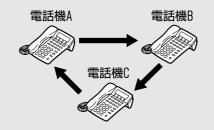
受話器を上げるだけで、特定の内線に電話をかけることができます。会社の受付やホテルのロビーなどで利用すると便利です。

内線ホットラインで呼び出す相手は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

あらかじめ決められた相手を呼び出します。

2 相手が出たら、通話する

内線ホットラインの電話機で、外線にかけたい

受話器を上げる前に、外線ボタンを押してから番号を押すと、かけられます。

内線ホットラインの電話機で、ほかの内線にかけたい

受話器を上げてから約5秒(初期値)のあいだに内線番号を押すと、その内線を呼び出すことができます。
内線番号を押すことができる時間は、工事段階の設定で変更することができます。

電話を受ける

応答ボタンを使って受ける

外線応答

外線から着信中に応答ボタンを押すと、電話に応答できます。

■ 受けかた

1 外線から着信中

応答ボタンが赤点滅します。

着信

2 受話器を上げる

3 (応答)を押す

応答

4 相手と通話する

着信自動応答を設定している場合は
手順2の操作だけで応答することができます。

外線ボタンを使って受ける

任意外線応答

外線から着信中に、点滅している外線ボタンを押すと、電話に応答できます。

外線ボタンを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 外線から着信中

外線ボタンが赤点滅します。

着信

2 受話器を上げる

3 点滅している(外線ボタン)を押す

応答

4 相手と通話する

受話器を上げるタイミング
外線ボタンを押してから受話器を上げても応答できます。また、着信自動応答を設定している場合には、手順2の操作だけで応答することができます。

受話器を上げるだけで受ける

着信自動応答

外線から着信中に、受話器を上げるだけで電話に応答できます。

着信自動応答を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 外線から着信中

外線ボタンが赤点滅します。

着信

2 受話器を上げる

応答

3 相手と通話する

受話器を上げるだけで受けるかどうかを簡単に切り替える

応答プリセット

※ バージョン5以降で有効

外線着信中に電話機が鳴っているとき、電話機の受話器を上げるだけで受けられるように、簡単に設定できます。この設定は、電話機の利用者が、状況に合わせて自由に設定と解除を切り替えることができます。

応答プリセットを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 応答プリセットは、カールコードレス電話機の子機では利用できません。
- 設定の変更は、電話機が待ち受け状態のときに操作してください。

■ 応答プリセットの設定のしかた

1 (特殊)を押す

2 (応答)を押す

3 応答ランプが赤点灯する

これで、応答プリセットが設定できました。

以降は、受話器を上げるだけで、電話に出ることができます。

■ 応答プリセットの解除のしかた

1 (特殊)を押す

2 (応答)を押す

3 応答ランプが消灯する

これで、応答プリセットが解除できました。

■ 受けかた

1 外線から着信中

外線ボタンが赤点滅します。

着信

2 受話器を上げる

応答

3 相手と通話する

内線からの呼出を受ける

内線応答

内線からの呼出には、受話器を上げるだけで応答できます。

■ 受けかた

1 内線から着信中

内線ボタンが赤点滅します（内線ボタンがファンクションボタンに設定されている場合）。

着信 <<<	120

2 受話器を上げる

通話	120

3 相手と通話する

代理で電話を受ける

代理応答の機能には、次のような種類があります。また、機能ごとに、代理応答できる着信とできない着信があります。

○：代理応答可　×：代理応答不可

代理応答の機能名	代理応答の対象	着信の種類			
		外線一般着信	外線個別着信	内線着信	ドアホン着信
指定内線代理応答	指定した内線	○	○	○	○
内線指定呼代理応答	自分が所属する代理応答グループ内の内線	×	○	○	○
グループ代理応答	自分が所属する代理応答グループ内の内線	○	○	○	○
グループ指定代理応答	指定した代理応答グループ内の内線	○	○	○	○
他グループ代理応答	他の代理応答グループの内線	○	○	○	○

ほかの人への電話を代わりに受ける

指定内線代理応答

ほかの人への着信に、手元の電話機から内線番号を指定して代理応答することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 ほかの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑨を押す

829は、指定内線代理応答の特番（初期値）です。

内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

4 着信先の内線番号を押す

代理応答	130

5 相手と通話する

通話	120

同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける

内線指定呼代理応答／グループ代理応答

自分が所属する代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。

代理応答グループってなに？

代理応答グループは、代理応答を行う電話機をグループ化したものです。内線グループとは異なります。グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線一般着信以外の着信への代理応答のしかた

- 内線指定呼代理応答 -

1 ほかの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑤を押す

825は、内線指定呼代理応答の特番（初期値）です。

代理応答	130

4 相手と通話する

通話	120

■ 外線一般着信を含めた着信への代理応答のしかた

- グループ代理応答 -

1 ほかの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑦を押す

827は、グループ代理応答の特番（初期値）です。

代理応答 130

4 相手と通話する

通話 120

よくグループ代理応答を利用する方へ

電話機のファンクションボタンにグループ代理応答ボタンを割り付けておくと、受話器を上げ、内線のダイヤルトーンが聞こえてからこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける

グループ指定代理応答／他グループ代理応答

ほかの代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。代理応答グループが複数あるときは、その代理応答グループ番号を指定して応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 代理応答グループ番号を指定する受けかた

- グループ指定代理応答 -

1 ほかの代理応答グループの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑥を押す

826は、グループ指定代理応答の特番（初期値）です。

ｸﾞﾙｰﾌﾟ No.

4 着信先の代理応答グループ番号を押す

代理応答 130

5 相手と通話する

通話 120

よく代理応答を利用する方へ

電話機のファンクションボタンにグループ指定代理応答ボタンを割り付けておくと、受話器を上げ、内線のダイヤルトーンが聞こえてからこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

■ 代理応答グループ番号を指定しない受けかた

- 他グループ代理応答 -

1 ほかの代理応答グループの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑧を押す

828は、他グループ代理応答の特番（初期値）です。

代理応答 130

4 相手と通話する

通話 120

よく代理応答を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに他グループ代理応答ボタンを割り付けておくと、受話器を上げ、内線のダイヤルトーンが聞こえてからこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

電話を保留する・取り次ぐ

外線との通話を保留する

共通保留

通話中に相手を少し待たせるとき、保留音を流して通話を保留にすることができます。また、保留中の外線ボタンは、次のように点滅します。

・自分が保留中　　：緑点滅
・ほかの人が保留中：赤点滅

保留にした通話を再開するときは、保留表示中の外線ボタンを押します。

■ 保留のしかた

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

保留した外線ボタンが緑点滅します。

保留

3 受話器を戻す

これで、通話が保留できました。

このあと、ほかの人へ転送するときは、「外線との通話をほかの人に取り次ぐ」(⇒次ページ) を参照してください。

保留状態のまま約90秒が経過すると、保留警報音が鳴り、表示器に"保留リコール"が表示されます。このときは受話器を上げると、通話を再開できます。

■ 通話を再開するとき

1 外線を保留中

2 受話器を上げる

3 緑点滅している(外線ボタン)を押す

ほかの人が保留にしていた場合は、その人から聞いた番号の、赤点滅している外線ボタンを押します。

応答

4 相手と通話する

自分だけが応答できるように保留する

個別保留

外線通話を保留にするとき、自分だけが通話を再開できるように保留することができます。保留した通話を再開するときは、保留中の外線ボタンを押します。

「ファンクションボタンの設定」により個別保留ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

■ 保留のしかた

個別保留状態のまま約90秒が経過すると、保留警報音が鳴り、表示器に"保留リコール"が表示されます。このときは受話器を上げると、通話を再開できます。

いつも個別保留にしたい

工事段階の設定で保留ボタンを個別保留ボタンに変更することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

《 ファンクションボタンを使う場合 》

1 外線と通話中

2 (個別保留ボタン) を押す

保留した外線ボタンが緑点滅します。

保留

3 受話器を戻す

これで、通話が個別保留できました。

《 特殊ボタンを使う場合 》

※ バージョン5以降で有効

1 外線と通話中

2 (特殊)を押す

3 (保留)を押す

保留

4 受話器を戻す

これで、通話が個別保留できました。

■ 通話を再開するとき

1 外線を個別保留中

2 受話器を上げる

3 緑点滅している（外線ボタン）を押す

応答

4 相手と通話する

外線との通話をほかの人に取り次ぐ
口頭転送／保留転送／自動保留転送／グループ保留／パーク保留

外線との通話をほかの人に取り次ぐことができます。
電話の取り次ぎかたには、次の方法があります。
- 口頭転送 ： 近くにいる人に取り次ぐとき
- 保留転送 ： 内線通話で用件を伝えてから取り次ぐとき
- 自動保留転送 ： 内線通話後、外線と取り次ぎ先の通話を自動でつなぐとき
- 内線グループ保留 ： 同じ内線グループ内で外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が1つだけのとき
- パーク保留 ： 外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が複数あるとき

保留状態のまま約90秒が経過すると、保留警報音が鳴り、表示器に"保留リコール"が表示されます。このときは受話器を上げると、通話を再開できます。

■ 口頭で転送する - 口頭転送 -

1 外線と通話中

2 （保留）を押す

保留

3 受話器を戻す

4 近くの人に声をかける
保留した外線番号を伝えます。

これで、口頭転送ができました。

■ 口頭転送の受けかた

1 受話器を上げる

2 赤点滅している（外線ボタン）を押す
取り次いでくれた人から聞いた外線番号のボタンを押します。

応答

3 相手と通話する

■ 保留してから転送する - 保留転送 -

1 外線と通話中

2 （保留）を押す

保留

3 取り次ぎたい人の内線番号を押す

4 相手が出たら、用件を伝える
保留した外線の番号を伝えます。

5 受話器を戻す

これで、保留転送ができました。

■ 保留転送の受けかた

1 内線と通話中
電話を取り次いでくれた人から、保留中の外線番号を聞きます。

2 赤点滅している（外線ボタン）を押す
取り次いでくれた人から聞いた外線番号のボタンを押します。

応答

3 相手と通話する

■ 保留後に自動で転送する - 自動保留転送 -

外線との通話を取り次ぐとき、内線通話で取り次いで欲しいことを伝えたあと、取り次ぎ先で応答の操作をしなくても、そのまま待っているだけで応答することができます。

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

保留

3 取り次ぎたい人の内線番号を押す

呼出　120

4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える

通話　120

5 (転送)を押す

これで、自動保留転送ができました。

■ 自動保留転送の受けかた

1 内線通話のあと、そのまま待つ

2 相手が(転送)を押すと、自動的に外線とつながる

3 外線の相手と通話する

受話器を戻すだけで取り次ぎたい

内線通話のあと、転送ボタンを押さずに受話器を戻すだけで、自動的に外線とつながるようにすることもできます（オンフック自動転送）。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 内線グループ保留のしかた - グループ保留 -

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線通話を内線グループ保留すると、内線グループ内のほかの電話機から、特番を押して応答することができます。一般電話機など、外線ボタンがない電話機からでも応答できます。

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

保留

3 ⑧③③を押す

833は、内線グループ保留登録の特番（初期値）です。

ｸﾞﾙｰﾌﾟ保留

4 受話器を戻す

これで、内線グループ保留ができました。

このあと、同じ内線グループ内のほかの人に取り次ぐことができます。

■ 内線グループ保留の受けかた

1 受話器を上げる

2 ⑧③④を押す

834は、内線グループ保留応答の特番（初期値）です。

応答

3 相手と通話する

■ パーク保留のしかた - パーク保留 -

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

保留

3 ⑧③①を押す

831は、パーク保留登録の特番（初期値）です。

ﾊﾟｰｸ 保留 ﾊﾟｰｸ No.ﾀﾞｲﾔﾙ

4 パーク番号を押す

パーク番号は、01から64のうち、いずれかを押してください。

LINE 008 ﾊﾟｰｸ 01

5 受話器を戻す

これで、パーク保留ができました。

ほかの人に取り次ぐときは、上記手順4で押したパーク番号を伝えます。

パーク保留中のボタン表示

パーク保留ボタンがあると、次のようにランプ表示されます。

- パーク保留した電話機：緑点滅
- ほかの電話機　：赤点滅

■ パーク保留の受けかた

1 受話器を上げる

2 ⑧③②を押す

832は、パーク保留応答の特番（初期値）です。

ﾊﾟｰｸ 応答 ﾊﾟｰｸ No.ﾀﾞｲﾔﾙ

3 パーク番号を押す

パーク保留するときに押したパーク番号を押します。

応答

4 相手と通話する

よくパーク保留を利用する方へ

電話機のファンクションボタンにパーク保留ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

内線／外線ボタンを使って転送する

自動保留

外線との通話をほかの人に取り次ぐとき、内線ボタンまたは外線ボタンを使ってすばやく保留することができます。

- 取り次ぎ先が内線のとき
  内線ボタンを押すと、通話の保留と同時に内線呼出の準備ができます。
- 取り次ぎ先が外線のとき
  外線ボタンを押すと、通話の保留と同時に外線発信の準備ができます。

- 内線ボタンや外線ボタンを使って保留するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 「ファンクションボタンの設定」により内線ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒ P. 6-15) を参照してください。

工事設定していない電話機で下記の操作をすると、外線通話が切れてしまいます。

■ 取り次ぎ先が内線のとき

1 外線と通話中

2 (内線ボタン) を押す

外線通話が保留されました。

3 取り次ぎたい人の内線番号を押す

4 相手が出たら、用件を伝える

保留した外線の番号を伝えます。

5 受話器を戻す

6 取り次いだ相手が、赤点滅している(外線ボタン) を押す

取り次いでくれた人から聞いた外線番号のボタンを押します。

7 相手と通話する

■ 取り次ぎ先が外線のとき

1 外線と通話中

2 (外線ボタン)を押す
外線通話が保留されました。

3 取り次ぎたい相手の電話番号を押す

4 相手が出たら、用件を伝える
電話を取り次いで欲しいことを伝えます。

5 (転送)を押す
外線の相手と取り次いだ相手の通話がつながります。

着信音だけで電話を取り次ぐ

呼出状態転送

外線からの電話を保留にしたあと、内線を呼び出し、相手が出る前に電話を切って取り次ぎます。こうすると、取り次ぎ先で改めて着信音が鳴り、直接かかってきた電話のように応答できます。

■ 転送のしかた

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

保留

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

呼出	120

4 相手が出る前に(転送)を押す

5 受話器を戻す

これで、転送できました。

■ 受けかた

1 着信音が鳴る

転送 <<<	100

2 受話器を上げる

3 外線の相手と通話する

取り次ぎ先で通話終了後、自分に戻るようにする

折り返し転送

ほかの人に取り次いだ外線通話が終わったら自分に戻して欲しいとき、その通話が終わると同時に自分の電話に戻るようにすることができます。こうすると、電話を取り次いだあと、そのまま待っているだけで、もう一度話すことができます。

「ファンクションボタンの設定」により折り返し転送ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒ P. 6-15)を参照してください。

■ 折り返し転送の使いかた

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

保留

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

呼出	120

4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える

通話	120

5 (折り返し転送ボタン)を押す
保留していた外線と取り次ぎ先がつながります。

転送 待ち	120

6 取り次ぎ先の相手と外線の相手が通話する

このとき受話器を持ったままの状態で待ちます。

7 取り次ぎ先の相手が受話器を置くと、外線との通話が戻る

8 外線の相手と通話する

ほかの人の通話が終了後、自分にまわるようにする

被保留転送

ほかの人が外線通話している相手と通話したい場合、その通話が終わると同時に自分の電話につながるようにすることができます。

被保留転送を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 Bさんが外線と通話中

2 受話器を上げる

3 Bさんが通話している（外線ボタン）を押す

転送 待ち	100

4 受話器を持ったまま待つ

5 Bさんが電話を切ると、Bさんが通話していた相手と自分の電話がつながる

応答

6 外線の相手と通話する

内線通話を保留する

内線保留

外線通話を保留するのと同じように、通話していた相手に保留音を流し、待ってもらうことができます。

■ 保留のしかた

1 内線と通話中

通話	120

2 （保留）を押す

保留	120

3 受話器を戻す

これで、内線通話が保留できました。

■ 通話を再開するとき

1 受話器を上げる

2 相手と通話する

内線通話を取り次ぐ

内線の自動保留転送

内線通話をほかの人に取り次ぐことができます。

■ 取り次ぎかた

1 内線と通話中

2 (保留)を押す

保留	120

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

呼出	130

4 相手が出たら、用件を伝える

5 (転送)を押す

これで、内線通話の取り次ぎができました。

■ 受けかた

1 内線と通話中

2 そのまま待つ

相手が転送ボタンを押すと、保留になっていた内線と通話がつながります。

転送ボタンを押さずに取り次ぎたい

電話を取り次ぐ人が、受話器を戻すだけで内線がつながるように、工事段階で設定できます（オンフック自動転送）。詳しくは、販売店にご相談ください。

席を外すとき・電話に出られないとき

自分宛ての電話を全て転送する

不在着信転送／着信転送

会議などで電話に出られないときにかかってきた電話を、全てほかの電話機に転送することができます。
転送には、次の2通りの方法があります。

- 不在着信転送
  通話を転送中、転送元と転送先の両方で着信音が鳴り、どちらででも応答することができます。
- 着信転送
  通話を転送中、転送先の電話機だけ着信音が鳴り、応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 転送元と転送先で着信音を鳴らす場合

- 不在着信転送 -

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪⑤を押す

905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

不在転送　設定 1:登録　0:解除

3 ①を押す

不在転送　設定 内線　ﾀﾞｲﾔﾙ

4 転送先の内線番号を押す

不在転送　設定	
不在転送	120

5 受話器を戻す

不在転送	120

これで、不在着信転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 不在着信転送を設定中

不在転送　　　　　　　120

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪⑤を押す

905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

不在転送 設定 1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

不在転送 設定 解除

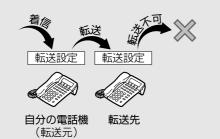
5 受話器を戻す

これで、不在着信転送が解除できました。

よく不在着信転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに不在着信転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

■ 転送先だけで着信音を鳴らす場合

- 着信転送 -

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

着信転送 設定 1:登録 0:解除

3 ①を押す

着信転送 設定 内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

4 転送先の番号を押す

着信転送 設定 着信転送　　　　　　　120

5 受話器を戻す

着信転送　　　　　　　120

これで、着信転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信転送を設定中

着信転送　　　　　　　120

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

着信転送 設定 1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

着信転送 設定 解除

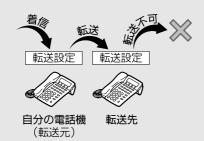
5 受話器を戻す

これで、着信転送が解除できました。

よく着信転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、着信転送を次のように設定します。
スピーカボタン → [901] → [1] → [810] → [短縮番号] → スピーカボタン
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中にかかってきた電話を転送する

話中転送

通話中にかかってきた電話を全て、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨⓪②を押す

902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

```
話中転送 設定
1:登録 0:解除
```

3 ①を押す

```
話中転送 設定
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

4 転送先の番号を押す

```
話中転送 設定
話中転送                120
```

5 (スピーカ)を押す

```
話中転送                120
```

これで、話中転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 話中転送を設定中

話中転送 120

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨⓪②を押す

902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

話中転送 設定 1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

話中転送 設定 解除

5 (スピーカ)を押す

これで、話中転送が解除できました。

よく話中転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中転送を次のように設定します。

スピーカボタン → [902] → [1] → [810] → [短縮番号] → スピーカボタン

※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

電話に出られないときに転送する

不応答転送

着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨⓪③を押す

903は、不応答転送の設定と解除の特番(初期値)です。

不応答転送 設定 1:登録 0:解除

3 ①を押す

不応答転送 設定 内線 ダイヤル

4 転送先の番号を押す

不応答転送 設定 不応答転送 120

5 (スピーカ)を押す

不応答転送 120

これで、不応答転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 不応答転送を設定中

不応答転送 120

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨⓪③を押す

903は、不応答転送の設定と解除の特番(初期値)です。

不応答転送 設定 1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

不応答転送 設定 解除

5 (スピーカ)を押す

これで、不応答転送が解除できました。

よく不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、不応答転送を次のように設定します。

スピーカボタン → [903] → [1] → [810] → [短縮番号] → スピーカボタン

※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中や電話に出られないときに転送する

話中/不応答転送

通話中にかかってきた電話や、着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨⓪④を押す

904は、話中/不応答転送の設定と解除の特番(初期値)です。

話中/不応答 設定 1:登録 0:解除

3 ①を押す

話中/不応答 設定 内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

4 転送先の番号を押す

話中/不応答 設定 転送-話中/不応 120

5 (スピーカ)を押す

転送-話中/不応 120

これで、話中/不応答転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 話中／不応答転送を設定中

転送-話中/不応　　　　　120

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨⓪④を押す

904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

話中/不応答 設定 1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

話中/不応答 設定 解除

5 (スピーカ)を押す

これで、話中／不応答転送が解除できました。

よく話中／不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中／不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中／不応答転送を次のように設定します。
スピーカボタン → [904] → [1] → [810] → [短縮番号] → スピーカボタン

移動先から転送の設定をする

フォローミー

転送の設定は、通常は転送元の電話機で行います。この転送の設定を、転送先の電話機から行うことができます。例えば、会議室などに移動している際、自分のデスクへの電話を会議室の電話機に転送したいときなどに使用します。フォローミーは、同時に複数の設定をすることができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨⓪⑦を押す

907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定 1:登録 0:解除

3 ①を押す

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定 内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

4 転送元の内線番号を押す

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定 ﾌｫﾛｰﾐｰ <<　　　　120

5 (スピーカ)を押す

これで、フォローミーが設定できました。

■ 解除のしかた（オールクリア）

1 フォローミーを設定中

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨⓪⑦を押す

907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定 1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定	解除
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ	0:ｵｰﾙｸﾘｱ

5 ⓪を押す

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定	
	解除

6 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

これで、フォローミーが解除できました。

■ 解除のしかた（個別解除）

1 フォローミーを設定中

2 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

3 ⑨⓪⑦を押す

907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定
1:登録 0:解除

4 ⓪を押す

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定	解除
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ	0:ｵｰﾙｸﾘｱ

5 解除したい内線番号を押す

ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定	
	解除

6 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

これで、転送元の解除ができました。

よくフォローミーを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにフォローミーボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

かかってくる電話を一時的に拒否する

着信拒否

一時的に着信を拒否することができます。電話を受けるかどうかは、次の着信の種類で指定します。

- 外線からの着信
- 内線からの着信
- 外線と内線からの着信
- ほかの電話機からの転送

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

2 ⑨⓪⑧を押す

908は、着信拒否の設定と解除の特番（初期値）です。

着信拒否 設定

3 設定したい着信拒否の番号を押す

1：外線からの着信を拒否
2：内線からの着信を拒否
3：外線と内線からの着信を拒否
4：着信転送などの転送先としての設定を拒否

着信拒否 設定
着信拒否 外線

1を押した場合

4 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

着信拒否 外線

これで、着信拒否が設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信拒否を設定中

着信拒否 外線

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨⓪⑧を押す

908は、着信拒否の設定と解除の特番（初期値）です。

着信拒否 設定

4 ⓪を押す

着信拒否 設定 解除

5 (スピーカ)を押す

これで、着信拒否が解除できました。

よく着信拒否を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信拒否ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す

バイパスコール

緊急で電話をかけたい相手が、不在着信転送や着信拒否を設定していてつながらないとき、特別に呼び出すことができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

相手が不在転送や着信拒否を設定していると、その内容が表示されます。

着信拒否 120

3 ⑧⓪①を押す

801は、バイパスコールの特番（初期値）です。

4 通常の呼び出しに変わる

呼出 120

5 相手が出たら、通話する

よくバイパスコールを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにバイパスコールボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

通話中の相手を緊急で呼び出す

話中呼出

緊急で電話をかけたい相手が通話中のとき、特別に呼び出すことができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

マルチラインデジタルコードレス電話機での通話に対しては、話中呼出できません。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

相手が話中のときは、話中音が聞こえ、その内容が表示されます。

話中 120

3 ⑧⓪③を押す

803は、話中呼出の特番（初期値）です。

呼出 120

4 相手の電話機のスピーカから着信音が鳴る

5 相手が出たら、通話する

よく話中呼出を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中呼出ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

通話中にかかってきた電話も、常に受けられるようにしたい

通話中でも別の人からの呼出に応答できるよう、着信音を鳴らすことができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 内線通話中の受けかた

1 内線通話中に、電話機のスピーカから着信音が鳴る

2 (保留)を押す

今までの通話が保留になり、話中呼出でかかってきた相手と電話がつながります。

3 話中呼出でかかってきた相手と通話する

4 元の通話に戻るときは、(会議)を押す

■ 外線通話中の受けかた

1 外線通話中に、電話機のスピーカから着信音が鳴る

2 (保留)を押す

今までの通話が保留になります。

3 受話器を戻す

4 受話器を上げて、話中呼出でかかってきた相手と通話する

5 元の通話に戻るときは、保留中の (外線ボタン)を押す

知っておくと便利な使いかた

ワンタッチボタンを使ってかける

ワンタッチダイヤル

電話をよくかける相手先の電話番号をワンタッチボタンに登録して、ボタン1つでかけられるようにすることができます。ワンタッチボタンは、次のような場合に利用します。

・よくかける電話番号を登録する
・よくかける内線番号を登録する
・特番を登録する

ワンタッチボタンには、番号のほかに、ポーズやフッキング信号（下表参照）などを含め、最大24桁までの電話番号や内線番号などを登録することができます。

登録内容	登録時に押すボタン	登録時の表示
0〜9、＊、＃	0〜9、＊、＃	0〜9、＊、＃
ポーズ	転送	P
フッキング信号	フック	R
応答待ちコード	応答	@

「ファンクションボタンの設定」によりワンタッチボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

登録中に操作を中断したいときは

受話器を上げて戻すか、またはスピーカボタンを押してください。

■ かけかた

ワンタッチボタンを使ったかけかたは、外線にかけるときも内線にかけるときも同じ方法です。

1 (ワンタッチボタン）を押す

2 受話器を上げる

3 相手が出たら、通話する

受話器を上げるタイミング

操作中のどこで受話器を上げても、かけることができます。

ワンタッチボタンや短縮番号を組み合わせて使いたい

次のようにかけると、登録されている番号が連続して送出されます（チェーンダイヤル）。
- 複数のワンタッチボタンを続けて押す
- 短縮番号とワンタッチボタンを続けて押す

例えば、短縮番号001に客先の代表番号を登録し、ワンタッチボタンに相手部署の内線番号を登録しておくと、次のようにかけます。
［再／短］ボタン → 001 → ワンタッチボタン

■ 電話番号の登録のしかた

1 （スピーカ）を押す

2 ⑨①⑦を押す

917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3 （ワンタッチボタン）を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
```

4 ⓪①を押す

01は、DSS／ワンタッチボタンの機能番号です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
                 DSS/ﾜﾝﾀｯﾁｷｰ
```

5 ⓪を押す

0は外線発信番号です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
                           0
```

6 電話番号を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
                  0031234567
```

7 （保留）を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
      DSS/ﾜﾝﾀｯﾁｷｰ 0031234567
```

8 （スピーカ）を押す

これで、ワンタッチボタンに電話番号が登録できました。

■ 内線番号の登録のしかた

1 （スピーカ）を押す

2 ⑨①⑦を押す

917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3 （ワンタッチボタン）を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
```

4 ⓪①を押す

01は、DSS／ワンタッチボタンの機能番号です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
                 DSS/ﾜﾝﾀｯﾁｷｰ
```

5 内線番号を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
                         201
```

6 （保留）を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 13
             DSS/ﾜﾝﾀｯﾁｷｰ 201
```

7 （スピーカ）を押す

これで、ワンタッチボタンに内線番号が登録できました。

内線番号を登録すると

ワンタッチボタンに登録されている内線電話機の状態が、ボタンのランプでわかります。
- 通話中　　：赤点灯
- 未使用状態：消灯
- 着信拒否中
  （内線着信拒否、外線と内線の着信拒否）：赤点滅

特番を登録したい

上記の手順5で、登録したい特番を押します。

■ 確認のしかた

ワンタッチボタンに登録されている内容を確認することができます。

1 Help ◯を押す

```
チェック
```

2 (ワンタッチボタン)を押す

電話機上のボタン番号

```
チェック                LINEキー 09
             DSS/ワンタッチキー 201
```

登録されている番号

3 Exit ◯を押す

受話器を置いたまま通話する

ハンズフリー通話

受話器を置いたまま、デジタル多機能電話機のマイクとスピーカを使って通話します。ハンズフリー通話を利用するには、あらかじめマイクの設定が必要です。

ハンズフリー通話は、カールコードレス電話機の子機やマルチラインデジタルコードレス電話機およびシングルゾーンデジタルコードレス電話機では利用できません。

■ マイクの設定のしかた

1 (特殊)を押す

2 ①を押す

3 マイクランプが赤点灯する

これで、マイクが設定できました。

以降は、受話器を置いたままでも、こちらの声が相手に聞こえます。

■ マイクの解除のしかた

1 (特殊)を押す

2 ①を押す

3 マイクランプが消灯する

これで、マイクが解除できました。

■ かけかた

受話器を置いたまま電話をかけて、相手と通話します。

1 マイクランプが赤点灯していることを確認する

消灯していたら、ハンズフリー通話ができません。マイクの設定をしてください。

2 (発信)を押す

3 電話番号を押す

4 相手が出たら、通話する

5 電話を切るときは(スピーカ)を押す

■ 受けかた

受話器を置いたまま電話を受けて、相手と通話します。

1 外線から着信中

2 (応答)を押す

3 相手と通話する

4 電話を切るときは(スピーカ)を押す

マイク設定中に内線から音声で呼び出されると

着信と同時に内線通話がつながり、かけてきた相手の声が聞こえ、通話することができます(内線トークバック)。

ハンズフリー通話中は、次のことに注意してください。

- 音声が反響しやすいところや、周囲の騒音が大きいところでは、受話器で通話してください。
- 音量を最大にしても相手の声が小さいときは、受話器で通話してください。
- 天気予報や時報など、相手の声を聞くだけのときは、マイクを解除してください。

■ 通話中に切り替えるとき

1 外線または内線と通話中

2 (特殊)を押す

3 ①を押す

マイクが設定されていたときは解除され、解除されていたときは設定されます。

以降、上記の操作をするたびに、設定が切り替わります。

よくハンズフリー通話を利用する方へ

電話機のファンクションボタンにマイクボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

一斉呼出をする

内線グループ呼出／グループ呼出転送

席を外している人を呼び出したいときなどに、デジタル多機能電話機のスピーカを使って一斉に呼び出すことができます。外線通話を保留したあと、一斉呼出をして呼び出した相手に電話を取り次ぐこともできます。

■ 内線グループで呼び出す - 内線グループ呼出 -

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑨を押す

819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。

ｸﾞﾙｰﾌﾟ No.

3 グループ番号を押す

ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼び ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1

4 一斉呼出をする

指定した内線グループ内の電話機のスピーカから音声が聞こえます。

5 相手が出たら、通話する

内線グループってなに？

内線グループとは、いくつかの電話機を部署ごとなどで分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線を呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 内線グループ呼出で着信中

ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼び 100

2 受話器を上げる

3 ⑧②③を押す

823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

■ 取り次ぎかた - グループ呼出転送 -

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

3 ⑧①⑨を押す

819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。

4 グループ番号を押す

ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼び ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1

5 一斉呼出をする

6 相手が出たら、用件を伝える

7 (転送)を押す

これで、グループ呼出転送ができました。

■ 転送の受けかた

1 内線グループを呼出中

ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼び 100

2 受話器を上げる

3 ⑧②③を押す

823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。

4 相手と内線で通話する

5 そのまま待つ

6 相手が［転送］を押すと、自動で外線とつながる

7 外線の相手と通話する

よく内線グループ呼出を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに内線グループ呼出ボタンおよび内線グループ呼出応答ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

外線がふさがっているとき

外線予約／外線コールバック

使いたい外線がふさがっていて、電話がかけられないとき、外線が空いたらすぐ使えるように予約することができます。
次の2通りの方法があります。

- 外線予約：
  外線が空くまで、受話器を持ったまま待ち、外線が空きしだい電話がかけられるようにする
- 外線コールバック：
  いったん電話を切り、外線が空いたら知らせが入るようにする

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 ［発信］を押す

話中音が聞こえます。

LINE 001 使用中

2 ⑧⓪④を押す

804は、外線・内線予約設定の特番（初期値）です。

外線予約

これで、外線予約が設定できました。

受話器を持ったまま待っていると、外線が空きしだい、電話をかけることができます。

受話器をいったん戻して待つとき（外線コールバック）は、次の手順3に進みます。

3 受話器を戻す

外線予約

これで、外線コールバックが設定できました。

外線が空くと呼返音が鳴るので、受話器を上げると電話をかけることができます。

■ 解除のしかた

外線予約を解除するときは、いったん受話器を戻します。

1 外線コールバックを設定中

外線予約

2 ［スピーカ］を押す

3 ⑧⓪⑤を押す

805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。

予約解除

4 ［スピーカ］を押す

これで、外線コールバックが解除できました。

よく外線予約／外線コールバックを利用する方へ

電話機のファンクションボタンに予約ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

電話で会議する

会議通話

1つの通話に複数の人が参加して、同時に通話することができます。会議通話は、内線1人を含めた自由な組み合わせができ、システム全体で最大32人まで利用できます。

ダイヤルインの着信などで、仮想内線を使って通話している場合には、会議通話はできません。

会議通話から抜けるときは

会議通話中に受話器を戻すと、会議通話から抜けることができます。

■ 内線の人を会議に参加させる - 内線呼出招集 -

1 外線または内線と通話中

2 （会議）を押す

会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

3 会議に参加させたい人の内線番号を押す

呼出 120

4 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

通話 120

5 （会議）を押す

会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

6 （会議）を押す

内線の相手が通話に参加します。

LINE 001 会議 通話
120

これで、会議通話になりました。

ほかの人も参加させたい

上記手順5のあと手順3からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

■ 外線の人を会議に参加させる - 2外線会議通話 -

1 外線と通話中

2 （会議）を押す

会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

3 消灯している外線ボタンを押す

4 会議に参加させたい人の電話番号を押す

LINE 002
0387654321

5 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

6 （会議）を押す

会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

7 （会議）を押す

外線の相手が通話に参加します。

LINE 001 会議 通話
LINE 002

これで、会議通話になりました。

ほかの人も参加させたい

手順6のあと手順3からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

■ 近くの人を会議に参加させる - 口頭会議招集 -

「ファンクションボタンの設定」により口頭会議招集ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒ P.6-15) を参照してください。

1 外線と通話中

2 (口頭会議招集ボタン) を押す

ほかの人が通話に参加できるようになりました。

```
LINE 002    00:10
```

3 会議に参加させたい人に声をかける

通話中の外線番号を伝えます。

4 会議に参加する人が受話器を上げる

5 会議に参加する人が外線ボタンを押す

上記手順3で聞いた外線ボタンを押します。

```
LINE 001        会議 通話
    120
```

これで、会議通話になりました。

通話中に電話番号を記憶する

セーブドナンバーリダイヤル／メモダイヤル

短縮番号やワンタッチボタンのように決まった番号などではなく、ちょっと覚えておきたい番号を1件 (最大24桁) だけ記憶することができます。記憶のしかたには、次の2通りの方法があります。

- いまかけた電話番号を記憶する (セーブドナンバーリダイヤル)
- 通話中に聞いた電話番号などを記憶する (メモダイヤル)

記憶できる電話番号は、セーブドナンバーリダイヤルもメモダイヤルも、それぞれ1件ずつです。新しい番号を記憶すると、前の番号は消去されます。

「ファンクションボタンの設定」によりセーブドナンバーリダイヤルボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15) を参照してください。

■ セーブドナンバーリダイヤルの登録のしかた

1 外線に発信中または通話中

2 (セーブドナンバーリダイヤルボタン) を押す

```
登録
```

これで、いまかけた電話番号が記憶できました。

■ かけかた

1 (セーブドナンバーリダイヤルボタン) を押す

```
ﾌﾟﾘｾｯﾄ              ｾｰﾌﾞﾄﾞ ﾅﾝﾊﾞｰ
                      01234567
```

2 電話番号が表示されている間に受話器を上げる

3 相手が出たら、通話する

■ 確認のしかた

1 (セーブドナンバーリダイヤルボタン）を押す

登録されている番号が表示されます。

```
ﾌﾟﾘｾｯﾄ            ｾｰﾌﾞﾄﾞ ﾅﾝﾊﾞｰ
                      01234567
```

2 Exitを押すと、通常の表示に戻る

Exitボタンを押さなくても、約6秒後に通常の表示に戻ります。

■ 消去のしかた

1 スピーカを押す

2 ⑧①⑧を押す

818は、セーブドナンバーリダイヤル消去の特番（初期値）です。

```
ｾｰﾌﾞﾄﾞﾅﾝﾊﾞｰ 消去
```

3 スピーカを押す

これで、セーブドナンバーリダイヤルの登録内容が消去できました。

■ メモダイヤルの登録のしかた

メモダイヤルを利用するには、「ファンクションボタンの設定」により、メモダイヤルボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

1 外線と通話中

2 (メモダイヤルボタン）を押す

```
ﾒﾓﾀﾞｲﾔﾙ          00:15
```

3 登録したい番号を押す

```
ﾒﾓﾀﾞｲﾔﾙ          00:15
                      01234567
```

4 (メモダイヤルボタン）を押す

```
LINE 001    01:10
```

これで、メモダイヤルに登録できました。

■ かけかた

1 (メモダイヤルボタン）を押す

登録されている番号が表示されます。

```
ﾒﾓﾀﾞｲﾔﾙ
                      01234567
```

2 発信を押す

3 相手が出たら、通話する

■ 確認のしかた

1 (メモダイヤルボタン）を押す

登録されている番号が表示されます。

```
ﾒﾓﾀﾞｲﾔﾙ
                      01234567
```

2 Exitを押すと、通常の表示に戻る

Exitボタンを押さなくても、約6秒後に通常の表示に戻ります。

■ 消去のしかた

1 スピーカを押す

2 (メモダイヤルボタン）を押す

```
ﾒﾓﾀﾞｲﾔﾙ
```

3 スピーカを押す

これで、メモダイヤルの登録内容が消去できました。

こちらの声だけを一時的に消す
送話カット

外線または内線と通話中に、相手の声を聞きながら、こちらの声だけを一時的に消すことができます。

「ファンクションボタンの設定」により送話カットボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

次のように、仮想内線を使って通話している場合には、送話カットはできません。
・ダイヤルインの着信（仮想内線）
・仮想内線を使った発信

■ 送話カットのしかた

1 外線または内線と通話中

2 （送話カットボタン）を押す
確認音が聞こえ、送話カットボタンが赤点灯します。

これで、こちらの声は相手に聞こえなくなりました。

■ 元の通話状態への戻しかた

1 送話カット中

2 （送話カットボタン）を押す
確認音が聞こえ、送話カットボタンが消灯します。

これで、こちらの声が相手に聞こえるようになりました。

ほかの人の通話に割り込む
通話割り込み

ほかの人の内線または外線の通話に割り込んで、通話に参加することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

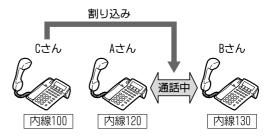
■ 内線通話への割り込みかた

例：次のような通話に割り込みます。

1 AさんとBさんが内線通話中

2 Cさんが受話器を上げる

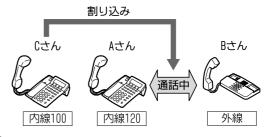
3 Aさんの内線番号を押す
話中音が聞こえます。

話中	120

4 ⑧⓪⑧を押す
808は、通話割り込みの特番（初期値）です。

	通話割り込み
120	130

これで、Aさん、Bさん、Cさんの3者通話になりました。

■ 外線通話への割り込みかた

例：次のような通話に割り込みます。

1 AさんとBさんが外線通話中

2 Cさんが受話器を上げる

3 Aさんが通話している（外線ボタン）を押す

LINE 001	通話割り込み
120	

これで、Aさん、Bさん、Cさんの3者通話になりました。

よく通話割り込みを利用する方へ

電話機のファンクションボタンに通話割り込みボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

通話に参加できない

通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で通話割り込みのモードが「モニターモード」になっています。3者通話にするためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

通話に割り込むとき､通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通知音は鳴りません。

通話割り込みができない

次の場合には、通話割り込みができません。
- 発信中または着信中
- 保留中
- 32人での会議通話
- 仮想内線での通話
- モニターモードの場合

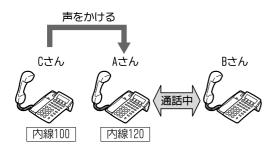
ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

ほかの人と通話中の内線に割り込んで声をかける

ボイスオーバー

ほかの人と通話中の内線に、音声で割り込んで声をかけることができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 内線への声のかけかた

1 Aさんと Bさんが内線通話中

2 Cさんが受話器を上げる

3 Aさんの内線番号を押す

話中音が聞こえます。

話中	120

4 ⑧⓪③を押す

803は、話中呼出(待機中通知)の特番(初期値)です。

呼出	120

5 ⑧④①を押す

841は、ボイスオーバーの特番(初期値)です。

ﾎﾞｲｽｵｰﾊﾞｰ >>	120

これで、Cさんから、Aさんだけに声をかけることができました。

よくボイスオーバーを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにボイスオーバーボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

声をかけるとき、通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ボイスオーバーができない

次の場合には、ボイスオーバーができません。
- 発信中または着信中
- 保留中
- 32人での会議通話
- 仮想内線での通話
- モニターモードの場合

ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

キャッチホンサービスなどを利用する

外線フッキング

外線と通話中、キャッチホンでかかってきた電話に応答することができます。

外線フッキングを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

工事設定されていない電話機でフックボタンを押すと、外線通話が切れてしまいますので、注意してください。

■ キャッチホンへの応答のしかた

1 外線と通話中

2 キャッチホンの着信音が聞こえる

3 (フック)を押す

キャッチホンでかかってきた相手と電話がつながります。いままで通話していた相手には保留音が流れます。

4 キャッチホンでかかってきた相手と通話する

5 元の通話に戻るときは(フック)を押す

以降は、フックボタンを押すたびに通話の相手を切り替えることができます。

電話情報サービスなどを利用する

通話中 PB 信号送出

外線または内線（相手が一般電話機などの場合）と通話中、電話情報サービスの番号入力などのために PB 信号（トーン）を送出することができます。

■ 使いかた

1 外線と通話中

2 (#)を押す

3 送出したい番号を押す

いつでもPB信号を送れるようにしたい

相手が応答後、自動でPB信号が送れるようにするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

登録済みの番号に別の番号を続けてかける

追加ダイヤル

短縮ダイヤルやワンタッチボタンなどで電話をかけるとき、続けて相手部署の内線番号などを押して、かけることができます。

■ 使いかた

1 受話器を上げる

2 (再/短)を押す

3 短縮番号を押す

4 追加したい番号を押す

5 相手が出たら、通話する

追加ダイヤルが利用できる発信の種類

追加ダイヤルは、次の発信のときに利用できます。

- 短縮ダイヤルの発信
- ワンタッチボタンの発信
- 再ダイヤルの発信
- セーブドナンバーリダイヤルの発信
- メモダイヤルの発信

電話機のランプで伝言があることを知らせる

伝言（メッセージウェイティング）

用件を伝えたい相手が通話中や不在などのとき、戻りしだい連絡をもらえるように、ランプの表示で知らせることができます。

伝言（メッセージウェイティング）は、相手がデジタル多機能電話機またはメッセージウェイティングランプ付きの電話機の場合だけ利用できます。マルチラインデジタルコードレス電話機およびシングルゾーンデジタルコードレス電話機の場合には、着信／メッセージ／充電ランプに表示されます。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

相手が通話中、または誰も出ない状態です。

呼出	120

3 ⑨⓪⑨を押す

909は、伝言の特番（初期値）です。
大型ランプが緑点灯します。

ﾒｯｾｰｼﾞ >>	120

4 相手の電話機の大型ランプまたはメッセージウェイティングランプが点滅する

相手がマルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信／メッセージ／充電ランプがゆっくり赤点滅します。

5 受話器を戻す

これで、相手に伝言があることを知らせることができました。

別の人にも伝言を設定したい

複数の相手に伝言を設定できます。ただし、設定側の電話機の表示器には最初に設定した相手だけが表示されます。

■ 確認のしかた

1 伝言が設定されている状態

大型ランプが緑点滅しています。

2 Help ◯を押す

ﾁｪｯｸ

3 ⑨⓪⑨を押す

909は、伝言の特番（初期値）です。

ﾁｪｯｸ ﾒｯｾｰｼﾞ	
	100

伝言を設定した人の内線番号

4 [▲]（音量）ボタンを押す

ほかにも伝言を設定しているときは、その相手が表示されます。ほかに設定していなければ“メッセージ 無し”と表示されます。

5 Exit ◯を押すと、通常の表示に戻る

■ 伝言を設定した相手の呼び出しかた

1 伝言が設定されている状態

大型ランプが緑点滅しています。

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪⑨を押す

909は、伝言の特番（初期値）です。
伝言を設定した相手を呼び出します。

呼出	100

4 相手が出たら、通話する

よく伝言を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに伝言ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

■ 解除のしかた

1 伝言を設定中

相手の大型ランプが緑点滅しています。

ﾒｯｾｰｼﾞ >> 120

2 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

3 ⑨①①を押す

911は、伝言の特番（初期値）です。

ﾒｯｾｰｼﾞ ｷｬﾝｾﾙ

4 伝言を解除したい内線番号を押す

ﾒｯｾｰｼﾞ ｷｬﾝｾﾙ 120

5 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

これで、伝言が解除できました。

全ての伝言設定を1度に解除したい

上記手順3で910（伝言全解除の特番の初期値）を押してからスピーカボタンを押します。

かけてきた相手に不在の理由を知らせる

テキストメッセージ

不在時に内線から電話があったとき、相手の電話機に不在の理由や戻り時刻を表示させて、電話に出られないことを知らせることができます。

メッセージ一覧表	
01	□□：□□ ＾＾マデ゛ ＾カイギ゛
02	カイギ゛ シツ＾＃＃＃＃＃＃＃＃＾ニ＾イマス
03	ガ゛ イシュツ＾□□：□□＾＾ニ＾キシャ＾ヨテイ
04	ガ゛ イシュツ＾＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＾ニレンラク
05	□□：□□ ＾＾マデ゛ ＾デ゛ ンワニ＾デ゛ ラレマセン
06	□□：□□ ＾＾マデ゛ ＾キュウケイ
07	△△／△△＾マデ゛ ＾シュッチョウチュウ
08	シュッチョウチュウ＾＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃
09	キタク＾シマシタ
10	Eメール＾ニ＾レンラクシテクダ゛ サイ
11 ： 20	工事段階でメッセージを登録しておくことができます。 詳しくは、販売店に相談してください。

・□□：□□には時刻を入力できます。
・△△／△△には日付を入力できます。
・＃には電話番号などを入力できます。

■ 設定のしかた

1 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

2 ⑨①④を押す

914は、テキストメッセージの特番（初期値）です。

ﾃｷｽﾄ ﾒｯｾｰｼﾞ ﾀﾞｲﾔﾙ ﾒｯｾｰｼﾞ No.

3 メッセージ番号を押す

「メッセージ一覧表」を参照して、2桁（01～20）で押してください。
ほかのテキストメッセージに変更したい場合は、ボリュームボタン（▲または▼）を使って変更することができます。

4 戻り時刻などを入力する

・時刻の入力　　　　　：24時間制で入力する（表示は12時間制になります）
・カーソルを右に移動：Helpボタンを押す
・カーソルを左に移動：Exitボタンを押す

5 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

これで、テキストメッセージが設定できました。

内線をかけてきた相手には、次のように表示されます。

1:30PMﾏﾃﾞ ｶｲｷﾞ

時刻を間違えたまま設定した

“26：40”など、時刻を間違えたまま設定すると、時刻部分が空白で表示されます。

■ 解除のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①④を押す

914は、テキストメッセージの特番（初期値）です。

```
ﾃｷｽﾄ ﾒｯｾｰｼﾞ
ﾀﾞｲﾔﾙ ﾒｯｾｰｼﾞ No.
```

3 (スピーカ)を押す

これで、テキストメッセージが解除できました。

指定時刻にアラーム音を鳴らす

アラーム

指定した時刻に、電話機からアラーム音を鳴らすことができます。会議の開始時刻などをセットしておくと便利です。
アラームには次の2種類があります。
- アラーム1：1回だけ鳴る（鳴った時点で自動解除）
- アラーム2：毎日定刻に鳴る（解除するまで有効）

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①②を押す

912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

```
ｱﾗｰﾑ 設定
1:ｱﾗｰﾑ1 2:ｱﾗｰﾑ2
```

3 アラームの番号を押す

1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

```
ｱﾗｰﾑ 1  設定
時刻 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

4 アラームを鳴らす時刻を入力する

24時間制で入力します。表示は12時間制になります。
例：午後3時05分の場合は1505と入力する

```
ｱﾗｰﾑ 1  設定
                3:05 pm
```

5 (スピーカ)を押す

```
100             ｱﾗｰﾑ 1
```

これで、アラームが設定できました。

■ 確認のしかた

1 Help○を押す

```
ﾁｪｯｸ
```

2 ⑨①②を押す

912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

```
ﾁｪｯｸ
                    912
```

3 アラームの番号を押す

1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

```
ｱﾗｰﾑ 1          3:05 pm
                   9121
```

4 Exit○を押すと、通常の表示に戻る

■ 止めかた

1 アラーム鳴動中

```
100             ｱﾗｰﾑ 1
```

2 Exit○を押す

これで、アラーム音が停止しました。

■ 解除のしかた

1 （スピーカ）を押す

2 ⑨①②を押す

912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

```
ｱﾗｰﾑ 設定
1:ｱﾗｰﾑ1 2:ｱﾗｰﾑ2
```

3 アラームの番号を押す

1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

```
ｱﾗｰﾑ 1　設定
時刻 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

4 ⑨⑨⑨⑨を押す

```
ｱﾗｰﾑ 1　設定
解除
```

5 （スピーカ）を押す

これで、アラームが解除できました。

会議室の様子を電話機から聞く

ルームモニタ

会議室などで話している様子を、電話機を通して聞くことができます。会議に参加しなくても、会議の内容は聞いておきたい場合などに利用できます。

- ルームモニタを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 「ファンクションボタンの設定」によりルームモニタボタンをモニタする側／される側の両方の電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

■ モニタされる側の設定のしかた

1 （ルームモニタボタン）を押す

```
ﾙｰﾑ ﾓﾆﾀｰ
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

2 自分の電話機の内線番号を押す

ルームモニタボタンが速い赤点滅になります。

```
ﾓﾆﾀｰ >>>
```

これで、モニタされる側の設定ができました。

■ モニタする側の設定のしかた

1 （ルームモニタボタン）を押す

```
ﾙｰﾑ ﾓﾆﾀｰ
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

2 モニタしたい相手の内線番号を押す

ルームモニタボタンが、ゆっくりした赤点滅になります。

```
ﾓﾆﾀｰ <<<                109
```

これで、モニタする側の設定ができました。

■ 解除のしかた　- モニタする側される側共通 -

1 モニタを設定中

2 （ルームモニタボタン）を押す

これで、モニタが解除されました。

通話相手の声を周りの人にも聞かせる
グループリスニング

受話器で通話中に、通話相手の声を多機能電話機のスピーカからも聞くことができます。周囲の人にも通話内容を同時に聞いてもらいたい場合などに利用できます。

■ グループリスニングを使用する

1 受話器で通話中

2 (スピーカ)を押す

これで、通話相手の声が、受話器とスピーカから聞こえるようになりました。

■ 通話を終了する

1 グループリスニング使用中

2 (スピーカ)を押す

3 受話器を戻す

通話を続けたまま、グループリスニングだけを終了したい

受話器を上げたまま、スピーカボタンを押します。

ハンズフリー通話に移行したい

グループリスニング中に、受話器を戻します。
- マイクランプが点灯している場合は、ハンズフリー通話（双方向の通話）になります。
- マイクランプが消灯している場合は、ハンズフリーモニタ（相手の声を聞くのみ）になります。

ハンズフリー通話をする場合、マイクを設定する必要があります。
詳しくは「受話器を置いたまま通話する」（⇒P. 1-48）を参照してください。

グループリスニング通話中は、次のことに注意してください
- 音声が反響しやすいところや、周囲の騒音が大きいところでは通話品質が悪くなる場合があります。
- グループリスニング使用時は、受話器での通話が聞き取りにくくなる場合があります。
- 受話器とマイクを同時に使って通話することはできません（受話器を上げている間、マイクは動作しません）。

着信履歴を短縮番号に登録する

着信履歴に登録されている電話番号を、短縮番号に登録することができます。

1 “履歴”のソフトキーを押す

履歴 ﾒﾆｭｰ
発信　着信

2 “着信”のソフトキーを押す

01:　0312345678
2-1　10:10
↑　↓　登録　削除

3 “登録”のソフトキーを押す

01:　0312345678
2-1　10:10
短縮

4 “短縮”のソフトキーを押す

スピーカボタンが赤点灯します。

短縮 登録
短縮 No.

5 短縮番号を押す

短縮 0900
0312345678

6 (保 留)を押す

名前を入力しない場合は、手順8に進みます。

※ カナ表示電話機をお使いの場合、名前を入力しないときは手順9に進んでください。

7 相手の名前を入力する

名前の入力のしかたは「文字入力のしかた」（⇒P. 1-19）を参照してください。

短縮 0900　挿英半
鈴木B
数字　←　→

※ カナ表示電話機をお使いの場合は手順9に進んでください。

8 （保留）を押す

手順7で入力した名前の読みカナが表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。

```
短縮 0900          挿ｶﾅ半
ｽｽﾞｷB      ◀
英字   ←    →
```

9 （保留）を押す

```
短縮 登録
```

10 （スピーカ）を押す

これで、短縮番号への登録ができました。

- 短縮番号を指定して登録する場合、すでにその番号が使われていたときには、上書きされます。
- 短縮ダイヤルを登録した直後にシステムの電源を切る場合、登録した短縮ダイヤルがシステムに書き込まれたことを確認してください。詳しくは「<電源の切りかた>」（⇒P. vii）を参照してください。

空いている短縮番号に登録したい

短縮番号を指定しないで、空いている短縮番号を自動的に選んで登録することができます。この場合、手順5で短縮番号の代わりに保留ボタンを押し、手順6に進みます。

共通短縮ダイヤルへの登録操作ができる電話機（システム管理者の電話機）では、手順5で短縮番号の代わりに保留ボタンを押すと、次のように表示されます。

```
短縮 登録
登録先を選択して下さい
 共通   個別
```

“共通”（共通短縮）に登録するか、“個別”（個別短縮）に登録するかをソフトキーで選ぶと、空いている短縮番号を自動的に選択します。

空いている短縮番号がないときには、“登録できません”と表示されます。このとき、続けて短縮番号を押すと、その短縮番号に上書きして登録されます。

グループ短縮が使える場合は

手順4の操作のあと、“短縮”と“グループ”のソフトキーが表示されます。“短縮”のソフトキーを押したときは、手順4の表示に進みます。“グループ”のソフトキーを押したときは、手順4の表示の1行目が“グループ短縮 登録”となります。

“グループ”のソフトキーを押しても登録できない

グループ短縮の登録ができる電話機は、システム管理者の電話機に限られています。

同じ外線で電話をかけ直す

切断再捕捉

※ バージョン5以降で有効

外線の相手と通話が終了したあと、受話器を戻すことなく、そのまま同じ外線で次の相手に電話をかけることができます。この方法を使うと、通常のような外線へのかけ直し操作が不要となり、わずらわしさがなくなります。

■ かけ直しかた

1 外線通話中

2 通話終了

3 受話器を上げたまま、（特殊）を押す

4 （フック）を押す

手順1で使用していた外線を捕捉したまま、通話だけが切れます。

5 かけ直す相手先の電話番号を押す

6 相手が出たら、通話する

これで、外線を捕捉したまま、電話をかけ直しできました。

キャッチホンサービスなどを使用しない場合、フックボタンを押すだけで切断再捕捉することができます。フックボタンを押すだけで切断再捕捉するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話機でブザー呼出を行う

ブザー

別室にいる人を呼びたいとき、電話機でブザー呼出を行うことができます。

「ファンクションボタンの設定」によりブザーボタンを呼ぶ側／呼ばれる側の両方の電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

■ 呼び出しかた

1 (ブザーボタン) を押す

ブザーボタンが赤点灯します。

これで、呼び出しができました。

■ 受けかた

1 電話機から“プー”という音が鳴る

ブザーボタンが赤点滅します。

2 (ブザーボタン) を押す

ブザーボタンが消灯します。

これで、ブザーが解除できました。

ブザー音とブザーの解除について

ブザー音およびブザーボタンの点灯または点滅は、呼び出す側または呼び出される側で、ブザーボタンを押すと解除されます。

取り次ぎ用の電話機を指定する

幹部着信転送

幹部宛ての電話などを、常に秘書が応答してから取り次ぐように、ボタンひとつで設定することができます。
設定は、秘書側の電話機で行います。

「ファンクションボタンの設定」により幹部着信代理応答ボタンを秘書の電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

■ 設定のしかた

1 (幹部着信代理応答ボタン) を押す

幹部着信代理応答ボタンが赤点灯します。

幹部転送 ＜＜ 200

これで、幹部着信転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 幹部着信転送を設定中

幹部着信代理応答ボタンが赤点灯します。

2 (幹部着信代理応答ボタン) を押す

幹部着信代理応答ボタンが消灯します。

転送解除 200

これで、幹部着信転送が解除できました。

■ 受けかた

1 幹部への着信が転送されてくる

幹部着信代理応答ボタンが赤点滅します。

転送 ＜＜＜ 200

2 受話器を上げる

通話

3 相手と通話する

電話機から音楽などを流す

BGM

電話機のスピーカから、音楽などをBGMとして流すことができます。設定は各電話機で行います。

有線放送や外部音源からの音楽などを流すには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ BGMの流しかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①⑧を押す

918は、BGMの特番（初期値）です。

```
B.G.M. オン
```

3 (スピーカ)を押す

これで、BGMが流れはじめました。

電話を使おうとすると

次のようなときは、BGMが止まります。そのあと電話機が未使用の状態に戻ると、BGMが再開します。
- 電話がかかってきたとき（着信音鳴動中）
- 受話器を上げたとき
- 一斉呼出中
- 設定操作などで電話機のファンクションボタンを押したとき

■ BGMの止めかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①⑧を押す

918は、BGMの特番（初期値）です。

```
B.G.M. オフ
```

3 (スピーカ)を押す

これで、BGMが止まりました。

ヘッドセットを使って通話する

ヘッドセット接続

受話器の代わりに別売のヘッドセットを使って通話できます。ヘッドセットを使用中のときは、ヘッドセットボタンを押すことにより、受話器を上げたり戻したりに相当する操作ができます。

ヘッドセットを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ ヘッドセットで電話をかける

受話器を置いたまま、ヘッドセットを使って電話をかけます。

1 (ヘッドセットボタン) を押す

ヘッドセットボタンが赤点灯します。

2 (外線ボタン) を押す

ヘッドセットから、外線のダイヤルトーンが聞こえます。

3 電話番号を押す

4 相手が出たら、ヘッドセットで通話する

5 電話を切るときは、もう1度 (ヘッドセットボタン) を押す

ヘッドセットボタンが消灯します。

オンフック外線自動捕捉が設定されていると

上記の手順1でヘッドセットボタンを押した時点で、ヘッドセットから外線のダイヤルトーンが聞こえ、電話がかけられます。

ヘッドセットでの通話から受話器に切り替えるには

受話器を上げ、ヘッドセットボタンを押すと、受話器に切り替わります。

■ ヘッドセットで電話を受ける

受話器を置いたまま、ヘッドセットを使って電話を受けます。

1 外線から着信中

2 （ヘッドセットボタン）を押す
ヘッドセットボタンが赤点灯します。

3 点滅中の（外線ボタン）を押す
工事段階で設定されている電話機では、応答ボタンを押して受けることもできます。

4 相手と通話する

5 電話を切るときは、もう1度（ヘッドセットボタン）を押す
ヘッドセットボタンが消灯します。

外線自動応答が設定されていると
上記の手順２でヘッドセットボタンを押すと、電話を受けられます。

受話器での通話からヘッドセットに切り替えるには
通話中にヘッドセットボタンを押すと、ヘッドセットに切り替わります。

カールコードレス電話機を使う

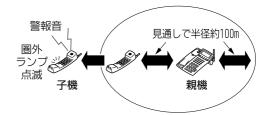
カールコードレス電話機について

カールコードレス電話機は、親機と子機で構成されています。子機は持ち運びができ、一定の範囲内からであれば、自由に電話をかけることができます。

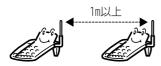
子機を手元においておきたい
子機を親機から外しておくときは、切ボタンを押しておいてください。

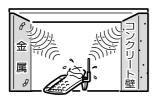
・親機と子機について
親機での操作は、ほかのデジタル多機能電話機と同様です。子機を受話器として使います。
子機だけで通話するときは、子機の機能ボタンなどを使います。

・子機には充電が必要です。子機を使用しないときは、親機に戻しておいてください。
・バージョン5.1X未満のシステムでお使いになる場合、親機の表示器はカナ表示となります。

・通話できる範囲について
親機と子機との距離（見通し距離）は、約100mまでが通話可能な範囲です。ただし、金属やコンクリート壁の近くなど、設置されるオフィスの周囲環境により、通話可能な範囲が狭くなることがあります。
親機から離れ過ぎると、圏外／要充電ランプが点滅し、警告音を鳴らして知らせます。

子機から発信操作を行ってもつながらないことがありますが、すこし時間をおいてから発信操作を行ってください。

マルチラインデジタルコードレス電話機と併用したい
工事段階での調整が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

• 親機の設置場所について
カールコードレス電話機を複数台設置するときは、それぞれの親機を約1m以上離してください。なお、漢字表示カールコードレス電話機の場合、マルチライン／シングルゾーンデジタルコードレス電話機のCS／CS-S（アンテナ）との間は、約3m以上離してください。また、カナ表示カールコードレス電話機の場合、マルチライン／シングルゾーンデジタルコードレス電話機のCS／CS-S（アンテナ）との間は、約5m以上離してください。

カールコードレス電話機を複数台設置するときは、親機と子機のペアを間違えないよう、注意してください。

金属やコンクリート壁付近などへの設置は避けてください。電波に影響を与えるため、雑音が入ったりして通信障害の原因となることがあります。

• アンテナについて
親機のアンテナは、常に垂直に立てた状態で使用してください。

アンテナに無理な力を加えると、折れたり曲がったりしてしまいますので注意してください。

• 電波について
放送局の近くやアマチュア無線、CB無線など、他の電波が強いところで使用すると、雑音などが入ることがあります。

• 充電について
子機を初めて使用するときや、長時間使用しなかったときは、5時間以上充電してください。
フル充電したいときは、8時間以上充電してください。フル充電した場合の連続通話時間と待ち受け時間は、次のとおりです。
- 連続通話時間：約 8時間
- 待ち受け時間：約48時間

子機の電池容量が少なくなると
圏外／要充電ランプが点滅し、警報音が鳴ります。

⚠ 注 意

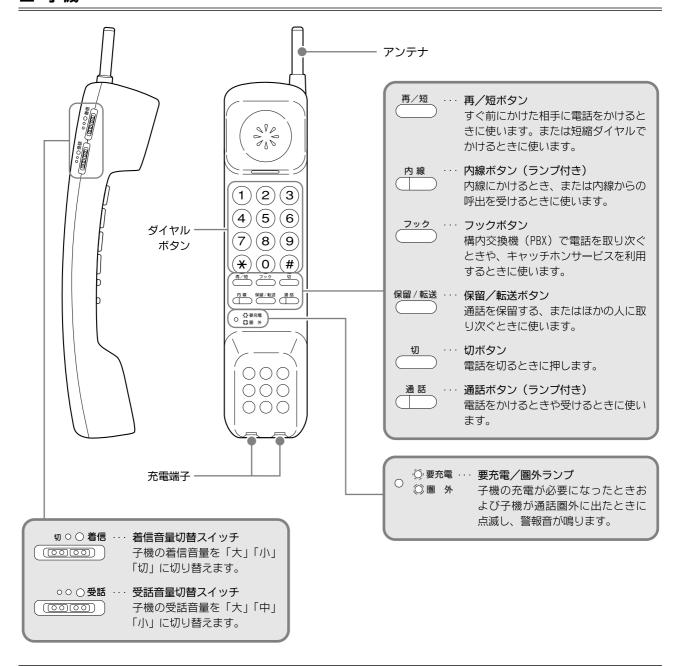
- 充電端子をショートさせないでください。
- 充電端子に水滴がついたまま子機を親機にのせて充電しないでください。

お 願 い

- 親機および子機の充電端子は、常にきれいにしておいてください。充電端子は、月に1度以上、乾いた布や綿棒などでふき取るか、アルコールを含ませた布で軽くこすって清掃してください。その際、アルコールがほかの部分に付かないように注意してください。電話機の外装を変質・変色させる原因となります。

電話機のボタンと使いかた

カールコードレス電話機の各部の名前とはたらきは、次のとおりです。

■ 子機

■ 親機

親機のボタンの名前とはたらきは、ほかのデジタル多機能電話機と同じです。「デジタル多機能電話機を使う」の「電話機のボタンと表示器の見かた」（⇒P. 1-2）を参照してください。

子機の使いかた

ここでは、子機の使いかただけを説明しています。
親機から電話をかけるときの方法は、ほかのデジタル多機能電話機と同じです。

■ 操作の前に

- カールコードレス電話機は、通話ができるまでの間に多少の時間がかかります。また、子機を親機に乗せたまま、オンフックで発信して、相手の応答を確認してから子機を上げたときも、通話がつながるまでに多少の時間がかかります。これは、無線を使用しているためで、故障ではありません。
- 子機を親機に乗せていないときに親機で発信操作をすると、子機の内線ランプおよび通話ランプが緑点灯することがあります。子機に通話を切り替えるときは、子機の通話ボタンを押してください。
- 子機から電話をかけるときは、通話ボタンまたは内線ボタンを押して「ツ、ツ、ツ」などの音が聞こえてから電話番号を押してください。音が聞こえる前に電話番号を押したり、先に電話番号を押しても、かけられません。

「ピピピピ」と音がしてつながらない

通話ボタンや内線ボタンを押したとき、通話がつながらずに「ピピピピ」と音がすることがあります。これは、電波干渉や電波障害によるもので、故障ではありません。もう1度、通話ボタンや内線ボタンを押してください。

■ 外線にかける

1 通話を押す

2 電話番号を押す

3 相手が出たら、通話する

通話を切るときは、切ボタンを押します。

自分で保留した通話がある

通話を保留中に通話ボタンを押すと、保留中の通話への応答になります。別の外線に電話をかけることはできません。

■ 最後にかけた相手にかけ直す -再ダイヤル-

1 通話を押す

2 再/短を押す

3 #を押す

4 相手が出たら、通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

かけた相手をさかのぼって選びたい

親機の再／短ボタンを押して、表示器を見ながら選び、かけたい相手が表示されたら子機を上げてください。

■ 短縮ダイヤルを使ってかける

1 通話を押す

2 再/短を押す

3 短縮番号を押す

共通短縮または個別短縮の番号を押します。

4 相手が出たら、通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

グループ短縮ダイヤルを使ってかけたい

特番を使ってかけるか、または親機で発信操作をしてから子機を上げてください。

■ 外線からの電話を受ける

1 外線から着信中

2 通話を押す

3 相手と通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

着信中に表示が出ない

保留中の通話があると、外線着信の表示は出ません。また、着信音量切替スイッチが「切」になっていると、外線着信の表示は出ません。

■ 外線通話を保留する

1 外線と通話中

2 保留/転送 を押す

これで、外線通話が保留できました。

なお、子機で保留した場合も、親機に保留表示されます。

保留中に切ボタンを押して子機の電源を切ると、保留表示が消え、通話を再開できなくなります。もし、押してしまったときは、親機から応答の操作をしてください。

■ 保留した外線通話に応答する

1 外線通話を保留中

2 通 話 を押す

3 相手と通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

親機で保留した通話に応答したい

子機で通話ボタンを押すと、親機で保留した通話に応答することができます。

■ 着信音だけで電話を取り次ぐ - 呼出状態転送 -

着信音だけで電話を取り次ぐには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 外線と通話中

2 保留/転送 を押す

3 内線番号を押す

4 切 を押す

これで、呼出状態転送ができました。

■ 取り次ぎを受ける - 呼出状態転送への応答 -

1 外線から着信中

2 通 話 を押す

3 外線の相手と通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

■ 内線を呼び出す - 内線相互接続 -

1 内 線 を押す

2 内線番号を押す

3 相手が出たら、通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

■ 内線からの呼出を受ける - 内線応答 -

1 内線から着信中

2 内 線 を押す

3 相手と通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

内線通話中に話中呼出を受けた

内線を保留すると、その呼出に応答できます。

音声呼出を受けた

親機では音声で呼び出されますが、子機では信号音で呼び出されます。

子機の着信音が鳴らない

次の場合、子機の着信音は鳴りません。

- 子機を親機に置いているとき
- 子機の着信音量切替スイッチが「切」になっているとき

■ 内線通話を保留する

1 内線と通話中

2 保留/転送 を押す

これで、内線通話が保留できました。

■ 保留した内線通話を再開する

1 内線通話を保留中

2 内 線 を押す

3 相手と通話する

電話を切るときは、切ボタンを押します。

親機で保留した通話に応答したい

子機で内線ボタンを押すと、親機で保留した通話に応答することができます。

■ 一斉呼出をする

1 内線を押す

2 ⑧①⑨を押す

819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。

3 内線グループ番号を押す

4 一斉呼出をする

5 相手が出たら、通話する

■ 一斉呼出に応答する

1 一斉呼出中

2 内線を押す

3 ⑧②③を押す

823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

子機の設定について

次の設定をすると、子機の使い勝手を変更できます。

- キータッチ音の設定
  子機のダイヤルボタンおよび機能ボタンを押したとき「ピッ」という音を鳴らすかどうかを設定します。
- 通話圏外警告音の設定
  通話中に、通話圏外まで離れてしまったとき「ピピ」という音を鳴らすかどうかを設定します。
- 無線接続時間による通話開始遅延について
  オンフックダイヤルなど、親機で電話番号を押して、相手が出たことを確認してから子機を上げて通話する場合、通話がつながるまでに若干の遅れがあります。これは、無線がつながるまでに要する時間で、故障ではありません。ただし、無線接続に失敗した場合には、通話が途切れたり、遅れたりすることがあります。

■ キータッチ音の設定のしかた

1 子機を上げる

2 切を押す

3 着信音量切替スイッチを「切」にする

4 1 秒以上経過してから、#を押しながら着信音量切替スイッチを「小」または「大」に切り替える

これで、キータッチ音の切り替えができました。

切替結果として通話ランプと内線ランプが次の色で点灯します。

- キータッチ音あり：緑点灯（数秒後に消灯）
- キータッチ音なし：赤点灯（数秒後に消灯）

■ 通話圏外警告音の設定のしかた

通話中に、通話圏外まで離れてしまったとき「ピピ」という音がして知らせてくれます。

1 子機を上げる

2 切を押す

3 着信音量切替スイッチを「切」にする

4 1 秒以上経過してから、⊛を押しながら着信音量切替スイッチを「小」または「大」に切り替える

これで、通話圏外警告音の切り替えができました。

切替結果として通話ランプと内線ランプが次の色で点灯します。

- 通話圏外警告音あり：緑点灯（数秒後に消灯）
- 通話圏外警告音なし：赤点灯（数秒後に消灯）

センター電話帳を使う

※ バージョン5以降で有効

センター電話帳は、漢字表示電話機（電子電話帳機能付／センター電話帳機能付）でのみ使用できる電話帳です。電話帳データは主装置に保存されます。

漢字表示電話機（電子電話帳機能付）で、センター電話帳を使用する場合、内蔵の電子電話帳は使用できません。どちらの電話帳が利用できるかどうかは、システム管理者に確認してください。
なお、漢字表示電話機（電子電話帳機能付）で、電子電話帳を使用している場合は、『Dterm85漢字対応電話機　取扱説明書』を参照してください。

漢字表示電話機（電子電話帳機能付／センター電話帳機能付）のボタンと使いかた

ここでは、センター電話帳の操作に使用するボタンのみを説明しています。そのほかのボタンの名前とはたらきは、デジタル多機能電話機と同じです。
詳しくは、P. 1-2を参照してください。

センター電話帳について

センター電話帳は、漢字表示電話機から利用するための、システムに内蔵される電話帳です。
センター電話帳には、次の2種類があります。

- 共通短縮ダイヤル
  システム全体で共用するための電話帳です。
  システム全体で1個あり、最大2000件まで登録できます。
- 個別電話帳
  電話機ごとに使用するための電話帳です。
  システム全体で50グループ（MBU-S1制御ユニット）または100グループ（NTCPU-A2/B2制御ユニット）あり、各電話帳に最大300件まで登録できます。個別電話帳は、1台の漢字表示電話機で、最大2つまで使用することができます。

センター電話帳を利用するためには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ センター電話帳のメニュー画面を表示させる

1 （メニュー）を押す

センター電話帳のメニュー画面が表示されます。

1新規登録	2検索
3各種設定	4全削除
1　2	3　4

2 メニューを選択する

次のいずれかの方法で、選択します。

- 項目に対応する番号を、ダイヤルボタンで押す
- 項目に対応する番号のソフトキーを押す
- 十字キーの◀ ▶で反転表示を移動し、確定ボタンを押す

3 各種操作をする

操作のしかたは、各ページを参照してください。

- 新規登録 ⇒次ページへ
- 検索 ⇒P. 1-75へ
- 各種設定 ⇒P. 1-80, P. 1-81へ
- 全削除 ⇒P. 1-74へ

4 1つ前の画面に戻るときは、（クリア/戻る）を押す

5 操作を終了するときは、（終了）を押す

待ち受け画面に戻ります。

■ 個別電話帳に新規登録する

1 メニュー画面で、"1新規登録"を選ぶ

登録先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

[電話帳登録]

共通　個別1　個別2

※ "個別1"、"個別2"の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

次の画面が表示された

共通　:名前入力　挿漢全
■
カナ

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤルだけが利用できます。手順3に進んでください。

2 登録したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤル、個別電話帳1、個別電話帳2の最大3つの電話帳が利用できます。登録したい電話帳のソフトキーを押してください。名前を入力するための画面が表示されます。(下記の画面は"個別1"のソフトキーを押した場合のものです。)

個別1:名前入力　挿漢全
■
カナ

"!メモリ300件登録済みです　新規登録できません"と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。

3 相手の名前を入力する

相手の名前は、半角で12文字まで、全角で6文字まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、「文字入力のしかた」(⇒P.1-19)を参照してください。

個別1:名前入力　挿英半
鈴木部長 PHS
数字

4 ○(確定)を押す

手順3で入力した名前の読みカナが表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。

個別1:読みカナ入力　挿ｶﾅ半
ｽｽﾞｷﾌﾞﾁｮｳPHS
英字

5 ○(確定)を押す

グループを選ぶための画面が表示されます。

個別1:グループ選択
1東京本社　2大阪支店
3名古屋支店　4札幌支店

6 ▲ ▼を押して、登録したいグループを表示させる

7 登録したいグループの番号を押す

電話番号を入力するための画面が表示されます。

個別1:電話番号入力
鈴木部長 PHS
■

8 電話番号を入力する

電話番号は、24桁まで入力できます。電話番号として使用できるのは、次の数字および記号です。

- 0〜9、*、#
- P(ポーズ:転送ボタン)
- R(フッキング:フックボタン)
- @(ISDN応答待ちコード:応答ボタン)

9 ○(確定)を押す

アイコンを選ぶための画面が表示されます。

個別1: アイコン選択
1　2　3VM　4　5　6
会社

10 登録したいアイコンの番号を押す

メモリ番号を入力するための画面が表示されます。画面には、空いている最も若番のメモリ番号が表示されます。

個別1:メモリ番号登録
101
[0〜 299]

11 メモリ番号を入力する

表示されているメモリ番号に登録したいときは、確定ボタンを押します。

メモリ番号 ： 101登録しました
電話帳登録件数　　101/ 300件

しばらくすると、登録先の電話帳を選ぶための画面に戻ります。

[電話帳登録]

共通　個別1　個別2

複数の相手先を登録したい
手順2からの操作をくり返します。

12 終了を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、個別電話帳に登録できました。

■ 電話帳に登録されている内容を修正する

1 修正したい内容を表示させる

検索する場合は、「電話帳に登録されている相手を検索する」（⇒P. 1-75）を参照してください。

[101]　　鈴木部長 PHS
07012345678
Gr東京本社　　変更　削除

2 “変更”のソフトキーを押す

修正する項目を選ぶための画面が表示されます。

個別1 :電話帳変更
名鈴木部長 PHS ｶﾅｽｽﾞｷﾌﾞﾁｮｳPHS
Gr東京本社

3 ▲ ▼ ▶ ◀を押して、修正したい項目を選ぶ

4 確定を押す

選んだ項目の修正画面が表示されます。修正のしかたは、新規登録の操作と同様です。

- 相手の名前を選んだ場合
  「個別電話帳に新規登録する」（⇒前ページ）の手順3～手順5→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。
- 相手の名前の読みカナを選んだ場合
  「個別電話帳に新規登録する」（⇒前ページ）の手順4、手順5→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。
- グループを選んだ場合
  「個別電話帳に新規登録する」（⇒前ページ）の手順6、手順7→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。
- 電話番号を選んだ場合
  「個別電話帳に新規登録する」（⇒前ページ）の手順8～手順10→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。

5 ▲ ▼を押して、“メモリ番号の登録へ”を選ぶ

個別1 :電話帳変更
メモリ番号の登録へ

6 確定を押す

メモリ番号を入力するための画面が表示されます。画面には、現在のメモリ番号が表示されます。登録先を変更する場合は、新しいメモリ番号を入力してください。このとき、入力したメモリ番号の状態によって表示される画面が異なります。

- すでに別の電話帳データが登録されている場合
  手順7の画面（現在登録されている電話帳データの名前）が表示されます。手順8に進んでください。
- 電話帳データが登録されていない場合
  手順8の画面が表示されます。手順9に進んでください。

個別1 :メモリ番号登録
101
[0～ 299]

7 確定を押す

確認画面が表示されます。

個別1 :電話帳変更
鈴木部長 PHS
書き換えますか?Yes　No

8 “Yes”のソフトキーを押す

書き換えたくないときは、“No”のソフトキーを押します。

```
メモリ番号 ： 101登録しました
電話帳登録件数　　101/ 300件
```

9 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、登録内容の修正ができました。

■ 電話帳に登録されている内容を削除する

《 1件だけ削除する 》

1 削除したい内容を表示させる

検索する場合は、「電話帳に登録されている相手を検索する」（⇒次ページ）を参照してください。

```
[ 101]　　鈴木部長 PHS
07012345678
Gr東京本社　　変更　 削除
```

2 “削除”のソフトキーを押す

確認画面が表示されます。

```
個別１:データ削除
削除しますか?
　　　　　　Yes　 No
```

3 “Yes”のソフトキーを押す

削除したくないときは、“No”のソフトキーを押します。

```
！削除しました
```

4 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、登録内容が1件だけ削除できました。

《 すべての登録内容を削除する 》

1 メニュー画面で、“4全削除”を選ぶ

暗証番号を入力するための画面が表示されます。

```
個別１:全削除
暗証番号を4桁入力して下さい
█　◂
```

次の画面が表示された

```
[電話帳削除]

個別１　個別２
```

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の2つの電話帳が利用できます。削除したい電話帳のソフトキーを押してください。

※“個別１”、“個別２”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

2 暗証番号4桁を入力する

暗証番号が一致すると、確認画面が表示されます。

```
個別１:全削除
電話帳全削除しますか?
　　　　　　Yes　 No
```

暗証番号を忘れてしまった

暗証番号を調べることはできませんので、出荷時の状態（“0000”）に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

3 “Yes”のソフトキーを押す

削除したくないときは、“No”のソフトキーを押します。

```
！電話帳全削除しました
```

4 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、電話帳の登録内容がすべて削除できました。

■ 電話帳に登録されている相手を検索する

"！電話帳登録データは0件です"と表示された

電話帳には1件も登録されていません。

《 読みカナで検索する 》

1 ◁を押す

読みカナを入力するための画面が表示されます。

```
個別１：読み検索　　　挿ｶﾅ半
█　　　　　　◂
英字　ﾒﾆｭｰ
```

他の電話帳から検索したい

上記の操作では、個別電話帳1の読みカナ検索画面が表示されます。共通短縮ダイヤルや個別電話帳2から検索したいときは、電話帳ボタンを押してください。

2 読みカナを入力する

```
個別１：読み検索　　　挿ｶﾅ半
ｽｽﾞ█　　　　◂
英字　ﾒﾆｭｰ
```

英数字を入力したい

フックボタンを押すと、入力モードが切り替わります。

3 ▽を押す

入力した読みカナに該当する候補が表示されます。

```
1鈴木太郎　　2鈴木部長 PHS
3須田一郎　　4須波次郎
0312345678
```

4 △ ▽ ▷ ◁を押して、候補を選ぶ

候補の番号のダイヤルボタンを押して選ぶこともできます。

5 ○(確定)を押す

選んだ候補が確定され、登録内容が表示されます。

```
[ 101]　　鈴木部長 PHS
07012345678
Gr東京本社　　変更　　削除
```

これで、電話帳から読みカナで検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

《 グループで検索する 》

1 ▷を押す

グループを選ぶための画面が表示されます。

```
個別１：グループ検索
1東京本社　　2大阪支店
3名古屋支店　4札幌支店
```

他の電話帳から検索したい

上記の操作では、個別電話帳1のグループ検索画面が表示されます。個別電話帳2から検索したいときは、電話帳ボタンを押してください。

2 △ ▽を押して、検索したいグループを表示させる

3 検索したいグループの番号を押す

グループに所属する登録内容が表示されます。なお、該当するグループ内に登録内容が1件のみの場合は、手順5の画面が表示されます。

```
1鈴木太郎　　2鈴木部長 PHS
3須田一郎　　4須波次郎
0312345678
```

4 △ ▽ ▷ ◁を押して、候補を選ぶ

候補の番号を数字ボタンを押して選ぶこともできます。

5 ○(確定)を押す

選んだ候補が確定され、登録内容が表示されます。

```
[ 101]　　鈴木部長 PHS
07012345678
Gr東京本社　　変更　　削除
```

これで、電話帳からグループで検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

《 電話番号で検索する 》

1 電話帳を押す

検索先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

```
[電話帳検索]

共通　個別１　個別２
```

※ "個別１"、"個別２" の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

次の画面が表示された

```
共通　:読み検索　　　挿ｶﾅ半
█　　　　　◂
英字　ﾒﾆｭｰ
```

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤルだけが利用できます。手順 3 に進んでください。

2 検索したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤル、個別電話帳1、個別電話帳2の最大3つの電話帳が利用できます。検索したい電話帳のソフトキーを押してください。読みカナを入力するための画面が表示されます。
(下記の画面は "個別１" のソフトキーを押した場合のものです。)

```
個別１:読み検索　　　挿ｶﾅ半
█　　　　　◂
英字　ﾒﾆｭｰ
```

3 "メニュー" のソフトキーを押す

検索方法を選ぶための画面が表示されます。

```
[検索メニュー]

読み　ｸﾞﾙｰﾌﾟ　番号　メモリ
```

4 "番号" のソフトキーを押す

電話番号を入力するための画面が表示されます。

```
個別１:電話番号検索
█　　　　　　　　　◂
ﾒﾆｭｰ
```

5 電話番号を入力する

6 ▼を押す

電話番号に該当する候補が表示されます。該当する候補が1件のみの場合は、手順8の画面が表示されます。

```
1鈴木太郎　　2鈴木部長 PHS
3須田一郎　　4須波次郎
0312345678
```

7 ▲ ▼ ◀ ▶を押して、候補を選ぶ

候補の番号を数字ボタンを押して選ぶこともできます。

8 確定を押す

選んだ候補が確定され、登録内容が表示されます。

```
[ 101]　　鈴木部長 PHS
07012345678
Gr東京本社　　変更　削除
```

これで、電話帳から電話番号で検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

《 メモリ番号で検索する 》

1 電話帳を押す

検索先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

```
[電話帳検索]

共通　個別１　個別２
```

※ "個別１"、"個別２" の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

次の画面が表示された

```
共通　:読み検索　　　挿ｶﾅ半
█　　　　　◂
英字　ﾒﾆｭｰ
```

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤルだけが利用できます。手順 3 に進んでください。

2 検索したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤル、個別電話帳1、個別電話帳2の最大3つの電話帳が利用できます。検索したい電話帳のソフトキーを押してください。読みカナを入力するための画面が表示されます。
（下記の画面は"個別１"のソフトキーを押した場合のものです。）

```
個別１:読み検索      挿ｶﾅ半
█
英字  ﾒﾆｭｰ
```

3 "メニュー"のソフトキーを押す

検索方法を選ぶための画面が表示されます。

```
[検索メニュー]

読み  ｸﾞﾙｰﾌﾟ 番号  メモリ
```

4 "メモリ"のソフトキーを押す

メモリ番号を入力するための画面が表示されます。

```
個別１:メモリ番号検索

ﾒﾆｭｰ              [0～ 299]
```

5 メモリ番号を入力する

メモリ番号に該当する相手が表示されます。

```
[ 101]   鈴木部長 PHS
07012345678
Gr東京本社   変更  削除
```

これで、電話帳からメモリ番号で検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

■ 着信履歴を利用する

《 着信履歴を表示する 》

1 ▲を押す

最新の着信履歴が表示されます。

```
01:              0312345678
不在mm-dd hh:tt 山田一郎
 ↑     ↓   登録  削除
```

※ mm：月、dd：日、hh：時、tt：分

これで、着信履歴が表示できました。

着信履歴は、最大50件が記憶されています。
▲ ▼または"↑"、"↓"のソフトキーを押すと、履歴をスクロールできます。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

《 着信履歴を電話帳に新規登録する 》

1 登録したい着信履歴を表示させる

上記「《 着信履歴を表示する 》」を参照してください。

2 "登録"のソフトキーを押す

登録先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

```
01:              0312345678
不在mm-dd hh:tt 山田一郎
 短縮  個別１ 個別２ 拒否
```

※ "個別１"、"個別２"の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

"！メモリ 300 件登録済みです　新規登録できません"と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。

3 電話帳への登録操作をする

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。「電話帳に登録されている内容を修正する」（⇒P. 1-73）の手順2以降を参照してください。なお、名前には、ネーム・ディスプレイで通知されてきた名前が自動入力され、電話番号は、ナンバー・ディスプレイで通知されてきた電話番号が入力されています。必要に応じて、修正してください。

《 着信履歴に表示されている電話帳の内容を変更する 》

電話帳に登録されている相手からの着信の場合、着信履歴には電話帳に登録されている名前などが表示されます。この着信履歴から電話帳の登録内容を修正することができます。

1 変更したい着信履歴を表示させる

「《 着信履歴を表示する 》」(⇒前ページ)を参照してください。

2 "登録"のソフトキーを押す

登録先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

```
01:                0312345678
不在mm-dd hh:tt 山田一郎
 短縮  個別1 個別2 拒否
```

※ "個別1"、"個別2"の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

"!メモリ300件登録済みです 新規登録できません"と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。

3 登録したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤル、個別電話帳1、個別電話帳2の最大3つの電話帳が利用できます。登録したい電話帳のソフトキーを押してください。電話帳を修正するための画面が表示されます。

4 電話帳に登録されている内容を修正する

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。「電話帳に登録されている内容を修正する」(⇒P.1-73)の手順2以降を参照してください。

《 着信履歴を1件だけ削除する 》

1 削除したい着信履歴を表示させる

「《 着信履歴を表示する 》」(⇒前ページ)を参照してください。

2 "削除"のソフトキーを押す

削除方法を選ぶための画面が表示されます。

```
01:                0312345678
不在mm-dd hh:tt 山田一郎
 1件    全件
```

3 "1件"のソフトキーを押す

履歴が削除されます。

4 ○(終了)を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、1件の着信履歴を削除できました。

《 着信履歴をすべて削除する 》

1 着信履歴を表示させる

「《 着信履歴を表示する 》」(⇒前ページ)を参照してください。

2 "削除"のソフトキーを押す

削除方法を選ぶための画面が表示されます。

```
01:                0312345678
不在mm-dd hh:tt 山田一郎
 1件    全件
```

3 "全件"のソフトキーを押す

確認画面が表示されます。

```
着信履歴全件削除しますか?
           Yes   No
```

4 "Yes"のソフトキーを押す

```
着信履歴はありません

 ↑     ↓   登録   削除
```

5 ○(終了)を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、すべての着信履歴を削除できました。

■ 発信履歴を利用する

《 発信履歴を表示する 》

1 を押す

最新の発信履歴が表示されます。

再ダイヤル-01	山田一郎
	0312345678
↑　　　↓　登録　削除	

これで、発信履歴が表示できました。

発信履歴は、最大10件が記憶されています。
または"↑"、"↓"のソフトキーを押すと、履歴をスクロールできます。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

《 発信履歴を電話帳に新規登録する 》

1 登録したい発信履歴を表示させる

上記「《 発信履歴を表示する 》」を参照してください。

2 "登録"のソフトキーを押す

登録方法を選ぶための画面が表示されます。

再ダイヤル-01	山田一郎
	0312345678
短縮　個別１　個別２	

※ "個別１"、"個別２"の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

"！メモリ300件登録済みです　新規登録できません"と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。

3 電話帳への登録操作をする

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。「電話帳に登録されている内容を修正する」(⇒P. 1-73)の手順2以降を参照してください。なお、電話帳を使って発信した場合など、名前が登録されていた場合は、その名前が自動入力されます。また、電話番号には、ダイヤルした電話番号が入力されています。必要に応じて、修正してください。

《 発信履歴に表示されている電話帳の内容を変更する 》

電話帳に登録されている相手に電話をかけた場合、発信履歴には電話帳に登録されている名前などが表示されます。この発信履歴から電話帳の登録内容を修正することができます。

1 変更したい発信履歴を表示させる

「《 発信履歴を表示する 》」(⇒左記)を参照してください。

2 "登録"のソフトキーを押す

登録方法を選ぶための画面が表示されます。

再ダイヤル-01	山田一郎
	0312345678
短縮　個別１　個別２	

※ "個別１"、"個別２"の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

3 登録したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、共通短縮ダイヤル、個別電話帳1、個別電話帳2の最大3つの電話帳が利用できます。登録したい電話帳のソフトキーを押してください。電話帳を修正するための画面が表示されます。

4 電話帳に登録されている内容を修正する

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。「電話帳に登録されている内容を修正する」(⇒P. 1-73)の手順2以降を参照してください。

《 発信履歴を１件だけ削除する 》

1 削除したい発信履歴を表示させる

「《 発信履歴を表示する 》」(⇒左記)を参照してください。

2 "削除"のソフトキーを押す

削除方法を選ぶための画面が表示されます。

再ダイヤル-01	山田一郎
	0312345678
1件　全件	

3 "1件"のソフトキーを押す

履歴が削除されます。

4 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、1件の発信履歴を削除できました。

《 発信履歴をすべて削除する 》

1 発信履歴を表示させる

「《 発信履歴を表示する 》」(⇒前ページ)を参照してください。

2 "削除"のソフトキーを押す

削除方法を選ぶための画面が表示されます。

```
再ﾀﾞｲﾔﾙ-01          山田一郎
                  0312345678
 1件    全件
```

3 "全件"のソフトキーを押す

確認画面が表示されます。

```

発信履歴全件削除しますか?
               Yes    No
```

4 "Yes"のソフトキーを押す

```
発信履歴はありません

 ↑      ↓    登録   削除
```

待ち受け画面に戻ります。

これで、すべての発信履歴を削除できました。

■ グループ名を変更する

グループ名は、初期状態では"グループ01"～"グループ20"となっています。このグループ名を、わかりやすい名称に変更できます。

1 メニュー画面で、"③各種設定"を選ぶ

設定項目を選ぶための画面が表示されます。

```
[各種設定]

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集  ロック 暗証
```

2 "グループ名編集"のソフトキーを押す

変更するグループ名を選ぶための画面が表示されます。

```
個別1:ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集
1東京本社     2大阪支店
3名古屋支店   4札幌支店
```

次の画面が表示された

```
[電話帳選択]

個別1 個別2
```

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の2つの電話帳が利用できます。グループ名を変更したい電話帳のソフトキーを押してください。

※"個別1"、"個別2"の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

3 ▲ ▼を押して、変更したいグループを表示させる

4 変更したいグループの番号を押す

グループ名を入力するための画面が表示されます。

```
個別1:ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集   挿漢全
東京本社    ◂
カナ
```

5 グループ名を入力する

グループ名は、半角で12文字まで、全角で6文字まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、「文字入力のしかた」(⇒P.1-19)を参照してください。

```
個別1:ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集   挿漢全
神田本社    ◂
カナ
```

6 ○確定を押す

```

!登録しました

```

変更したグループ名が、一覧に表示されます。

```
個別1:ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集
1神田本社     2大阪支店
3名古屋支店   4札幌支店
```

7 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、グループ名称が変更できました。

■ 電話帳をロック／ロック解除する

センター電話帳を、一時的に使用できないようにします。この操作には、暗証番号を入力します。暗証番号については、「暗証番号を変更する」（⇒右記）を参照してください。

《 電話帳をロックする 》

1 メニュー画面で、“3各種設定”を選ぶ

設定項目を選ぶための画面が表示されます。

```
[各種設定]

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集　ロック　暗証
```

2 “ロック”のソフトキーを押す

暗証番号を入力するための画面が表示されます。

```
[電話帳ロック]
暗証番号を4桁入力して下さい
█　◂
```

3 暗証番号を入力する

暗証番号が一致すると、次の画面が表示されます。

```
！電話帳ロックしました
```

暗証番号を忘れてしまった

暗証番号を調べることはできませんので、出荷時の状態（“0000”）に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

4 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、電話帳がロックできました。

電話帳ロック中の動作

電話帳のロック中には、ロックの解除以外の電話帳操作はできなくなります。操作しようとすると、“！電話帳ロック中です”と表示されます。

《 電話帳のロックを解除する 》

電話帳をロックするときと同じ操作をします。暗証番号が一致すると、“！電話帳ロック解除しました”と表示されます。

■ 暗証番号を変更する

電話帳の全件削除や、電話帳ロックに使用する暗証番号を変更します。暗証番号は、工場出荷時には“0000”に設定されています。

1 メニュー画面で、“3各種設定”を選ぶ

設定項目を選ぶための画面が表示されます。

```
[各種設定]

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名編集　ロック　暗証
```

2 “暗証”のソフトキーを押す

現在の暗証番号を入力するための画面が表示されます。

```
[暗証番号設定]
暗証番号を4桁入力して下さい
█　◂
```

3 暗証番号を入力する

暗証番号が一致すると、新しい暗証番号を入力するための画面が表示されます。

```
[暗証番号設定]
新規番号を4桁入力して下さい
█　◂
```

暗証番号を忘れてしまった

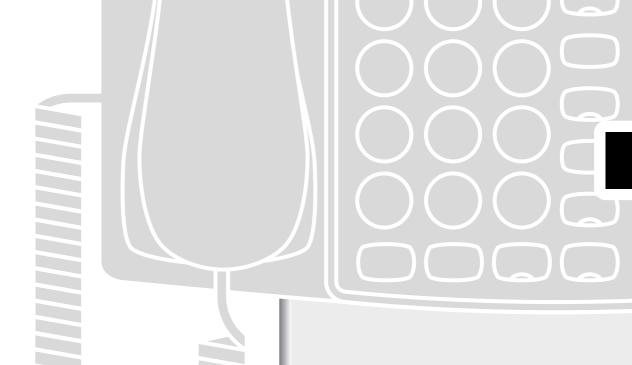
暗証番号を調べることはできませんので、出荷時の状態（“0000”）に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

4 新しい暗証番号を入力する

```
！暗証番号設定しました
```

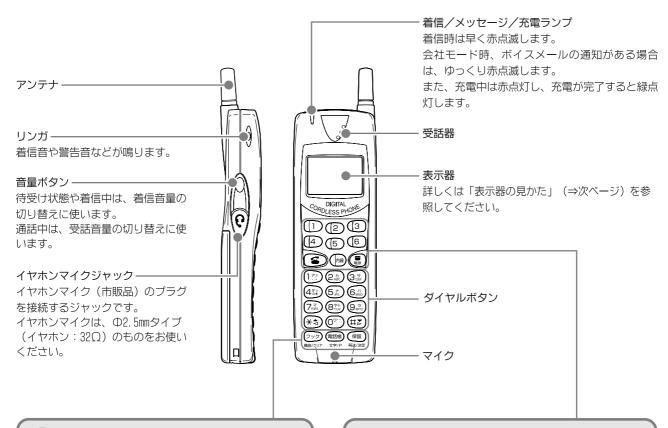
5 終了○を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、暗証番号が変更できました。

マルチラインデジタルコードレス電話機（PHS）を使う

電話機のボタンと表示器の見かた

各ボタンの使いかた

ここでは、本システムでマルチラインデジタルコードレス電話機を使うときの操作を説明しています。
電話帳や再ダイヤル、発信履歴、着信履歴など、マルチラインデジタルコードレス電話機独自の機能については、マルチラインデジタルコードレス電話機に添付されている取扱説明書を参照してください。

フック 機能/クリア ･･･ フック／機能／クリアボタン
通話を保留したあと、自動転送を行うときに使います。待受け状態では、いろいろな機能を設定するときなどに使います。
また、電子電話帳などの登録モードでは、登録データの一部消去に使います。

電話帳 文字/P ･･･ 電話帳／文字／Pボタン
短縮ダイヤルまたは電子電話帳を利用した発信時に使います。
また、電子電話帳の登録モードでは、文字種別の切り替えやポーズの登録に使います。

保留 再送/決定 ･･･ 保留／再送／決定ボタン
通話を保留するときに使います。
また、待受け状態で設定モードに入るときや、設定モードでデータ設定をするときに使います。
再ダイヤルの発信にも使います。

1 ～ 6 ･･･ ファンクションボタン（ランプ付き）
外線にかけるときに使います。また、相手の電話番号や内線番号を登録してワンタッチでかけたり、いろいろな機能を登録してワンタッチで操作することもできます。

･･･ 発信／応答ボタン（ランプ付き）
発信または応答するときに使います。

内線 ･･･ 内線ボタン（ランプ付き）
内線通話を行うときに使います。

電源 ･･･ 切／電源ボタン
通話を終了するときに使います。長く押し続けると、電話機の電源の入／切ができます。

表示器の見かた

マルチラインデジタルコードレス電話機の表示器には、電話機の状態により、次のようなことが表示されます。表示の上下に表示される絵記号などの意味については、マルチラインデジタルコードレス電話機に添付の取扱説明書を参照してください。

■ 電話機を使用していないとき

電話機を使用していないときは、次の情報が表示されます。

■ 外線に発信中のとき

外線に発信中は、使用中の外線番号と相手の電話番号が表示されます。

■ 外線と通話中のとき

外線と通話中は、通話時間が表示されます。

外線番号　通話時間

TRK001 00:05:30
応答

電話をかけた場合と、かかってきた場合とで、表示は異なります。
この例は、かかってきた場合を示しています。
下の段には、通話料金や相手の電話番号などが表示される場合があります。

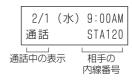
■ 内線を呼出中のとき

内線を呼出中は、呼出中の表示と相手の内線番号または名前が表示されます。

2/1（水）9:00AM
呼出　120

呼出中の表示　相手の内線番号または名前

■ 内線と通話中のとき

内線と通話中は、通話中の表示と相手の内線番号が表示されます。

外線に電話をかける

発信／応答ボタンを使ってかける

空外線自動選択

発信／応答ボタンを押すと、そのとき空いている外線を使って電話をかけることができます。

■ かけかた

1 電話番号を押す

```
1234567
```

2 （☎）を押す

発信／応答ボタンが緑点滅します。

```
TRK001
1234567
```

3 相手が出たら、通話する

索線ボタンを使ってかける

索線形外線発信

索線ボタンを押すと、そのボタンに割り付けられている外線グループの中の、空いている外線を使って電話をかけることができます。

索線ボタンってなに？

部署ごとなどで割り当てられたいくつかの外線を、グループとして1つのボタンに割り付けます。このボタンを索線ボタンと言います。

外線グループってなに？

いくつかの外線を部署ごとなどでグループ分けしたものを、外線グループと言います。電話をかけるときに外線グループを指定すると、そのグループ内の空外線を自動的に選んで発信できます。

索線ボタン、外線グループを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 電話番号を押す

2 （6）（索線ボタン）を押す

索線ボタンが緑点灯します。

3 相手が出たら、通話する

特番を使ってかける

外線グループ捕捉／指定外線捕捉

電話機に、外線ボタンや索線ボタンを割り付けていない場合は、特番を使って外線に電話をかけることができます。

指定できる外線は、次のとおりです。

- 外線グループ内の空いている外線＜外線グループ捕捉＞
- 指定した外線＜指定外線捕捉＞

外線グループや特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線グループ内の空き外線を使うかけかた

- 外線グループ捕捉 -

1 （8）（1）（4）を押す

814は、外線グループ捕捉の特番（初期値）です。

2 外線グループ番号を押す

外線グループ内の空き外線を選びます。

外線グループ番号は、販売店にご確認ください。

- NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合　：1〜3桁
- MBU-S1制御ユニットの場合　　　：1桁

3 電話番号を押す

4 （内線）を押す

5 相手が出たら、通話する

■ 指定した外線を使うかけかた - 指定外線捕捉 -

1 (8ヤャTUV)(1アァ)(5ナJKL)を押す

815は、指定外線捕捉の特番（初期値）です。

2 外線番号を押す

外線番号とは、システムに収容されている回線に、工事段階で割り振られた番号のことです。
外線番号が1桁のときは、頭に“0”を付けてください。
例：外線番号1の場合
・NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合：001と押す
・MBU-S1制御ユニットの場合　　　：01と押す

3 電話番号を押す

4 (内線)を押す

5 相手が出たら、通話する

短縮番号を使ってかける

短縮ダイヤル発信

あらかじめ登録されている短縮番号を利用して電話をかけることができます。
短縮番号の登録内容については、システム管理者に確認してください。

■ かけかた

1 (8ヤャTUV)(1アァ)(0ワ゛゜)を押す

810は、共通・個別短縮ダイヤル発信の特番（初期値）です。グループ短縮ダイヤル発信の場合は811（初期値）を押します。

2 短縮番号を押す

3 (内線)を押す

内線ボタンが緑点滅します。

4 相手が出たら、通話する

短縮番号で発信できない

ご使用の電話機では、短縮番号の利用を規制されていることが考えられます。システム管理者の方に確認してください。

よく短縮番号を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに共通・個別短縮ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

マルチラインデジタルコードレス電話機（PHS）からは、共通短縮ダイヤルおよび個別短縮ダイヤルを登録できません。共通短縮ダイヤルおよび個別短縮ダイヤルの登録は、デジタル多機能電話機から行ってください。なお、共通短縮ダイヤルの登録は、システム管理者のデジタル多機能電話機からのみ行えます。

内線に電話をかける

内線を呼び出す

内線相互接続

内線に電話をかけることができます。

■ かけかた

1 内線番号を押す

2 (内線)を押す

呼出 120

3 相手が出たら、通話する

通話 STA120

相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す

リセットコール／ステップコール

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに、ほかの人を呼び出し直すことができます。

リセットコールとステップコールは、内線呼出中だけ利用できます。相手が出たあとでかけ直すときは、電話をいったん切ってください。

■ 別の内線番号を呼び出すとき - リセットコール -

リセットコールをするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま別の内線番号を押して、かけ直すことができます。

1 内線を呼出中

呼出 120

2 相手が出ない、または話中音が聞こえる

3 別の内線番号を押す

呼出 130

4 相手が出たら、通話する

■ 同じ内線グループ内の内線を呼び出すとき - ステップコール -

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線にかけても相手が出ないとき、相手と同じ内線グループ内の内線にかけ直します。

1 内線を呼出中

呼出 120

2 (8)(0)(7)を押す

807は、ステップコールの特番（初期値）です。
最初に呼び出していた相手と同じ内線グループの人を呼び出します。

呼出 121

3 相手が出たら、通話する

内線グループってなに？

内線グループとは、電話機を部署ごとなどで分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線を呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

ステップコールをよく利用する方へ

電話機のファンクションボタンにステップコールボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

ほかの部署にかける

内線代表呼出／内線代理着信

社内の電話機を、部署単位などでグループ分けできます。その部署に対し、次の2通りの方法で電話をかけることができます。

- 部署の代表番号にかける（内線代表呼出）
  内線番号とは別に、部署全体の内線番号（代表番号）を決めておくことができます。その代表番号を押すと、部署内の空いている電話機を呼び出します。
- 部署内の誰かの内線番号にかけ、相手が通話中のとき、ほかの内線を呼び出す（内線代理着信）
  かけたい部署に所属する誰かの内線番号にかけ、その人が通話中の場合は、部署内の空いている電話機を呼び出します。

■ 部署の代表番号にかける - 内線代表呼出 -

内線代表呼出をするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 内線代表番号を押す

2 (内線)を押す

呼出	140

3 相手が出たら、通話する

内線代表呼出で着信する電話機

内線代表呼出で着信する際の着信順には、パイロット方式と簡易UCD方式の2種類があります。

- パイロット方式：
  常に着信順が１番目に設定されている電話機に着信する
- 簡易UCD方式：
  前回呼ばれた電話機の次の順番に設定されている電話機に着信する

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

■ 相手が話中のときのかけかた、別の内線を呼び出す - 内線代理着信 -

内線代理着信をするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 内線番号を押す

2 (内線)を押す

3 電話をかけた相手が通話中のとき、自動的に他の内線を呼び出す

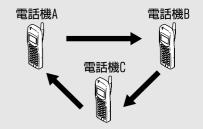
4 相手が出たら、通話する

電話を受けた相手の内線番号が表示されます。

通話	STA151

内線代理着信で着信する電話機

内線代理着信で着信する際の着信方式には、次の2種類があります。

- 話中時の転送先が円を描いている場合
  電話機A→電話機B→電話機C→電話機Aというように、順次転送されます。
  もし、全ての電話機が話中の場合には、電話をかけてきた相手に話中音を流します。

- 話中時の転送先が１台の電話機に集中している場合
  どの電話機にかけても、通話中の場合は、決まった電話機に転送されます。

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

電話を受ける

電波の届かない所にいたり、電源を切っているときに着信があった場合は

工事段階の設定により、次のいずれかの方法で対応することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

- ボイスメールの自分のメールボックスに転送して、メッセージを入れてもらう
- 外線を使用して、マルチラインデジタルコードレス電話機のPHS公衆電話番号で呼び出す

発信／応答ボタンを使って受ける

外線応答

外線から着信中に発信／応答ボタンを押すと、電話に応答できます。

■ 受けかた

1 外線から着信中

発信／応答ボタンが速く緑点滅します。

2 (☎)を押す

発信／応答ボタンが緑点滅します。

```
TRK001 00:00:02
応答
```

3 相手と通話する

内線からの呼出を受ける

内線応答

■ 受けかた

1 内線から着信中

内線ボタンが速く緑点滅します。

```
着信        120
```

2 (内線)を押す

内線ボタンが緑点滅します。

```
通話     STA120
```

3 相手と通話する

代理で電話を受ける

代理応答の機能には、次のような種類があります。また、機能ごとに、代理応答できる着信とできない着信があります。

○：代理応答可　×：代理応答不可

代理応答の機能名	代理応答の対象	着信の種類			
		外線一般着信	外線個別着信	内線着信	ドアホン着信
指定内線代理応答	指定した内線	○	○	○	○
内線指定呼代理応答	自分が所属する代理応答グループ内の内線	×	○	○	○
グループ代理応答	自分が所属する代理応答グループ内の内線	○	○	○	○
グループ指定代理応答	指定した代理応答グループ内の内線	○	○	○	○
他グループ代理応答	他の代理応答グループの内線	○	○	○	○

ほかの人への電話を代わりに受ける

指定内線代理応答

ほかの人への着信に、手元の電話機から内線番号を指定して、代理応答することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 ほかの内線に着信中

2 (8)(2)(9)を押す

829は、指定内線代理応答の特番（初期値）です。

3 着信先の内線番号を押す

4 (内線)を押す
内線ボタンが緑点滅します。

代理応答　STA130

5 相手と通話する

通話　　　STA120

同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける
内線指定呼代理応答／グループ代理応答

自分が所属する代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。

代理応答グループってなに？
代理応答グループは、代理応答を行う電話機をグループ化したものです。内線グループとは異なります。グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線一般着信以外の着信への代理応答のしかた
- 内線指定呼代理応答 -

1 ほかの内線に着信中

2 (8)(2)(5)を押す
825は、内線指定呼代理応答の特番（初期値）です。

3 (内線)を押す
内線ボタンが緑点滅します。

代理応答　STA130

4 相手と通話する

通話　　　STA120

■ 外線一般着信を含めた着信への代理応答のしかた
- グループ代理応答 -

1 ほかの内線に着信中

2 (8)(2)(7)を押す
827は、グループ代理応答の特番（初期値）です。

3 (内線)を押す
内線ボタンが緑点滅します。

代理応答　STA130

4 相手と通話する

通話　　　STA120

よくグループ代理応答を利用する方へ
電話機のファンクションボタンにグループ代理応答ボタンを割り付けておくと、内線ボタンを押したあと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける
グループ指定代理応答／他グループ代理応答

ほかの代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。代理応答グループが複数あるときは、その代理応答グループ番号を指定して応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 代理応答グループ番号を指定する受けかた
- グループ指定代理応答 -

1 ほかの代理応答グループの内線に着信中

2 (8)(2)(6)を押す
826は、グループ指定代理応答の特番（初期値）です。

3 着信先の代理応答グループ番号を押す

4 （内線）を押す

内線ボタンが緑点滅します。

代理応答　STA130

5 相手と通話する

通話　　　STA120

よく代理応答を利用する方へ

電話機のファンクションボタンにグループ指定代理応答ボタンを割り付けておくと、内線ボタンを押したあと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

■ 代理応答グループ番号を指定しない受けかた

- 他グループ代理応答 -

1 ほかの代理応答グループの内線に着信中

2 （8）（2）（8）を押す

828は、他グループ代理応答の特番（初期値）です。

3 （内線）を押す

内線ボタンが緑点滅します。

代理応答　STA203

4 相手と通話する

通話　　　STA120

よく代理応答を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに他グループ代理応答ボタンを割り付けておくと、内線ボタンを押したあと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

電話を保留する・取り次ぐ

外線との通話を保留する

共通保留

通話中に相手を少し待たせるとき、保留音を流して通話を保留することができます。

■ 保留のしかた

1 外線と通話中

2 （保留）を押す

発信／応答ボタンが緑点滅します。

TRK001 保留

これで、通話が保留できました。

このあと、ほかの人へ転送するときは、「外線との通話をほかの人に取り次ぐ」（⇒次ページ）を参照してください。

また、通話を切るときは、切／電源ボタンを押します。

保留ボタンを押してから、誤って切／電源ボタンを押したときには、約10秒後、表示器に“保留リコール”が表示され、保留警報音が鳴ります。

■ 通話を再開するとき

1 外線を保留中

2 （☎）を押す

TRK001　00:00:02 応答

3 相手と通話する

自分だけが応答できるように保留する
個別保留

外線通話を保留にするとき、自分だけが通話を再開できるように保留することができます。

「ファンクションボタンの設定」により個別保留ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

■ 保留のしかた

1 外線と通話中

2 (3)(個別保留ボタン)を押す

あらかじめ、ファンクションボタンに割り付けられている個別保留ボタンを押します(本手順では、ファンクションボタン3に個別保留ボタンが割り付けられている場合)。

```
TRK001
保留
```

これで、通話が個別保留できました。

個別保留ボタンを押してから、誤って切/電源ボタンを押したときには、約10秒後、表示器に“保留ﾘｺｰﾙ”が表示され、保留警報音が鳴ります。

いつも個別保留にしたい

工事段階の設定で保留ボタンを個別保留ボタンに変更することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 通話を再開するとき

1 外線を個別保留中

発信/応答ボタンが緑点滅しています。

2 (☎)を押す

```
TRK001 00:00:02
応答
```

3 相手と通話する

外線との通話をほかの人に取り次ぐ
自動保留転送/内線グループ保留/パーク保留

外線との通話をほかの人に取り次ぐことができます。
電話を取り次ぐには、次の3通りの方法があります。

- 自動保留転送 :内線通話後、外線と取り次ぎ先の通話を自動でつなぐとき
- 内線グループ保留 :同じ内線グループ内で外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が1つだけのとき
- パーク保留 :外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が複数あるとき

■ 保留後に自動で転送する - 自動保留転送 -

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

発信/応答ボタンが緑点滅します。

```
保留
```

3 取り次ぎたい相手の内線番号を押す

```
呼出          120
```

4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える

```
通話       STA120
```

5 (フック)を押す

■ 自動保留転送の受けかた

1 内線通話のあと、そのまま待つ

2 相手がフックボタンを押すと、自動的に外線とつながる

3 外線の相手と通話する

フックボタンを押さずに取り次ぎたい

電話を取り次ぐ人が、切/電源ボタンを押すだけで外線がつながるように、工事段階で設定することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

マルチラインデジタルコードレス電話機(PHS)を使う

■ 内線グループ保留のしかた - 内線グループ保留 -

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線通話を内線グループ保留すると、内線グループ内の電話機から、特番を押して応答することができます。

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

発信／応答ボタンが緑点滅します。

```
 TRK001
保留
```

3 (8)(3)(3)を押す

833は、内線グループ保留登録の特番（初期値）です。

```
 TRK001
GROUP保留
```

これで、内線グループ保留ができました。

このあと、ほかの人へ転送することができます。

■ 内線グループ保留の受けかた

1 (8)(3)(4)を押す

834は、内線グループ保留応答の特番（初期値）です。

2 (内線)を押す

内線ボタンが緑点滅します。

3 相手と通話する

■ パーク保留のしかた - パーク保留 -

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

3 (8)(3)(1)を押す

831は、パーク保留登録の特番（初期値）です。

```
ﾊﾟｰｸ 保留
  ﾊﾟｰｸ No.ﾀﾞｲﾔﾙ
```

4 パーク番号を押す

パーク番号は、01から64のうち、いずれかを押してください。

```
 TRK001  ﾊﾟｰｸ 01
保留
```

これで、パーク保留ができました。

ほかの人に取り次ぐときは、上記手順4で押したパーク番号を伝えます。

パーク保留中のボタン表示

パーク保留ボタンがあると、次のようにランプ表示できます。
- パーク保留した電話機：緑点滅
- ほかの電話機　　　　：赤点滅

■ パーク保留の受けかた

1 (8)(3)(2)を押す

832は、パーク保留応答の特番（初期値）です。

2 パーク番号を押す

パーク保留するときに押したパーク番号を押します。

3 (内線)を押す

4 相手と通話する

よくパーク保留を利用する方へ

電話機のファンクションボタンにパーク保留ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

着信音だけで電話を取り次ぐ

呼出状態転送

外線からの電話を保留にしたあと、内線を呼び出し、相手が出る前に電話を切って取り次ぎます。こうすると、取り次ぎ先で改めて着信音が鳴り、直接かかってきた電話のように応答できます。

転送ボタンを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 転送のしかた

1 外線と通話中

2 （保留）を押す

発信／応答ボタンが緑点滅します。

```
 TRK001
保留
```

3 取り次ぎたい相手の内線番号を押す

```
 TRK001
呼出          120
```

4 相手が出る前に（4）（転送ボタン）を押す

あらかじめ、ファンクションボタンに割り付けられている転送ボタンを押します（本手順では、ファンクションボタン4に転送ボタンが割り付けられている場合）。

これで、転送できました。

■ 受けかた

1 着信音が鳴る

```
 TRK001
転送 <<<  STA100
```

2 （☎）を押す

3 外線の相手と通話する

取り次ぎ先で通話終了後、自分に戻るようにする

折り返し転送

ほかの人に取り次いだ外線通話が終わったら自分に戻して欲しいとき、その通話が終わると同時に自分の電話に戻るようにすることができます。こうすると、電話を取り次いだあと、そのまま待っているだけで、もう一度話すことができます。

「ファンクションボタンの設定」により折り返し転送ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒ P.6-15）を参照してください。

■ 折り返し転送の使いかた

1 外線と通話中

2 （保留）を押す

発信／応答ボタンが緑点滅します。

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える

5 （5）（折り返し転送ボタン）を押す

あらかじめ、ファンクションボタンに割り付けられている折り返し転送ボタンを押します（本手順では、ファンクションボタン5に折り返し転送ボタンが割り付けられている場合）。

```
転送待ち  STA120
```

6 取り次ぎ先の相手と外線の相手が通話する

このとき、そのままの状態で待ちます。

7 取り次ぎ先の相手が通話を切ると、外線との通話が戻る

8 外線の相手と通話する

内線通話を保留する

内線保留

外線通話を保留するのと同じように、通話していた相手に保留音を流し、待ってもらうことができます。

■ 保留のしかた

1 内線と通話中

2 (保留)を押す

保留	STA120

これで、内線通話が保留できました。

■ 通話を再開するとき

1 (内線)を押す

2 相手と通話する

内線通話を取り次ぐ

内線の自動保留転送

内線通話をほかの人に取り次ぐことができます。

■ 取り次ぎかた

1 内線と通話中

2 (保留)を押す

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

4 相手が出たら、用件を伝える

5 (フック)を押す

これで、内線通話の取り次ぎができました。

■ 受けかた

1 内線と通話中

2 そのまま待つ

相手がフックボタンを押すと、保留になっていた内線と通話がつながります。

フックボタンを押さずに取り次ぎたい

電話を取り次ぐ人が、切／電源ボタンを押すだけで内線がつながるように、工事段階で設定できます。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話に出られないとき

自分宛ての電話を全て転送する

不在着信転送／着信転送

会議などで電話に出られないときにかかってきた電話を、全てほかの電話機に転送することができます。
転送には、次の2通りの方法があります。
- 不在着信転送
  通話を転送中、転送元と転送先の両方で着信音が鳴り、どちらででも応答することができます。
- 着信転送
  通話を転送中、転送先の電話機だけ着信音が鳴り、応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 転送元と転送先で着信音を鳴らす場合

- 不在着信転送 -

1 9 0 5を押す
905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

2 1を押す

3 転送先の内線番号を押す

4 内線を押す

```
不在転送 設定
不在転送  STA120
```

5 電源を押す

これで、不在着信転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 不在着信転送を設定中

```
不在転送  STA120
```

2 9 0 5を押す
905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 0を押す

4 内線を押す

```
不在転送 設定
         解除
```

5 電源を押す

これで、不在着信転送が解除できました。

よく不在着信転送を利用する方へ
電話機のファンクションボタンに不在着信転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると
転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

■ 転送先だけで着信音を鳴らす場合

- 着信転送 -

1 9 0 1 を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

2 1 を押す

3 転送先の番号を押す

4 内線 を押す

```
着信転送 設定
着信転送  STA120
```

5 電源 を押す

これで、着信転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信転送を設定中

```
着信転送  STA120
```

2 9 0 1 を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 0 を押す

4 内線 を押す

```
着信転送 設定
           解除
```

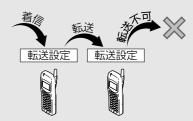
5 電源 を押す

これで、着信転送が解除できました。

よく着信転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

自分の電話機（転送元）　転送先

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、着信転送を次のように設定します。

［901］→［1］→［810］→［短縮番号］→ 内線ボタン → 切／電源ボタン

※［810］は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中にかかってきた電話を転送する

話中転送

通話中にかかってきた電話を全て、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 9 0 2 を押す

902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

2 1 を押す

3 転送先の番号を押す

4 内線 を押す

```
話中転送 設定
話中転送  STA120
```

5 切/電源を押す

これで、話中転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 話中転送を設定中

話中転送　STA120

2 9 0 2を押す

902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 0を押す

4 内線を押す

話中転送　設定 解除

5 切/電源を押す

これで、話中転送が解除できました。

よく話中転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中転送を次のように設定します。
[902] → [1] → [810] → [短縮番号] → 内線ボタン → 切／電源ボタン
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

電話に出られないときに転送する

不応答転送

着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合に、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 9 0 3を押す

903は、不応答転送の設定と解除の特番(初期値)です。

2 1を押す

3 転送先の番号を押す

4 内線を押す

不応答転送　設定 不応答転　STA120

5 切/電源を押す

これで、不応答転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 不応答転送を設定中

不応答転　STA120

2 9 0 3を押す

903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 0を押す

4 内線を押す

不応答転送　設定 解除

5 電源を押す

これで、不応答転送が解除できました。

よく不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、不応答転送を次のように設定します。

[903] → [1] → [810] → [短縮番号] → 内線ボタン → 切／電源ボタン

※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中や電話に出られないときに転送する

話中／不応答転送

通話中にかかってきた電話や、着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 9 0 4を押す

904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

2 1を押す

3 転送先の番号を押す

4 内線を押す

話中/不応答　設定 転-話/不　STA120

5 電源を押す

これで、話中／不応答転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 話中／不応答転送を設定中

転-話/不　STA120

2 9 0 4を押す

904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 0を押す

4 内線を押す

話中/不応答　設定 解除

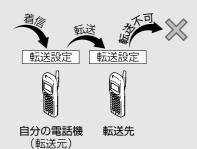
5 を押す

これで、話中／不応答転送が解除できました。

よく話中／不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中／不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中／不応答転送を次のように設定します。
[904] → [1] → [810] → [短縮番号] → 内線ボタン → 切／電源ボタン

移動先から転送の設定をする

フォローミー

転送の設定は、通常は転送元の電話機で行います。この転送の設定を、転送先の電話機から行うことができます。充電などで一時的に異なる電話機を使うときなど、予備の電話機から転送設定ができます。また、会議室などに移動している際、自分のデスクへの電話を会議室の電話機に転送したいときなどにも使用します。フォローミーは、同時に複数の設定をすることができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 9 0 7を押す

907は、フォローミーの設定と解除の特番(初期値)です。

2 1を押す

3 転送元の内線番号を押す

4 内線を押す

```
ﾌｫﾛｰﾐｰ 設定
ﾌｫﾛｰﾐｰ &lt;&lt; STA120
```

5 電源を押す

これで、フォローミーが設定できました。

マルチラインデジタルコードレス電話機（ＰＨＳ）を使う

■ 解除のしかた（オールクリア）

1 フォローミーを設定中

2 9 0 7を押す

907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。

3 0を押す

4 0を押す

5 内線を押す

フォローミー 設定
解除

6 電源を押す

これで、フォローミーが解除できました。

■ 解除のしかた（個別解除）

1 フォローミーを設定中

2 9 0 7を押す

907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。

3 0を押す

4 解除したい内線番号を押す

5 内線を押す

フォローミー 設定
解除

6 電源を押す

これで、転送元の解除ができました。

よくフォローミーを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにフォローミーボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

かかってくる電話を一時的に拒否する

着信拒否

受けたくない電話に着信拒否音（“プププ…”という音）を返し、着信を拒否することができます。電話を受けるかどうかは、次の着信の種類で指定します。

- 外線からの着信
- 内線からの着信
- 外線と内線からの着信
- ほかの電話機からの転送

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 9 0 8を押す

908は、着信拒否の設定と解除の特番（初期値）です。

2 設定したい着信拒否の番号を押す

1：外線からの着信を拒否
2：内線からの着信を拒否
3：外線と内線からの着信を拒否
4：着信転送などの転送先としての設定を拒否

3 内線を押す

着信拒否 外線

1を押した場合

4 電源を押す

これで、着信拒否が設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信拒否を設定中

着信拒否　外線

2 9 0 8 を押す

908は、着信拒否の設定と解除の特番（初期値）です。

3 0 を押す

4 内線 を押す

着信拒否　設定 解除

5 電源 を押す

これで、着信拒否が解除できました。

よく着信拒否を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信拒否ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す

バイパスコール

緊急で電話をかけたい相手が、不在着信転送や着信拒否を設定していてつながらないとき、特別に呼び出すことができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 内線番号を押す

2 内線 を押す

相手が不在転送や着信拒否を設定していると、その内容が表示されます。

着信拒否　STA120

3 8 0 1 を押す

801は、バイパスコールの特番（初期値）です。

4 通常の呼び出しに変わる

呼出　　120

5 相手が出たら、通話する

よくバイパスコールを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにバイパスコールボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

通話中の相手を緊急で呼び出す

話中呼出

緊急で電話をかけたい相手が通話中のとき、特別に呼び出すことができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

話中呼出でかけられる相手先は、デジタル多機能電話機だけです。マルチラインデジタルコードレス電話機およびシングルゾーンデジタルコードレス電話機での通話に対しては、話中呼出できません。

■ かけかた

1 内線番号を押す

2 （内線）を押す

相手が話中のときは、話中音が聞こえ、その内容が表示されます。

話中　　　STA120

3 （8）（0）（3）を押す

803は、話中呼出の特番（初期値）です。

呼出　　　　120

4 相手の電話機のスピーカから着信音が鳴る

5 相手が出たら、通話する

よく話中呼出を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中呼出ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

■ 受けかた

「デジタル多機能電話機を使う」の「通話中の相手を緊急で呼び出す」（⇒P. 1-45）を参照してください。

知っておくと便利な使いかた

外線がふさがっているとき

外線予約／外線コールバック

使いたい外線がふさがっていて、電話がかけられないとき、外線が空いたらすぐ使えるように予約することができます。
次の2通りの方法があります。
- 外線予約：
  外線が空くまで待ち、外線が空きしだい電話がかけられるようにする
- 外線コールバック：
  いったん電話を切り、外線が空いたら知らせが入るようにする

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 （発信／応答）を押す

話中音が聞こえます。

使用中

2 （8）（0）（4）を押す

804は、外線・内線予約の特番（初期値）です。

外線予約

これで、外線予約が設定できました。

そのままの状態で待っていると、外線が空きしだい、電話をかけることができます。

電話をいったん切って待つとき（外線コールバック）は、次の手順3に進みます。

3 （電源）を押す

これで、外線コールバックが設定できました。

外線が空くと呼返音が鳴るので、発信／応答ボタンを押すと、電話をかけることができます。

■ 解除のしかた

外線予約を解除するときは、いったん切／電源ボタンを押します。

1 外線コールバックを設定中

外線予約

2 (8ヤ TUV)(0ワ)(5ナ JKL)を押す

805は、外線・内線予約の特番（初期値）です。

3 (内線)を押す

予約解除

4 (電源)を押す

これで、外線コールバックが解除できました。

よく外線予約／外線コールバックを利用する方へ

電話機のファンクションボタンに予約ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

電話機のランプで伝言があることを知らせる

伝言（メッセージウェイティング）

用件を伝えたい相手が通話中や不在などのとき、戻りしだい連絡をもらえるように、ランプの表示で知らせることができます。

伝言（メッセージウェイティング）は、相手がデジタル多機能電話機またはメッセージウェイティングランプ付きの電話機の場合だけ利用できます。マルチラインデジタルコードレス電話機およびシングルゾーンデジタルコードレス電話機の場合には、着信／メッセージ／充電ランプに表示されます。

■ 設定のしかた

1 内線番号を押す

2 (内線)を押す

相手が通話中、または誰も出ない状態です。

呼出　　　　　120

3 (9ラ WXYZ)(0ワ)(9ラ WXYZ)を押す

909は、伝言の特番（初期値）です。
着信／メッセージ／充電ランプが赤点滅します。

ﾒｯｾｰｼﾞ>>　STA120

4 相手の電話機の大型ランプまたはメッセージウェイティングランプが点滅する

相手がマルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信／メッセージ／充電ランプがゆっくり赤点滅します。

5 (電源)を押す

ﾒｯｾｰｼﾞ>>　STA120

これで、相手に伝言があることを知らせることができました。

別の人にも伝言を設定したい

上記の操作をすると、複数の相手に伝言を設定できます。ただし、設定側の電話機の表示器には最初に設定した相手だけが表示されます。

■ 受けかた

1 **伝言が設定されている状態**

着信／メッセージ／充電ランプがゆっくり赤点滅しています。

2 **909を押す**

909は、伝言の特番（初期値）です。

3 **内線を押す**

伝言を設定した相手を呼び出します。

呼出　　　　　100

4 **相手が出たら、通話する**

よく伝言を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに伝言ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

■ 解除のしかた

1 **伝言を設定中**

相手の着信／メッセージ／充電ランプが赤点滅しています。

2 **911を押す**

911は、伝言解除の特番（初期値）です。

3 **伝言を解除したい内線番号を押す**

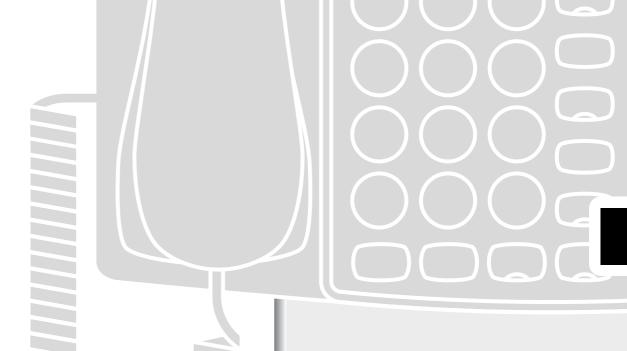
4 **内線を押す**

ﾒｯｾｰｼﾞｷｬﾝｾﾙ　120

5 **切/電源ボタンを押す**

これで、伝言が解除できました。

全ての伝言設定を1度に解除したい

上記手順2で910（伝言全解除の特番の初期値）を押してから切／電源ボタンを押します。

一般電話機を使う

一般電話機を使うときの注意

一般電話機をご使用の前に

ここでは、本システムに市販の一般電話機を接続して使うときの操作を説明しています。
一般電話機独自の機能やお手入れのしかたなどについては、一般電話機に添付の取扱説明書を参照してください。
一般電話機独自の機能が、本システム内で利用できるかどうかについては、販売店にご確認ください。

お手持ちの一般電話機を本システムに接続する前に、必ず販売店にご相談ください。機器によっては、コネクタの形状は同じに見えても、そのまま接続すると、本システムや機器が故障する場合があります。

特番について

一般電話機では、機能ボタンやファンクションボタンがないため、本システムのいろいろな操作は、全て特番を使って利用します。各操作の特番は、本文中に記載されています。

特番は、工事段階で変更されていることがあります。記載されている特番を押しても操作できないときは、システム管理者または販売店に確認してください。

保留のしかた

一般電話機で通話を保留するには、デジタル多機能電話機の保留ボタンの代わりに、「フッキング」という操作を行います。
フッキングとは、電話機のフックボタンを押してすぐ放す操作のことです。

フックボタンを長く押しすぎると、電話が切れてしまうことがあります。フックボタンは、ポンと押して、すぐ放してください。

フッキングがうまくいかない

フッキングしても保留できない、または電話が切れてしまうことが多いときは、工事段階での調整が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線に電話をかける

受話器を上げてかける

外線自動選択／空外線自動選択

一般電話機では、次の2通りの方法で電話をかけることができます。
- 自宅の電話機と同じように、受話器を上げて、そのまま電話番号を押してかける
- 受話器を上げ、0を押してから、電話番号を押してかける

■ ふつうにかける - 外線自動選択 -

外線自動選択を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる
"ツー"という音が聞こえます。

2 電話番号を押す

3 相手が出たら、通話する

■ 0を押してからかける - 空外線自動選択 -

1 受話器を上げる

2 ⓪を押す
0は、外線発信番号です。
"ツー"という音が聞こえます。

3 電話番号を押す

4 相手が出たら、通話する

0を押してもかけられない

通常は0を使用しますが、別の番号に変更されることもあります。工事段階で変更されているかどうかを、販売店にご確認ください。

特番を使ってかける

外線グループ捕捉／指定外線捕捉

あらかじめ設定された特番を押すと、使う外線を選んで電話をかけることができます。指定できる外線は、次のとおりです。
- 外線グループ内の空いている外線＜外線グループ捕捉＞
- 指定した外線＜指定外線捕捉＞

特番や外線グループを使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線グループ内の空き外線を使うかけかた - 外線グループ捕捉 -

1 受話器を上げる

2 ⑧①④を押す
814は、外線グループ捕捉の特番（初期値）です。

3 外線グループ番号を押す
外線グループ内の空き外線を選びます。
外線グループ番号は、販売店にご確認ください。
- NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合：1～3桁
- MBU-S1制御ユニットの場合　：1桁

4 電話番号を押す

5 相手が出たら、通話する

■ 指定した外線を使うかけかた - 指定外線捕捉 -

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑤を押す
815は、指定外線捕捉の特番（初期値）です。

3 外線番号を押す
外線番号とは、システムに収容されている回線に、工事段階で割り振られた番号のことです。
外線番号が1桁のときは、頭に"0"を付けてください。
例：外線番号1の場合
- NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合：001と押す
- MBU-S1制御ユニットの場合　：01と押す

4 電話番号を押す

5 相手が出たら、通話する

最後にかけた相手にかけ直す
再ダイヤル

電話をかけた相手にもう１度かけたいとき、特番操作で電話をかけ直すことができます。
記憶できる電話番号は、最大24桁です。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 ⑧①②を押す

812は、再ダイヤルの特番（初期値）です。

3 相手が出たら、通話する

■ 消去のしかた

記憶されている発信履歴の番号を消去します。

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑦を押す

817は再ダイヤル消去の特番（初期値）です。

3 受話器を戻す

これで、再ダイヤルの番号が消去できました。

短縮番号を使ってかける
短縮ダイヤル発信

あらかじめ登録されている短縮番号を利用して電話をかけることができます。
短縮番号の登録内容については、システム管理者に確認してください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 ⑧①⓪を押す

810は、共通・個別短縮ダイヤル発信の特番（初期値）です。グループ短縮ダイヤル発信の場合は811（初期値）を押します。

3 短縮番号を押す

4 相手が出たら、通話する

短縮番号で発信できない

ご使用の電話機では、短縮番号の利用を規制されていることが考えられます。システム管理者の方に確認してください。

一般電話機からは、共通短縮ダイヤルおよび個別短縮ダイヤルを登録できません。共通短縮ダイヤルの登録は、システム管理者のデジタル多機能電話機からのみ行えます。個別短縮ダイヤルの登録は、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線に電話をかける

内線を呼び出す

内線相互接続

内線に電話をかけることができます。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

3 相手が出たら、通話する

相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す

内線予約／内線コールバック

内線にかけても相手が通話中のとき、相手の電話が終わりしだい呼び出す、または知らせが入るようにすることができます。

- 内線予約
  相手の電話が終わるまで、受話器を持ったまま待ち、電話が終わりしだい呼び出すようにする
- 内線コールバック
  いったん電話を切り、相手の電話が終わったら知らせが入るようにする

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 内線を呼出

2 話中音が聞こえる

3 ⑧⓪④を押す
804は、外線・内線予約の特番（初期値）です。

これで、内線予約が設定できました。
そのままの状態で待っていると、相手の電話が終わりしだい、相手を呼び出します。
電話をいったん切って待つとき（内線コールバック）は、次の手順4に進みます。

4 受話器を戻す

これで、内線コールバックを設定できました。
相手の通話が終わると、呼返音が鳴るので、受話器を上げると相手を呼び出します。

■ 解除のしかた

受話器を上げたまま待っている場合（内線予約中）は、いったん受話器を戻します。

1 内線コールバックを設定中

2 受話器を上げる

3 ⑧⓪⑤を押す
805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。

4 受話器を戻す

これで、内線コールバックが解除できました。

相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す

リセットコール／ステップコール

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに、ほかの人を呼び出し直すことができます。

リセットコールとステップコールは、内線呼出中だけ利用できます。相手が出たあとでかけ直すときは、電話をいったん切ってください。

■ 別の内線番号を押してかけ直す

－ リセットコール －

リセットコールを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま別の内線番号を押して、かけ直します。

1 内線を呼出中

2 相手が出ない、または話中音が聞こえる

3 別の内線番号を押す

4 相手が出たら、通話する

■ 同じ内線グループ内の内線にかけ直す

- ステップコール -

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線にかけても相手が出ないとき、特番を押すと、相手と同じ内線グループ内の内線にかけ直します。

1 内線を呼出中

2 ⑧⓪⑦を押す

807は、ステップコールの特番（初期値）です。
最初に呼び出していた相手と同じ内線グループの人を呼び出します。

3 相手が出たら、通話する

内線グループってなに？

内線グループとは、いくつかの電話機を部署ごとなどで分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線を呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話機の周囲にいる人に呼びかける

信号／音声呼出切替

内線にかけても相手が出ないとき、デジタル多機能電話機のスピーカから音声を出して、周囲の人にも声をかけます。音声に切り替えたあと、元の信号音での呼出に戻すこともできます。

■ かけかた

1 内線を呼出中

2 ⑧⓪⑥を押す

806は、信号／音声呼出切替の特番（初期値）です。

3 着信音が切り替わる

信号音で呼び出していた場合は音声に、音声で呼び出していた場合は信号音に切り替わります。このあとは、特番を押すたびに着信音が切り替わります。

ほかの部署にかける

内線代表呼出／内線代理着信

社内の電話機を、部署単位などでグループ分けできます。その部署に対し、次の2通りの方法で電話をかけることができます。

- 部署の代表番号にかける（内線代表呼出）
  内線番号とは別に、部署全体の内線番号（代表番号）を決めておくことができます。その代表番号を押すと、部署内の空いている電話機を呼び出します。
- 部署内の誰かの内線番号にかけ、相手が通話中のとき、ほかの内線を呼び出す（内線代理着信）
  かけたい部署に所属する誰かの内線番号にかけ、その人が通話中の場合は、部署内の空いている電話機を呼び出します。

■ 部署の代表番号にかける **- 内線代表呼出 -**

内線代表呼出をするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

2 内線代表番号を押す

3 相手が出たら、通話する

内線代表呼出で着信する電話機

内線代表呼出で着信する際の着信順には、パイロット方式と簡易UCD方式の2種類があります。

- パイロット方式：
  常に着信順が１番目に設定されている電話機に着信する
- 簡易UCD方式：
  前回着信した電話機の次の順番に設定されている電話機に着信する

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

■ 電話をかけた相手が通話中のとき

- 内線代理着信 -

内線代理着信をするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

3 電話をかけた相手が通話中のとき、自動で他の内線を呼び出す

4 相手が出たら、通話する

内線代理着信で着信する電話機

内線代理着信で着信する際の着信方式には、次の2種類があります。

- 話中時の転送先が円を描いている場合
  電話機A→電話機B→電話機C→電話機Aというように、順次転送されます。
  もし、全ての電話機が話中の場合には、電話をかけてきた相手に話中音を流します。

- 話中時の転送先が１台の電話機に集中している場合
  どの電話機にかけても、通話中の場合には決まった電話機に転送されます。

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

受話器を上げるだけで特定の内線にかける

内線ホットライン

受話器を上げるだけで、特定の内線に電話をかけることができます。会社の受付やホテルのロビーなどで利用すると便利です。

内線ホットラインで呼び出す相手は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

あらかじめ決められた相手を呼び出します。

2 相手が出たら、通話する

内線ホットラインの電話機で、外線にかけたい

工事段階の設定で「ホットラインタイマ」を設定する必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話を受ける

受話器を上げるだけで受ける

着信自動応答

電話がかかってきたとき、受話器を上げるだけで応答します。

■ 受けかた

1 外線から着信中（着信音が鳴動）

2 受話器を上げる

3 相手と通話する

特番を使って受ける

分散応答

電話がかかってきたとき、受話器を上げて特番を押すと応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 外線から着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧④③を押す
843は、分散応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

着信音が鳴動している場合は
手順2の操作だけで応答することができます。

内線からの呼出を受ける

内線応答

内線からの呼出に応答します。

■ 受けかた

1 内線から着信中

2 受話器を上げる

3 相手と通話する

代理で電話を受ける

代理応答の機能には、次のような種類があります。また、機能ごとに、代理応答できる着信とできない着信があります。

○：代理応答可　×：代理応答不可

<table>
<tr><th rowspan="2">代理応答の機能名</th><th rowspan="2">代理応答の対象</th><th colspan="4">着信の種類</th></tr>
<tr><th>外線一般着信</th><th>外線個別着信</th><th>内線着信</th><th>ドアホン着信</th></tr>
<tr><td>指定内線代理応答</td><td>指定した内線</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>内線指定呼代理応答</td><td rowspan="2">自分が所属する代理応答グループ内の内線</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>グループ代理応答</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>グループ指定代理応答</td><td>指定した代理応答グループ内の内線</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>他グループ代理応答</td><td>他の代理応答グループの内線</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

ほかの人への電話を代わりに受ける

指定内線代理応答

ほかの人への着信に、手元の電話機から内線番号を指定して、代理応答することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 ほかの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑨を押す

829は、指定内線代理応答の特番（初期値）です。

4 着信先の内線番号を押す

5 相手と通話する

同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける

内線指定呼代理応答／グループ代理応答

自分が所属する代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。

代理応答グループってなに？

代理応答グループは、代理応答を行う電話機をグループ化したものです。内線グループとは異なります。グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 外線一般着信以外の着信への代理応答のしかた

- 内線指定呼代理応答 -

1 ほかの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑤を押す

825は、内線指定呼代理応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

■ 外線一般着信を含めた着信への代理応答のしかた

- グループ代理応答 -

1 ほかの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑦を押す

827は、グループ代理応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける

グループ指定代理応答／他グループ代理応答

ほかの代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。代理応答グループが複数あるときは、その代理応答グループ番号を指定して応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 代理応答グループ番号を指定する受けかた

- グループ指定代理応答 -

1 ほかの代理応答グループの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑥を押す
826は、グループ指定代理応答の特番（初期値）です。

4 着信先の代理応答グループ番号を押す

5 相手と通話する

■ 代理応答グループ番号を指定しない受けかた

- 他グループ代理応答 -

1 ほかの代理応答グループの内線に着信中

2 受話器を上げる

3 ⑧②⑧を押す
828は、他グループ代理応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

電話を保留する・取り次ぐ

外線との通話を保留する

保留／保留維持

通話中に相手を待たせるとき、保留音を流して通話を保留にすることができます。

■ 保留のしかた - 保留 -

1 外線と通話中

2 フッキングする

これで、通話を保留できました。

フッキングしたあと受話器を戻すと、呼返音が鳴ります。このとき受話器を上げると、保留していた通話を再開できます。呼返音が鳴らないようにしたい場合は、下記の「■ 保留を維持する」の操作をしてください。

■ 通話を再開するとき

1 外線を保留中

2 フッキングする

3 相手と通話する

■ 保留を維持する - 保留維持 -

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 ⑧④⑤を押す
845は、保留維持の特番（初期値）です。

4 受話器を戻す

これで、通話を保留できました。

■ 通話を再開するとき

1 外線を保留中

2 受話器を上げる

3 ⑧④⑥を押す
846は、保留維持応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

外線との通話をほかの人に取り次ぐ

自動保留転送／内線グループ保留／パーク保留

外線との通話をほかの人に取り次ぐことができます。
電話の取り次ぎかたには次の3通りの方法があります。

- 自動保留転送　　：内線通話後、外線と取り次ぎ先の通話を自動でつなぐとき
- 内線グループ保留：同じ内線グループ内で外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が1つだけのとき
- パーク保留　　　：外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が複数あるとき

■ 保留後に自動で取り次ぐ - 自動保留転送 -

外線との通話を取り次ぐとき、内線通話で取り次いで欲しいことを伝えたあと、取り次ぎ先で応答の操作をしなくても、そのまま待っているだけで応答できます。

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 取り次ぎたい相手の内線番号を押す

4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える

5 受話器を戻す

■ 自動保留転送の受けかた

1 内線通話のあと、そのまま待つ

2 自動的に外線とつながる

3 外線の相手と通話する

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 内線グループ保留のしかた - 内線グループ保留 -

外線通話を内線グループ保留すると、内線グループ内の電話機から、特番を押して応答することができます。一般電話機など、外線ボタンがない電話機からでも応答できます。

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 ⑧③③を押す
833は、内線グループ保留登録の特番（初期値）です。

4 受話器を戻す

これで、内線グループ保留ができました。
このあと、ほかの人へ転送することができます。

■ 内線グループ保留の受けかた

1 受話器を上げる

2 ⑧③④を押す
834は、内線グループ保留応答の特番（初期値）です。

3 相手と通話する

■ パーク保留のしかた - パーク保留 -

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 ⑧③①を押す
831は、パーク保留登録の特番（初期値）です。

4 パーク番号を押す
パーク番号は、01から64のうち、いずれかを押してください。

5 受話器を戻す

これで、パーク保留ができました。
ほかの人に取り次ぐときは、上記手順4で押したパーク番号を口頭で伝えます。

■ パーク保留の受けかた

1 受話器を上げる

2 ⑧③②を押す
832は、パーク保留応答の特番（初期値）です。

3 パーク番号を押す
パーク保留するときに押したパーク番号を押します。

4 相手と通話する

着信音だけで電話を取り次ぐ

呼出状態転送

外線からの電話を保留にしたあと、内線を呼び出し、相手が出る前に電話を切って取り次ぎます。こうすると、取り次ぎ先で改めて着信音が鳴り、直接かかってきた電話のように応答できます。

■ 転送のしかた

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

4 相手が出る前に受話器を戻す

これで、転送できました。

■ 受けかた

1 着信音が鳴る

2 受話器を上げる

3 外線の相手と通話する

内線通話を保留する

内線保留

外線通話を保留するのと同じように、通話していた相手に保留音を流し、待ってもらうことができます。

■ 保留のしかた

1 内線と通話中

2 フッキングする

3 受話器を戻す

これで、内線通話が保留できました。

■ 通話を再開するとき

1 受話器を上げる

2 相手と通話する

フッキングしたあと受話器を戻すと、呼返音が鳴ります。このとき受話器を上げると、保留していた通話を再開できます。

内線通話を取り次ぐ

内線の自動保留転送

内線通話をほかの人に取り次ぐことができます。

■ 取り次ぎかた

1 内線と通話中

2 フッキングする

3 取り次ぎ先の内線番号を押す

4 相手が出たら、用件を伝える

5 受話器を戻す

これで、内線通話の取り次ぎができました。

■ 受けかた

1 内線と通話中

2 そのまま待つ
相手が受話器を戻すと、保留になっていた内線と通話がつながります。

席を外すとき・電話に出られないとき

自分宛ての電話を全て転送する

不在着信転送／着信転送

会議などで電話に出られないときにかかってきた電話を、全てほかの電話機に転送することができます。
転送には、次の2通りの方法があります。

・不在着信転送
通話を転送中、転送元と転送先の両方で着信音が鳴り、どちらででも応答することができます。

・着信転送
通話を転送中、転送先の電話機だけ着信音が鳴り、応答できます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 転送元と転送先で着信音を鳴らす場合

- 不在着信転送 -

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪⑤を押す
905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 ①を押す

4 転送先の内線番号を押す

5 受話器を戻す

これで、不在着信転送が設定できました。

一般電話機を使う

■ 解除のしかた

1 不在着信転送を設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪⑤を押す

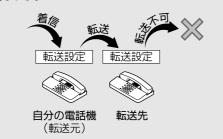
905は、不在着信転送の設定と解除の特番(初期値)です。

4 ⓪を押す

5 受話器を戻す

これで、不在着信転送が解除できました。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

■ 転送先だけで着信音を鳴らす場合

- 着信転送 -

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番(初期値)です。

3 ①を押す

4 転送先の番号を押す

5 受話器を戻す

これで、着信転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信転送を設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番(初期値)です。

4 ⓪を押す

5 受話器を戻す

これで、着信転送が解除できました。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、着信転送を次のように設定します。
受話器を上げる → [901] → [1] → [810] → [短縮番号] → 受話器を戻す
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中にかかってきた電話を転送する

話中転送

通話中にかかってきた電話を全て、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪②を押す
902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 ①を押す

4 転送先の番号を押す

5 受話器を戻す

これで、話中転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 話中転送を設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪②を押す
902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

4 ⓪を押す

5 受話器を戻す

これで、話中転送を解除できました。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中転送を次のように設定します。
受話器を上げる → [902] → [1] → [810] → [短縮番号] → 受話器を戻す
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

電話に出られないときに転送する

不応答転送

着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪③を押す
903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 ①を押す

4 転送先の番号を押す

5 受話器を戻す

これで、不応答転送が設定できました。

■ 解除のしかた

1 不応答転送を設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪③を押す
903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

4 ⓪を押す

5 受話器を戻す

これで、不応答転送が解除できました。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

自分の電話機（転送元）　転送先

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、不応答転送を次のように設定します。
受話器を上げる →［903］→［1］→［810］→［短縮番号］→ 受話器を戻す
※［810］は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中や電話に出られないときに転送する

話中／不応答転送

通話中にかかってきた電話や、着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪④を押す

904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

3 ①を押す

4 転送先の番号を押す

5 受話器を戻す

これで、話中／不応答転送が設定できました。

話中／不応答転送を設定している場合、受話器を上げたときに聞こえるダイヤルトーンが変わります（ツー・ツーと聞こえます）。

■ 解除のしかた

1 話中／不応答転送を設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪④を押す

904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。

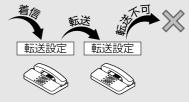
4 ⓪を押す

5 受話器を戻す

これで、話中／不応答転送が解除できました。

転送先の電話機でも転送が設定されていると

転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。

自分の電話機（転送元）　転送先

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中／不応答転送を次のように設定します。
受話器を上げる →［904］→［1］→［810］→［短縮番号］→ 受話器を戻す
※［810］は共通・個別短縮ダイヤル発信特番です。

移動先から転送の設定をする

フォローミー

転送の設定は、通常は転送元の電話機で行います。この転送の設定を、転送先の電話機から行うことができます。例えば、会議室などに移動している際、自分のデスクへの電話を会議室の電話機に転送したいときなどにも使用します。フォローミーは、同時に複数の設定をすることができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑨⓪⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番(初期値)です。

3 ①を押す

4 転送元の内線番号を押す

5 受話器を戻す

これで、フォローミーが設定できました。

■ 解除のしかた（オールクリア）

1 フォローミーを設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番(初期値)です。

4 ⓪を押す

5 ⓪を押す

6 受話器を戻す

これで、フォローミーが解除できました。

■ 解除のしかた（個別解除）

1 フォローミーを設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番(初期値)です。

4 ⓪を押す

5 解除したい内線番号を押す

6 受話器を戻す

これで、転送元の解除ができました。

不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す

バイパスコール

緊急で電話をかけたい相手が、不在着信転送や着信拒否を設定していてつながらないとき、特別に呼び出すことができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す
相手が不在転送や着信拒否を設定していると、話中音などが聞こえます。

3 ⑧⓪①を押す
801は、バイパスコールの特番（初期値）です。

4 通常の呼び出しに変わる

5 相手が出たら、通話する

通話中の相手を緊急で呼び出す
話中呼出／コールウェイティング

緊急で電話をかけたい相手が通話中のとき、特別に呼び出すことができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ かけかた - 話中呼出 -

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す
相手が話中のときは、話中音が聞こえます。

3 ⑧⓪③を押す
803は、話中呼出の特番（初期値）です。

4 相手の電話機のスピーカから着信音が鳴る
相手が一般電話機の場合は、相手の受話器から“ピッ”という音が聞こえます。

5 相手が出たら、通話する

■ 受けかた - コールウェイティング -

1 外線または内線と通話中

2 受話器から“ピッ”という音が聞こえる

3 フッキングする

4 内線の相手と通話する
いままで通話していた外線には保留が流れます。

以降は、フッキングするたびに通話の相手を切り替えることができます。

知っておくと便利な使いかた

使いたい外線がふさがっているとき
外線予約／外線コールバック

使いたい外線がふさがっていて、電話がかけられないとき、外線が空いたらすぐ使えるように予約することができます。
次の2通りの方法があります。
・外線予約：
外線が空くまで、受話器を持ったまま待ち、外線が空きしだい電話がかけられるようにする
・外線コールバック：
いったん電話を切り、外線が空いたら知らせが入るようにする

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⓪を押す
0は、外線発信番号です。
外線がふさがっていると、話中音が聞こえます。

3 ⑧⓪④を押す
804は、外線・内線予約設定の特番（初期値）です。

これで、外線予約が設定できました。
受話器を持ったまま待っていると、外線が空きしだい、電話をかけることができます。

受話器をいったん戻して待つとき（外線コールバック）は、次の手順4に進みます。

4 受話器を戻す

これで、外線コールバックが設定できました。
外線が空くと呼返音が鳴るので、受話器を上げると電話をかけることができます。

■ 解除のしかた

外線予約を解除するときは、いったん受話器を戻します。

1 外線コールバックを設定中

2 受話器を上げる

3 ⑧⓪⑤を押す
805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。

4 受話器を戻す

これで、外線コールバックが解除できました。

一斉呼出をする
内線グループ呼出／内線グループ呼出転送

席を外している人を呼び出したいときなどに、デジタル多機能電話機のスピーカを使って一斉に呼び出すことができます。
外線通話を保留したあと、一斉呼出をして呼び出した相手に電話を取り次ぐこともできます。

■ 内線グループで呼び出す - 内線グループ呼出 -

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑨を押す
819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。

3 グループ番号を押す

4 一斉呼出をする
指定した内線グループ内のデジタル多機能電話機のスピーカから音声が聞こえます。

5 相手が出たら、通話する

内線グループってなに？
内線グループとは、いくつかの電話機を部署ごとなどで分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線を呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 受けかた

1 内線グループを呼出中

2 受話器を上げる

3 ⑧②③を押す
823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。

4 相手と通話する

■ 取り次ぎかた - 内線グループ呼出転送 -

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 ⑧①⑨を押す
819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。

4 グループ番号を押す

5 一斉呼出をする

6 相手が出たら、用件を伝える

7 受話器を戻す

これで、グループ呼出転送ができました。

■ 取り次ぎへの受けかた

1 内線グループを呼出中

2 受話器を上げる

3 ⑧②③を押す
823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。

4 相手と内線で通話する

5 そのまま待つ

6 相手が受話器を戻すと、自動で外線とつながる

7 外線の相手と通話する

電話で会議する

会議通話

1つの通話に複数の人が参加して、同時に通話することができます。会議通話は、内線1人を含めた自由な組み合わせができ、システム全体で最大32人まで利用できます。

ダイヤルインの着信などで、仮想内線を使って通話している場合には、会議通話はできません。

■ 内線の人を会議に参加させる - 内線呼出招集 -

1 外線または内線と通話中

2 フッキングする

3 ⑧⓪②を押す
802は、会議通話の特番（初期値）です。

4 会議に参加させたい人の内線番号を押す

5 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

6 フッキングする

7 フッキングする
内線の相手が通話に参加します。

これで、会議通話になりました。

ほかの人も参加させたい
上記手順6のあと手順4からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

■ 外線の人を会議に参加させる - 2外線会議通話 -

1 外線と通話中

2 フッキングする

3 ⑧⓪②を押す
802は、会議通話の特番（初期値）です。

4 ⓪を押す
0は、外線への発信番号です。

5 会議に参加させたい人の電話番号を押す

6 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

7 フッキングする

8 フッキングする
外線の相手が通話に参加します。

これで、会議通話になりました。

ほかの人も参加させたい
上記手順7のあと手順4からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

会議通話ができない
会議通話の特番を押したときに話中音が聞こえたら、すでに会議通話している人が定員に達しています。このときは、しばらく待ってから、やり直してください。

通話中に電話番号を記憶する
セーブドナンバーリダイヤル

短縮番号やワンタッチボタンのように決まった番号などではなく、ちょっと覚えておきたい番号を1件（最大24桁）だけ記憶することができます。

記憶できるのは１件だけです。新しい番号を記憶すると、前の番号は消去されます。

■ 登録のしかた

1 外線を呼出中または通話中

2 フッキングする

3 ⑧①③を押す
813は、セーブドナンバーリダイヤルの特番（初期値）です。

これで、いまかけた電話番号が記憶できました。

■ かけかた

1 受話器を上げる

2 ⑧①③を押す
813は、セーブドナンバーリダイヤルの特番（初期値）です。

3 相手が出たら、通話する

■ 消去のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑧を押す
818は、セーブドナンバーリダイヤル消去の特番（初期値）です。

3 受話器を戻す

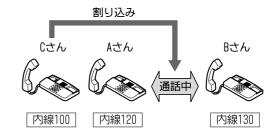
これで、セーブドナンバーリダイヤルの登録内容が消去できました。

ほかの人の通話に割り込む
通話割り込み

ほかの人の内線または外線の通話に割り込んで、通話に参加することができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 割り込みかた

例：次のような通話に割り込みます。

1 AさんとBさんが内線通話中

2 Cさんが受話器を上げる

3 Aさんの内線番号を押す
話中音が聞こえます。

4 ⑧⓪⑧を押す
808は、通話割り込みの特番（初期値）です。

これで、Aさん、Bさん、Cさんの3者通話になりました。

通話に参加できない
通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で、通話割り込みの設定が「モニターモード」になっています。3者通話にするためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

通話に割り込むとき、通知音を出したい
工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通知音は鳴りません。

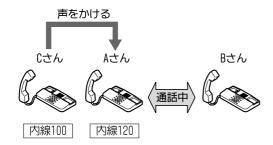
通話割り込みができない
次の場合には、通話割り込みができません。
・発信中または着信中
・保留中
・32人での会議通話中
・仮想内線での通話
・モニターモードの場合
ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

ほかの人と通話中の内線に割り込んで声をかける

ボイスオーバー

ほかの人と通話中の内線に、音声で割り込んで声をかけることができます。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 内線への声のかけかた

1 AさんとBさんが内線通話中

2 Cさんが受話器を上げる

3 Aさんの内線番号を押す

話中音が聞こえます。

4 ⑧⓪③を押す

803は、話中呼出（待機中通知）の特番（初期値）です。

5 ⑧④①を押す

841は、ボイスオーバーの特番（初期値）です。

これで、Cさんから、Aさんだけに声をかけることができました。

通話に参加できない

通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で、通話割り込みの設定が「モニターモード」になっています。3者通話にするためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

通話に割り込むとき、通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通知音は鳴りません。

ボイスオーバーができない

次の場合には、ボイスオーバーができません。
- 発信中または着信中
- 保留中
- 32人での会議通話
- 仮想内線での通話
- モニターモードの場合

ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

キャッチホンサービスなどを利用する

外線フッキング

外線と通話中、キャッチホンでかかってきた電話に応答することができます。

外線フッキングを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

工事設定されていない電話機でフックボタンを押すと、外線通話が切れてしまいますので、注意してください。

■ キャッチホンへの応答のしかた

1 外線と通話中

2 キャッチホンの着信音が聞こえる

3 フッキングする

4 ⑧④②を押す

キャッチホンでかかってきた相手と電話がつながります。

いままで通話していた相手には保留音が流れます。

842は、フッキングの特番です。

5 キャッチホンでかかってきた相手と通話する

以降は、手順3と手順4をくり返すたびに通話の相手を切り替えることができます。

登録済みの番号に別の番号を続けてかける
追加ダイヤル

短縮ダイヤルなどで電話をかけるとき、続けて相手部署の内線番号などを押して、かけることができます。

■ 使いかた

1 受話器を上げる

2 ⑧①⓪を押す

810は、共通・個別短縮ダイヤル発信の特番（初期値）です。グループ短縮ダイヤル発信の場合は811（初期値）を押してください。

3 短縮番号を押す

4 追加したい番号を押す

5 相手が出たら、通話する

追加ダイヤルが利用できる発信の種類

追加ダイヤルは、次の発信のときに利用できます。
- ・短縮ダイヤルの発信
- ・再ダイヤルの発信
- ・セーブドナンバーリダイヤルの発信

電話機のランプで伝言があることを知らせる
伝言（メッセージウェイティング）

用件を伝えたい相手が通話中や不在などのとき、戻りしだい連絡をもらえるように、ランプの表示で知らせることができます。

伝言（メッセージウェイティング）は、相手がデジタル多機能電話機またはメッセージウェイティングランプ付きの電話機の場合だけ利用できます。マルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信／メッセージ／充電ランプに表示されます。

■ 設定のしかた - 伝言設定 -

1 受話器を上げる

2 内線番号を押す

相手が通話中、または誰も出ない状態です。

3 ⑨⓪⑨を押す

909は、伝言の特番（初期値）です。

4 相手の電話機の大型ランプまたはメッセージウェイティングランプが点滅する

相手がマルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信／メッセージ／充電ランプがゆっくり赤点滅します。

5 受話器を戻す

これで、相手に伝言があることを知らせることができました。

別の人にも伝言を設定したい

上記の操作をすると、複数の相手に伝言を設定できます。

■ 受けかた - 伝言への応答 -

1 伝言が設定されている状態

2 受話器を上げる

3 ⑨⓪⑨を押す

909は、伝言の特番（初期値）です。
伝言を設定した相手を呼び出します。

4 相手が出たら、通話する

■ 解除のしかた - 指定電話機の伝言解除 -

1 伝言を設定中
相手の大型ランプまたはメッセージランプが点滅しています。

2 受話器を上げる

3 ⑨①①を押す
911は、伝言の特番（初期値）です。

4 伝言を解除したい内線番号を押す

5 受話器を戻す

これで、伝言が解除できました。

全ての伝言設定を1度に解除したい
上記手順3で910（伝言全解除の特番の初期値）を押してから受話器を戻します。

指定時刻にアラーム音を鳴らす
アラーム

指定した時刻に、電話機からアラーム音を鳴らすことができます。会議の開始時刻などをセットしておくと便利です。
アラームには次の2種類があります。
・アラーム1：1回（30秒間）だけ鳴る（鳴った時点で自動解除）
・アラーム2：毎日定刻に鳴る（解除するまで有効）

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑨①②を押す
912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

3 アラームの番号を押す
1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

4 アラームを鳴らす時刻を入力する
24時間制で入力します。
例：午後3時05分の場合は1505と入力する

5 受話器を戻す

これで、アラームが設定できました。

■ 止めかた

1 アラーム鳴動中

2 受話器を上げる
アラーム音が止まり、保留音が聞こえます。

3 受話器を戻す

これで、アラーム音が停止しました。

■ 解除のしかた

1 アラームを設定中

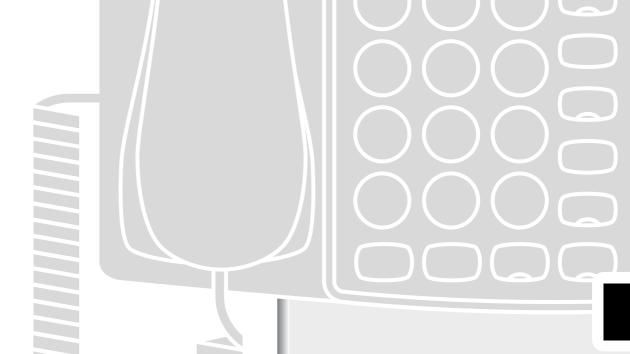
2 受話器を上げる

3 ⑨①②を押す
912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

4 アラームの番号を押す
1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

5 ⑨⑨⑨⑨を押す

6 受話器を戻す

これで、アラームが解除できました。

標準ボイスメールを使う

ご利用いただく前に

ボイスメールは、通話内容を録音して聞き直したり、録音した通話をほかの人にも聞いてもらうことができます。また、不在のときにかかってきた電話に対して留守番電話のように使える音声メールシステムです。
なお、本書では「標準ボイスメール」について説明しています。「高機能ボイスメール」をご利用の場合は、高機能ボイスメールに添付の取扱説明書を参照してください。

ボイスメールを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

NTCPU-A2またはMBU-S1制御ユニットをご使用の場合は、機能追加工事が必要ですので、販売店にご相談ください。

ボイスメールでできること

■ 自分の声を録音して送ったり、届いたメッセージを聞く - メールボックスサービス -

ボイスメールの利用者は、自分のメールボックスを持つことができます。メールボックスを持つと、声のメッセージを送ったり、届いたメッセージを聞くことができます。また、自分あてに届いたメッセージをほかの人に聞いてもらいたい場合は、その人のメールボックスに転送することができます。

メールボックスに新しいメッセージが届くと、次のようにお知らせします。

- デジタル多機能電話機の場合
  大型ランプが点滅します。また、メールボックスボタンを登録しておくと、メールボックスボタンも点滅します。

- DSSコンソールの場合
  メールボックスボタンを登録しておくと、メールボックスボタンのランプが赤点滅します。
- マルチラインデジタルコードレス電話機の場合
  メッセージランプが点滅します。また、メールボックスボタンを登録しておくと、メールボックスボタンも点滅します。
- メッセージウェイティングランプ付き一般電話機の場合
  メッセージウェイティングランプが点滅します。
- ディスプレイボードの場合
  伝言表示ランプが赤点滅します。

メールボックスとは

“声の手紙”をやりとりするための私書箱のようなものです。このメールボックスは、他の人からのメッセージを受けるだけでなく、自分で録音した通話内容を保存しておき、あとで聞き直すことができます。

■ 通話内容を録音する - 通話録音サービス -

電話で話しながらメモを取るのは、通話に集中できなかったり、メモが追いつかず、十分な伝達ができないなど、不便な場合があります。ボイスメールを利用すると、通話内容をまるごと録音できるので、正確に伝達することができます。
通話録音のしかたには、次の2通りがあります。

- 外線自動通話録音
  外線から電話がかかってきたとき、受話器を上げて応答すると同時に、自動で通話録音が始まります。また、外線に電話をかけたとき、相手が電話に応答すると同時に、自動で通話録音が始まります。
  この自動通話録音を行うためには、工事段階の設定が必要です。

- 手動通話録音
  外線と通話中に、通話内容を録音しておきたいときは、あらかじめ電話機に登録してある通話録音ボタンを押します。大切な部分だけを録音したいときに使います。

標準ボイスメールを使う

■ 留守番電話として利用する -内・外線留守番サービス-

・内線留守番サービス
　離席中や不在時、内線からかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。

・外線留守番サービス
　電話に応答できない曜日や時間帯を運用モードで設定しておくと、指定した電話番号に外線からかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。

メッセージが届いたら
どちらの場合も、指定した内線や外線に自動発信し、メッセージが録音されたことを知らせることができます。

ご使用上の注意

■ 使用環境について

雑音の多い場所、特に大型エアコンやコンプレッサーなどの近くでは、電話機を使用しないでください。雑音などが原因となり、ボイスメールが誤動作することがあります。

■ ボイスメールを利用できる電話機について

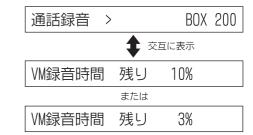
ボイスメールを利用できるのは、デジタル多機能電話機、マルチラインデジタルコードレス電話機です。
社外からボイスメールを利用する場合は、プッシュ信号（PB）を送出できる電話機かどうかを確認してください。

■ プライバシー保護について

通話録音を行うときは、プライバシー保護のため、相手に了解を得てからご使用ください。

■ メールボックスの録音時間残量警告表示について

※ バージョン3.10以降で有効

メールボックスの録音可能時間の残りが　10%以下または 3%以下になると、電話機の表示器に次の警告が表示されます。

上記のように表示されたときは、メールボックスに録音されているメッセージを聞き取り、消去してください。そのまま使い続けると、通話録音中に残り時間がなくなり、重要な通話が録音できなくなることがあります。

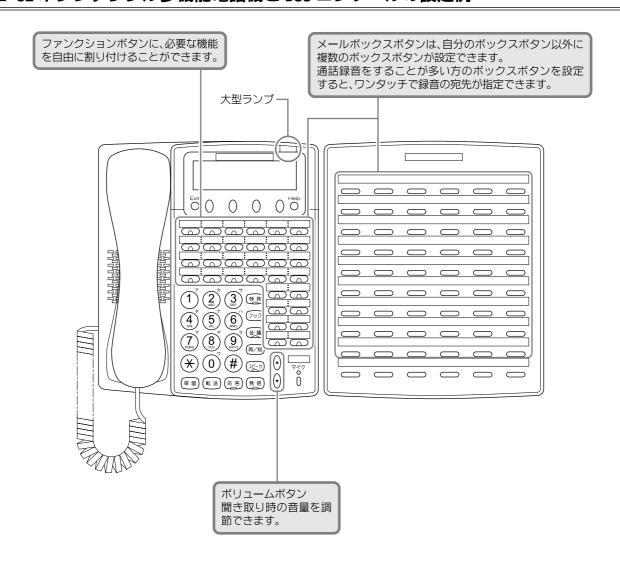
通話録音やメッセージの録音途中で録音可能時間がなくなった場合
それまでの録音内容は保存され、メールボックスへの録音が終了します。

録音可能時間の残りの目安
ボイスメール全体の録音可能時間（1時間）に対する残量の目安は、次のとおりです。
・10%：約6分
・ 3%：約2分

効率よくお使いいただくために

ボイスメール操作用ボタンの利用

デジタル多機能電話機やDSSコンソール、マルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタンに、ボイスメールの操作用ボタンを登録しておくと、効率よくボイスメールをご使用いただけます。

■ 32 ボタンデジタル多機能電話機と DSS コンソールの設定例

ボイスメール操作用ボタンの機能について

ボイスメールの操作用ボタンには、次のような種類・機能があります。
通話録音ボタンやメールボックスボタンなど必要なボタンを、自分の電話機に登録してください。詳しくは、「ボイスメールの操作用ボタンを登録する」（⇒次ページ）を参照してください。

ボタン名称	機能番号	機能内容	ボタンランプ表示	
通話録音	69＋0	手動通話録音の開始、終了	録音中（宛先未設定）	速い赤点滅
			録音中（宛先指定後）	赤点灯
メールボックス	67＋ボックス番号	・録音内容の保存先メールボックスの指定 ・保存されているメッセージの確認	新しいメッセージが保存されている場合	速い赤点滅
			メッセージ確認後（注）	赤点灯
			メッセージ登録規制設定中	遅い赤点滅
			メッセージの全消去後	消灯
消去・再録音	69＋1	通話録音の取り消し、再録音	―	―
消去	69＋2	通話録音のキャンセル、消去	―	―
呼出	69＋3	通話録音の内容を保存したメールボックスの通知先に通知（着信代行設定不要）	―	―
留守番電話	70＋ボックス番号	着信または話中代行の設定	着信代行設定中	赤点灯
			話中代行設定中	赤点滅
スキップ	68＋0	メッセージをとばして再生	―	―
バックスキップ	68＋1	メッセージを戻して再生	―	―

（注） 新しいメッセージが複数ある場合、1件でも確認するとボタンランプは赤点灯になります。

メッセージランプ（デジタル多機能電話機の大型ランプ）とDSSコンソールのメールボックスボタンのランプ表示

次のように表示されます。
- メッセージランプ
  新しいメッセージが保存されると：遅い緑点滅
  メッセージを聞き取ると　　　　：消灯
- DSSコンソール
  新しいメッセージが保存されると：速い赤点滅
  メッセージを聞き取ると　　　　：赤点灯
  メッセージをすべて消去すると　：消灯

ボイスメールの操作用ボタンを登録する

次のボタンに、ボイスメールの操作用ボタンを割り付ける方法です。
・デジタル多機能電話機のファンクションボタン
・マルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタン
・DSSコンソールのボタン

ファンクションボタンに機能を割り付ける場合は、必ず電話機の受話器を戻した状態で行ってください。

■ 登録のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①⑦を押す

917は、ファンクションボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。

ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ

3 割り付けたい(ファンクションボタン）を押す

ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｷｰ 16
NOT DEFINE

4 機能番号を押す

機能番号は「ボイスメール操作用ボタンの機能について」（⇒前ページ）を参照してください。
例：690（通話録音ボタンの機能番号）を押した場合

ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｷｰ 16
通話録音

5 (スピーカ)を押す

これで、ボイスメールの操作用ボタンの登録ができました。

複数のボイスメールの操作用ボタンを登録したい

手順3と手順4をくり返します。

■ 確認のしかた

1 (Help)を押す

ﾁｪｯｸ

2 (ファンクションボタン）を押す

押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

ﾁｪｯｸ LINEｷｰ 16
通話録音

3 (Exit)を押す

元の表示に戻ります。

標準ボイスメールを使う

メールボックスサービスの使いかた

基本的な操作のしかた

メールボックスサービスを利用するときの、基本的な操作の流れは次のとおりです。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、㊯を押す

操作している電話機に対応するメールボックスにアクセスする場合は、#だけを押して手順4に進むこともできます。

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、㊯を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

5 サービスコードを入力する

利用するサービス機能に該当する、サービスコードのダイヤルボタンを押してください。
サービス機能にオプション機能がある場合は、音声ガイダンスに従って該当するオプションコードのダイヤルボタンを押してください。
詳しくは「サービス・オプションコード一覧表」（⇒次ページ）を参照してください。

6 ㊀㊯を押す

7 受話器を戻す

パスワードについて

パスワードはメールボックスごとに設定できます。メールボックスを自分専用で使いたいときなどに設定してください。詳しくは「パスワードを設定する」（⇒P. 4-9）を参照してください。

システム管理者とは

お客様側で、ボイスメールの使用状況などを管理していただく方です。ボイスメールの、どのサービスを利用するかなどを、工事者と相談して決めます。また、ボイスメールの運用開始後に、必要に応じて設定の変更なども行います。
ボイスメールのご使用にあたり、不明点などがある場合には、システム管理者にご相談ください。

サービス・オプションコード一覧表

ボイスメールの各サービスを利用するには、操作コードを入力します。操作コードには、次の2種類があります。
・サービスコード　：音声ガイダンスに従って、サービスを選ぶための番号
・オプションコード：サービス内でのオプション設定や操作を選ぶための番号

サービスコード・オプションコードの種類は、次のとおりです。

サービス機能		サービスコード	サービス内のオプション機能	オプションコード
ヘルプガイダンス		0#	—	—
メッセージ聞き取り		1#	メッセージをくり返し再生	1#
			メッセージ再生の中断／再開	4#
			メッセージを消去し次を再生	7#
			メッセージを保存し次を再生	9#
			メッセージのコピー	2#
			メッセージのスキップ	3#
			メッセージのバックスキップ	6#
			サービス終了	*#
メッセージ全消去		7#	—	—
メッセージの連続再生		18#	—	—
応答メッセージ	再生	31#	—	—
	登録	32#	—	—
	消去	37#	—	—
外線からメッセージ聞き取り後の内線呼出		50#	—	—
外線からメッセージ聞き取り後のDISA機能		51#	—	—
メッセージ着信通知設定		61#	内線呼出	1#
			外線呼出	2#
			設定解除	0#
			サービス終了	*#
着信代行設定		62#	—	—
メッセージ再生登録順設定		63#	—	—
メッセージ再生最新順設定		64#	—	—
パスワード設定		65#	—	—
メッセージ登録規制設定		66#	—	—
サービス終了		*#	—	—

パスワードを設定する

メールボックスに、4桁のパスワードを設定しておくと、自分専用のメールボックスとして使うことができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

4 ⑥⑤#を押す

「登録するパスワードをどうぞ」

5 登録する4桁のパスワードを入力したあと、#を押す

例：「1234」とパスワードを登録したい場合、1234#と押します。

「1234ですね。よろしければ、0と#、違うときは、1と#をダイヤルしてください」

6 ⓪#を押す

「パスワードを登録しました。サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、パスワードが設定できました。

パスワードを変更する場合

次の手順で変更してください。

① 手順1～3の操作を行う
「パスワードをどうぞ」というガイダンスが流れます。

② パスワードを入力したあと、#を押す
「サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。

③ 手順4～7の操作を行う

パスワードを消去する場合

次の手順で消去してください。

① 手順1～3の操作を行う
「パスワードをどうぞ」というガイダンスが流れます。

② パスワードを入力したあと、#を押す
「サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。

③ 手順4の操作を行う

④ 9999#を押す

以降の操作はガイダンスに従ってください。

パスワードを忘れた場合

システム管理者にご相談ください。

自分あてのメッセージを聞く

自分のメールボックス内のメッセージを聞き取る方法には、次の2通りがあります。
・メールボックスボタンでメッセージを聞く
・音声ガイダンスに従ってメッセージを聞く

■ メールボックスボタンでメッセージを聞く

あらかじめ、メールボックスボタンを設定しておくと簡単にメッセージを聞き取ることができます。設定のしかたについては「ボイスメールの操作用ボタンを登録する」（⇒P. 4-6）を参照してください。

1 受話器を上げる

2 メールボックスボタンを押す

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順4に進んでください。

3 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「××件です」

4 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

「オプションコードをどうぞ」

5 オプションコードを入力する

「サービス･オプションコード一覧表」(⇒P. 4-8)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順6に進んでください。

6 受話器を戻す

メッセージがない場合
「メッセージは、登録されていません。サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。操作を終了するときは、受話器を戻してください。

■ 音声ガイダンスに従ってメッセージを聞く

メールボックスボタンを設定していないデジタル多機能電話機、またはマルチラインデジタルコードレス電話機でメッセージを聞く場合は、次の手順で聞き取ることができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

5 ①#を押す

「××件です」

6 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。

「オプションコードをどうぞ」

7 オプションコードを入力する

「サービス･オプションコード一覧表」(⇒P. 4-8)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順8に進んでください。

8 受話器を戻す

メッセージがない場合
「メッセージは、登録されていません。サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。操作を終了するときは、受話器を戻してください。

メッセージを録音する

自分やほかの人のメールボックスにメッセージを録音することができます。録音したメッセージは、社内からでも社外からでも聞き取ることができます。

■ 相手のメールボックスに直接メッセージを録音する

相手のメールボックスに、直接メッセージを録音できます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 ㊀を押してメッセージを録音する相手のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：相手のボックス番号が107番の場合、＊107#と押します。

「メッセージをどうぞ。ピピッ」

4 メッセージを録音する

5 受話器を戻す

これで、メッセージを相手のメールボックスに録音できました。

手順3の操作のあと「現在、メッセージは登録できません」というガイダンスが流れたときは

相手のメールボックスのメッセージ録音件数が、100件を超えています。
1つのメールボックスに録音できる件数は、100件までです。

1度の操作で複数の人にメッセージを録音する
同報メッセージ

複数の人に、同時にメッセージを録音することができます。メッセージが届いた多機能電話機では、大型ランプが点滅して知らせます。

- 特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 同報メッセージの送り先（聞き取りができる電話機）は、あらかじめ工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ メッセージを録音する

1 受話器を上げる

2 ㊀②②を押す

＊22 は、同報メッセージの録音／再生／消去の特番（初期値）です。

3 ⑦を押す

7は、録音の番号です。

4 メッセージを録音する

5 受話器を戻す

これで、同報メッセージが録音できました。

同報メッセージを聞くことができる多機能電話機の大型ランプが緑色で点滅します。

■ メッセージを確認する

1 受話器を上げる

2 ㊟②②を押す

＊22 は、同報メッセージの録音／再生／消去の特番（初期値）です。

3 ⑤を押す

5は、再生の番号です。

4 メッセージが再生される

5 受話器を戻す

これで、同報メッセージを確認できました。

■ メッセージを消去する

1 受話器を上げる

2 ㊟②②を押す

＊22 は、同報メッセージの録音／再生／消去の特番（初期値）です。

3 ③を押す

3は、消去の番号です。

4 受話器を戻す

これで、同報メッセージが消去できました。

多機能電話機の大型ランプが消灯します。

■ 同報メッセージを聞き取る

大型ランプが緑色に点滅している多機能電話機で、聞き取ることができます。

1 受話器を上げる

2 ㊟②①を押す

＊21は、同報メッセージを聞き取るための特番（初期値）です。

3 メッセージが再生される

4 メッセージを聞き取った多機能電話機の大型ランプが消灯する

5 受話器を戻す

これで、同報メッセージを聞き取ることができました。

マルチラインデジタルコードレス電話機で聞き取りたい

マルチラインデジタルコードレス電話機の場合、着信／メッセージ／充電ランプがゆっくり赤点滅し、同報メッセージがあることがわかります。多機能電話機と同じ操作をすると、聞き取ることができます。

一般電話機で聞き取りたい

メッセージウェイティングランプ付きの一般電話機を使用すると、ランプが点滅して同報メッセージがあることがわかります。多機能電話機と同じ操作をすると、聞き取ることができます。

メールボックスを使いこなすための機能

メールボックスでは、メッセージの聞き取りや録音機能のほかに、さまざまな機能があります。
- メッセージの再生順序を変える
- メッセージの再生を一定時間とばす
- メッセージの再生を一定時間戻す
- メッセージの再生を一時中断する
- 聞き取ったメッセージをそのままほかの人に送る
- メッセージが録音されたら外線を自動で呼び出す
- メッセージが録音されたら内線を自動で呼び出す
- 呼び出されたときの操作
- メッセージを録音したあと外線を自動で呼び出す
- 自分のメッセージを全て消去する
- 外線からメールボックスにアクセスしたあと内線に電話をかける

「ファンクションボタンの設定」によりDSS（内線呼出、状態表示）ボタンを割り付けておくと、メールボックスボタンとしても使用できます（バージョン5以降で有効）。これにより、メールボックスにメッセージが届くと、DSS ボタンも赤点滅してお知らせします。詳しくは、販売店にご相談ください。

ボイスメールの操作ボタンは、あらかじめ設定している場合にのみ使用できます。設定のしかたについては「ボイスメールの操作用ボタンを登録する」（⇒P. 4-6）を参照してください。

■ メッセージの再生順序を変える

自分のメールボックス内のメッセージを聞き取る際、録音日時の新しいものから順番に聞き取るか、古いものから順番に聞き取るかを選択することができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、(#)を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、(#)を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

5 次のどちらかのサービスコードを押す

- 録音日時の古いメッセージから再生する場合　：63#を押す
- 録音日時の新しいメッセージから再生する場合：64#を押す

「設定しました」

6 受話器を戻す

これで、メッセージの再生順序が変更できました。

■ メッセージの再生を一定時間とばす

再生中のメッセージを一定時間とばして再生します。

1 メッセージ再生中

2 （スキップボタン）を押す

メッセージをとばして再生します（約8秒）。

※　とばす時間よりメッセージの残り時間が短い場合は、メッセージの再生が終了します。

スキップボタンを設定していない電話機で操作するには

メッセージ再生中に、3#（メッセージを一定時間とばすオプションコード）を押します。

■ メッセージの再生を一定時間戻す

再生中のメッセージを一定時間戻して再生します。

1 メッセージ再生中

2 （バックスキップボタン）を押す

メッセージを戻して再生します（約8秒）。

※　戻す時間よりメッセージの再生時間が短い場合は、メッセージを最初から再生します。

バックスキップボタンを設定していない電話機で操作するには

メッセージ再生中に、6#（メッセージを一定時間戻すオプションコード）を押します。

標準ボイスメールを使う

■ メッセージの再生を一時中断する

再生中のメッセージをいったん止めたり、続きから再生することができます。

1 メッセージ再生中

2 ④#を押す

メッセージの再生が一時中断されます。

3 ④#を押す

メッセージが続きから再生されます。

■ 聞き取ったメッセージをそのままほかの人に送る

自分のメールボックス内のメッセージを、ほかの人にも聞いてもらうために、転送することができます。一度にメッセージを転送できる相手は、1人までです。

1 メッセージの再生終了

ガイダンス 「オプションコードをどうぞ」

2 ②#を押す

ガイダンス 「コピーするボックス番号をどうぞ」

3 コピー先のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：コピー先のボックス番号が120番の場合、120#と押します。

ガイダンス 「よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

4 ⓪#を押す

ガイダンス 「オプションコードをどうぞ」

5 受話器を戻す

これで、メールボックスにメッセージが転送できました。

手順3の操作のあと「ご指定のボックスには、登録できません」というガイダンスが流れたときは

相手のメールボックスのメッセージ録音件数が、100件を超えています。1つのメールボックスに録音できる件数は、100件までです。

手順4の操作のあと「メッセージは、登録できません」というガイダンスが流れたときは

ボイスメールに録音されている、全てのメッセージの合計が1時間を超えています。メッセージをコピーする際、ボイスメールの録音時間の空きがなくなると、そのメッセージは録音失敗となります。

■ メッセージが録音されたら外線を自動で呼び出す

自分のメールボックスにメッセージが録音されたとき、自動で携帯電話またはPHSなどの外線を呼び出すことができます。呼出先は、あらかじめ設定しておきます。

この機能は、自分のメールボックスに着信代行が設定されている場合に利用できます。着信代行の設定については「内線留守番サービスの設定と解除」（⇒P. 4-20）を参照してください。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス 「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

ガイダンス 「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

ガイダンス 「サービスコードをどうぞ」

5 ⑥①#を押す

「現在、メッセージの着信通知は、設定されていません」

設定内容についてガイダンスが流れます。

6 ②㊯を押す

「電話番号をどうぞ」

7 呼出先の番号を押したあと、#を押す

例：呼び出す番号が03-1234-5678の場合、
0312345678#と押します。

「電話番号は××ですね。よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

8 ⓪#を押す

「設定しました。サービスコードをどうぞ」

9 受話器を戻す

これで、外線への自動呼び出しが設定できました。

■ メッセージが録音されたら内線を自動で呼び出す

自分のメールボックスにメッセージが録音されたとき、自動で内線を呼び出すことができます。呼出先は、あらかじめ設定しておきます。

この機能は、自分のメールボックスに着信代行が設定されている場合に利用できます。着信代行の設定については「内線留守番サービスの設定と解除」（⇒P. 4-20）を参照してください。

1 「メッセージが録音されたら外線を自動で呼び出す」（⇒前ページ）の手順1～5までの操作を行う

2 ①#を押す

「内線番号をどうぞ」

3 呼出先の内線番号を押したあと、#を押す

例：内線番号が100番の場合、100#と押します。

「内線番号は××ですね。よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

4 ⓪#を押す

「設定しました。サービスコードをどうぞ」

5 受話器を戻す

これで、内線電話機への自動呼び出しが設定できました。

■ 呼び出されたときの操作

自分のメールボックスにメッセージが録音されると、指定した電話機（内線・外線）が呼び出されます。呼び出されたときは、次の操作を行ってください。

この機能は、メールボックスにパスワードが設定されていないと利用できません。必ずパスワードを設定してください。

1 音声サービスセンターから着信

2 受話器を上げる

「音声サービスセンターです。ボックス番号××にメッセージが登録されました。パスワードをどうぞ」

3 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

ガイダンス「××件です」

4 メッセージが再生される

〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

5 次のいずれかのオプションコードを入力する

- メッセージをくり返し再生　：1#を押す
- メッセージを消去し次を再生：7#を押す
- メッセージを保存し次を再生：9#を押す

6 受話器を戻す

■ メッセージを録音したあと外線を自動で呼び出す

※ バージョン3.10以降で有効

不在の人あての電話を受けて通話録音したあと、相手の携帯電話またはPHSなどの外線を呼び出すことができます。この呼出は、録音先のメールボックスに着信代行が設定されていなくても利用できます。

録音先のメールボックスに、外線へのメッセージ着信通知が設定されている必要があります。設定方法については「メッセージが録音されたら外線を自動で呼び出す」(⇒P. 4-14) を参照してください。

「ファンクションボタンの設定」により通話録音-呼出ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。
詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

1 通話録音中

通話録音のしかたについては「通話録音サービスの使いかた」(⇒P. 4-18) を参照してください。

2 通話録音内容を保存したいメールボックス番号を押したあと#を押す（またはメールボックスボタンを押す）

3 （通話録音-呼出ボタン）を押す

4 受話器を戻す

■ 自分のメッセージを全て消去する

自分のメールボックス内の全てのメッセージを、消去することができます。

この操作をすると、聞き取ったメッセージも聞き取っていないメッセージも全て消去されます。メッセージを消去しても良いかどうかを確認してから操作してください。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番(初期値)です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

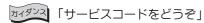
3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

5 ⑦#を押す

「メッセージを全て消去します。よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

6 ⓪#を押す

「メッセージを全て消去しました。サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、全てのメッセージが消去できました。

■ 外線からメールボックスにアクセスしたあと内線に電話をかける

※ バージョン3.10以降で有効

外出先の電話機からメールボックスにアクセスしてメッセージを聞いたあと、ボイスメールのサービスを終了させて、内線電話機を呼び出すことができます。

1 外出先からメールボックスにアクセスして、メッセージを聞く

- 内線留守番サービスを利用している場合
  「内線留守番サービスの使いかた」の「外線からメッセージを聞く」(⇒P. 4-23)を参照してください。
- 外線留守番サービスを利用している場合
  「外線留守番サービスの使いかた」の「外線からメッセージを聞く」(⇒P. 4-27)の手順1～手順6を参照してください。

2 ⑤⓪#を押す

50#は、内線呼出のサービスコードです。

3 呼出先の内線番号を押す

通常とは違う音(特殊ダイヤルトーン)が聞こえている間に、呼出先の内線番号を押してください。

4 相手が出たら通話する

5 受話器を戻す（通話を終了する）

通話録音サービスの使いかた

通話録音サービスを利用するには、工事段階の設定が必要です。次のことをシステム管理者に確認した上で通話録音サービスをご利用ください。
- 発着信時に自動で通話録音ができる外線かどうか：「常に通話を録音する」（⇒下記）を参照してください。
- 自分の電話機で手動通話録音ができるかどうか：「手動で通話を録音する」（⇒右記）を参照してください。

- あらかじめ、ボイスメールの操作用ボタンを設定している場合にのみ使用できます。設定のしかたについては「ボイスメールの操作用ボタンを登録する」（⇒P. 4-6）を参照してください。
- 通話録音ボタンのランプが点滅しない場合は、ボイスメールの回線が全て使用中のため、通話録音ができない状態です。時間をおいてから、再度、通話録音ボタンを押してください。もし、このような状態がひんぱんに起こるようでしたら、システム管理者にご相談ください。
- 通話録音の内容を保存するには、必ず通話録音中にメールボックス番号を入力してください。回線の設定により、相手側が電話を切ったあとでは入力できない場合があります。また、ボイスメールの設定によっては、録音内容が消去されますのでご注意ください。

常に通話を録音する

外線自動通話録音

外線自動通話録音が設定された回線への着信に、受話器を上げて応答すると同時に、自動で通話録音が行えます。また、発信時の外線自動通話録音が設定された回線から電話をかけ、相手が応答すると同時に、自動で通話録音が行えます。

外線自動通話録音を利用するには、工事段階での設定が必要です。

1 外線着信中または外線発信中

外線発信中の場合は、手順4に進んでください。

2 受話器を上げる

受話器を上げるだけで応答できるように設定してある電話機の場合は、手順4に進んでください。

3 (応答)または点滅している(　)(外線ボタン) を押す

4 相手と通話する

通話録音が始まり、通話録音ボタンが速く赤点滅します。

5 通話録音の内容を保存したいメールボックス番号を押したあと(#)を押す（またはメールボックスボタンを押す）

6 受話器を戻す

録音内容が、手順5で指定したメールボックスに送られます。

通話録音の内容を送るメールボックスを変更したい

電話を切る前に、手順5の操作をやり直してください。

手順5の操作のあと「ピーッ」と音がしたときは

保存したいメールボックスのメッセージ録音件数が100件を超えているため、登録先のメールボックスが確定されていません。ほかのメールボックスを指定し直してください。
1つのメールボックスに録音できる件数は、100件までです。

外線ごとに、通話録音するかどうかを指定したい

通話録音ができる電話機に対して、さらに外線ごとに通話録音するかどうかを設定できます（バージョン5以降で有効）。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

手動で通話を録音する

手動通話録音

発信、着信に関係なく、外線通話を録音したいときに録音できます。

1 外線と通話中

2 (　)(通話録音ボタン）を押す

通話録音が始まり、通話録音ボタンが速く赤点滅します。

以降の操作は「常に通話を録音する」(⇒左記）の手順5以降と同じです。

通話録音中に保留したいとき

通話中に保留ボタンを押すと、通話と通話録音の両方を一時中断します。保留した電話機で再応答すると、通話と通話録音の両方が再開します。ほかの電話機で応答すると、工事段階の設定により、通話録音が取り次ぎ先の電話機で継続されるか、または終了します。詳しくは、システム管理者に確認してください。

通話録音中に行える操作

次の操作が行えます。詳しくは、各機能の項を参照してください。
・録音内容のキャンセル:「■ 録音内容を消去する」(⇒右記)を参照してください。
・録音内容のキャンセルと再録音:「■ 録音内容を消去したあと録音を再度行う」(⇒右記)を参照してください。

他の内線を呼び出して会議通話をした場合

会議通話は通話録音できないため、録音は終了します。通話を切ったあとの動作は、「録音内容の保存先を指定しなかった場合」(⇒下記)を参照してください。

録音内容の保存先を指定しなかった場合

次のいずれかになります。詳しくは、システム管理者に確認してください。
・録音していた電話機、または取り次ぎ先の電話機に自動呼び返しがかかる(「ボイスメールからの呼び返しに応答する」(⇒下記)を参照してください。)
・宛先不明ボックスに保存される
・録音内容が消去される

ボイスメールからの呼び返しに応答する

通話録音中に、録音内容の保存先を指定しなかった場合、受話器を戻すと、ボイスメールから呼び返しがかかるように工事段階で設定できます。呼び返しに応答したあと、次の操作を行ってください。

1 音声サービスセンターから着信中

2 受話器を上げる

「音声サービスセンターです。ただ今の録音内容を保存するボックス番号をどうぞ」

3 保存するメールボックス番号を押したあと、#を押す

例:保存するボックス番号が107番の場合、107#と押します。

「メッセージを登録します」

4 受話器を戻す

これで、指定したメールボックスに録音内容が保存されました。

・呼び返しに応答しなかった場合には、録音内容は消去されます。
・手順3でボックス番号を指定しないで受話器を戻すと、メッセージは消去されます。

工事段階で宛先不明ボックスが設定されている場合は、自動呼び返しをせずに宛先不明ボックスに保存されます。詳しくは、システム管理者に確認してください。

通話録音中に行える操作

あらかじめ次のボイスメール操作ボタンを設定しておくと、通話録音中に使用することができます。
・消去ボタン
・消去・再録音ボタン

ここでは、各ボタンが設定されているときに行う操作について説明します。設定のしかたについては「ボイスメールの操作用ボタンを登録する」(⇒P.4-6)を参照してください。

■ 録音内容を消去する - 消去ボタン -

消去ボタンを押すまでの録音内容を消去します。消去ボタンを押したあとも、通話は続けられます。

1 通話録音中

2 (消去ボタン)を押す

これで、録音内容が消去できました。

■ 録音内容を消去したあと録音を再度行う - 消去・再録音ボタン -

消去・再録音ボタンを押すまでの録音内容を消去し、新たに通話録音を開始します。消去・再録音ボタンを押したあとも、通話は続けられます。

1 通話録音中

2 (消去・再録音ボタン)を押す

これで、録音内容の消去と新たに通話録音が開始できました。

以降の操作については「常に通話を録音する」(⇒前ページ)の手順5以降を参照してください。

内線留守番サービスの使いかた

内線留守番サービスでは、不在時、内線にかかってきた電話に対し、ボイスメールが応対し、相手のメッセージの録音などが行えます（着信代行）。
録音されたメッセージの確認のしかたは、メールボックスサービスの利用方法と同じです。詳しくは「自分あてのメッセージを聞く」（⇒P. 4-10）を参照してください。

ここでは、内線留守番サービスを利用するための設定や、応答メッセージの登録、外出先の電話機からメッセージを確認する方法について説明します。

- ボイスメールの操作用ボタンは、あらかじめ設定している場合のみ使用できます。設定のしかたについては「ボイスメールの操作用ボタンを登録する」（⇒P. 4-6）を参照してください。
- 内線留守番サービスが設定されている場合は、受話器を上げたときに通常とは違う音（内線ダイヤルトーン）が聞こえます。

内線留守番サービスの設定と解除

■ 留守番電話ボタンでの設定のしかた

1 （留守番電話ボタン）を押す
留守番電話ボタンが赤点灯します。

これで、内線留守番サービスが設定できました。
設定した内線にかかってきた全ての電話に、ボイスメールが応対します。

通話中にかかってきた着信にもボイスメールで対応したい（話中代行）
赤点灯している留守番電話ボタンを押します。赤点滅して話中代行が設定されます。

■ 解除のしかた

1 赤点灯している（留守番電話ボタン）を2回押す
留守番電話ボタンが赤点滅したあと消灯します。

これで、内線留守番サービスが解除できました。

話中代行を利用している場合
留守番電話ボタンが赤点滅しています。留守番電話ボタンを1回押すと解除できます。

■ 音声ガイダンスでの設定／解除のしかた

留守番電話ボタンが設定されていない電話機で、内線留守番サービスを設定または解除するときは、音声ガイダンスに従って操作します。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す
839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す
例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す
例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

5 ⑥②㊪を押す

・着信代行が設定されていない場合

 「着信代行の設定ですね」

・着信代行が設定されている場合

 「着信代行の解除ですね」

 「よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

6 ⓪㊪を押す

・設定の場合

 「着信代行を、設定しました」

・解除の場合

 「着信代行を、解除しました」

 「サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、内線留守番サービスが設定または解除できました。

留守番電話ボタンを設定していない電話機では、話中代行の設定はできません。

応答メッセージの録音・確認・消去

内線留守番の応答メッセージは、メールボックスごとに1つ録音できます。着信代行を設定して内線留守番サービスを使用する場合は、この応答メッセージを送出後、相手メッセージの録音を開始します。応答メッセージを登録していないときは、既成の応答メッセージを送出します。

■ 録音のしかた

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番(初期値)です。

 「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、㊪を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

 「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、㊪を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

 「サービスコードをどうぞ」

標準ボイスメールを使う

5 ③②#を押す

「メッセージをどうぞ。ピピッ」

6 応答メッセージを受話器で録音する

7 メッセージの録音が終わったら⑨#を押す

「応答メッセージを登録しました。サービスコードをどうぞ」

8 受話器を戻す

これで、応答メッセージが録音できました。

受話器を戻すときは、静かに戻してください。乱暴に戻すと、応答メッセージの最後に「ガチャン」という音が入ってしまいます。

既成の応答メッセージの内容

- 応答メッセージ送出後録音可能な場合
  「ただいま不在です。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ」
- 応答メッセージ送出後録音不可の場合
  「ただいま不在です。のちほどおかけ直しください」

■ 確認のしかた

1 「録音のしかた」(⇒前ページ)の手順1〜4の操作を行う

「サービスコードをどうぞ」

2 ③①#を押す

- 応答メッセージが登録されている場合
  メッセージが再生されます。
- 応答メッセージが登録されていない場合

「メッセージは登録されていません。サービスコードをどうぞ」

3 受話器を戻す

これで、応答メッセージが確認できました。

■ 消去のしかた

1 「録音のしかた」(⇒前ページ)の手順1〜4の操作を行う

「サービスコードをどうぞ」

2 ③⑦#を押す

「応答メッセージを消去します。よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

3 ⓪#を押す

「メッセージを消去しました。サービスコードをどうぞ」

4 受話器を戻す

これで、応答メッセージが消去できました。

応答メッセージを消去すると

既成の応答メッセージに戻ります。

相手のメッセージを録音しないようにする

離席中や不在時、内線にかかってきた電話に対して応答メッセージだけを流し、相手のメッセージは録音しないように設定することができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番(初期値)です。

「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100#と押します。

「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

「サービスコードをどうぞ」

5 ⑥⑥#を押す

・メッセージの登録が規制されていない場合

「メッセージの登録規制の設定ですね。よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

・メッセージの登録が規制されている場合

「メッセージの登録規制の解除ですね。よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

6 ⓪#を押す

・設定する場合

「メッセージの登録規制を設定しました。サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、相手のメッセージを録音できないようにする設定ができました。

相手のメッセージを録音しないようにする設定を行うと

自分のメールボックスボタンのランプが遅い赤点滅に変わります。応答メッセージを登録していない場合、応答メッセージの内容が既成の「ただいま不在です。のちほどおかけ直しください」に変わります。

内線留守番サービスを利用している電話機に電話をかける

電話をかけた内線相手がメッセージ録音可能な着信代行を設定している場合は、メッセージを録音することができます。外線から直接内線を呼べる機能（DIL、DID、NTTダイヤルイン、ISDN回線のサブアドレスダイヤルイン）を利用している場合も、同様にメッセージを録音できます。
内線留守番サービスを利用しているときは、次のように動作します。

外線から直接内線を呼べる機能について

工事段階の設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 内線に電話をかける

例：相手の内線番号が100番の場合、100と押します。

2 応答メッセージが流れる

・メッセージが録音できる場合
例：「ただいま不在です。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」
メッセージを録音してください
・メッセージが録音できない場合
例：「ただいま不在です。のちほどおかけ直しください」
メッセージを録音しないように設定されています。改めて電話をかけなおしてください

3 受話器を戻す

メッセージが録音されました。

外線からメッセージを聞く

外出先の電話機から、メールボックス内のメッセージを聞くことができます。このサービスは、直接内線を呼べる機能（DIL、DID、NTTダイヤルイン、ISDN回線のサブアドレスダイヤルイン）や、通常の着信応答で着信代行を設定している内線に転送してもらうと利用することができます。

・外出先で使用する電話機は、プッシュ信号（PB）を送出できる電話機を使用してください。
・メッセージが録音されている内線電話機に、着信代行が設定されている場合のみ聞くことができます。
・この機能は、パスワード（メールボックスごと）が設定されている場合のみ利用できます。

■ 内線に直接電話をかける

1 外出先から電話をかける

着信代行を設定している内線電話機に、プッシュ信号(PB)を送出できる電話機から電話をかけます(または転送してもらいます)。

2 応答メッセージが流れる

例：「ただいま不在です。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」

3 パスワードを入力したあと、#を押す

例：メッセージを聞くメールボックスのパスワードが「1111」の場合、1111#と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

4 1#を押す

ガイダンス「××件です」

5 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

6 オプションコードを入力する

「サービス・オプションコード一覧表」(⇒P. 4-8)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順7に進んでください。

7 受話器を戻す（通話を終了する）

手順3で#を入力したあと“プー”という音が聞こえた場合

パスワードが間違っています。パスワードを入力し直してください。パスワードが間違っているとメッセージを聞くことができません。

■ 音声サービスセンターに電話をかける

音声サービスセンターを直接呼び出せる電話番号に電話をかけるか、電話に出た人に音声サービスセンターに転送してもらうことによって利用できます。

音声サービスセンターを直接呼び出すには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 外出先から電話をかける

音声サービスセンターを直接呼び出せる電話番号に、電話をかけます(または転送してもらいます)。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

2 メッセージを聞くメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：メッセージを聞くメールボックスの番号が100番の場合、100#と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

3 パスワードを入力したあと、#を押す

例：メッセージを聞くメールボックスのパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

4 1#を押す

ガイダンス「××件です」

5 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

6 オプションコードを入力する

「サービス・オプションコード一覧表」(⇒P. 4-8)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順7に進んでください。

7 受話器を戻す（通話を終了する）

外線留守番サービスの使いかた

夜間、休日などに指定された外線にかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。
保存されたメッセージは、メールボックスサービスの利用方法と同じ方法で確認できます。詳しくは「自分あてのメッセージを聞く」(⇒P. 4-10) を参照してください。このとき、自分のメールボックスではなく、外線留守番ボックスのボックス番号を指定してください。

ここでは、応答メッセージの登録や、外線留守番サービス利用時の動作、外出先の電話機からメッセージを確認する方法について説明します。

外線留守番サービスを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

応答メッセージの録音・確認・消去

VRS メッセージ編集

外線留守番サービス利用時に送出される応答メッセージは、VRSメッセージを使用します。

VRSメッセージは、最大48種類まで録音できます。ただし、次の機能で使用するメッセージの合計数が48以下となるようにしてください。
- 外線留守番サービスの応答メッセージ
- 着信お待たせメッセージ
- オートアテンダントメッセージ

■ 録音のしかた

1 受話器を上げる

2 ㊀②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番(初期値)です。

3 ⑦を押す
7は、録音の番号です。

4 VRSメッセージ番号(01～48)を押す

5 応答メッセージを受話器で録音する

6 受話器を戻す

これで、応答メッセージが録音できました。

受話器を戻すときは、静かに戻してください。乱暴に戻すと、応答メッセージの最後に「ガチャン」という音が入ってしまいます。

■ 確認のしかた

登録した応答メッセージを再生して、確認できます。

1 受話器を上げる

2 ㊀②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番(初期値)です。

3 ⑤を押す
5は、聴取の番号です。

4 VRSメッセージ番号(01～48)を押す

5 応答メッセージが再生される

6 受話器を戻す

これで、応答メッセージが確認できました。

■ 消去のしかた

録音した応答メッセージを消去する場合は、次の操作を行ってください。

1 受話器を上げる

2 ㊀②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番(初期値)です。

3 ③を押す
3は、消去の番号です。

4 VRSメッセージ番号(01～48)を押す

5 指定した応答メッセージが消去される

6 受話器を戻す

これで、応答メッセージが消去できました。

応答メッセージを指定する
外線留守番サービスの応答メッセージ番号設定

外線留守番サービス利用時に送出される応答メッセージの番号（00～48）を設定します。

1 (スピーカ)を押す

2 ⊛③⑥を押す

＊36は、外線留守番サービスの送出ガイダンス番号設定の特番（初期値）です。

```
留守番電話ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ変更
        外線: 01- 16 ?
```

※ Aspire Sの場合は「外線： 01- 16 ?」と表示されます。

3 外線番号を押す

```
留守番電話ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ変更
          ﾓｰﾄﾞ:1-8 ?
```

4 応答メッセージを流したい時間帯の番号を押す

時間帯は、1～8の中から選ぶことができます。

```
留守番電話ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ変更
    ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ番号:00-48 ?
```

5 VRSメッセージ番号（00～48）を押す

セット音が聞こえます。

```
          変更しました
```

※ 00を押した場合は、固定メッセージが選択されます。

6 (スピーカ)を押す

これで、応答メッセージ番号が指定できました。

外線留守番サービスを利用している外線に電話をかける

外線留守番サービスを利用しているときは、次のように動作します。

1 お客様から電話がかかってくる

2 応答メッセージが流れる

- メッセージが録音できる場合
  例：「本日の業務は終了いたしました。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」
  お客様がメッセージを録音します。
- メッセージが録音できない場合
  例：「本日の業務は終了いたしました。明日またおかけ直しください」

3 お客様が電話を切る

メッセージが録音された外線留守録ボックスのメールボックスボタンが赤点滅し、大型ランプが緑点滅します。

手順2でメッセージを受け付けないようにするには、工事段階の設定が必要です。

手順2でメッセージを録音しない場合

応答メッセージが流れたあとに、通話を終了します。

外線からメッセージを聞く

外線留守録ボックスに録音されたメッセージを、外から聞くことができます。

- この機能は、外線留守録ボックスにパスワードが設定されている場合のみ使えます。
- 工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 外線から電話をかける

プッシュ信号(PB)を送出できる電話機から電話をかけます。

2 応答メッセージが流れる

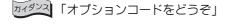
例：「本日の業務は終了いたしました。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」

3 留守番ボックスのパスワードを入力したあと、#を押す

例：留守番応答するメールボックスのパスワードが「1234」の場合、1234#と押します。

ガイダンス 「サービスコードをどうぞ」

4 1#を押す

メッセージが再生されます。

ガイダンス 「××件です」

5 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス 「オプションコードをどうぞ」

6 オプションコードを入力する

「サービス・オプションコード一覧表」(⇒P.4-8)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順7に進んでください。

7 受話器を戻す（通話を終了する）

手順3で#を入力したあと「プー」という音が聞こえた場合

パスワードが間違っています。パスワードを入力し直してください。パスワードが間違っているとメッセージを聞くことができません。

運用するにあたって

ボイスメールを運用するにあたり、システム管理者の方に知っておいていただきたいことについて説明します。

ボイスメールの仕様

システム内に設定できるメールボックスの数と、録音件数および録音時間については、次の表を参照してください。

項　目		運　用
品　名		IP1WW-DSPDB-A1
音声符号化方式		PCM方式
メールボックス数		合計で15個 （宛先不明ボックス1個含む）
宛先不明ボックス数		
最大メッセージ件数		100件／1ボックス
最大録音時間		1時間
最大同時利用可能数		16台（MBU-S1制御ユニットの場合は8台） ※　同時録音は8台までです。
環境条件	保管時	温度：−20〜60℃ 湿度：　8〜80%（結露させないこと）
	動作時	温度：　5〜60℃ 湿度：　20〜80%（結露させないこと）

保守および機器の交換について

■ 保守契約について

ボイスメールは精密機器です。

販売店とご相談の上、保守契約をお結びくださるようお願いいたします。

メールボックスの種類

メールボックスには、次の3種類があります。

・メールボックス
内線番号（仮想内線含む）、内線代表番号に対応し、利用者1人1人に割り当てられるボックスです。内線留守番サービス利用時も、このボックスを使います。

・外線留守録ボックス
夜間や休日など、指定された外線にかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対するためのボックスです。

・宛先不明ボックス
通話録音終了後、メッセージの宛先が不明なときにメッセージを保管するためのボックスです。

ボイスメールを利用するための設定

ボイスメールは、会社の業務に合わせて活用できるように、次の4種類のサービス機能を持っています。
・メールボックスサービス
・通話録音サービス
・内線留守番サービス
・外線留守番サービス

上記のサービスは、1つだけ、または組み合わせて使用できます。ただし、メールボックスサービスは、ボイスメールの基本となるサービスですので、他のサービスを使用する場合にもメールボックスサービスの使用が前提となります。

各サービスを使用するためには、工事段階での設定やシステム管理者による設定が必要となります。詳しくは、販売店とご相談の上、設定を行ってください。

■ ボイスメール基本設定 - PRG 40-01 -

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
ボイスメール専用チャネル指定	0〜16	0	ボイスメール用のポート数を設定	IN
タイムスタンプ指定	0：タイムスタンプしない 1：タイムスタンプする	1	メッセージ再生時、メッセージの録音日時を音声ガイダンスで読み上げるか、読み上げないかを設定	IN
転送時の通話録音動作	0：継続しない 1：継続する	1	通話録音時、保留転送後も録音を継続するか、継続しないかを設定	IN
自動着信代行	0：しない 1：する	1	電話機が存在しないメールボックスに自動着信代行させるかさせないかを設定	IN
メンテナンス時刻の設定	0000〜2359 ※「0000」は設定なし	0000	DSPDBユニット上のコンパクトフラッシュのメンテナンスを行う時刻を指定	IN
メッセージ自動消去の設定	0〜180（日） ※「0」は自動消去しない	0	上記メンテナンス時刻に、聴取済みおよび未聴取メッセージを自動的に消去する場合、メッセージが録音されてからの経過日数を設定	IN

■ メールボックス番号設定 - PRG 40-02 -

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
メールボックス番号	ダイヤル番号 （最大8桁）	−	メールボックスの追加、変更 ※ 内線番号、内線代表番号と同じ番号を設定してください。	SA
パスワード	ダイヤル番号 （4桁固定）	−	メールボックスのパスワードを設定 ※ 設定しなくてもメールボックスは利用できます。	SA

■ 留守録動作設定 - PRG 40-03 -

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
録音時間	1～10（分）	1	留守番録音の最大録音時間を設定	IN
録音不可時のガイダンス	0：固定メッセージ 1：メールボックスの応答メッセージ	0	留守番録音ができない場合、メールボックスの応答メッセージを送出するか、固定ガイダンスを送出するかを設定	IN

■ 通話録音動作設定 - PRG 40-04 -

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
宛先未設定時の処理	0：宛先不明ボックス登録 1：呼び返し動作	1	通話録音終了時、メッセージの宛先が不明な場合の動作を設定	IN
宛先不明メッセージ用ボックス	0～15	0	宛先不明メッセージを保管するボックス番号を設定	IN

■ 着信通知動作設定（自動呼び出しの設定） - PRG 40-05 -

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
最大同時発呼数	0～16 ※ MBU-S1制御ユニットの場合は0～8	1	ボイスメールのポートが、着信通知処理（自動呼び出し）で、同時に何回線まで発呼可能とするかを設定 ※「0」を設定するとボイスメールは発呼できなくなり、着信通知機能は動作しません。	IN
発信外線グループ番号	0～100 ※ MBU-S1制御ユニットの場合は0～8	1	外線発信時に使用する外線グループ番号を設定 ※「0」を設定するとボイスメールは発呼できなくなり、着信通知機能は動作しません。	IN
ISDN発番号設定	ダイヤル番号, *, # （最大16桁）	－	ISDN回線で発信時の、発信者番号を設定	IN
呼出間隔（内線）	1～30（分）	10	内線呼出時の呼出間隔時間を設定	IN
呼出間隔（外線）	1～30（分）	10	外線呼出時の呼出間隔時間を設定	IN
最大呼出回数（内線）	1～100（回）	3	内線呼出時の最大呼出回数を設定	IN
最大呼出回数（外線）	1～100（回）	3	外線呼出時の最大呼出回数を設定	IN

■ 外線留守録動作設定 - PRG 40-06 -

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
動作モード	0：留守番録音動作 1：未使用	0	留守番録音をするか、しないかを設定	IN
送出メッセージ番号	0～48	0	ボイスメール応答時に送出するVRSメッセージ番号を設定 ※「0」を設定すると固定メッセージを送出します。	
登録用メールボックス番号	0～300	0	外線留守番ボックス用のメッセージボックス番号を設定 ※ 未設定の場合は、相手からのメッセージを録音できません。	

■ その他の設定

次の設定は、ボイスメールを運用する際、必要に応じて設定します。
詳しくは、販売店にご相談ください。

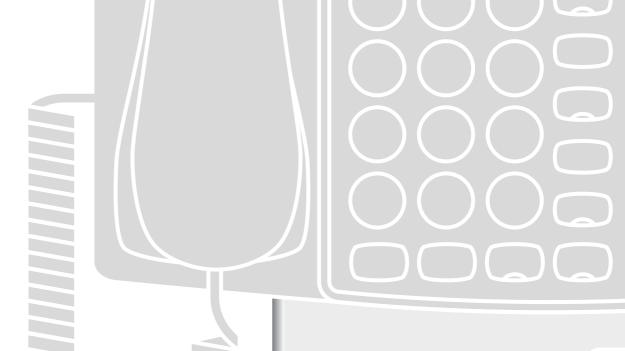
設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

PRG番号	設定項目	概　要	設定者レベル
10-01	時計カレンダー設定	ガイダンスに送出される日時の設定	SA
10-07	通話録音用リソース指定	通話録音用に会議リソースを確保するための通話録音数の設定	IN
11-12-39	ボイスメールセンター呼出	ボイスメールセンターにアクセスする番号を設定（初期値：839）	IN
12-01	運用モード機能設定	システムの運用モードの切替方法の選択（外線留守番サービス利用時）	IN
12-02	自動運用モード切替の時間割設定	自動切替運用モードの1日のパターンの設定（外線留守番サービス利用時）	SA
12-03	運用モードの週間スケジュール設定	運用モードの週間スケジュールの設定（外線留守番サービス利用時）	SA
12-04	運用モードの特定日スケジュール設定	運用モードの年間スケジュールの設定（外線留守番サービス利用時）	SA
14-09	外線ごとの通話録音先設定	「通話録音先内線番号」「自動通話録音」「録音先ボックスの指定」「発信時の自動通話録音」の設定	IN
15-07	多機能電話機の機能ボタン設定	「メールボックス」「ボイスメールサービス」「通話録音サービス」「留守番電話」「留守番応答メッセージ切替」の機能ボタンの設定	IN
15-12	電話機ごとの通話録音先設定	「通話録音先内線番号」「自動通話録音」「録音先ボックスの指定」「発信時の自動通話録音」の設定	IN
22-05	一般着信の着信先設定	ボイスメールを選択（外線留守番サービス利用時）	IN
22-07	DIL着信の着信先設定	着信させる内線番号の設定（内線留守番サービス利用時）	IN
22-08	未応答着信時の着信先設定	ボイスメールを選択（外線留守番サービス利用時）	IN
22-09	NTTダイヤルイン基本データ設定	「サブアドレス着信モード」で着信させる内線番号の設定（内線留守番サービス利用時）	IN

PRG 番号	設定項目	概　要	設定者 レベル
22-11	ダイヤルイン変換テーブルデータ設定	「第1転送先指定」「第2転送先指定」でボイスメールを選択（外線留守番サービス利用時）	IN
22-12	ダイヤルイン変換テーブルエリアごとの転送先設定	ボイスメールを選択	IN
25-01	DID／DISAラインごとの基本データ設定	DID／DISA利用時の基本設定（内線留守番サービス利用時）	IN
25-03	DID／DISA誤ダイヤル時の着信先設定	ボイスメールを選択	IN
25-04	DID／DISA未応答・話中時の転送先設定	ボイスメールを選択	IN
30-03	DSS コンソールのボタン／ディスプレイボードのランプ設定	「メールボックス」「ボイスメールサービス」「通話録音サービス」「留守番電話」「留守番応答メッセージ切替」の機能ボタンの設定	IN

メールボックス管理シート

音声サービスセンター呼出番号	内線	
	外線	

ボックスNo.	氏　名	ボックス番号	パスワード
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

システムの運用例

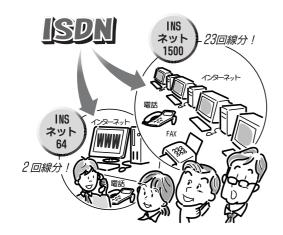
ISDN 回線を利用する

ISDN回線（INSネット64またはINSネット1500）を、本システムに収容し、利用することができます。

INSネット1500は、NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合のみ、利用できます。
MBU-S1制御ユニットの場合は利用できません。

ISDN 回線の利用例

INS ネット 64 ／ INS ネット 1500

ISDN回線を利用すると、1回線でINSネット64の場合は2回線分、INSネット1500の場合は23回線分の外線を収容することができます。また、ISDN回線を利用した、高速インターネット通信をも実現します。

ISDN回線を収容するには、NTT東日本またはNTT西日本との契約と、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ISDN 回線でのかけかた

通常の発信／サブアドレス指定発信

ISDN回線の場合には、電話番号のあとに#を押してかけます。

■ デジタル多機能電話機の場合

1 発信を押す

2 電話番号を押す

3 #を押す

4 相手が出たら、通話する

■ 一般電話機の場合

1 受話器を上げる

2 0を押す

0は、外線発信番号です。
“ツー”という音が聞こえます。

3 電話番号を押す

4 #を押す

5 相手が出たら、通話する

電話がかかるのが遅い

電話番号のあとに # を押し忘れていませんか?電話番号のあとには#を押すようにしてください。

どうして#を押すの？

一般回線では、電話番号などを押すと、そのつど1番号ずつ回線に送出されますが、ISDN回線では全ての電話番号が押されたことを確認してから、まとめて回線に送出されます。電話番号が全て押されたかどうかは、前の番号を押してからの経過時間で判断するため、番号が送出されるまでに時間がかかってしまいます。この時間を短縮するために、#を押します。
DP(ダイヤルパルス)式の一般電話機の場合は、工事段階で設定した時間が経過すると、番号が送出されます。

■ 相手の端末に直接かける - サブアドレス指定発信 -

相手がISDN回線でサブアドレスを使用している場合、相手の電話機に直接かけることができます。

1 （発信）を押す

2 接続先電話番号を押す

3 ＊を押す

＊は、接続先電話番号とサブアドレスの区切り記号です。

4 サブアドレスを押す

5 ＃を押す

6 相手が出たら、通話する

接続先電話番号とサブアドレスの桁数

入力できる桁数は、それぞれ次のとおりです。
- 接続先電話番号 ：最大32桁
- サブアドレス ：最大19桁

サブアドレスってなに？

ISDN回線に接続された電話機（端末）に、直接電話をかけるための子番号です。この子番号のことをサブアドレスといいます。サブアドレスをつけておくと、ダイヤルイン着信のように、着信先を特定することができます。内線番号をサブアドレスとして使うこともできます。

発信規制や料金管理を行う場合

発信規制／料金管理の利用

ISDN回線を利用していても、一般回線と同じように、発信規制や料金管理を利用することができます。
- 発信規制
  一般回線と同じように、発信規制ができます。
- 料金管理
  一般回線と同じように、料金管理ができます。通話料金の集計では、ISDN回線からの料金情報と本システムの料金管理機能のどちらを使用するかを工事段階で設定できます。詳しくは、販売店にご相談ください。

ISDN 付加サービスを利用する

発信者番号通知

ISDNの付加サービスを利用するには、電話番号を通知してかける必要があります。INSナンバー・ディスプレイの契約内容をご確認の上、必要に応じて電話番号を通知する操作をしてください。ナンバー・ディスプレイについては、「ナンバー・ディスプレイ」（⇒P.5-10）を参照してください。

どうして電話番号を通知するの？

ISDNの付加サービスを利用する場合、サービスの設定変更や開始・停止を電話で操作します。このとき、NTT側では、通知される電話番号を元に、発信者の確認をします。このため、電話番号が通知されなかったり、違う番号が通知されたりすると、操作ができません。システムに複数の外線を収容している場合には、正しい番号が通知される外線を使って操作する必要があります。詳しくは、販売店にご確認ください。

利用できるサービスについて

ISDN 付加サービス

ISDN回線を収容すると、次の付加サービスを利用することができます。ISDN回線の契約および回線使用料とは別に、契約や利用料金が必要な機能もあります。詳しいサービス内容や契約の方法などについては、NTT東日本またはNTT西日本にご確認ください。
- i・ナンバー
- INSテレホーダイ
- INSナンバー・ディスプレイ
- INSナンバーリクエスト
- INSボイスワープ
- INSボイスワープセレクト
- INS #ダイヤルサービス
- INSダイヤルインサービス
- INSでんわ会議サービス
- INSでんわばんサービス
- 発信者番号通知サービス
- INSフレックスホン　通信中転送
- INSメッセージインサービス
- 料金情報通知サービス
- ネーム・ディスプレイ（漢字表示電話機のみ）

ISDN付加サービスを利用するために

- バージョン4以降の場合
  前ページのISDN付加サービスの設定を、システム内の電話機で変更できるよう、《スティミュラスプロトコル手順》に対応しています。
- バージョン4未満の場合
  ＃を押す代わりに登録（キーパッドファシリティ）ボタンを押して、各種設定を行います。ただし、登録（キーパッドファシリティ）ボタンを割り付けた電話機では、＃による操作ができません。

詳しくは、販売店にご相談ください。

本書に記載されていない機能を設定する場合

- バージョン4以降の場合
  ガイダンスに従って指定番号を押したあと、＃を押してください。
- バージョン4未満の場合
  登録（キーパッドファシリティ）ボタンを押してください。指定の番号を入力できる状態のときは、登録（キーパッドファシリティ）ボタンが赤く点灯しています。指定の番号を入力したあと、登録（キーパッドファシリティ）ボタンを押すと、ランプは消灯します。

INS フレックスホン　通信中転送を利用する

INSフレックスホン　通信中転送は、通話中の電話を別の外線に転送するサービスです。

1. Aさんと通話中
2. （通信中転送ボタン）を押す
   今まで通話をしていたAさんは保留になります。
3. Bさんの電話番号を押す
4. #を押す
5. 転送先のBさんに電話を転送することを伝える
6. 転送を押す
7. 受話器を戻す

前の相手との通話に戻りたい

上記の手順6で、転送ボタンの代わりに通信中転送ボタンを押すとBさんは保留になり、Aさんとの通話に戻ります。もう一度、通信中転送ボタンを押すとAさんは保留になり、Bさんとの通話に戻ります。

INS ナンバーリクエストを利用する

INSナンバーリクエストは、電話番号を通知しないでかけてきた相手に、電話番号を通知してかけ直すように音声で伝えるサービスです。

■ 開始する

1. ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
2. 受話器を上げる
3. ①④⑧#を押す
   ガイダンスが聞こえます。
4. ①を押す
5. #を押す
   ガイダンスが聞こえます。
6. 受話器を戻す

これで、INSナンバーリクエストが開始できました。

■ 停止する

1. ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
2. 受話器を上げる
3. ①④⑧#を押す
   ガイダンスが聞こえます。
4. ⓪を押す
5. #を押す
   ガイダンスが聞こえます。
6. 受話器を戻す

これで、INSナンバーリクエストが停止できました。

INS ボイスワープを利用する

INSボイスワープは、かかってきた電話を、あらかじめ指定した電話番号に転送するサービスです。

■ 転送を開始する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②①を押す

4 転送モードパターンを選択するため①～④のいずれかを押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 受話器を戻す

これで、INS ボイスワープの転送が開始できました。

■ 転送を停止する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②⓪#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 受話器を戻す

これで、INS ボイスワープの転送が停止できました。

■ 転送先を登録する

《 転送先リスト 0 に登録する場合 》

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②②#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 登録したい電話番号を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 受話器を戻す

これで、転送先リスト0に転送先が登録できました。

《 転送先リスト１～４に登録する場合 》

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。
登録(キーパッドファシリティ)ボタンが赤点灯します。

4 ⓪を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 転送先を登録したい転送先リスト番号①～④のいずれかを押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 登録したい電話番号を押す

9 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

10 受話器を戻す

これで、転送先リスト1～4に転送先が登録できました。

■ 転送先を指定する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ①を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 転送先リスト番号⓪～④のいずれかを押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、転送先が指定できました。

■ 転送通知用トーキを指定する

《 パターン指定を利用しない場合 》

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ②を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 ⓪を押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、転送通知用トーキが指定できました。

《 パターン指定を利用する場合 》

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ②を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 指定したいパターン番号①〜③のいずれかを押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、転送通知用トーキが指定できました。

■ 登録内容を確認する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④②⑧#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 確認内容を指定するために⓪〜③のいずれかを押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 受話器を戻す

これで、INSボイスワープの登録内容が確認できました。

INSボイスワープセレクトを利用する

INSボイスワープセレクトは、あらかじめ電話番号を登録している相手からかかってきた電話を、指定した電話番号に転送するサービスです。

■ 登録リストに電話番号を登録する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ②を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 登録する電話番号を押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、登録リストに電話番号が登録できました。

■ 登録リストの電話番号を確認する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ⑧を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 受話器を戻す

これで、登録してある電話番号が確認できました。

■ 登録リストから電話番号を削除する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ⑨を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 削除する電話番号を押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、登録リストから電話番号が削除できました。

■ セレクト機能の利用条件を指定する

《 登録番号転送に設定する場合 》

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ③を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 ①を押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、セレクト機能を登録番号転送に設定できました。

《 登録番号着信に設定する場合 》

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ③を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 ②を押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、セレクト機能を登録番号着信に設定できました。

■ セレクト機能を解除する

1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す

2 受話器を上げる

3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。

4 ③を押す

5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

6 ⓪を押す

7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

8 受話器を戻す

これで、セレクト機能が解除できました。

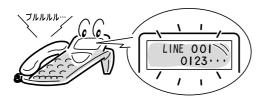
NTTのいろいろなサービスを利用する

NTT東日本またはNTT西日本の、いろいろなサービスを利用できます。

ナンバー・ディスプレイ

発信者番号通知

電話をかけてきた相手の電話番号を、表示器に表示して、電話に出る前に相手を確認することができます。また、共通短縮ダイヤルに登録されている相手からの着信の場合には、名前を表示することもできます。

- ナンバー・ディスプレイを利用するには、NTT東日本またはNTT西日本との契約と、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 電話をかけてきた相手の電話番号や名前を表示させる電話機は、工事段階で設定します。なお、一般着信時や個別着信時に加え、仮想内線着信時にも、電話番号や名前を表示させることができます（Aspireはバージョン2以降で有効)。

相手の名前や電話番号が表示されるのは、着信鳴動設定された電話機だけです。

■ ナンバー･ディスプレイの表示について

マルチラインデジタルコードレス電話機（DX2D-6CPS-E)の場合、個別着信のときだけ、ナンバー・ディスプレイ表示されます。一般着信のときは、応答後にナンバー・ディスプレイ表示されます。

電話をかけてくる相手の電話番号が、次のように表示されます。

《 相手の電話番号を表示する 》

デジタル多機能電話機の場合

```
    LINE 001
                  0312345678
```

デジタルコードレス電話機の場合

```
着信  0312345678
```

《 相手の名前と電話番号を表示する 》

・共通短縮番号に電話番号と名前が登録されている場合

デジタル多機能電話機の場合

```
    LINE 001
XX社 鈴木          0312345678
```

デジタルコードレス電話機の場合

```
着信   xx社 鈴木
```

《 相手の電話番号を表示できない場合の理由を表示する 》

・発信者が番号通知を希望していない場合

デジタル多機能電話機の場合

```
    LINE 001
非通知
```

デジタルコードレス電話機の場合

```
非通知
```

・公衆電話からの場合

デジタル多機能電話機の場合

```
    LINE 001
公衆電話
```

デジタルコードレス電話機の場合

```
公衆電話
```

・ネットワーク条件などで、番号を通知できない場合

デジタル多機能電話機の場合

```
    LINE 001
表示圏外
```

デジタルコードレス電話機の場合

```
表示圏外
```

相手の電話番号を表示できない理由について

この理由表示は、NTT東日本またはNTT西日本とナンバー・ディスプレイ契約をしている場合のみ、表示されます。

《 着信中や保留中に相手の電話番号を表示する 》

※ バージョン5以降で有効

1 外線着信中または保留中

2 (特殊)を押す

3 ( )(外線ボタン）を押す

着信中または保留中外線の相手先番号などが表示されます。

■ 相手の名前を表示するには

本システムの共通短縮ダイヤルに、電話番号と名前を登録してある相手から電話がかかってくると、相手の名前が表示されます。

相手の電話番号は､市外局番から登録してください

短縮ダイヤルに市外局番が登録されていないと、該当する名前が表示できません。自分と同じ市外局番の場合でも、必ず市外局番から登録してください。

■ 相手から通知された番号にかけるには
- 着信履歴 -

不在時に、電話番号を通知してかけてきた相手の電話番号を、50件（バージョン5未満では16件）まで記憶しています。この番号を利用して、電話をかけることができます。

1 表示器に“着信あり”が表示中

着信あり

2 “履歴”のソフトキーを押す

3 “着信”のソフトキーを押す

着信履歴をさかのぼる、または戻すには、“↓”または“↑”のソフトキーを押します。

4 かけたい相手が表示されたら、受話器を上げる

5 相手が出たら、通話する

着信履歴をよく利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信履歴ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。着信履歴ボタンのランプは、次のように切り替わって状態を表示します。
- 新しい着信履歴あり　　：赤点滅
- 確認済みの着信履歴あり：赤点灯
- 着信履歴を削除　　　　：消灯

詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

着信履歴を削除したい

上記の操作で削除したい相手を表示させ、“削除”のソフトキーを押したあと、“1件”のソフトキーを押します。

応答できた相手の電話番号も着信履歴として残したい

不在中にかかってきた相手の電話番号に加え、在席中で応答できた相手の電話番号も、着信履歴として残すことができます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 漢字表示電話機（電子電話帳機能付／センター電話帳機能付）を使っている場合

- 電子電話帳使用時の発信者名称の表示について
  電子電話帳使用時に、発信者名称を表示する条件と優先順位は、次のとおりです。

優先順位	表示条件	備考
1	「ナンバー・ディスプレイ」を契約していて、電子電話帳に、該当する電話番号と相手の名前が登録されている	一般着信、個別着信にのみ適用されます。仮想内線着信、ACD着信の場合は、適用されません。
2	「ナンバー・ディスプレイ」と「ネーム・ディスプレイ」を契約している	一般着信、個別着信、仮想内線着信、ACD着信に適用されます。
3	「ナンバー・ディスプレイ」を契約していて、共通短縮ダイヤルに、該当する電話番号と相手の名前が登録されている	一般着信、個別着信、仮想内線着信、ACD着信に適用されます。

- センター電話帳使用時の発信者名称の表示について

優先順位	表示条件
1	「ナンバー・ディスプレイ」と「ネーム・ディスプレイ」を契約している
2	「ナンバー・ディスプレイ」を契約していて、センター電話帳に、該当する電話番号と相手の名前が登録されている

優先順位	表示条件
3	「ナンバー・ディスプレイ」を契約していて、共通短縮代ダイヤルに、該当する電話番号と相手の名前が登録されている

■ 発信者番号に応じて着信先を変える

- 識別着信 -

※ バージョン5以降で有効

相手から通知されてきた電話番号に応じて、着信先を指定しておくことができます。また、着信音の鳴り分けも設定できます。

識別着信は、NTTダイヤルイン／DID／DISAの機能よりも優先的に動作します。識別着信を設定した場合、電話番号が登録された相手先からNTTダイヤルイン／DID／DISAで電話がかかってきても、すべて識別着信となります。

《 着信先と着信音を指定する 》

1 短縮番号への登録の手順1～手順6を操作して、相手の電話番号と名前を入力する

詳しくは、「短縮番号を使ってかける」の「登録のしかた」（⇒P.1-18）を参照してください。

2 (転送)を押す

```
短縮 0100          田中
転送ﾓｰﾄﾞ(0-2)?0-
```

3 転送モードを入力する

次のいずれかを押します。

- 0 ：工事段階で設定した着信先に着信する
  “0”を入力した場合は、手順6に進みます。
- 1 ：指定した内線番号に着信する

```
短縮0100 ﾓｰﾄﾞ1      着信先
```

- 2 ：指定した着信グループに着信する

```
短縮0100 ﾓｰﾄﾞ2      着信先
```

4 手順3で“1”または“2”を押した場合は、着信先を指定する

- “1”を入力した場合： 内線番号を入力する
- “2”を入力した場合： 着信グループ番号を入力する

5 (保留)を押す

```
短縮0100 ﾓｰﾄﾞX
着信音(0-9)?0-
```

6 着信音（0～9）を指定する

セット音が聞こえます。

```
短縮 登録
```

7 (スピーカ)を押す

これで、着信先と着信音が設定できました。

■ 発信者番号に対して着信を拒否する

- 識別着信拒否 -

※ バージョン5以降で有効

相手から通知されてきた電話番号に対して、着信を拒否することができます。

《 識別着信拒否を設定する 》

1 (スピーカ)を押す

2 ⊛③④を押す

＊34は、発番号による着信拒否設定の特番（初期値）です。

```
発番号通知拒否 開始
```

3 (スピーカ)を押す

これで、識別着信拒否が設定できました。

識別着信拒否設定をよく利用する方へ

電話機のファンクションボタンに発番号による着信拒否設定ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。発番号による着信拒否設定ボタンのランプは、次のように切り替わって状態を表示します。

- 識別着信拒否を設定中：遅い赤点滅
- 識別着信拒否を解除中：消灯

詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

《 識別着信拒否を解除する 》

1 (スピーカ)を押す

2 ⊛③④を押す

＊34 は、発番号による着信拒否設定の特番（初期値）です。

発番号通知拒否　解除

3 (スピーカ)を押す

これで、識別着信拒否が解除できました。

《 着信を拒否する電話番号を登録する 》

1 (スピーカ)を押す

2 ⊛③③を押す

＊33 は、発番号による着信拒否登録の特番（初期値）です。

```
発番号拒否 ﾒﾆｭｰ

 登録   解除
```

3 “登録”のソフトキーを押す

```
発番号拒否 登録 XXX

 登録
```

“空きメモリ 無し”と表示された

発番号による着信拒否の電話番号を登録するエリアが一杯です。新たに登録するためには、不要な登録を削除してください。

4 登録したい電話番号を押す

```
発番号拒否 登録 XXX
              0312345678
 登録
```

5 “登録”のソフトキーを押す

これで、着信を拒否する電話番号が登録できました。

《 着信履歴を着信拒否に登録する 》

1 “履歴”のソフトキーを押す

```
履歴 ﾒﾆｭｰ

 発信   着信
```

2 “着信”のソフトキーを押す

```
01:             0312345678
                2-1  10:10
 ↑      ↓    登録   削除
```

3 着信拒否に登録したい電話番号を表示させる

“↑”または“↓”のソフトキーで、履歴をスクロールできます。

4 “登録”のソフトキーを押す

```
01:             0312345678
                2-1  10:10
 短縮               拒否
```

5 “拒否”のソフトキーを押す

“空きメモリ 無し”と表示された

発番号による着信拒否の電話番号を登録するエリアが一杯です。新たに登録するためには、不要な登録を削除してください。

これで、着信履歴を着信拒否に登録できました。

《 着信拒否に登録した電話番号を削除する 》

1 (スピーカ)を押す

2 ㊀③③を押す

＊33 は、発番号による着信拒否登録の特番（初期値）です。

発番号拒否 ﾒﾆｭｰ
登録　解除

3 “検索”のソフトキーを押す

発番号拒否 検索
↑　↓　削除

4 削除したい電話番号の先頭の数桁を入力する

入力した番号で始まる電話番号が、検索結果として表示されます。

5 削除したい電話番号を表示させる

“↑”または“↓”のソフトキーまたはボリュームボタンで、登録内容をスクロールできます。

“リストなし”と表示された

入力した番号で始まる電話番号が登録されていません。

6 “削除”のソフトキーを押す

これで、着信拒否に登録されていた電話番号が削除できました。

■ 発信者番号が非通知の着信を拒否する

- 非通知着信拒否 -

※ バージョン5以降で有効

相手からの発信者番号通知が“非通知”の場合には、その着信を拒否することができます。

《 非通知着信拒否モードを開始する 》

1 (スピーカ)を押す

2 ㊀③②を押す

＊32は、発番号非通知拒否設定の特番（初期値）です。

発番号非通知拒否 開始

3 (スピーカ)を押す

これで、非通知着信拒否モードが開始できました。

《 非通知着信拒否モードを終了する 》

1 (スピーカ)を押す

2 ㊀③②を押す

＊32は、発番号非通知拒否設定の特番（初期値）です。

発番号非通知拒否 解除

3 (スピーカ)を押す

これで、非通知着信拒否モードが終了できました。

非通知着信拒否設定をよく利用する方へ

電話機のファンクションボタンに発番号非通知拒否設定ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。発番号非通知拒否設定ボタンのランプは、次のように切り替わって状態を表示します。

・非通知着信拒否を設定中：遅い赤点滅

・非通知着信拒否を解除中：消灯

詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

《 非通知の相手に流すメッセージを録音する 》

発信者に対して、電話番号を通知してかけ直すように案内するメッセージを録音します。録音のしかたは、オートアテンダントメッセージと同じです。

詳しくは、「オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去」（⇒P. 5-28）を参照してください。

マイライン

電話会社選択サービス／電話会社固定サービス

電話会社選択サービス（マイライン）および電話会社固定サービス（マイライン・プラス）を契約している回線を、本システムに収容することができます。

・マイライン
　電話をかけるときに選んだ外線を使って発信します。
・マイライン・プラス
　あらかじめ申し込んである電話会社の回線を常に使って発信します。

マイライン、マイライン・プラスを利用するには、電話会社への申し込みと、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

NTT ダイヤルインを利用する

NTTダイヤルインを利用すると、各個人の電話機や部署に、直接電話をかけてもらうことができます。

NTTダイヤルインを利用するには、NTT東日本またはNTT西日本との契約と、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

局側から通知される呼番号に対して、時間帯と着信動作を10パターンまで設定できます。また、転送先として、オートアテンダント（DISA）が設定された外線や、外線留守番サービスが設定された外線を設定することもできます。詳しくは、販売店にご相談ください。

※ バージョン5以降で有効

NTT ダイヤルインの着信方式

個別着信方式／仮想内線着信方式

次のような着信先を選ぶことができます。

・1台の電話機に着信させる<個別着信方式>
NTTダイヤルイン番号にかかってきた電話を、あらかじめ指定した1台の電話機に着信させます。

・複数の電話機に着信させる<仮想内線着信方式>
NTTダイヤルイン番号にかかってきた電話を、仮想内線に着信させます。仮想内線とは、各電話機に割り付けられている内線番号とは別に、複数の電話機が共有できる内線番号です。この仮想内線に着信すると、部署内の電話機全てに着信させることができます。

この仮想内線の内線番号は、デジタル多機能電話機のファンクションボタンに割り付けて使用します。

■ 1台の電話機に着信させる受けかた

- 個別着信方式 -

1 NTTダイヤルイン番号に着信中

```
   LINE 001
着信
```

2 受話器を上げる

```
   LINE 001   00:10
応答
```

3 相手と通話する

一般電話機で受けたい

NTTダイヤルイン着信中に受話器を上げると、受けられます。

■ 複数の電話機に着信させる受けかた

- 仮想内線着信方式 -

1 NTTダイヤルイン番号に着信中

2 受話器を上げる

3 赤点滅中の仮想内線ボタンを押す

```
   LINE 001
応答
```

4 相手と通話する

一般電話機で受けたい

次の操作で受けることができます。
NTTダイヤルイン着信中 → 受話器を上げる → [826] → [着信中の仮想内線が所属する内線グループ番号] → 通話

NTT ダイヤルインの着信転送
内線グループ毎の自動転送／内線グループ毎の不応答転送

応答できないときや、就業時間外などにかかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた電話機に転送したり、着信を拒否したりすることができます。

・着信したら、すぐに転送する<自動転送>
NTTダイヤルイン着信を、すぐに転送します。

・一定時間応答しないと転送する<不応答転送>
NTTダイヤルイン着信に、一定時間応答しないと転送します。

自動転送と不応答転送は､いずれか一方だけ設定できます

1つのNTTダイヤルイン番号に対し、自動転送と不応答転送を同時に設定することはできません。もし、両方を設定した場合は、あとから設定した方が有効になります。

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 自動転送の設定のしかた
- 内線グループ毎の自動転送 -

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨②⑤を押す

925は、内線グループ毎の自動転送設定の特番（初期値）です。

3 転送元の内線グループ番号を押す

```
転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01
          転送 開始
```

4 (スピーカ)を押す

これで、NTT ダイヤルイン着信の自動転送を設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信自動転送を設定中

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨②⑥を押す

926は、内線グループ毎の自動転送解除の特番（初期値）です。

4 転送元の内線グループ番号を押す

```
転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01
          転送 解除
```

5 (スピーカ)を押す

これで、NTT ダイヤルイン着信の自動転送が解除できました。

よく自動転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに内線グループ毎の自動転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15) を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。
- 設定するとき：
  受話器を上げる → [925] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す
- 解除するとき：
  設定中 → 受話器を上げる → [926] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

内線グループ番号について

内線グループ番号は、販売店にご確認ください。
- NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合 ：2桁
- MBU-S1制御ユニットの場合 ：1桁

■ 不応答転送の設定のしかた

- 内線グループ毎の不応答転送 -

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨②⑧を押す

928 は、内線グループ毎の不応答転送設定の特番（初期値）です。

3 転送元の内線グループ番号を押す

不応答転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01 転送 開始

4 (スピーカ)を押す

これで、NTT ダイヤルイン着信の不応答転送が設定できました。

転送元の内線グループ内の電話機が全て通話中の場合

一定時間を待たずに、すぐ転送されます。

■ 解除のしかた

1 着信不応答転送を設定中

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨②⑨を押す

929 は、内線グループ毎の不応答転送解除の特番（初期値）です。

4 転送元の内線グループ番号を押す

不応答転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01 転送 解除

5 (スピーカ)を押す

これで、NTT ダイヤルイン着信の不応答転送が解除できました。

よく不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに内線グループ毎の不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。

- 設定するとき：
  受話器を上げる → [928] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す
- 解除するとき：
  設定中 → 受話器を上げる → [929] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

内線グループ番号について

内線グループ番号は、販売店にご確認ください。

- NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合 ：2桁
- MBU-S1制御ユニットの場合 ：1桁

■ 転送先の登録のしかた

- 内線グループ毎の自動/不応答転送先登録 -

自動転送と不応答転送の転送先は、1つのNTTダイヤルイン番号に対し、共通で1箇所だけ登録できます。転送方法だけを使い分けてください。

- 特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 時間帯のモードは、工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨②⑦を押す

927は、内線グループ毎の自動／不応答転送先登録の特番（初期値）です。

3 転送元の内線グループ番号を押す

転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01 ﾓｰﾄﾞ:1-8 ?

4 自動／不応答転送を行いたい時間帯の番号を押す

時間帯は、1～8の中から選ぶことができます。

転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01 ﾓｰﾄﾞ1

5 転送先の番号を押す

転送 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01 ﾓｰﾄﾞ1 880

6 (保留)を押す

セット音が聞こえます。

7 (スピーカ)を押す

これで、転送先が登録できました。

転送先の番号を変更したい

新しい番号を登録すると、古い番号は消去され、新しい番号におき替わります。

一般電話機で登録したい

一般電話機では登録できません。デジタル多機能電話機から登録してください。

NTT ダイヤルインの着信拒否

内線グループ着信拒否

特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨③⓪を押す

930は、内線グループ毎の着信拒否設定の特番（初期値）です。

3 着信拒否を行う内線グループ番号を押す

```
着信拒否 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01
                開始
```

4 (スピーカ)を押す

これで、NTT ダイヤルインの着信拒否が設定できました。

■ 解除のしかた

1 着信拒否を設定中

2 (スピーカ)を押す

3 ⑨③①を押す

931は、内線グループ毎の着信拒否解除の特番（初期値）です。

4 着信拒否を解除する内線グループ番号を押す

```
着信拒否 ｸﾞﾙｰﾌﾟ01
                解除
```

5 (スピーカ)を押す

これで、NTT ダイヤルインの着信拒否が解除できました。

よく着信拒否を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに内線グループ毎の着信拒否ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。

- 設定するとき：
  受話器を上げる → [930] → [着信拒否を行う内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す
- 解除するとき：
  設定中 → 受話器を上げる → [931] → [着信拒否を解除する内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

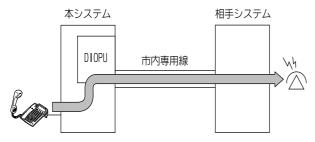
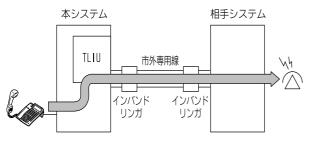
内線グループ番号について

内線グループ番号は、販売店にご確認ください。

- NTCPU-A2/B2制御ユニットの場合 ：2桁
- MBU-S1制御ユニットの場合 ：1桁

専用線を利用する

市内専用線（LD方式）、市外専用線（OD方式）を利用し、複数のシステムを接続できます。

・市内専用線
- ループダイヤル方式（LD方式）の市内専用線を収容できます。
- 専用線で接続された相手システムの内線を、自システムの内線と同じように呼び出すことができます。

・市外専用線
- アウトバンドダイヤル方式（OD方式）の市外専用線を収容できます。
- 専用線で接続された相手システムの内線を、自システムの内線と同じように呼び出すことができます。

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

通常のかけかた

外線ボタンを使ってかける

設定によって、操作は異なります。詳しくは、販売店にご確認ください。

1. 専用線が収容されている外線ボタンを押す
2. 受話器を上げる
3. 呼び出したい相手の内線番号を押す
4. 相手が出たら、通話する

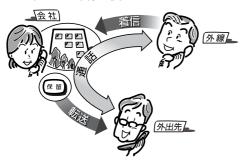
相手の内線番号を押してかける

設定によって、操作は異なります。詳しくは、販売店にご確認ください。

1. 受話器を上げる
2. 呼び出したい相手システムのシステム局番を押す
   各システムに内線番号を分けた場合など、システム局番なしで発信できる場合があります。
3. 内線番号を押す
4. 相手が出たら、通話する

電話を外線に転送する

電話を外線に転送するには、次の2通りの方法があります。

- 外線通話をいったん受けてから転送する<外線手動転送>
  例えば、外出中の人あての電話を受けたとき、その通話をいったん保留にしてから、外出中の人に電話をかけます。用件を伝えたら電話をかけてきた相手と外出先の人の電話を、会社を介してつなぎます。この通話のあいだ、2つの外線を使います。

- 外線からの着信を、そのまま転送する<外線自動転送>
  例えば、就業時間後や休日にかかってきた電話を、自宅の電話に自動で転送します。この通話のあいだ、2つの外線を使います。

- 外線手動転送、外線自動転送を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 外線自動転送の転送先は時間帯によって切り替えることができます。この時間帯のモードは工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

転送したあとの通話は、一定の時間が経過すると自動的に切断されます。これにより、外線が長時間ふさがってしまうことを防ぎます。

外線自動転送のタイミングや転送先を、もっと細かく指定したい

バージョン5以降では、次のように運用できます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 一定時間内に応答しなかったときに転送
  外線からの着信時、最初は一般着信して、一定時間が経過後に外線へ転送することができます。
- 転送先が応答しない場合、別の外線に転送
  外線からの着信を転送後、転送先が一定時間内に応答しなかった場合、さらに別の外線へ転送することができます（ステップ転送）。

手動で転送する

■ 外線への手動転送のしかた - 外線手動転送 -

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

外線通話が共通保留状態になります。
“ツーツー”と、内線発信音が聞こえます。

```
    LINE 001
保留
```

3 (発信)を押す

外線手動転送用の外線が決まっている場合は、その外線ボタンを押してください。

```
    LINE 002
```

4 取り次ぎ先の電話番号を押す

```
    LINE 002
                 09001234567
```

5 相手が出たら、電話を取り次ぐことを伝える

6 (転送)を押す

7 受話器を戻す

これで、外線への手動転送ができました。

一般電話機で操作したい
次の操作で設定または解除できます。
外線と通話中 → フッキングする → [0] → [取り次ぎ先の電話番号] → 用件を伝える → 受話器を戻す

■ 会議通話してから転送する - 会議通話転送 -

1 外線と通話中

```
LINE 001
          0312345678
```

2 (会議)を押す

```
          会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

3 消灯している外線ボタンを押す

4 取り次ぎ先の電話番号を押す

```
LINE 002
         09001234567
```

5 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

6 (会議)を押す

```
          会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ
```

7 (会議)を押す

```
LINE 001     会議 通話
LINE 002
```

8 3人で通話する

9 (転送)を押す

10 受話器を戻す

これで、外線への会議通話転送ができました。

自動で転送する

■ 設定のしかた - 外線自動転送設定 -

1 (スピーカ)を押す

2 ㊀⓪⑥を押す
＊06は、外線毎の自動転送設定の特番（初期値）です。

```
転送 開始 外線No.
```

3 転送用の外線番号を押す

```
転送 外線008
転送 開始
```

4 (スピーカ)を押す

これで、外線自動転送が設定できました。

■ 解除のしかた - 外線自動転送解除 -

1 (スピーカ)を押す

2 ㊀⓪⑦を押す
＊07は、外線毎の自動転送解除の特番（初期値）です。

```
転送 解除 外線No.
```

3 転送用の外線番号を押す

```
転送 外線008
転送 解除
```

4 (スピーカ)を押す

これで、外線自動転送が解除できました。

■ 転送先の登録のしかた - 外線毎の自動転送先登録 -

1 (スピーカ)を押す

2 (＊)(0)(8)を押す

＊08は、外線毎の自動転送先登録の特番（初期値）です。

```
転送 外線No.
```

3 転送用の外線番号を押す

```
転送 外線008
ﾓｰﾄﾞ:1-8 ?
```

4 自動転送を行いたい時間帯の番号を押す

時間帯は、1～8の中から選ぶことができます。

```
転送 外線008 ﾓｰﾄﾞ1
```

5 転送先の電話番号を押す

```
転送 外線008 ﾓｰﾄﾞ1
              09001234567
```

押した番号に応じて表示される

6 (保留)を押す

セット音が聞こえ、手順3の表示に戻ります。
必要に応じて、別の時間帯の番号と転送先を、合計8件まで登録できます。

7 (スピーカ)を押す

これで、外線自動転送の転送先の登録と、転送の設定ができました。

よく外線自動転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに外線毎の自動転送設定ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで転送の設定および解除をすることができます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

外線毎の自動転送設定ボタンを登録すると

ボタンのランプ表示で、外線毎の自動転送の設定／解除の状態がわかります。
- 外線毎の自動転送が設定されているとき　：赤点滅
- 外線毎の自動転送が設定されていないとき：消灯

システムの運用例

ほかの人や仮想の内線番号を使う

本来の内線番号のほかに、次のような内線番号を持つことができます。
・ほかの人の内線番号（実内線番号）
・架空の内線番号（仮想内線）
・内線代表番号（仮想内線）
これらの内線番号は、デジタル多機能電話機やマルチチャンネルデジタルコードレス電話機のファンクションボタンに割り付けて使うことができます。

仮想内線を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

仮想内線の利用例

実内線番号／仮想内線番号

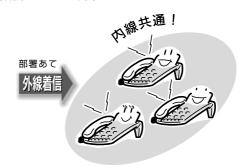
仮想内線ボタンは、次のように利用します。

■ かけかた

自分の電話機からや部署内の電話機からでは、発信を規制されている相手先に電話をかけたいときなどに使います。
・ほかの人の外線を使って電話をかける
ほかの人の内線番号（実内線番号）を割り付けたボタンを押すと、その人の電話機で発信が許可されている相手先に電話をかけることができます。

■ 受けかた - 仮想内線着信への応答 -

ほかの人や部署あての電話を、代理で受けるときなどに使います。部署の内線番号を決めるときは、架空の内線番号を使うことができます。
・ほかの人あての電話を代理で受ける
ほかの人の内線番号（実内線番号）を割り付けたボタンを押すと、その人あての電話に代理で応答することができます。

・部署あての代表番号のように使う
部署内の電話機に、同じ内線番号（仮想内線番号や内線代表番号）の仮想内線ボタンを割り付けておくと、その部署あての着信時には全ての電話機が鳴り、どの電話機からでも応答できるようになります。

仮想内線ボタンを使う

内線呼出／外線発信／内線応答／外線応答／保留

■ 内線へのかけかた - 内線呼出 -

1 仮想内線ボタンを押す

仮想内線ボタンにほかの人の電話機の内線番号が割り付けられている場合、その人の電話機の内線ボタンも赤点灯します。

2 内線番号を押す

呼出	120

3 相手が出たら、通話する

相手の電話機には、電話をかけてきた人の本来の内線番号ではなく、仮想内線番号が発信元として表示されます。

相手先の電話機の表示

着信 ‹‹‹	600

発信元の仮想内線番号

ほかの人の内線番号を使用して発信している間は、その内線番号を使われている人の電話機に“使用中”と表示され、電話がかけられません。

■ 外線へのかけかた - 外線発信 -

1 受話器を上げる

2 仮想内線ボタンを押す

3 ⓪を押す

0は、外線発信番号です。
“ツー”という音が聞こえます。

4 電話番号を押す

5 相手が出たら、通話する

仮想内線ボタンを押すだけで、電話番号を押して電話をかけられるようにしたい

上記手順3を省略することができます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 仮想内線へのかけかた - 仮想内線にかける -

1 受話器を上げる

2 仮想内線番号を押す

3 相手が出たら、通話する

部署あての代表番号として仮想内線を使っている場合

仮想内線ボタンが割り付けられ、着信音指定されている電話機の着信音が鳴ります。

■ 受けかた - 内線／外線応答 -

1 仮想内線に着信中

仮想内線ボタンが赤点滅します。

2 受話器を上げる

3 仮想内線ボタンを押す

4 相手と通話する

■ 保留のしかた - 保留 -

1 仮想内線ボタンを使って通話中

2 （保留）を押す

仮想内線ボタンが緑点滅します。

3 受話器を戻す

これで、通話が保留できました。

保留にした通話を再開したい

仮想内線での通話を保留にすると、仮想内線ボタンが次のように点滅します。

- 保留した人の仮想内線ボタン：緑点滅
- ほかの人の仮想内線ボタン　：赤点滅

通話を再開するときは、点滅中の仮想内線ボタンを押します。

オートアテンダント（VRS）を利用する

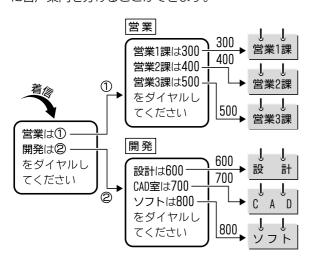
オートアテンダント（DID ／ DISA）の利用例

DID／DISAの外線に電話がかかってきたとき、音声案内を流して、対応することができます。これにより、内線番号案内などを流すことができます。
詳しくは「外線から内線に直接かけてもらう」（⇒右記）を参照してください。

オートアテンダント（DID／DISA）を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

NTCPU-A2またはMBU-S1制御ユニットをご使用の場合は、機能追加工事が必要ですので、販売店にご相談ください。

・内線番号案内を流す
電話をかけてきた相手に、内線番号案内を流します。相手が内線番号を知らなくても、目的の部署にかけてもらえるので、電話受付台が必要なくなります。

・段階を分けて音声案内を流す
電話をかけてきた相手に流す音声案内を、段階分けすることができます。
例えば担当部署が細かく分かれている場合、次のように音声案内を分けることができます。

外線から内線に直接かけてもらう

オートアテンダント（DID／DISA）

社外から各内線に、直接電話をかけてもらうことができます。内線番号には、仮想内線番号や内線代表番号も含まれます。
この機能は、プッシュホンタイプの電話機（トーン信号を送出できる電話機）で利用できます。

■ オートアテンダント（DID）の利用例

- オートアテンダント（DID）-

社外から本システムに電話をかけるときに、直接内線番号を指定してかけてもらうことができます。受付を介さず、直接担当者に電話をかけることができる着信方式です。

1 社外から本システムに電話をかける

2 本システムに電話がつながるとオートアテンダントメッセージが聞こえる

オートアテンダントメッセージは最大2分まで自由に録音できます。

3 メッセージに従い、電話をかけたい相手の内線番号を押す

4 内線につながる

次のようなときは、通常の呼び出しに切り替えたい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
・内線の相手が電話に出ない
・内線の相手が通話中
・内線番号を間違えた
・内線番号を押さなかった

■ オートアテンダント（DISA）の利用例

- オートアテンダント（DISA）-

利用者を限定するために、ユーザー IDを設定します。ID番号を入力することによって、本システムが利用者を識別します。また、本システムを介して、専用線（公専接続）や公衆回線（公公接続）にかけるときにも使用します。

ユーザー IDを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 社外から本システムに電話をかける

2 本システムに電話がつながると“プッププッ…”という音が聞こえる

3 ユーザー IDを入力する

4 ユーザー IDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

オートアテンダントメッセージは最大 2 分まで自由に録音できます。

5 メッセージに従い、電話をかけたい相手の内線番号を押す

6 内線につながる

ユーザー IDの入力を間違えたとき

ユーザー IDの入力を3回続けて間違えると、電話が自動的に切れます。このときは、もう一度かけ直してください。

内線番号のほかに使える番号

次の番号を使えます。

- 本システムを介して外線にかけるための特番
- 本システムを介して専用線にかけるための特番
- 共通短縮ダイヤル発信の特番
- 内線グループ呼出や構内放送の特番
- 自分の電話機などに着信転送を設定／解除するための特番
- 通話割り込みの特番

■ オートアテンダント(DID／DISA)着信の受けかた

1 外線から着信中

着信中の電話機の外線ボタンが緑点滅します。

2 受話器を上げる

3 緑点滅している外線ボタンを押す

4 相手と通話する

一般電話機で受けたい

次の操作で受けることができます。

オートアテンダント（DID／DISA）着信中 → 受話器を上げる → 通話

■ オートアテンダント(DID)を利用した外出先からのかけかた

1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける

オートアテンダント（DID）が設定された回線の電話番号にかけます。

2 本システムにつながると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

3 メッセージに従い、直接かけたい内線番号を押す

4 相手が出たら、通話する

オートアテンダント(DID)を利用できる電話機

プッシュホン（PB）式の電話機のみ、オートアテンダント（DID）を利用することができます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線代表番号を押した場合

内線グループ内で、着信優先順位が1番高い電話機だけが鳴ります。そのあとは、優先順位に従って、鳴る電話機が1台ずつ切り替わります。誰も電話に出ないときは、通常の着信に切り替わります。

内線番号がわからない、またはダイヤル（DP）回線からかけた場合

内線番号を押さずに待っていると、一定時間後に受付を呼び出します。ただし、受付が応答しないまま一定時間が経過すると、自動的に電話が切れます。

■ オートアテンダント(DISA)を利用した外出先からのかけかた

1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける

オートアテンダント（DISA）が設定された回線の電話番号にかけます。

2 本システムにつながると、“プップップッ…”という音（セカンドダイヤルトーン）が聞こえる

3 ユーザーIDを押す

4 ユーザーIDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

5 メッセージに従い、直接かけたい内線番号を押す

6 相手が出たら、通話する

オートアテンダント（DISA）を利用できる電話機

プッシュホン（PB）式の電話機のみ、オートアテンダント（DISA）を利用できます。

本システムを介して別の外線にかけたい

上記手順5で外線発信番号（例えば“0”など）を押してから電話番号を押すと、本システムを介して外線に電話をかけることができます。

■ 外出先から着信転送を設定する

この操作は、オートアテンダント（DISA）でのみ行うことができます。

1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける

オートアテンダント（DISA）が設定された回線の電話番号にかけます。

2 本システムにつながると“プップップッ…”という音（セカンドダイヤルトーン）が聞こえる

3 ユーザーIDを押す

4 ユーザーIDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

5 ⑨⓪①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

6 転送元の内線番号を押す

7 ①を押す

8 転送先の内線番号を押す

9 “ピッ”という確認音が聞こえる

10 電話を切る

これで、外線から着信転送の設定ができました。

DISAで設定できる転送

次の転送を設定することができます。設定または解除の特番については、「席を外すとき・電話に出られないとき」（⇒P.1-38）を参照してください。

- 着信転送
- 不在着信転送
- 不応答転送
- 話中転送

システムの運用例

■ 外出先から着信転送を解除する

この操作は、オートアテンダント（DISA）でのみ行うことができます。

1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント（DISA）が設定された回線の電話番号にかけます。

2 本システムにつながると“プップップッ…”という音（セカンドダイヤルトーン）が聞こえる

3 ユーザー IDを押す

4 ユーザー IDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

5 ⑨⓪①を押す
901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

6 転送元の内線番号を押す

7 ⓪を押す

8 “ピッ”という確認音が聞こえる

9 電話を切る

これで、外線から着信転送の解除ができました。

オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去

VRSメッセージ編集

電話をかけてきた相手に流す音声案内を録音・再生・消去します。
この操作は、内線からでも外線からでも利用できます。ただし、外線から利用する場合は、パスワードが必要です。

■ 内線から録音する

1 受話器を上げる

2 ⊛②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

3 ⑦を押す
7は、録音の番号です。

4 VRSメッセージ番号（01～48）を押す

5 音声案内を受話器で録音する

6 受話器を戻す

これで、オートアテンダントメッセージが録音できました。

受話器を戻すときは、静かに戻してください。乱暴に戻すと、音声案内の最後に「ガチャン」という音が入ってしまいます。

■ 外線から録音する

1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント（DISA）が設定された回線の電話番号にかけます。

2 本システムにつながると“プップップッ…”という音（セカンドダイヤルトーン）が聞こえる

3 ユーザー IDを押す

4 ユーザー IDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

5 ⊛②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

6 工事段階で設定されたVRSメッセージパスワードを押す

7 ⑦を押す
7は、録音の番号です。

8 VRSメッセージ番号（01～48）を押す

9 音声案内を受話器で録音する

10 電話を切る

これで、外線からオートアテンダント（VRS）メッセージが録音できました。

録音は、なるべく雑音のない静かなところで行ってください。音声案内の中に雑音が入り、誤動作の原因となることがあります。

■ 内線で再生して聞く

1 受話器を上げる

2 ⊛②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

3 ⑤を押す
5は、聴取の番号です。

4 VRSメッセージ番号（01～48）を押す

5 音声案内が再生される

6 受話器を戻す

これで、オートアテンダント（VRS）メッセージが再生できました。

■ 外線から再生して聞く

1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント（DISA）が設定された回線の電話番号にかけます。

2 本システムにつながると“プップップッ…”という音（セカンドダイヤルトーン）が聞こえる

3 ユーザー IDを押す

4 ユーザー IDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる

5 ⊛②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

6 工事段階で設定されたVRSメッセージパスワードを押す

7 ⑤を押す
5は、聴取の番号です。

8 VRSメッセージ番号（01～48）を押す

9 音声案内が再生される

10 電話を切る

これで、外線からオートアテンダント（VRS）メッセージが再生できました。

■ 内線から消去する

1 受話器を上げる

2 ㊀②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

3 ③を押す
3は、消去の番号です。

4 VRSメッセージ番号（01～48）を押す

5 受話器を戻す

これで、オートアテンダント（VRS）メッセージが消去できました。

外線から消去することはできません。

外出先から任意の内線への各種設定を行う
リモート設定

※ バージョン5以降で有効

社外から、任意の内線に対する各種設定をすることができます。自分の内線番号あてにかかってきた電話の転送や、運用モードの切り替えなども行えます。
この操作は、オートアテンダント（DISA）でのみ行うことができます。

ユーザーIDを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 社外から本システムに電話をかける

2 本システムに電話がつながると“プップップッ…”という音が聞こえる

3 ユーザーIDを入力する

4 ユーザーIDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
オートアテンダントメッセージは最大2分まで自由に録音できます。

5 ⑧⓪⓪を押す
800は、リモート設定の特番（初期値）です。

6 “内線番号をどうぞ”と聞こえる

7 設定をしたい内線番号を押す

8 “サービスコードをどうぞ”と聞こえる

9 各種設定を行う

10 設定が完了すると、“設定しました”と聞こえる

ユーザーIDの入力を間違えたとき
ユーザーIDの入力を3回続けて間違えると、電話が自動的に切れます。このときは、もう一度かけ直してください。

リモート設定で行える設定
次の設定が行えます。
- 自グループの運用モードの切り替え
- 外線ごとの自動転送の設定・解除・転送先の登録
- VRSメッセージの録音・再生・消去
- VRS同報メッセージの録音・消去
- 着信転送、話中転送、不応答転送、話中・不応答転送、不在着信転送、フォローミー、着信拒否の設定・解除

外線から内線に直接かけてもらう

社外から各内線に、直接電話をかけてもらうことができます。内線番号には、仮想内線番号や内線代表番号も含まれます。
この機能は、プッシュホンタイプの電話機（トーン信号を送出できる電話機）で利用できます。

ダイレクトインワードダイヤル（DID）、ダイレクトインワードシステムアクセス（DISA）を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ダイレクトインワードダイヤルの利用例

DID

社外から本システムに電話をかけるときに、直接内線番号を指定してかけてもらうことができます。受付を介さず、直接担当者に電話をかけることができる着信方式です。

1 社外から本システムに電話をかける

2 本システムに電話がつながると“ピロピロピロ…”という音が聞こえる

3 電話をかけたい相手の内線番号を押す

4 内線につながる

次のようなときは、通常の呼び出しに切り替えたい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 内線の相手が電話に出ない
- 内線の相手が通話中
- 内線番号を間違えた
- 内線番号を押さなかった

ダイレクトインワードシステムアクセスの利用例

DISA

利用者を限定するために、ユーザーIDを設定します。ID番号を入力することによって、本システムが利用者を識別します。また、本システムを介して、専用線（公専接続）や公衆回線（公公接続）にかけるときにも使用します。

ユーザーIDを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

1 社外から本システムに電話をかける

2 本システムに電話がつながると“ピロピロピロ…”という音が聞こえる

3 ユーザーIDを入力する

4 ユーザーIDが一致すると、“ピロピロピロ…”という音が聞こえる

5 電話をかけたい相手の内線番号を押す

6 内線につながる

ユーザーIDの入力を間違えたとき

ユーザーIDの入力を3回続けて間違えると、電話が自動的に切れます。このときは、もう一度かけ直してください。

内線番号のほかに使える番号

次の番号を使えます。
- 本システムを介して外線にかけるための特番
- 本システムを介して専用線にかけるための特番
- 共通短縮ダイヤル発信の特番
- 内線グループ呼出や構内放送の特番
- 自分の電話機などに着信転送を設定／解除するための特番
- 通話割り込みの特番

着信お待たせメッセージを利用する

かかってきた電話にすぐ応答できない場合や、電話受付担当者が少ないとき、相手に「ただいま電話が混み合っております…」などの音声案内を流すことができます。

着信お待たせメッセージを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

NTCPU-A2またはMBU-S1制御ユニットをご使用の場合は、機能追加工事が必要ですので、販売店にご相談ください。

着信お待たせメッセージの利用例

着信お待たせメッセージを設定した外線に着信すると、一定時間が経過しても応答できない場合、相手にメッセージを流します。
これにより、一定時間内は通常どおり応答し、一定時間が経過しても応答できないときは、着信お待たせメッセージを流すことができます。

1 外線から着信中

通常と同じように着信音が鳴ります。

2 一定時間が経過しても応答できないと、相手に着信お待たせメッセージが流れる

着信音が変わります。

3 応答するときは、赤点滅中の外線ボタンを押す

4 相手と通話する

必要なときだけ切り替えたい

電話応対ができないときだけ、必要に応じて着信お待たせメッセージを利用することができます。この場合は、着信中に着信お待たせメッセージ起動ボタンを押してから、着信中の外線ボタンを押してください。

着信お待たせメッセージの設定

「ファンクションボタンの設定」により着信お待たせ設定ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

- お待たせメッセージの録音・再生・消去方法は「オートアテンダント（VRS）を利用する」の「オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去」（⇒P. 5-28）を参照してください。ただし、お待たせメッセージで使用するVRSメッセージ番号は、工事段階で設定します。
- VRSメッセージ番号49には、あらかじめ「ただ今、電話が大変混み合っています。少々お待ちください」というメッセージが登録されています。このメッセージを使用する場合には、工事段階の設定が必要です。

■ 設定のしかた

1 （着信お待たせ設定ボタン）を押す

着信お待たせ設定ボタンが赤点灯します。

着信お待たせ設定	
IRG No.001	設定

これで、着信お待たせメッセージが設定できました。

■ 解除のしかた

1 （着信お待たせ設定ボタン）を押す

着信お待たせ設定ボタンが消灯します。

着信お待たせ設定	
IRG No.001	解除

これで、着信お待たせメッセージが解除できました。

構内放送で呼び出す

構内放送用の外部スピーカを利用して、次のようなことができます。
- 社内を移動中の人を呼び出す
- 別のフロアの人を呼び出す
- 電話機から離れている人に電話を取り次ぐ
- 会議通話に参加して欲しい人を呼び出す

構内放送を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

利用例

放送／応答

構内放送用の外部スピーカは、最大9台（MBU-S1制御ユニットの場合は最大8台）まで接続することができます。この外部スピーカから音声で、一斉に、またはグループごとに呼び出すことができます。

外部スピーカを使って呼び出す

一斉放送／グループ放送

■ 一斉に呼び出す - 一斉放送 -

1 受話器を上げる

2 ⑧②⓪を押す

820は、放送の特番（初期値）です。

放送 No.

3 ⓪を押す

0は、全ての外部スピーカを呼び出すときの番号です。

放送　　　一斉

4 一斉呼出をする

外部スピーカから呼出の音声が聞こえます。

5 受話器を持ったまま、応答を待つ

■ グループごとに呼び出す - グループ放送 -

1 受話器を上げる

2 ⑧②⓪を押す

820は、放送の特番（初期値）です。

放送 No.

3 放送グループ番号を押す

放送グループ番号は、1から8のうち、いずれかを押してください。

放送　　　ｸﾞﾙｰﾌﾟ 01

放送グループ番号

4 呼出をする

「○○さん、"1" に応答してください」というように、上記手順3で押した放送グループ番号を伝えます。

外部スピーカから呼出の音声が聞こえます。

5 受話器を持ったまま、応答を待つ

よく構内放送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに一斉放送ボタンやグループ放送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で呼び出せます。
- 全ての外部スピーカから呼び出す
  受話器を上げる → [820] → [0] → 呼出 → 受話器を持ったまま応答を待つ
- 外部スピーカのグループ別に呼び出す
  受話器を上げる → [820] → [放送グループ番号] → 呼出 → 受話器を持ったまま応答を待つ

構内放送に応答する

一斉放送／グループ放送への応答

■ 受けかた

1 構内放送で呼出中

2 受話器を上げる

3 ⑧②②を押す

822は、放送応答の特番（初期値）です。

放送 No.

4 放送グループ番号を押す

放送グループ番号は、1から8のうち、いずれかを押してください。
全ての外部スピーカの呼出に応答するときは、0を押してください。

5 呼び出した人と通話する

一般電話機で操作したい

上記と同じ操作で応答することができます。

外部スピーカで呼び出してから電話を取り次ぐ

ページング転送

■ 取り次ぎかた

1 外線と通話中

2 (保留)を押す

3 ⑧②⓪を押す

820は、放送の特番（初期値）です。

放送 No.

4 放送グループ番号を押す

放送グループ番号は、1から8のうち、いずれかを押してください。

放送　　　ｸﾞﾙｰﾌﾟ 01

放送グループ番号

5 一斉呼出をする

外部スピーカから呼出の音声が聞こえます。

6 相手が出たら、電話を取り次ぐことを伝える

7 (転送)を押す

8 保留にした外線と取り次いだ内線がつながる

これで、ページング転送ができました。

よく構内放送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに一斉放送ボタンやグループ放送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で呼出または応答できます。

- 呼び出すとき：
  外線通話中 → フッキング → [820] → [放送グループ番号] → 呼出 → 受話器を持ったまま待つ → 内線通話 → 受話器を戻す
- 応答するとき：
  呼出中 → 受話器を上げる → [822] → [放送グループ番号] → 内線通話 → 受話器を持ったまま待つ → 外線通話

外部スピーカで呼び出してから会議通話をする

一斉放送会議通話

■ 呼び出しかた

1 外線または内線と通話中

2 (会議)を押す

会議 通話
内線 ﾀﾞｲﾔﾙ

3 ⑧②⓪を押す

820は、放送の特番（初期値）です。

会議 通話
放送 No.

4 ⓪を押す

0は、全ての外部スピーカを呼び出すときの番号です。

放送　　一斉

5 呼出をする

外部スピーカから呼出の音声が聞こえます。

6 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

7 (会議)を押す

8 (会議)を押す

LINE 001　　会議 通話
120

これで、会議通話になりました。

ほかの人も参加させたい

手順2からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

よく構内放送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに一斉放送ボタンやグループ放送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15)を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作をすると、会議通話できます。

- 呼び出す側：
  外線通話中 → フッキング → [802] → [820] → [0] → 呼出 → 受話器を持ったまま待つ → 内線通話 → フッキング → フッキング → 会議通話
- 応答する側：
  呼出中 → 受話器を上げる → [822] → [0] → 内線通話 → 受話器を持ったまま待つ → 会議通話

ドアホンを利用する

本システムにドアホンを接続して、次のようなことができます。
- 電話機からドアホンに応答する
- ドアホンの周囲の音を電話機から聞く
- 電話機からドアのかぎを開ける
- ドアホン着信を外線に転送する

ドアホンを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ドアホンの利用例

ドアホン

ドアホンは、最大8台（MBU-S1制御ユニットの場合は最大4台）まで接続することができます。このドアホンに対し、電話機から応答できます。ドアホンの呼出には、デジタル多機能電話機のほか、デジタルコードレス電話機や一般電話機からも応答できます。

ドアホンに応答する

ドアホンからの呼び出しに応答することができます。

■ 受けかた

1 ドアホン着信中

2 受話器を上げる

3 ドアホンと通話する

ドアホンの着信に、外出先から応答したい

ドアホンの着信を、外線に自動転送することができます。「ドアホンへの着信を外線に転送する」（⇒次ページ）を参照してください。

ドアホンの周囲の音を聞く

ドアホンモニタ

ドアホンを呼び出し、周囲の音を聞いたり、来訪者がいるかどうかを確認することができます。

■ 呼び出しかた

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑥を押す

836は、ドアホン呼出の特番（初期値）です。

836

3 ドアホンの番号を押す

通話	ﾄﾞｱ-1

4 ドアホンの周囲の音を聞く

ドアホンに呼びかけて、来訪者がいるかどうかを確認します。

ドアのカギを開ける

ドアホンロック解錠

ドアホンに応答後、電話機からの操作でドアのカギを開けることができます。

■ カギの開けかた

1 ドアホンと通話中

通話	ﾄﾞｱ-1

2 （フック）を押す

ﾄﾞｱﾛｯｸ 解除

3 カギが開く

これで、ドアのカギが開きました。

一般電話機で操作したい

次の操作をすると、カギを開けられます。
ドアホンと通話中 → フッキング → カギが開く

ドアホンへの着信を外線に転送する

夜間や外出時、ドアホンへの着信を携帯電話などに転送し、外出先から応答します。

ドアホンへの着信を外出先に転送する場合、転送用の外線は、必ずISDN回線を使用してください。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ⊛①⑧を押す
＊18は、ドアホン着信の外線転送の特番（初期値）です。

3 ドアホンの番号（1～8）を押す
※ MBU-S1制御ユニットの場合は、1～4を押します。

4 転送先の電話番号を登録しておいた共通短縮番号を押す

5 受話器を戻す

■ 解除のしかた

1 受話器を上げる

2 ⊛①⑧を押す
＊18は、ドアホン着信の外線転送の特番（初期値）です。

3 ⓪を押す

4 受話器を戻す

DSS コンソールを利用する

DSSコンソールは、60個のボタンがついた集中受付装置です。DSSコンソールで、次のようなことができます。
- 会社の受付台として使い、内線や外線の使用状況を表示する
- ACDの集中監視台として使い、受付者の稼動状況を表示する
- ホテルシステムのルーム状態監視台として使い、チェックイン・チェックアウトの状況を表示する

DSSコンソールを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

DSS コンソールについて

DSSコンソールは、システム全体で最大24台（MBU-S1制御ユニットの場合は最大4台）まで接続できます。
各DSSコンソールのボタンには、いろいろな機能を設定することができます。設定できる機能については「利用できる機能と利用中の表示」（⇒次ページ）を参照してください。

DSS コンソールのランプ表示モード

DSSコンソールの60個のボタンに、DSS／ワンタッチボタン機能を設定すると、そのボタンに登録した内線電話機の状態をランプ表示することができます。
DSSコンソールのランプ表示には、用途に応じて次の3つのモードがあります。

■ ビジネスモード

おもに内線への電話取り次ぎ用として使います。
ボタンに登録された各内線の使用状態が、ランプの点灯・点滅でわかります。

DSSコンソールに登録された内線の状態	DSSコンソールのランプ表示
・電話機を使っていない状態 ・外線一般着信中（鳴動しない電話機）	消灯
・通話中 ・内線着信中（個別着信、専用線着信、ダイヤルイン着信を含む） ・保留リコール中 ・外線一般着信中（鳴動する電話機）	赤点灯
・着信拒否中（外線着信拒否を除く）	速い赤点滅
・伝言が設定されている状態	緑点灯

■ ACD 監視モード

おもにACDの監視台用として使います。
ボタンに登録された各受付者のログインなどの状態が、ランプの点灯・点滅でわかります。

DSSコンソールに登録された受付者の状態	DSSコンソールのランプ表示
・一般電話機	消灯
・通話中 ・後処理中	赤点灯
・離席中 ・ログアウト中	遅い2点滅（間をあけて2回ずつ点滅）
・ログイン中	遅い点滅
・EMGコール中	速い赤点滅

MBU-S1 制御ユニットの場合、ACD 機能は使用できません。

■ ホテルモード

おもにホテルのフロント用として使います。
ボタンに登録された各部屋のチェックインなどの状態が、ランプの点灯・点滅でわかります。

DSSコンソールに登録された部屋の状態	DSSコンソールのランプ表示
・チェックアウト中	消灯
・チェックイン中	赤点灯
・伝言が設定されている状態	緑点灯

利用できる機能と利用中の表示

DSSコンソールの60個のボタンに、次のような機能を割り付けて利用できます。割り付けた機能によって、その機能の設定状態などをランプ表示します。

DSSボタンへの機能割付は、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
01	DSS／ワンタッチ	あらかじめ登録しておいた相手にかける	内線番号を登録した場合、ランプ表示モードに応じて、その内線電話機の状況を表示する ・「DSS コンソールのランプ表示モード」(⇒前ページ)参照
02	マイク	ハンズフリー通話をするためのマイクをON／OFFする	・ON ：赤点灯 ・OFF：消灯
03	着信拒否	着信拒否を設定／解除する	・設定中：赤点灯
04	BGM	デジタル多機能電話機から流すBGMをON／OFFする	・ON ：赤点灯 ・OFF：消灯
05	ヘッドセット	ヘッドセットモードをON／OFFする	・ON ：赤点灯 ・OFF：消灯
06	転送	デジタル多機能電話機の転送ボタンと同じように使う	—
07	会議	デジタル多機能電話機の会議ボタンと同じように使う	・会議操作中：赤点灯
08	着信履歴	着信履歴を表示する	・新着信履歴あり：速い赤点滅 ・着信履歴あり　：赤点灯 ・着信履歴なし　：消灯
09	運用モード切替	本システムの運用モードを切り替える	設定する運用モードも登録している場合、その運用モードの設定状況を表示する ・運用モード設定中：赤点灯(トグル切替時は常に消灯[バージョン4以降で有効])
10	着信転送	着信転送を設定／解除する	・設定中　：遅い赤点滅 ・被設定中：速い赤点滅
11	話中転送	話中転送を設定／解除する	・設定中　：遅い赤点滅 ・被設定中：速い赤点滅
12	不応答転送	不応答転送を設定／解除する	・設定中　：遅い赤点滅 ・被設定中：速い赤点滅
13	話中・不応答転送	話中・不応答転送を設定／解除する	・設定中　：遅い赤点滅 ・被設定中：速い赤点滅
14	不在着信転送	不在着信転送を設定／解除する	・設定中　：遅い赤点滅 ・被設定中：速い赤点滅
15	フォローミー	フォローミーを設定／解除する	・設定中　：速い赤点滅 ・被設定中：遅い赤点滅
16	未使用	—	—
17	未使用	—	—
18	テキストメッセージ	テキストメッセージを設定／解除する	・設定中：赤点灯
19	グループ放送	構内放送で、グループ放送を行う	・放送中：赤点灯
20	放送	構内放送で、一斉放送を行う	・放送中：赤点灯

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
21	内線グループ呼出	自分が所属する内線グループで、一斉呼出を行う	・呼出中：赤点灯
22	内線一斉呼出	内線グループを指定して、一斉放送を行う	—
23	内線グループ呼出応答	内線グループ呼出に応答する	—
24	代理応答	ほかの内線への着信を代わりに受ける	—
25	他グループ代理応答	ほかの内線グループへの着信を代わりに受ける	—
26	グループ指定代理応答	内線グループを指定して、着信を代わりに受ける	—
27	共通／個別短縮	共通／個別短縮ダイヤルを使って電話する	—
28	グループ短縮	グループ短縮ダイヤルを使って電話する	—
29	リピート ダイヤル	リピートダイヤルを設定／解除する	・リピートダイヤル中：速い赤点滅
30	セーブドナンバーリダイヤル	セーブドナンバーリダイヤルを登録／利用する	—
31	メモダイヤル	メモダイヤルを登録／利用する	—
32	口頭会議招集	口頭で呼んだ人を会議通話に参加させる	—
33	話中呼出	通話中の相手に電話をかける	—
34	通話割り込み	ほかの人の通話に割り込む	—
35	予約（外線・内線共用）	外線が開くまで待つ、または内線通話中の人を待つ	・予約中またはコールバック設定中：赤点灯
36	ステップコール	相手が出ないとき、同じ内線グループの人を呼び出し直す	—
37	バイパスコール	着信転送や着信拒否を設定中の人を呼び出す	—
38	伝言	相手のメッセージランプに、伝言表示を設定する	・伝言の設定先：緑点滅
39	ルームモニタ	会議室などの様子を電話機で聞く／聞かせる	・モニタ中　：遅い赤点滅 ・被モニタ中：速い赤点滅
40	送話カット	通話中、こちらの声だけを一時的に消す	・送話カット中：赤点灯
41	ブザー	電話機でブザー呼出を行う	・発信側：赤点灯 ・着信側：速い赤点滅
42	幹部着信代理応答	常に取り次ぎを介して電話を受けるように設定／解除する	・幹部着信代理応答設定中：赤点灯
43	折り返し転送	取り次ぎ先の通話が終了後、取り次ぎ元に通話を戻す	—
44	共通保留	ほかの電話機から応答できるように保留する	—
45	個別保留	ほかの電話機から応答できないように保留する	—
46	内線グループ一時離脱	その内線が所属している内線グループから、一時的に抜ける	・離脱中：赤点灯
47	未使用	—	—
48	未使用	—	—

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
49	コール リダイレクト	外線の一般着信、外線個別着信、内線着信を、あらかじめ設定された内線に転送する	—
50	アカウント コード	料金管理用のアカウントコードを入力する	—
51	汎用リレー	汎用リレーを操作する	・ON ：赤点灯 ・OFF：消灯
52	着信お待たせ 設定	着信お待たせメッセージの送出を開始／終了する	・設定中：赤点灯
53	着信お待たせ メッセージ起動	着信中に、着信お待たせメッセージの送出を開始する	・起動中：赤点灯
54	ドアホン着信の 外線転送設定	ドアホン着信の外線転送を設定／解除する	・設定中：赤点灯
55	内線名称編集	電話機の使用者の名前を設定する	—
56	在席表示操作	DSSコンソールやディスプレイボードの在席表示の操作を行う	・在席中（001〜100）：赤点灯 ・在席中（101〜200）：緑点灯 ・在席中（201〜300）：赤点灯 ⇒ 緑点灯 ・離席中　　　　　　：消灯
57	在席表示	DSSコンソールやディスプレイボードの在席表示を行う	
58	内線グループ毎 の自動転送設定 ／解除	内線グループ毎の自動転送を設定／解除する	・設定中：遅い赤点滅
59	内線グループ毎 の不応答転送設 定／解除	内線グループ毎の不応答転送を設定／解除する	・設定中：遅い赤点滅
60	内線グループ毎 の着信拒否設定 ／解除	内線グループ毎の着信拒否を設定／解除する	・設定中：遅い赤点滅
61	ID入力	課金ID機能使用時のIDを入力する	・設定中：赤点灯
62	未使用	—	—
63	発番号通知拒否 モード（INS）	発信者番号を通知しないで発信する	・発番号通知拒否モード中：赤点灯
64	キーパッド ファシリティ	INSボイスワープなどを利用する	・キーパッド送出中：赤点灯
65	INS通信中転送	ISDN回線の話中転送機能を設定する	・網保留中：赤点灯
66	CTI通信	CTI機能動作表示をする	・CTI動作中：赤点灯
67	メールボックス	メッセージの宛先としてメールボックスを指定する、またメッセージ到着通知表示をする	・新しいメッセージあり　：速い赤点滅 ・ボイスメールアクセス中：赤点灯 ・メッセージ聞き取り後　：消灯
68	ボイスメール サービス （スキップ、バックスキップ）	録音されたメッセージを再生中に、メッセージをスキップ／バックスキップする	—
69	通話録音サービス	通話録音を開始、終了する	通話録音ボタンとして使用時 ・通話録音中：赤点灯
70	留守番電話	内線留守番サービスを設定／解除する	・全着信転送設定中　　：赤点灯 ・話中／不応答転送設定中：赤点滅 ・解除中　　　　　　　：消灯

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
71	留守番応答メッセージ切替	高機能ボイスメールの留守番サービス時、電話をかけてきた相手に流す応答メッセージを切り替える	・応答メッセージ1設定中：消灯 ・応答メッセージ2設定中：赤点灯 ・応答メッセージ3設定中：赤点滅
72	未使用	—	—
:			
76	未使用	—	—
77	メールボックス（九官鳥）	メッセージの宛先としてメールボックスを指定する、またメッセージ到着通知表示をする	・ボイスメールにアクセス中：赤点灯 ・新しいメッセージあり　：遅い赤点滅
78	通話録音（九官鳥）	通話録音を開始、終了する	・通話録音中：速い赤点滅
79	留守番電話（九官鳥）	内線留守番電話機能を設定／解除する	・全着信設定中　：赤点灯 ・話中・不応答転送設定中：速い赤点滅 ・留守番モニタ設定中　：遅い赤点滅 ・解除　：消灯
80	未使用	—	—
81	外線毎の自動転送ボタン	外線毎の自動転送機能を設定する	・設定中：遅い赤点滅 ・解除中：消灯 [バージョン3以降で有効]
82	DtermIP通話情報表示	DtermIPで、通話情報を表示する	— [バージョン5以降で有効]
83	未使用	—	—
:			
85	未使用	—	—
86	発番号非通知拒否設定	発番号非通知の着信に対する着信拒否を設定／解除する	・設定中：遅い赤点滅 ・解除中：消灯 [バージョン5以降で有効]
87	発番号による着信拒否設定	発番号による着信拒否を設定／解除する	・設定中：遅い赤点滅 ・解除中：消灯 [バージョン5以降で有効]
88	ダイヤルイン呼番号毎のモード切替	ダイヤルイン呼番号毎に、モードを切り替える	・パターン1、5〜8設定中：消灯 ・パターン2設定中　：赤点灯 ・パターン3設定中　：遅い赤点滅 ・パターン4設定中　：速い赤点滅 [バージョン5以降で有効]
89	個人登録発信規制機能スイッチ	個人登録発信規制機能を設定／解除する	・設定中：赤点灯 ・解除中：消灯 [バージョン5以降で有効]
90	個人登録発信規制データ登録	再ダイヤル01のダイヤルデータまたは任意の電話番号を、個人登録発信規制のデータとして登録する	— [バージョン5以降で有効]
＊01	外線	外線にかける	・自分が通話中　：緑点灯 ・自分が保留中　：緑点滅 ・ほかの人が通話中：赤点灯 ・ほかの人が保留中：赤点滅
＊04	パーク保留	パーク保留する／パーク保留に応答する	・自分がパーク保留中　：緑点滅 ・ほかの人がパーク保留中：赤点滅
＊07	ステーションパーク保留	ステーションパーク保留する／ステーションパーク保留に応答する	・保留中：緑点滅 [バージョン5以降で有効]

DSS コンソールの使いかた

DSS コンソールのボタンへの機能割付は、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 登録内容の確認のしかた

1 Help ◯を押す

チェック

2 確認したいボタンを押す

登録内容が表示されます。

チェック	コンソール04 キー001 局線 ポート 001

3 Exit ◯を押すと、元の表示に戻る

■ 運用モードの切替

1 運用モード切替ボタンを押す

2 運用モード切替ボタンが赤点灯する

これで、運用モードの切替ができました。

■ 内線を呼び出す

1 受話器を上げる

2 (内線呼出ボタン)を押す

内線番号を登録しておいた DSS ／ワンタッチボタンです。

3 相手が出たら、通話する

■ 内線グループを呼び出す

1 (内線ページング呼出ボタン)を押す

2 受話器を上げる

3 一斉呼出をする

4 相手が出たら、通話する

■ 構内放送で呼び出す

1 (グループ放送ボタンまたは一斉放送ボタン)を押す

2 受話器を上げる

3 一斉呼出をする

4 相手が出たら、通話する

■ 外線通話を取り次ぐ

1 外線と通話中

2 (内線呼出ボタン)を押す

内線番号を登録しておいた DSS ／ワンタッチボタンです。通話中に内線呼出ボタンを押すと、通話を保留して、内線を呼び出します。

3 相手が出たら、用件を伝える

4 (転送)を押す

5 受話器を戻す

これで、外線通話の取り次ぎができました。

ディスプレイボードを利用する

ディスプレイボードは、8 個のランプがついた表示盤です。ディスプレイボードで、次のようなことができます。
- 在席表示
- 内線の状態表示
- 外線の着信表示
- ボイスメールのメッセージ到着の通知表示

ディスプレイボードの用途は工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

ディスプレイボードについて

ディスプレイボードは、システム全体で最大8台（MBU-S1制御ユニットの場合は最大4台）まで接続できます。各ディスプレイボードのランプに、外線や内線、メールボックスを関連付けて利用します。関連付けの設定は、工事段階で行います。

ディスプレイボードのランプ表示

ディスプレイボードのランプは、用途に応じて次のように表示されます。

- 在席表示
  - 赤点灯←→消灯
  - 赤点滅←→消灯
  - 赤点灯→赤点滅→消灯

- 内線の状態表示
  （DSS／ワンタッチボタンとして設定している場合）
  - 消灯　：電話機を使っていない状態
  - 赤点灯　：通話中
    外線一般着信鳴動中
    内線着信中（個別着信、専用線着信、ダイヤルイン着信を含む）
    保留リコール中
  - 速い赤点滅　：着信拒否中、着信転送設定中

- 外線の着信表示
  （外線ボタンとして設定している場合（ただし、着信音は鳴りません））
  - 赤点灯　：使用中
  - 赤点滅　：保留中
  - 速い赤点滅　：着信中

- ボイスメールのメッセージ到着の通知表示
  （メールボックスボタンとして設定している場合）
  - 速い赤点滅　：新しいメッセージが保存されたとき
  - 赤点灯　：聞き取り済みのメッセージがあるとき
  - 遅い赤点滅　：メッセージ登録規制中
  - 消灯　：メッセージが保存されていないとき、または全て消去したとき

ディスプレイボードの使いかた

ディスプレイボードのランプへの割付は、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

よく在席表示を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに在席表示ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P.6-15）を参照してください。

■ 設定のしかた - 在席表示 -

《 特番を使う場合 》

1 （スピーカ）を押す

2 ⑧③⑧を押す

838は、在席表示操作の特番（初期値）です。

3 在席表示ランプの番号を押す

4 在席表示盤のランプが点灯または点滅する

ランプに対応する在席番号によって、点灯または点滅します。
- 001～100：赤点灯
- 101～200：赤点滅
- 201～300：赤点灯

5 （スピーカ）を押す

これで、在席表示ができました。

もう1度くり返すと、在席表示盤のランプが消灯し、在席表示を解除できます。

在席番号201〜300に対応するランプの場合は、赤点灯が赤点滅に変わり、もう1度くり返すと消灯します。

《 在席表示操作ボタンを使う場合 》

電話機のファンクションボタンに在席表示操作ボタンを割り付けておくと、このボタンを操作するだけで在席表示を切り替えることができます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

1 (在席表示操作ボタン)を押す

在席表示操作ボタンを押すたびに、ボタンのランプ表示が次のように切り替わります。

- 001〜100：赤点灯←→消灯
- 101〜200：緑点灯←→消灯
- 201〜300：赤点灯→緑点灯→消灯

2 在席表示盤のランプが点灯または点滅する

在席表示操作ボタンを押すたびに、在席表示盤のランプ表示が次のように切り替わります。

- 001〜100：赤点灯←→消灯
- 101〜200：赤点滅←→消灯
- 201〜300：赤点灯→赤点滅→消灯

これで、在席表示ができました。

電話機のファンクションボタンで在席状態を確認したい

電話機のファンクションボタンに在席表示ボタンを割り付けておくと、電話機で在席状態を確認することができます。
在席表示ボタンに割り付けられている在席番号の在席表示操作が設定されると、在席表示ボタンが次のように点灯します。

- 001〜100：赤点灯←→消灯
- 101〜200：緑点灯←→消灯
- 201〜300：赤点灯→緑点灯→消灯

詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

ホテル機能を利用する

本システムには、ホテル向けの機能として、次のようなものがあります。
- チェックイン・チェックアウト（客室状態の変更）
- モーニングコール
- 伝言（メッセージ・ウエイティング）
- DSSコンソールによる客室状態表示
- ディスプレイボードによる客室状態表示
- 客室情報プリントアウト
- ホテル・ルームモニタ

チェックイン・チェックアウトについて

客室に宿泊客がいるかどうかで、その客室の電話機からの発信を許可または規制する機能です。これにより、客室電話機の不正使用を防止できます。
チェックイン・チェックアウトの切り替えは、フロントの多機能電話機から行います。

チェックイン・チェックアウトボタンを利用するには、工事段階の設定で、フロントの多機能電話機のファンクションボタンにチェックイン・チェックアウトボタンを割り付けておくか、またはDSSコンソールに客室呼出ボタンを割り付けておく必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 客室番号を押して切り替える

1 （チェックインボタン）を押す

2 客室番号を押す

3 （客室呼出ボタン）が赤点灯する

これで、チェックインを設定できました。
上記の操作で、チェックインボタンのかわりにチェックアウトボタンを押すと、チェックアウトできます。

■ 客室呼出ボタンを使って切り替える

※ Aspireはバージョン2以降で有効

1 特殊を押す

2 （客室呼出ボタン）を押す

3 （客室呼出ボタン）が赤点灯する

これで、チェックインを設定できました。
上記の操作をもう一度くり返すと、チェックアウトできます。

モーニングコールについて

指定した時刻に客室の一般電話機から、アラームを鳴らす機能です。
モーニングコールの設定は、特番操作で行います。

■ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 モーニングコール設定の特番を押す
特番は工事段階で設定しますので、販売店にご確認ください。

3 モーニングコールを鳴らしたい時刻を入力する
24時間制で入力します。
例：午前7時30分の場合は0730と入力する

4 “ピッ”という音が聞こえる

5 受話器を戻す

これで、モーニングコールが設定できました。

“ピッ”という確認音の代わりにアナウンスを流したい

工事段階の設定により、次のいずれかを設定することができます（Aspireはバージョン2以降で有効）。
- “ピッ”という確認音のみ
- 特定のVRSメッセージ
- モーニングコール時刻のアナウンスと特定のVRSメッセージ

詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 解除のしかた　- モーニングコール鳴動前 -

1 受話器を上げる

2 モーニングコール解除の特番を押す
特番は工事段階で設定しますので、販売店にご確認ください。

3 “ピッ”という音が聞こえる

4 受話器を戻す

これで、モーニングコールが解除できました。

■ 止めかた　- モーニングコール鳴動後 -

モーニングコールが鳴ったときは、次のように止めます。

1 モーニングコール鳴動中

2 受話器を上げる
アラーム音が止まり、保留音が聞こえます。

3 受話器を戻す

これで、モーニングコールを止めることができました。

伝言（メッセージウェイティング）について

客室電話機のメッセージウェイティングランプに伝言表示をして、フロントに伝言を預かっていることを知らせる機能です。伝言の設定は、フロントの多機能電話機から行います。

伝言（メッセージウェイティング）を利用するには、工事段階の設定で、フロントの多機能電話機のファンクションボタンに伝言ボタンを割り付けておく必要があります。詳しくは、「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

■ 設定のしかた　- 伝言 -

1 （伝言ボタン）を押す

2 客室番号を押す

3 （客室呼出ボタン）が緑点灯する
客室電話機のメッセージウェイティングランプが伝言表示状態になります。

これで、伝言があることを知らせることができました。
911と客室番号を押すと、伝言を解除できます。

■ 受けかた　- 伝言への応答 -

1 客室電話機の受話器を上げる

2 ⑨⓪⑨を押す
909は、伝言の特番（初期値）です。

3 フロントの電話機を呼び出す
伝言を設定した電話機を呼び出します。

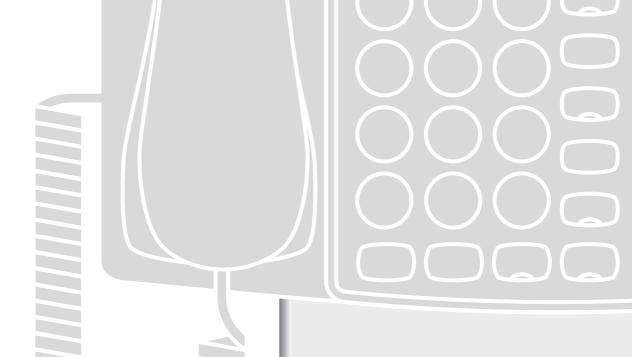
4 フロントが出たら、伝言の内容を聞く

DSS コンソールによる客室状態表示について

DSS コンソールのランプを点灯させて、各客室の使用状態を表示する機能です。詳しくは「DSSコンソールを利用する」（⇒P. 5-38）を参照してください。

客室情報プリントアウトについて

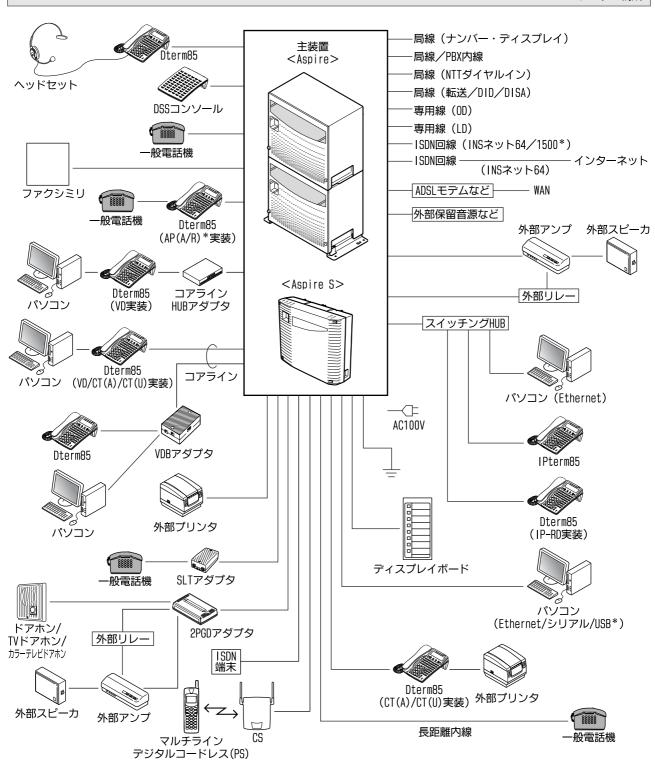
客室情報プリントアウトは、客室のチェックイン・チェックアウト状態をプリンタから出力する機能です。

客室情報プリントアウトを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

システム管理者の方へ

システムについて

本システムには、いろいろな周辺機器を接続することができます。
また、工事段階での設定により、用途に応じていろいろな機能を利用することができます。

利用できる周辺機器

システム構成

＊：MBU-S1制御ユニットでは利用できません。

システム管理者の方へ

外線の発着信の方法について

発着信方式

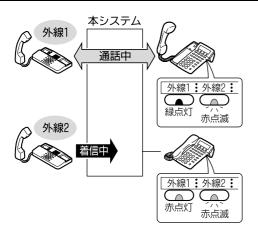
外線の利用のしかたは、オフィスの環境に合わせて発着信の方法を選ぶことができます。また、いくつかの発着信方式を組み合わせて利用することもできます。
各発着信方式を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

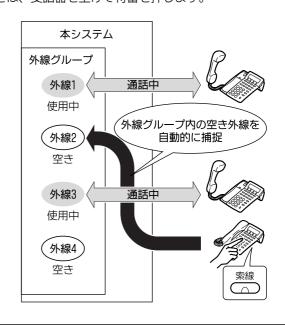
- ダイレクトライン方式：外線と外線ボタンを1対1で対応させることができます。
- 索線形発着信方式：部署ごとなどに、複数の外線をグループ分けして使うことができます。
- 個別着信（DIL）方式：外線から着信する電話機を、あらかじめ決めておくことができます。
- ダイヤルイン方式：NTTのダイヤルインサービス（有料）を利用し、特定の電話機に直接着信させることができます。
- 追加ダイヤルイン方式：電話をかけてきた相手に内線番号を追加ダイヤルしてもらい、その内線電話機に直接着信させることができます。
- 仮想内線方式：個別着信方式やダイヤルイン着信方式で電話がかかってきたとき、部署ごとなどの内線グループに着信させることができます。

■ 外線と外線ボタンを１対１で対応させる

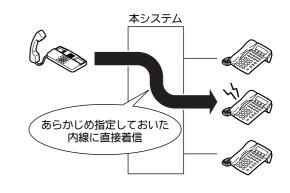
- ダイレクトライン方式 -

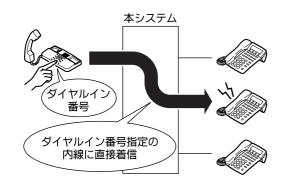
外線と外線ボタンを1対1で対応させ、特定の外線を利用して電話をかけたり、受けたりすることができます。
すべての外線の使用状況は、電話機の外線ボタンのランプ表示で、次のようにわかります。

ランプの色	状態	外線の使用状況
緑	点灯	自分が通話中
	点滅	自分が保留中
赤	点灯	ほかの人が通話中
	遅い点滅	ほかの人が保留中
	速い点滅	着信中
消灯	－	空き状態

■ 外線をグループ分けして使う - 索線形発着信方式 -

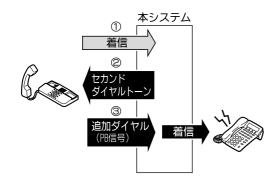
使用する外線を、部署ごとに分けることができます。電話をかけるときは、発信ボタンまたは索線ボタンを押すと、グループ分けした外線の中から、空いている外線を自動的に選んで発信できます。一般電話機からかけるときは、受話器を上げて特番を押します。

■ 電話がかかってくる電話機を決めておく

- 個別着信（DIL）方式 -

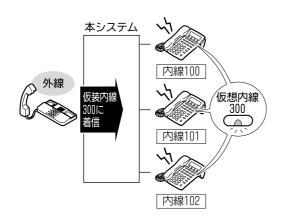
外線から電話がかかってきたとき、あらかじめ決めておいた電話機に直接着信させることができます。着信した電話機では、応答ボタンを押す、または一般電話機の場合は、受話器を上げるだけで受けることができます。システムにFAXを収容している場合などに最適です。

■ NTTダイヤルインを利用する　- ダイヤルイン方式 -

NTTのダイヤルインサービス（有料）を利用できます。相手先にダイヤルイン番号を教えておくと、その番号に電話がかかってきたとき、特定の電話機に直接着信させることができます。

■ 社外から内線番号を指定できるようにする

- 追加ダイヤルイン方式 -

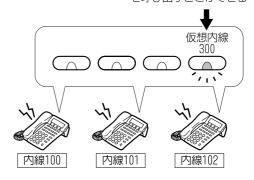
電話をかけてきた相手に、本システムに着信したあと内線番号を追加ダイヤルしてもらい、その内線電話機に直接着信させることができます。個別着信やNTTダイヤルインと違い、システムの電話番号は1つで済みます。

■ 電話がかかってくる内線グループを決めておく

- 仮想内線方式 -

個別着信方式やダイヤルイン方式で着信する複数の電話機を、内線グループとして部署ごとに指定できます。電話がかかってくると、複数の電話機の着信音が鳴り、どの電話機からでも受けることができます。

内線グループについて

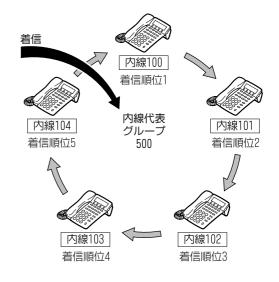
仮想内線方式／内線代表方式／内線代理着信方式

■ 仮想内線を利用したグループ分け　- 仮想内線方式 -

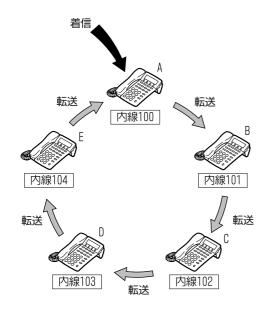
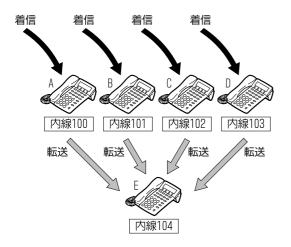
各電話機の内線番号とは別に、部署全体の共通の内線番号（仮想内線番号）を使い、グループ分けすることができます。
各電話機のファンクションボタンに仮想内線ボタンを割り付けると、その仮想内線ボタンを押して電話をかけたり、かかってきた電話を受けたりできます。

■ 内線代表番号を利用したグループ分け

- 内線代表方式 -

各電話機の内線番号とは別に、部署の内線代表番号を作り、グループ分けすることができます。内線代表番号で呼ばれるグループを作る場合、そのグループに登録した電話機の順番が、着信順位になります。
内線代表番号に電話がかかってきたとき、次のいずれかの方式で着信させることができます。

- パイロット方式
  内線代表グループ内の着信順位の1番目から必ず着信する
- 簡易UCD方式
  前回着信した電話機の、次の着信順位の電話機に着信する

■ 内線代理着信を利用したグループ分け
- 内線代理着信方式 -

部署全体で共通の内線番号や代表番号を持たずに、グループ分けすることができます。この場合、通話中の電話機に着信すると、部署内のほかの電話機へ自動で転送します。着信先の電話機が通話中の場合、次のいずれかの方式で転送させることができます。

・円を描くように転送する
例えば、電話機がAからEの5台ある場合、次のように通話中の電話機への着信が次々に転送されます。
グループ内の電話機が全て通話中の場合は、電話をかけてきた相手に話中音を返します。

・転送先が1台の電話機に集中する
例えば、電話機がAからEの5台ある場合、次のように通話中の電話機への着信が1台の電話機に集中して転送されます。転送先は、電話機の代わりにボイスメールユニットを指定することもできます。

発信規制について

電話機ごと、または外線ごとに、発信できる相手先を限定することができます。例えば、次のような使い分けができます。

・受付に設置した電話機は、外線への発信を規制する
・営業部の電話は、全国どこでも発信を許可する
・海外担当の電話は、アメリカへの発信を許可する

発信を許可または規制する番号の登録は、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 発信規制を行う時間帯について

昼間と夜間など、時間帯に応じて発信規制の内容を切り替えることができます。
例えば、昼間は全ての発信を許可し、夜間や深夜の時間帯は全ての発信を規制することができます。
この時間帯は、システムの運用モードに従って切り替わります。詳しくは、「運用モードについて」(⇒P. 6-19)を参照してください。

■ 発信規制クラスについて

発信規制クラスとは、発信する相手先に応じて次の内容を設定したものです。
・発信規制を行うかどうか
・特定の番号への発信を許可するかどうか
・特定の番号への発信を規制するかどうか

発信規制の項目	設定内容
国際発信規制	指定以外の発信を規制する
国際発信許可	指定した番号のみ許可する
市外発信規制	市外への発信を規制しない／する
最大ダイヤル桁数	指定桁数を超えたら規制する
共通許可	指定した番号のみ許可する
共通規制	指定した番号のみ規制する
許可	指定した番号のみ許可する
規制	指定した番号のみ規制する
共通短縮ダイヤル	共通短縮ダイヤルに登録した相手も規制チェックをかける
グループ短縮ダイヤル	グループ短縮ダイヤルに登録した相手も規制チェックをかける
内線相互接続	内線への発信を規制しない／する
PBX内線発信規制	PBX内線への発信を規制しない／する
専用線発信規制	専用線への発信を規制しない／する

特番を使うには工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 発信規制を一時的に解除するには

発信を規制されている相手に電話をかけたいとき、その通話に限って発信規制を解除することができます。

1 受話器を上げる

2 ⑨③④を押す

934は、発信規制一時解除の特番（初期値）です。

3 4桁のパスワードを押す

パスワードは、工事段階で電話機ごとに設定します。

4 消灯している外線ボタンを押す

5 電話番号を押す

6 相手が出たら、通話する

受話器を戻すと、発信規制の状態に戻ります。

個人登録発信規制について

※ バージョン5以降で有効

再ダイヤルとして記憶されている電話番号を、発信規制に登録することができます。例えば、電話セールスなどを行った際、顧客から以降の電話を断られた場合など、発信を規制したい場合に、発信した電話機からの操作で登録できます。複数の担当者が電話セールスを行っている場合など、別の担当者が断られた顧客に重複して発信することを防止できます。

個人登録発信規制を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 個人登録発信規制を開始／終了する

個人登録発信規制は、利用の開始と終了を任意に切り替えることができます。切り替えは、電話機ごと、または機能管理者から一斉に行うことができます。

「ファンクションボタンの設定」により個人登録発信規制機能スイッチボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

《 個人登録発信規制の利用を開始する 》

1 (個人登録発信規制機能スイッチボタン)を押す

切り替えますか?(1:Yes,0:No)

2 ①を押す

個人登録発信規制機能スイッチボタンが赤点灯します。

これで、個人登録発信規制の利用を開始できました。

《 個人登録発信規制の利用を終了する 》

1 (個人登録発信規制機能スイッチボタン)を押す

切り替えますか?(1:Yes,0:No)

2 ①を押す

個人登録発信規制機能スイッチボタンが消灯します。

これで、個人登録発信規制の利用を終了できました。

■ 個人登録発信規制の番号を登録する

ファンクションボタンを使う場合は、「ファンクションボタンの設定」により個人登録発信規制データ登録ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

《 ファンクションボタンを使って、再ダイヤル 01 の番号を登録する場合 》

次の操作をすると、再ダイヤル01に記憶されている電話番号が発信規制に登録されます。

1 通話終了後

別の電話番号に電話をかける前の状態です。

2 (個人登録発信規制データ登録ボタン)を押す

登録しますか? (1:Yes,0:No) 03XXXXXXXX

3 ①を押す

これで、個人登録発信規制に電話番号が登録できました。

《 ファンクションボタンを使って、任意の番号を登録する場合 》

次の操作をすると、発信する前の電話番号を、発信規制に登録することができます。

1 受話器を置いたまま、登録する電話番号をダイヤルする

ﾌﾟﾘｾｯﾄ ﾀﾞｲﾔﾙ ﾀﾞｲﾔﾙ 03XXXXXXXX

2 (個人登録発信規制データ登録ボタン)を押す

1:登録 0:削除 03XXXXXXXX

3 ①を押す

これで、個人登録発信規制に電話番号が登録できました。

《 特番を使って、再ダイヤル 01 の番号を登録する場合 》

次の操作をすると、再ダイヤル01に記憶されている電話番号が発信規制に登録されます。

1 通話終了後

2 いったん受話器を戻す

3 受話器を上げる

4 ⑨⑤⑦を押す

957は、個人登録発信規制データ登録の特番(初期値)です。

登録しますか? (1:Yes,0:No) 03XXXXXXXX

5 ①を押す

6 受話器を戻す

これで、個人登録発信規制に電話番号が登録できました。

■ 個人登録発信規制の登録番号を削除する

個人登録発信規制に登録されている電話番号を、規制の対象から外すことができます。

「ファンクションボタンの設定」により個人登録発信規制データ登録ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P. 6-15) を参照してください。

1 受話器を置いたまま、削除する電話番号をダイヤルする

```
ﾌﾟﾘｾｯﾄ ﾀﾞｲﾔﾙ
      ﾀﾞｲﾔﾙ 03XXXXXXXX
```

2 ◯（個人登録発信規制データ登録ボタン）を押す

```
   1:登録 0:削除
      03XXXXXXXX
```

3 ⓪を押す

これで、個人登録発信規制から電話番号が削除できました。

料金管理について

料金表示／通話警告／予算管理

本システムでは、次のような方法で通話料金を管理できます。管理の方法には、大きく分けると「注意を促す」ものと「通話を規制する」ものとがあります。

料金管理の各種設定は、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 注意を促す場合

- 通話中の電話機に通話時間と料金を表示させて注意を促す<通話料金表示>
- 一定時間以上、通話が続いたときに、デジタル多機能電話機のスピーカまたは一般電話機の受話器から警告音を出して注意を促す
  <長時間通話警告>
- 一定金額以上、通話が続いたときに、デジタル多機能電話機のスピーカから警告音を出して注意を促す
  <大度数通話警告>
- 一定期間の通話料金を積算で表示する
  <積算料金表示>

■ 通話を規制する場合

- 内線ごとに、通話料金の予算を設定しておき、この金額を超えたときは外線への発信を規制する
- 一定時間以上、通話が続いたときに、警告音を出してから通話を強制切断する

■ 通話料金の表示について

外線に電話をかけて相手と通話しているときには、次のように通話料金が表示されます。

- 通話時間と通話料金を表示する場合

外線番号　通話時間

```
LINE 001   02:45
             10.0円
```

通話料金

- 通話時間と通話料金および予算に対する残額を表示する場合

外線番号　通話時間

```
LINE 001   02:45
  990.0円     10.0円
```

予算に対する残額　通話料金

■ 積算料金を表示する

1 (スピーカ)を押す

2 ＊⓪⑨を押す

＊09は、積算料金表示の特番（初期値）です。

```
積算料金 表示
内線 ダイヤル
```

3 内線番号を押す

・定額発信規制が設定されていない場合

```
120                     積算
                   9900.0円
```

・定額発信規制が設定されている場合

```
120        残金          積算
         100.0円     9900.0円
```

4 (スピーカ)を押す

■ 内線ごとに積算料金を消去する

1 (スピーカ)を押す

2 ＊①⓪を押す

＊10は、積算料金消去の特番（初期値）です。

```
積算データ クリア
0:オール 1:個別
```

3 ①を押す

1は、内線番号ごとの積算料金消去の番号です。

```
積算データ クリア       (個別)
内線 ダイヤル
```

4 内線番号を押す

```
積算データ クリア       (個別)
内線 ダイヤル            クリア
```

5 (スピーカ)を押す

これで、積算料金が消去できました。

■ 全内線の積算料金を消去する

1 (スピーカ)を押す

2 ＊①⓪を押す

＊10は、積算料金消去の特番（初期値）です。

```
積算データ クリア
0:オール 1:個別
```

3 ⓪を押す

0は、全内線の積算料金消去の番号です。

```
積算データ クリア
                 クリア(オール)
```

4 (スピーカ)を押す

これで、積算料金が消去できました。

■ 定額料金を設定する

1 (スピーカ)を押す

2 ＊①①を押す

＊11は、定額料金設定の特番（初期値）です。

```
定額料金 設定
内線 ダイヤル
```

3 定額料金を設定する内線番号を押す

```
120                   0.0円
料金設定
```

4 金額を入力する

```
120                   0.0円
料金設定              10000
```

5 (保留)を押す

```
120               10000.0円
内線 ダイヤル
```

6 (スピーカ)を押す

これで、定額料金が設定できました。

複数の内線に定額料金を設定したい
手順 5 のあと、手順 3 に戻ってくり返してください。

番号計画について

サービス特番一覧

番号計画とは、電話をかける、受ける、またはいろいろな機能を利用するときに押す番号（特番）を決めることです。
よく使う機能の特番は、お買い上げいただいたときに、あらかじめ初期値が設定されています。この初期値は、それぞれの操作手順に記載されていますので、参照してください。

特番は、システムの利用状況などにより、別の番号に変更されることがあります。詳しくは、販売店にご確認ください。

■ 特番の初期値一覧表

特番の初期値一覧です。初期値を変更または設定した場合は、次の表に新しい特番を記入してご利用ください。
「利用できる電話機」欄は、この機能を利用できる電話機を略号で表しています。

- 多　：デジタル多機能電話機
- 一般：一般電話機
- K　：マルチラインデジタルコードレス電話機
- ST　：汎用デジタルコードレス電話機

・管理者用サービス特番
システム管理者用のサービス特番です。ダイヤル番号は初期値です。

機能名称	特　番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
運用モード切替（自グループ）	＊01		多 一般 K ST
保留音曲目変更	＊02		多
時刻データ設定	＊03		多
共通・個別短縮ダイヤル設定	＊04		多 K
グループ短縮ダイヤル設定	＊05		多 K
外線毎の自動転送設定	＊06		多
外線毎の自動転送解除	＊07		多
外線毎の自動転送先登録	＊08		多
積算料金表示	＊09		多
積算料金消去	＊10		多
定額料金設定	＊11		多
運用モード切替（他グループ）	＊12		多 一般
料金集計／明細プリントアウト	＊13		多
即時明細プリントアウト	＊14		多
ID登録	＊15		多
伝言設定	＊16		多
ダイヤルブロック（システム管理者による）	＊17		多
ドアホン着信の外線転送	＊18		多
システムアラームメッセージ消去	＊19		多 K
VRSメッセージ編集	＊20		多
VRS 同報メッセージの再生	＊21		多 一般 K
VRS 同報メッセージの録音・消去	＊22		多 一般 K
内線番号毎のSMDR集計出力	＊23		多
内線グループ毎のSMDR集計出力	＊24		多
アカウントコード毎のSMDR集計出力	＊25		多
強制外線切断	＊26		多 一般
外線閉塞	＊27		多 一般
個別内線精算（ダイレクト印刷）	＊28		多
全内線一括精算（ダイレクト印刷）	＊29		多
発番号非通知拒否設定	＊32		多 一般 K ST
発番号による着信拒否登録	＊33		多
発番号による着信拒否設定	＊34		多 一般 K ST
ダイヤルイン呼番号毎のモード切替	＊35		多 一般 K ST
外線留守番サービスの送出ガイダンス番号設定	＊36		多 一般 K ST

・設定・登録用サービス特番
一般ユーザーが、設定や登録をするときに使用するサービス特番です。ダイヤル番号は初期値です。

機能名称	特　番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
着信転送	901		多 一般 K ST
話中転送	902		多 一般 K ST
不応答転送（応答遅延転送）	903		多 一般 K ST
話中・不応答転送	904		多 一般 K ST
不在着信転送設定	905		多 一般 K ST
フォローミー設定／解除	907		多 一般 K ST
着信拒否設定	908		多 一般 K ST
伝言設定／応答	909		多 一般 K ST
伝言全解除	910		多 一般 K ST
伝言解除	911		多 一般 K ST
アラーム（指定時間呼出）	912		多 一般
LCD表示言語選択	913		多
テキストメッセージ設定	914		多
内線着信音設定（音声）	915		多
内線着信音設定（信号）	916		多
機能ボタン設定（一般機能レベル）	917		多 K
BGM　オン／オフ	918		多
キータッチトーンオン／オフ	919		多
着信音色切替	920		多
着信音確認	921		多
内線名称入力	922		多
被話中呼出（個別着信の通話中表示）	923		多
内線グループ毎の自動転送設定	925		多 一般 K ST
内線グループ毎の自動転送解除	926		多 一般 K ST
内線グループ毎の自動／不応答転送先登録	927		多
内線グループ毎の不応答転送設定	928		多 一般 K ST
内線グループ毎の不応答転送解除	929		多 一般 K ST
内線グループ毎の着信拒否設定	930		多 一般 K ST
内線グループ毎の着信拒否解除	931		多 一般 K ST
PHS子機位置登録情報	932		多 K
ダイヤルブロック	933		多 一般 K ST
発信規制一時解除	934		多 一般 K ST
内線グループ一時離脱	935		多 一般 K ST
発信規制クラス変更	936		多 一般 K ST
着信音量設定	937		多
機能ボタン設定（アピアランス機能レベル）	938		多 K
センター電話帳ロック特番	956		多
個人登録発信規制データ登録	957		多 一般 K ST

・サービスアクセス用のサービス特番
一般ユーザーが、外線や内線での発着信時に利用する、様々な機能のサービス特番です。ダイヤル番号は初期値です。

機能名称	特　番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
バイパスコール	801		多 一般 K ST
会議通話	802		多 一般 K ST
話中呼出（待機中通知）	803		多 一般 K ST
外線・内線予約設定	804		多 一般 K ST
外線・内線予約解除	805		多 一般 K ST
信号／音声呼出切替	806		多 一般 K ST
ステップコール	807		多 一般 K ST
通話割り込み	808		多 一般 K ST
グループ内全内線着信切替	809		多 一般 K ST
共通・個別短縮ダイヤル発信	810		多 一般 K ST
グループ短縮ダイヤル発信	811		多 一般 K ST
再ダイヤル発信	812		多 一般 K ST
セーブドナンバーリダイヤル	813		多 一般 K ST
外線グループ捕捉	814		多 一般 K ST
指定外線捕捉	815		多 一般 K ST

機能名称	特　番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
ネットワークシステムの外線捕捉	816		多 一般 K ST
再ダイヤル消去	817		多 一般 K ST
セーブドナンバーリダイヤル消去	818		多 一般 K ST
内線グループ呼出	819		多 一般 K ST
放送	820		多 一般 K ST
内線グループ指定応答	821		多 一般
放送応答	822		多 一般 K ST
内線グループ呼出応答	823		多 一般
同時放送・内線グループ呼出	824		多 一般 K ST
内線指定呼代理応答（自代理応答グループのみ有効）	825		多 一般 K ST
グループ指定代理応答	826		多 一般 K ST
グループ代理応答	827		多 一般 K ST
他グループ代理応答	828		多 一般 K ST
指定内線代理応答	829		多 一般 K ST
指定外線応答	830		多 一般 K ST
パーク保留登録	831		多 一般 K ST
パーク保留応答	832		多 一般 K ST
内線グループ保留登録	833		多 一般 K ST
内線グループ保留応答	834		多 一般 K ST
ステーションパーク保留	835		多 一般 K ST
ドアホン呼出	836		多 一般 K ST
共通サービス設定解除	837		多 一般 K ST
在席表示操作	838		多 一般 K ST
ボイスメールセンター呼出	839		多 一般 K ST
ボイスオーバー	841		多
フッキング	842		一般 ST
分散応答	843		一般 ST
一般電話機呼び返し	844		一般
個別保留維持（一般電話機）	845		一般 ST
個別保留維持応答（一般電話機）	846		一般 ST
話中呼出応答（一般電話機）	847		一般 ST
PHSデータ通信	849		K ST
汎用リレー	850		多 一般 K ST

・ホテル用サービス特番
ホテルのフロントなどで使用するサービス特番です。
ダイヤル番号は未設定です。

機能名称	特　番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
着信拒否設定	未設定		多 一般
着信拒否解除	未設定		多 一般
着信拒否の代行設定	未設定		多 一般
着信拒否の代行解除	未設定		多 一般
モーニングコール設定	未設定		多 一般
モーニングコール解除	未設定		多 一般
モーニングコールの代行設定	未設定		多 一般
モーニングコールの代行解除	未設定		多 一般
客室間コール制限設定	未設定		多 一般
客室間コール制限解除	未設定		多 一般
発信規制クラスの代行設定変更	未設定		多 一般
チェックイン	未設定		多 一般
チェックアウト	未設定		多 一般
客室情報プリントアウト	未設定		多
ホテル　ルームモニタ	未設定		一般

特番を押しても操作できない

特番によっては、利用できる電話機が限定されています。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話機のラインナップ

本システムでは、次の電話機を使うことができます。
電話機ごとの機能の詳細は、次ページを参照してください。

■ デジタル多機能電話機

《 表示なし多機能電話機 》

8ボタンタイプ、表示なし

《 漢字表示電話機 》

8ボタンタイプ、漢字表示

16ボタンタイプ、漢字表示

16ボタンタイプ、漢字表示、カールコードレス

32ボタンタイプ、漢字表示

32ボタンタイプ、漢字表示、停電対応用

一般回線用

ISDN回線用

※ カナ表示電話機(8ボタンタイプ、16ボタンタイプ、32ボタンタイプ)もあります。

《 漢字表示電話機（電子電話帳機能付／センター電話帳機能付）》

8ボタンタイプ、電子電話帳／センター電話帳対応

16ボタンタイプ、電子電話帳／センター電話帳対応

32ボタンタイプ、電子電話帳／センター電話帳対応

※ センター電話帳のみ対応の電話機（16ボタンタイプ、32ボタンタイプ）もあります。

■ IP 電話機

32ボタンタイプ、漢字表示

※ カナ表示電話機（8ボタンタイプ）もあります。

■ DSS コンソール

■ マルチラインデジタルコードレス電話機（PHS）

■ その他の電話機

一般電話機やISDN電話機など

■ 電話機の品名および機能一覧

略称	ファンクションボタンの数	表示器	色	電話帳対応	IP対応	オプション品の接続	DSSコンソールの接続	停電対応
DTR-8	8	なし	白	なし（短縮ダイヤルのみ利用可）	×	△（IPユニットを除く）	○	×
DTR-8K	8	全角14桁／半角28桁×3行	白		×	○	○	×
DTR-16K	16		白／黒		×	○	○	×
DTR-16KR	16		白		×	×	×	×
DTR-32K	32		白		×	○	○	×
DTR-32KPA	32		白		×	△（IPユニットを除く）	○	○（一般回線用）
DTR-32KPD	32		白		×	△（IPユニットを除く）	○	○（ISDN回線用）
DTR-16KM	16		白	センター電話帳	×	×	○	×
DTR-32KM	32		白		×	×	○	×
DTR-8KH	8		白	電子電話帳またはセンター電話帳	×	○	○	×
DTR-16KH	16		白		×	○	○	×
DTR-32KH	32		白		×	○	○	×
ITR-8D	8	半角24桁×3行	白	なし（短縮ダイヤルのみ利用可）	○	×	×	×
ITR-32K	32	全角14桁／半角28桁×3行	白		○	△（専用ユニットのみ）	×	△（PS(A)使用時一般回線用）

※ カナ表示電話機（DTR-8D/16D/16R/32D/32PA/32PD）の表示器は、半角24桁×3行となります。

■ 電話機のオプション品一覧

品　名	用　途	備　考
AD(A)	デジタル多機能電話機にカセットレコーダを接続する	
AP(R)	デジタル多機能電話機に一般電話機を接続する	発着信可能 ※ MBU-S1制御ユニットでは利用不可
AP(A)	デジタル多機能電話機に一般電話機を接続する	発信専用 ※ MBU-S1制御ユニットでは利用不可
IP	デジタル多機能電話機をIP網に接続する	
CT(A)	デジタル多機能電話機にパソコンを接続する	シリアル接続
CT(U)	デジタル多機能電話機にパソコンを接続する	USB接続
VD-RD	デジタル多機能電話機をLAN（コアライン）に接続する	
AC-RD	オプション接続時に必要なACアダプタ	AP(R)、IPユニット利用時に使用
WM-RD	デジタル多機能電話機を壁に取り付ける	
AD(A)-2RD	IP電話機にカセットレコーダを接続する	IP電話機専用
PS(A)	停電時にIP電話機をLAN回線から一般回線に切り替える	IP電話機専用

■ 電話機と利用できる機能について

本システムの専用デジタル多機能電話機やマルチラインデジタルコードレス電話機、一般電話機では、それぞれ利用できる機能と利用できない機能があります。利用できる機能については「番号計画について」(⇒P. 6-10)を参照してください。

いろいろな設定について

本システムを活用していただくために、次の設定ができます。
- 時計の設定
- ファンクションボタンへの登録
- 運用モードの切替
- 保留音の変更

時計の設定について

デジタル多機能電話機に表示する時刻を設定します。

■ 設定のしかた

1 (スピーカ)を押す

2 ⊛⓪③を押す
＊03は、時刻データ設定の特番（初期値）です。

＊03

3 時間を入力する
24時間制で入力してください。
例：午前9時の場合は09と入力

＊03 09

4 分を入力する
例：5分の場合は05と入力

＊03 09 05

5 (スピーカ)を押す

これで、時刻の設定ができました。

時刻はどの時点からスタートするの？
上記手順4の分を入力した時点で、秒が0になり、時計がスタートします。

ファンクションボタンへの機能登録について

デジタル多機能電話機およびマルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタンに、いろいろな機能を割り付けると、このボタンを押すだけで利用できるようになります。

ファンクションボタンへの機能割り付けは、工事段階で設定するものと、特番を使って行えるものがあります。
また、アピアランス機能レベルの機能ボタン設定は、ボタン設定のほかにも工事段階の設定が必要な場合があります。
ここでは、特番を使って割り付けられるボタンだけを説明しています。

■ 一般機能レベルの機能ボタン設定

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨①⑦を押す
917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。

ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ

3 割り付けたい( )（ファンクションボタン）を押す

ファンクションボタンの番号

ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｷｰ 16 NOT DEFINE

現在の設定内容が表示される

4 機能番号を押す
機能番号は、「ファンクションボタンの機能番号一覧」（⇒P. 6-17）を参照してください。
例：14（不在着信転送ボタンの機能番号）を押した場合

ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｷｰ 16 不在着信転送

5 (スピーカ)を押す

これで、ファンクションボタンへの割り付けができました。

複数のファンクションボタンに登録したい
手順3と手順4をくり返します。

■ アピアランス機能レベルの機能ボタン設定

- アピアランス機能レベルの機能ボタン設定は、システム管理者用として設定された電話機のみ行えます。
- すでにアピアランス機能レベルの機能ボタンが設定してある場合は、次の手順で、設定内容をいったん解除してから、改めてほかの機能を設定してください。
  スピーカボタン → 938 → 解除したいファンクションボタン → 000 → 保留ボタン → スピーカボタン

ここでは例として、デジタル多機能電話機のファンクションボタンに、仮想内線ボタンを割り付けます。

1 (スピーカ)を押す

2 ⑨③⑧を押す

938は、機能ボタン設定(アピアランス機能レベル)の特番（初期値）です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3 割り付けたい( )(ファンクションボタン）を押す

ファンクションボタンの番号

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ              ｷｰ 16
                   NOT DEFINE
```

現在の設定内容が表示される

4 ⊛⓪③を押す

＊03は、仮想内線ボタンの機能番号です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ              ｷｰ 16
                         内線
```

5 割り付けたい内線番号（仮想内線番号）を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ              ｷｰ 16
                     内線 600
```

仮想内線番号

6 (保留)を押す

```
内線 600        鳴動 設定
ﾓｰﾄﾞ: / / / / / / / /
```

現在の設定内容が表示される

7 着信音を鳴らしたい時間帯の番号を押す

時間帯は、1〜8の中から選ぶことができます。

```
内線 600        鳴動 設定
ﾓｰﾄﾞ:1/ / / / / / / /
```

押した番号に応じて表示される

8 (保留)を押す

```
内線 600        遅延鳴動 設定
ﾓｰﾄﾞ: / / / / / / / /
```

現在の設定内容が表示される

9 着信音を遅らせて鳴らしたい時間帯の番号を押す

時間帯は、1〜8の中から選ぶことができます。

```
内線 600        遅延鳴動 設定
ﾓｰﾄﾞ: /2/ / / / / / /
```

「鳴動 設定」と「遅延鳴動 設定」の時間帯を、同じ時間帯に設定することはできません。

10 (保留)を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ              ｷｰ 16
                     内線 600
```

11 (スピーカ)を押す

これで、仮想内線ボタンの割り付けができました。

複数の仮想内線ボタンを割り付けたい

手順3〜手順10をくり返します。

システム管理者の方へ

■ 確認のしかた

1 Help ◯を押す

```
チェック
```

2 (ファンクションボタン)を押す

押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

```
チェック            LINEキー 16
                     内線 600
```

3 元の表示に戻るときは Exit ◯を押す

■ ファンクションボタンの機能番号一覧

※欄は、マルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタンでも割付できる機能に「○」を記載し、割付できない機能に「×」を記載しています。

- 機能番号が“*”で始まる機能は、アピアランス機能レベルの操作で割り付けてください。
- 外線グループ番号、着信グループ、代理応答グループ番号および内線グループ番号は、MBU-S1制御ユニットの場合、1〜8になります。
- Aspire Sでは、機能ボタンを登録直後にシステムの電源を切る場合、登録した機能ボタンの内容がシステムに書き込まれたことを確認してください。詳しくは「<電源の切りかた>」(⇒P.vii)を参照してください。

ボタン名	機能番号	※
ワンタッチ	01+相手番号(最大24桁)	○
DSS(内線呼出、状態表示)	01+内線番号	○
マイク	02	×
着信拒否	03	○
BGM<ON/OFF>	04	×
ヘッドセット	05	×
転送	06	○
会議	07	○
着信履歴	08	×
運用モード切替	09+ 運用モード番号1〜8、 トグル切替0 (バージョン4以降で有効)	○
着信転送	10	○
話中転送	11	○
不応答転送	12	○
話中・不応答転送	13	○
不在着信転送	14	○
フォローミー	15	○
テキストメッセージ	18	×
グループ放送	19+ 放送グループ番号1〜8	○
放送	20	○
内線グループ呼出	21+ 内線ページンググループ 番号1〜64(8)	○
内線一斉呼出	22	○
内線グループ呼出応答	23	×
代理応答	24	○
他グループ代理応答	25	○
グループ指定代理応答	26+ 代理応答グループ番号 1〜64(8)	○
共通・個別短縮	27	○
共通短縮ワンタッチ	27+共通短縮番号	○
個別短縮ワンタッチ	27+個別短縮番号	○
グループ短縮	28	○
グループ短縮ワンタッチ	28+グループ短縮番号	○
リピートダイヤル	29	×
セーブドナンバーリダイヤル	30	○
メモダイヤル	31	×
口頭会議招集	32	○
話中呼出	33	○
通話割り込み	34	○
予約(外線・内線共用)	35	○
ステップコール	36	○
バイパスコール	37	○
伝言	38	○
ルームモニタ	39	×
送話カット	40	○
ブザー	41+内線番号	×
幹部着信代理応答	42+内線番号	×
折り返し転送	43	○
共通保留	44	○
個別保留	45	○
内線グループ一時離脱	46	○
リバース・ボイスオーバー	47+内線番号	○
ボイスオーバー	48	○

システム管理者の方へ

ボタン名	機能番号	※
コールリダイレクト	49＋ 内線番号または ボイスメール番号	○
アカウントコード	50	○
汎用リレー	51＋リレー番号 （0、1～8）	○
着信お待たせ設定	52＋着信グループ番号 001～100（1～8）	○
着信お待たせメッセージ起動	53	○
ドアホン着信の外線転送設定	54	○
内線名称編集	55	○
在席表示操作	56＋ 在席表示盤のランプ番号 1～300	○
在席表示	57＋ 在席表示盤のランプ番号1～300	○
内線グループ毎の自動転送設定／解除	58＋ 内線グループ番号 1～64（8）	○
内線グループ毎の不応答転送設定／解除	59＋ 内線グループ番号 1～64（8）	○
内線グループ毎の着信拒否設定／解除	60＋ 内線グループ番号 1～64（8）	○
ID入力	61	○
発番号通知拒否モード（INS）	63	×
キーパッドファシリティ	64	○
INS通信中転送	65	○
CTI通信	66	×
外線毎の自動転送ボタン	81＋転送用の外線番号 （バージョン3以降で有効）	○
DtermIP通話情報表示	82 （バージョン5以降で有効）	×
切断再捕捉	84 （バージョン5以降で有効）	○
発番号非通知拒否設定	86 （バージョン5以降で有効）	○
発番号による着信拒否設定	87 （バージョン5以降で有効）	○
ダイヤルイン呼番号毎のモード切替	88 （バージョン5以降で有効）	○
個人登録発信規制機能スイッチ	89 （バージョン5以降で有効）	○
個人登録発信規制データ登録	90 （バージョン5以降で有効）	○

ボタン名	機能番号	※
内線	＊00	×
外線	＊01＋外線番号	○
索線	＊02＋ 外線グループ番号001～100 （1～8）	○
仮想内線	＊03	○
パーク保留	＊04＋パーク番号1～64	○
ステーションパーク保留	＊07 （バージョン5以降で有効）	○
ボイスメール操作		
メールボックス	67＋メールボックス番号	○
スキップ	68＋0	○
バックスキップ	68＋1	○
通話録音	69＋0	○
消去・再録音	69＋1	○
消去	69＋2	○
通話録音-呼出	69＋3 （バージョン3.10以降で有効）	○
留守番電話	70＋メールボックス番号	○
留守番応答メッセージ切替	71＋メールボックス番号	○
通話録音関連機能（九官鳥）		
メールボックス（九官鳥）	77＋内線番号または 内線代表番号	○
通話録音（九官鳥）	78	○
留守番電話（九官鳥）	79	○
ポーズ（一時停止）	83＋0	○
再録音	83＋1	○
録音確認	83＋2	○
消去	83＋3	○
通知	83＋4	○

運用モードについて

システム全体、または運用モードグループごと（Aspireは、バージョン2以降で有効）に、8種類の運用モードを設定できます。

- モード1（昼間1）
- モード2（夜間1）
- モード3（深夜1）
- モード4（休憩1）
- モード5（昼間2）
- モード6（夜間2）
- モード7（深夜2）
- モード8（休憩2）

8種類のモードを、次のように1日に割り当てて利用します。また、曜日ごとに割り当てを変えて、スケジュールを組むこともできます。

	7:00	12:00	13:00	18:00	22:00
深夜（モード3）	昼間（モード1）	休憩（モード4）	昼間（モード1）	夜間（モード2）	深夜（モード3）

運用モードを設定すると、モードごとに電話がかかってきたときに鳴らす電話機や、外線発信ができる電話機などを切り替えることができます。

運用モードを定刻に切り替えたい

運用モードは、時間帯、曜日および長期休暇などに合わせて自動的に切り替えることもできます。運用モードの自動切替は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 運用モードの手動切替

運用モード切替ボタンを使用するには「ファンクションボタンの設定」により電話機に割り付けておく必要があります。運用モード切替ボタンの割り付けかたには、次の2種類があります。

- 複数のファンクションボタンに、各運用の切替用ボタンを割り付ける
- 1 つのファンクションボタンに、運用モードのトグル切替用ボタンを割り付ける（バージョン4以降で有効）

詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」（⇒P. 6-15）を参照してください。

《 特番を使う場合 》

1 受話器を上げる

2 ⊛⓪①を押す

＊01は、運用モード切替の特番（初期値）です。

運用ﾓｰﾄﾞ 状態

3 モードの番号を押す

モードの番号は、1〜8のいずれかを押します。

運用ﾓｰﾄﾞ 切替	
<ﾖﾙ>	ｸﾞﾙｰﾌﾟ1

4 受話器を戻す

これで、運用モードの切替ができました。

《 運用モードごとの運用モード切替ボタンを使う場合 》

1 設定したい運用モードが割り付けられている（運用モード切替ボタン）を押す

運用モード切替ボタンが赤点灯します。

<ﾖﾙ>	100

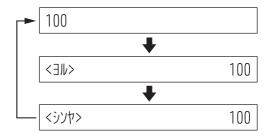
これで、運用モードの切替ができました。

他の運用モード切替ボタンを押すと、運用モードが切り替わります（設定されていた運用モード切替ボタンが消灯します）。

《 トグル切替の運用モード切替ボタンを使う場合 》

※ バージョン4以降で有効

1 （運用モード切替ボタン）を押す

運用モード切替ボタンを押すたびに、運用モードが切り替わります。

これで、運用モードの切替ができました。

トグル切替が割り付けられている運用モード切替ボタンのランプは、赤点灯しません。

システム管理者の方へ

保留音について

外線または内線通話を保留したとき、相手に流す保留音は、次のいずれかを設定できます。
00：無音
01：別れの曲
02：春
03：赤鼻のトナカイ
04：守ってあげたい
05：オリビアを聴きながら
06：イエローサブマリン
07：愛の讃歌
08：It's a small world
09：Mickey Mouse March
10：Runner
11：We wish you a Merry Christmas

ほかの曲を使いたい
工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外部保留音を使用している場合は、保留音の曲目変更はできません。工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 保留音の曲目を変更する

1 (スピーカ)を押す

2 ⊛⓪②を押す
＊02は、保留音曲目変更の特番（初期値）です。

＊02

3 保留音の番号を押す
上記の曲名の番号（00〜11）を押します。

ﾄｰﾝ 1 ｾｯﾄ

4 (スピーカ)を押す

これで、保留音の曲目が変更できました。

外部機器の制御について

汎用リレー

このシステムのリレーを使用し、外部機器の制御ができます。

この機能を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 汎用リレーのオン／オフを切り替える（特番を使う場合）

1 (スピーカ)を押す

2 ⑧⑤⓪を押す
850は、汎用リレーのオン／オフの特番(初期値)です。

汎用 ﾘﾚｰ 制御 1-8:PGDADP, 0:NTCPU

3 リレー番号を押す
例：リレー番号 1 を押したとき

汎用 ﾘﾚｰ 01 ｵﾝ

リレー番号　オン／オフ

4 (スピーカ)を押す

これで、汎用リレーのオン／オフが切り替わりました。

汎用リレーは、オンのときに操作するとオフになり、オフのときに操作するとオンになります。

■ 汎用リレーのオン／オフを切り替える（特殊ボタンを使う場合）

1 (特殊)を押す

2 ⓪を押す

汎用 ﾘﾚｰ 制御 1-8:PGDADP, 0:NTCPU

3 リレー番号を押す

現在のリレーの状態が表示されます。
例：リレー番号 1 を押したとき

```
状態表示
汎用 ﾘﾚｰ 01 ｵﾌ
```

4 (特殊)を押す

```
汎用 ﾘﾚｰ 01 ｵﾝ
```

リレー番号　オン／オフ

約5秒後に時計表示に戻ります。

これで、リレーのオン／オフが切り替わりました。

よく汎用リレーを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにリレー制御ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは「ファンクションボタンへの機能登録について」(⇒P.6-15)を参照してください。

リレー制御ボタンを使用すると

ボタンのランプ表示で、リレーの状態がわかります。
- リレーがオンのとき：赤点灯
- リレーがオフのとき：消灯

マルチラインデジタルコードレス電話機で操作したい

次の操作で、オン／オフを切り替えることができます。
[850] → [リレー番号] → 内線ボタン → 切／電源ボタン
ただし、マルチラインデジタルコードレス電話機(PHS)の場合、特殊ボタンでの操作はできません。

一般電話機で操作したい

次の操作で、オン／オフを切り替えることができます。
受話器を上げる → [850] → [リレー番号] → 受話器を戻す
一般電話機の場合、特殊ボタンでの操作およびリレー制御ボタンでの操作はできません。
また、操作時の表示を行うことはできません。

電話機を交換する

端末リロケーション

※ バージョン5以降で有効

席替えなどの際、それまで使用していた電話機を、移動先でも変わらず使用するための機能です。交換する2台の電話機を指定すると、電話機に設定されていた内線番号などの設定も、移動先でそのまま使用できます。

暗証番号は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ 交換のしかた

1 2台の電話機を交換する

それぞれの内線番号を控えておいてください。

2 どちらかの電話機で、(ｽﾋﾟｰｶ)を押す

3 端末リロケーションの特番を押す

特番は工事段階で設定しますので、販売店にご確認ください。

```
電話機 ﾃﾞｰﾀ 交換
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ 入力ｰ
```

4 工事段階で設定された暗証番号を押す

```
電話機 ﾃﾞｰﾀ 交換
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ 入力ｰ            ****
```

5 交換する相手の内線番号を押す

セット音が聞こえます。

```
電話機 ﾃﾞｰﾀ 交換
Completed
```

6 (ｽﾋﾟｰｶ)を押す

これで、電話機の交換ができました。

DtermIP を取り外す

DtermIP ログアウト

DtermIP 電話機からケーブルを取り外す前には、必ずログアウトの操作をしてください。ログアウトしないままで DtermIP 電話機を取り外すと、主装置から電話機が接続されていないことが検出できないため、内線をかけてきた相手側では呼出音が鳴り続けます。

■ ログアウトのしかた

1 Exit ◯を押す

ソフトキーの表示が変わります。

```
        2-1  WED  9:00PM
300
                    ﾛｸﾞｱｳﾄ
```

2 “ログアウト”のソフトキーを押す

表示器の表示は、特に変化しません。

3 すぐにDtermIP電話機を取り外す

これで、DtermIP電話機が取り外せました。

- 手順2の操作後は、DtermIP電話機を放置しないでください。放置すると、表示器に“NETWORK BUSY”と表示されます。さらに放置すると、自動で主装置へログインします。ログインした場合には、もう1度ログアウトの操作をはじめからやり直してください。
- “PH Unavailable”と表示されたときは、Exitボタンを押してください。

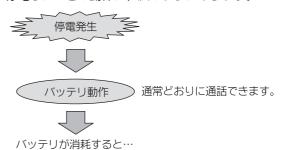
停電したときは

停電すると、本システムのバッテリから電気が供給され、一定時間は電話を使用できます。ただし、バッテリが消耗すると、全ての電話が切れます。
なお、バッテリが消耗しても、停電用電話機であれば、電話をかけたり受けたりすることができます。システムに少なくとも1台は、停電用電話機を設置することをおすすめします。

システムの動作

停電時／停電復旧時動作

■ 停電したとき

停電したときの動作は、次のようになります。

停電用電話機だけ通話できます。

■ 動作保持時間について - バックアップ時間 -

停電したときに、主装置のバッテリで動作できる時間は、次のとおりです。

バッテリ	制御ユニット	
	NTCPU-A2または NTCPU-B2	MBU-S1
内蔵バッテリ	約10分	約5分
増設バッテリ使用時	・多機能電話機90台以内のとき：最大3時間 ・多機能電話機135台以内のとき：最大2時間 ・多機能電話機256台以内のとき：最大1時間	・多機能電話機8台以内のとき：最大3時間 ・多機能電話機16台以内のとき：最大2時間 ・多機能電話機24台以内のとき：最大1.5時間

動作保持時間は目安です

電話機の台数や使用状況、バッテリの使用年数などにより、上記の時間より短くなることがあります。

停電中の電話の使いかた

停電時発着信

停電中、バッテリが消耗した状態では、主装置は停止しています。このとき、停電用電話機があると、一般家庭用の電話と同じように、局からの給電で電話をかけたり受けたりすることができます。ただし、本システムの短縮ダイヤルなどの利用や、内線通話はできません。

停電中に使えるのは、停電対応用のデジタル多機能電話機と一般電話機だけです。デジタルコードレス電話機で、公衆網での契約をしてある場合は、公衆モードに切り替えると使用できます。

■ 停電中のかけかた

1 受話器を上げる

2 電話番号を押す

3 相手が出たら、通話する

■ 停電中の受けかた

1 外線から着信中

2 受話器を上げる

3 相手と通話する

停電が復旧したとき

停電が復旧し、電気が供給されるようになると、主装置が自動的に起動します。このとき、停電用電話機で通話していた場合は、その通話が終わり、電話を切った時点で通常の状態に戻ります。
その後は、通常どおりの方法で通話することができます。

電池について（消耗品）

本システムには、リサイクル可能な電池がいくつか使用されています。

- カールコードレス電話機　：ニッケル水素電池
- マルチラインデジタルコードレス電話機：リチウムイオン電池
- 主装置の内蔵バッテリ　：小形シール鉛蓄電池
- 主装置内CPUのメモリバックアップ電池：ボタン型リチウム電池

カールコードレス電話機の電池について

ニッケル水素電池

カールコードレス電話機(DTR-16KR)には、下記のニッケル水素電池を使用しています。
・ニッケル水素電池：3.6V　1000mAh

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。交換後、不要になったニッケル水素電池および使用済み製品から取り外したニッケル水素電池のリサイクルに際しては、次の注意を守って処理してください。注意を守らないと、ショートによる発煙・発火の原因となります。

※ カールコードレス電話機(DTR-16R)には、「3.6V　600mAh」のニカド電池を使用しています。電池の取り扱いおよび電池交換のしかたは、上記の電池と同様です。

■ リサイクル時のご注意

- ショートを防ぐために、コネクタにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れるなどして、絶縁してください。
- 外装カバー（被覆、チューブなど）を、はがさないでください。
- ニッケル水素電池を分解しないでください。

■ ニッケル水素電池のお持ち込み先

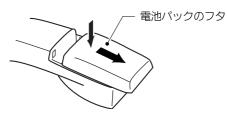
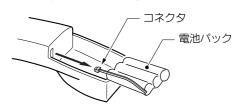
当社修理受付窓口にお持ち込みください。
詳細は、NECインフロンティア（株）環境ホームページをご覧ください。
ホームページアドレス
http://www.necinfrontia.co.jp/company/kankyo/index.htm

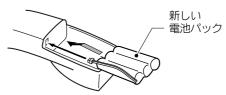
■ お問い合わせについて

- 製品、ニッケル水素電池をご購入いただいた当社販売店
- 当社修理受付窓口（「アフターサービスについて」（添付の別紙）を参照）

■ 電池交換のしかた

カールコードレス子機に使用されているニッケル水素電池の寿命は、使用状況によっても異なりますが、約2年程度です。長時間充電しても、すぐに電池容量が少なくなる場合は、新しい電池パック（別売品）に交換してください。

1 電池パックのフタを押さえながら、下にずらして外す

2 古い電池パックを取り出す

電池パックのケーブルは、必ずコネクタ部分を持って引き抜いてください。ケーブルを引っ張ると、断線することがあります。

3 新しい電池パックのコネクタを差し込んで取り付ける

電池パックのコネクタは、向きを間違えないように注意してください。逆向きには差し込めないようになっていますが、無理に差し込むと、コネクタ部分が破損することがあります。

4 フタを取り付ける

フタをミゾに沿って差し込み、“カチッ” と音がするまで確実に閉めてください。

マルチラインデジタルコードレス電話機の電池について

リチウムイオン電池

マルチラインデジタルコードレス電話機には、リチウムイオン電池を使用しています。
・リチウムイオン電池：3.7V　420mAh

リチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。交換後、不要になったリチウムイオン電池および使用済み製品から取り外したリチウムイオン電池のリサイクルに際しては、次の注意を守って処理してください。注意を守らないと、ショートによる発煙・発火の原因となります。

■ リサイクル時のご注意

- ショートを防ぐために、コネクタにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れるなどして、絶縁してください。
- 外装カバー（被覆、チューブなど）を、はがさないでください。
- リチウムイオン電池を分解しないでください。

■ リチウムイオン電池のお持ち込み先

当社修理受付窓口にお持ち込みください。
詳細は、NECインフロンティア（株）環境ホームページをご覧ください。
ホームページアドレス
http://www.necinfrontia.co.jp/company/kankyo/index.htm

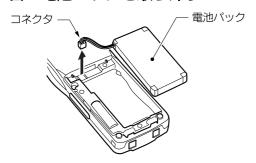
■ お問い合わせについて

- 製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた当社販売店
- 当社修理受付窓口（「アフターサービスについて」（添付の別紙）を参照）

■ 電池交換のしかた

マルチラインデジタルコードレス子機に使用されているリチウムイオン電池の寿命は、使用状況によっても異なりますが、約2年程度です。長時間充電しても、すぐに電池容量が少なくなる場合は、新しい電池（別売品）に交換してください。

1 電池カバーを押さえながら、下にずらして取り外す

2 古い電池パックを取り外す

電池パックのケーブルは、必ずコネクタ部分を持って引き抜いてください。ケーブルを引っ張ると、断線することがあります。

3 新しい電池パックのコネクタを差し込んで取り付ける

電池パックのコネクタは、向きを間違えないように注意してください。逆向きには差し込めないようになっていますが、無理に差し込むと、コネクタ部分が破損することがあります。

4 フタを取り付ける

ツメに合わせて差し込み、"カチッ" と音がするまで確実に閉めてください。

主装置の内蔵バッテリについて

小形シール鉛蓄電池

本システムの主装置には、小形シール鉛蓄電池を使用しています。

小形シール鉛蓄電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。交換後、不要になった小形シール鉛蓄電池および使用済み製品から取り外した小形シール鉛蓄電池のリサイクルに際しては、次の注意を守ってください。注意を守らないと、ショートによる発煙・発火の原因となります。

■ リサイクル時のご注意

・ショートを防ぐために、端子にテープを貼るか、個別に袋に入れるなどして絶縁してください。
・小形シール鉛蓄電池を分解しないでください。

■ 小形シール鉛蓄電池のお持ち込み先

当社修理受付窓口にお持ち込みください。
詳細は、NECインフロンティア（株）環境ホームページをご覧ください。
ホームページアドレス
http://www.necinfrontia.co.jp/company/kankyo/index.htm

■ お問い合わせについて

・製品、小形シール鉛蓄電池をご購入いただいた当社販売店
・当社修理受付窓口（「アフターサービスについて」（添付の別紙）を参照）

■ 電池交換について

小形シール鉛蓄電池の寿命は、使用状況によっても異なります。下表を目安に定期的に交換を行ってください。

システム環境温度	5～35℃（平均25℃）	0～50℃（平均25℃）	0～50℃（平均40℃）
蓄電池交換時期	2.5年後	2年後	1年後

小形シール鉛蓄電池の取り出しは、製品をご購入いただいた販売店にご依頼ください。

主装置内CPUのメモリバックアップ電池について

ボタン型リチウム電池

本システムのCPUには、ボタン型リチウム電池を使用しています。
・リチウム電池：3V　220mAh

ボタン型リチウム電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。交換後、不要になったボタン型リチウム電池および使用済み製品から外したボタン型リチウム電池のリサイクルに際しては、次の注意を守って処理してください。注意を守らないと、ショートによる発煙、発火の原因となります。

■ 廃棄時のご注意

・すべての⊕極と⊖極をセロハンテープなどで絶縁するか、個別の袋に入れるなどして絶縁してください。
・廃棄するときには地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。
・ボタン型リチウム電池を分解しないでください。

■ 電池交換について

主装置内CPUのメモリバックアップに使用されているリチウム電池の寿命は、使用状況によっても異なりますが、約3年程度です。定期的に交換を行ってください。

主装置内CPUのメモリバックアップ電池の取り出しは、製品をご購入いただいた販売店にご依頼ください。

システム管理者の方へ

困ったときは

本システムをご使用中、いつもと違うことが起こったときは、次のことを確認してみてください。それでも原因がわからないときは、販売店にご連絡ください。

■ 電話機が使えない

チェックポイント	対　処
主装置の電源ランプは緑点灯になっていますか？	ランプが消灯しているときは、主装置の電源が切れています。このときは、電源スイッチを押してすぐ放してください。
主装置の電源コードはコンセントにしっかり差し込まれていますか？	確実に差し込んでください。
表示器に通常の表示が出ていますか？ 電話機コードが確実に差し込まれていますか？	電話機コードのコネクタを押し込んでみてください。それでも表示が出ないときは、断線や電話機の故障が考えられます。販売店にご連絡ください。
ボタンの上に、何かが載っているときに操作しませんでしたか？	ボタンが押された状態になっていると、正常に動作しません。電話機の上には何も載せないでください。
受話器が浮いているときに操作しませんでしたか？	受話器が浮いていると、正常に動作しません。受話器をしっかり戻し、しばらく待ってから操作し直してください。

■ デジタルコードレス電話機が使えない

チェックポイント	対　処
デジタルコードレス電話機の電源は入っていますか？	電源スイッチを数秒間押し続けて、電源を入れてください。
電池容量は十分ありますか？	充電してください。
電波は届いていますか？	アンテナマークが3本立つ場所に移動してください。
電池パックは正しく取り付けられていますか？	正しく取り付けてください。
その他	デジタルコードレス電話機に添付の取扱説明書を参照してください。

■ 受話器やスピーカから音が聞こえない

チェックポイント	対　処
受話器コードが抜けていませんか?	確実に差し込んでください。
受話器が浮いているときに操作しませんでしたか?	受話器が浮いていると、正常に動作しません。受話器をしっかり戻し、しばらく待ってから操作し直してください。

■ 着信音が鳴らない

チェックポイント	対　処
システムが夜間モードになっていませんか?	昼間モードのみ着信音が鳴るように設定されている電話機では、夜間モード中は着信音が鳴りません。
着信音が鳴るように設定された電話機ですか?	着信音を鳴らすかどうかは、工事段階で設定します。
着信音量は正しく設定されていますか?	着信音量を「最小」にしていると、音が聞こえません。
着信拒否を設定していませんか?	着信拒否を設定していると、着信音は鳴りません。

■ ドアホンの着信音が鳴らない

チェックポイント	対　処
着信音量は正しく設定されていますか?	着信音量を「最小」にしていると、音が聞こえません。
ドアホンの着信音が鳴るように設定された電話機ですか?	着信音を鳴らすかどうかは、工事段階で設定します。

■ 短縮ダイヤルやファンクションボタンの登録ができない

チェックポイント	対　処
登録できる桁数ですか?	登録できるのは、最大24桁までです。
登録ができるように設定された電話機ですか?	短縮ダイヤルやファンクションボタンの登録ができるかどうかは、工事段階で設定します。

■ 漢字表示電話機に"不"が表示される

チェックポイント	対　処
"不"は不在着信アイコンで、不在時に個別着信があったときに表示されます。 2-1　WED　9:00PM 115 履歴　検索　内線　設定 不 不在着信アイコン	着信履歴を表示すると、"不"は消えます。

システム管理者の方へ

保証とアフターサービスについて

■ 保証書の記載内容ご確認と保存について

本製品には保証書を別途添付してあります。保証書はご購入いただいた販売店でお渡しいたしますので、所定事項記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

■ 保証期間について

保証期間は、ご購入日より1年間です。

■ 保証期間経過後の修理と「アフターサービスについて」(別紙)の保存について

- 保証期間経過後の修理については、ご購入いただいた販売店、またはお近くのNECインフロンティアシステムサービス株式会社　サービス拠点にご相談ください。
- 本製品には、「アフターサービスにいて」(別紙)を添付してあります。大切に保管してください。

■ 修理を依頼されるときは

本システムの動作がおかしいときは、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。簡単な調整で直ることがあります。それでも動作が直らないときには、ご購入いただいた販売店にご相談ください。

お問い合わせいただく前に、下記の情報を準備してください。
- 機種名:Aspireシリーズ
- 故障の状態をできるだけ詳しく
- ご購入年月日
- ご住所、ご氏名、電話番号

■ 消耗品について

消耗品は、保証期間内でも有償とさせていただきます。お買い求めの際は、ご購入いただいた販売店にご相談ください。

■ 商品廃棄について

本製品を廃棄するときには地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。

おもな仕様

2005年12月現在の最新仕様を記載しています。

■ システム

項　目			Aspire S	Aspire		備　考
			MBU-S1	NTCPU-A2 または NTCPU-B2	NTCPU-B2	
			主装置	基本架	基本架＋増設架	
スロット数（インタフェーススロット）			6	8	16	
通話路			PCM時分割一段スイッチ（896CH）			
プロセッサ			32bit RISC			
中継方式			① 中継台方式（DSSコンソール） ② 分散応答 ③ 追加ダイヤルイン方式 ④ 直結式応答方式 ⑤ NTTダイヤルイン方式 ⑥ 個別着信方式			
配線方式（Dterm85）			2芯 スター接続			
使用電源			AC100±10V（50/60Hz）			
選択信号種別			DP（10/20pps）、PB			
消費電力	待機時		40 W	176 W	347 W	
	最大		65 W	360 W	720 W	
オプションアダプタ			SLTアダプタ（一般電話機接続）			
			2PGDアダプタ（ドアホン・TVドアホン、外部スピーカ・アンプ接続）			
			VDBアダプタ（コアライン接続）			
内線線路抵抗（ループ）または内線長	Dterm85		300m以内	600m以内		0.5mmφケーブル
	DSSコンソール		300m以内	600m以内		0.5mmφケーブル、ACアダプタ使用
	一般電話機		900Ω以内	1500Ω以内（20mA） 900Ω以内（35mA）		一般電話機の内部抵抗含む
	長距離内線電話機		3000Ω以内（一般電話機の内部抵抗含む）			DPダイヤルに限る
	SLT アダプタ	主装置間	300m以内	600m以内		0.5mmφケーブル
		一般電話機間	500Ω以内			一般電話機の内部抵抗含む
	8VDHTUユニット		―	VDユニットまたはVDBアダプタを経由してパソコン本体までの間：90m以内		Ethernetケーブル（UTPケーブル）
	CS		200m以内	600m以内		0.5mmφケーブル

システム管理者の方へ

項　目		Aspire S	Aspire		備　考
		MBU-S1	NTCPU-A2 または NTCPU-B2	NTCPU-B2	
		主装置	基本架	基本架＋増設架	
トランク 線路抵抗 （ループ）	局線	1200Ω以内（所属局内部抵抗含む）			
	ISDN回線 （INSネット64）	800Ω以内			1DSUDBユニット実装時
	LD	3000Ω以内			
	OD	300Ω以内			
内線呼量	標準発着信呼量	6.0HCS／内線			
DP信号	インパルス速度	10±0.8pps／20±1.6pps			
	メーク率	33±3％			
	ミニマムポーズ	600ms以上（10pps）／450ms以上（20pps）			
PB信号	信号周波数	低群：697Hz、770Hz、852Hz、941Hz			
		高群：1209Hz、1336Hz、1477Hz			
	周波数偏差	±1.5％以内			
	送出レベル	低群：－16.5～－6.5dBm			20mAのとき
		高群：－16.0～－6.0dBm			20mAのとき
	送出時間	50ms以上			
	ミニマムポーズ	30ms以上			
	周期	120ms以上			
直流回路の抵抗		50～300Ω			回路が閉
PB信号送出中の静電容量		3μF以下			
直流回路の絶縁抵抗		1MΩ以上（直流回路の両線間） 1MΩ以上（直流回路と大地間） 1MΩ以上（直流回路と他の電気通信回線間）			回路が閉 DC250V
呼出信号受信中のインピーダンス		2KΩ以上			75V 16Hz
呼出信号受信中の静電容量		3μF以下			
特性インピーダンス		600Ω			
通話減衰量		2.0dB以下			
漏話減衰量		70dB以上			1.5kHz
使用周囲温度／湿度		0～40℃／10～90％RH（結露しないこと）			
外形寸法（主装置）W×D×H［mm］		418×136×340	418×265×397	418×265×796	Aspireは、主装置増設金具、床置／壁掛兼用金具の部分を含む
重量（主装置）［kg］		約6	約25	約50	
主装置外装色		カラー名称： ライトグレー マンセル値： 8Y 7.1／0.2	カラー名称：ダークシルバー マンセル値：6.8Y 6.1／0.1		

■ デジタル多機能電話機

項	項　目	DTR-8-1D	DTR-8K-1D	DTR-16K-1D	DTR-32K-1D	DTR-8KH-1D
1	ファンクションボタン	8（2色）	8（2色）	16（2色）	32（2色）	8（2色）
2	固定機能ボタン	9	9	9	9	17
3	ボリュームボタン	2	2	2	2	2
4	ソフトキー	ー	4	4	4	4
5	HELP、EXIT	ー	2	2	2	2（注）
6	大型ランプ	有	有	有	有	有
7	LCD表示器	ー	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行
8	筐体色	WH	WH	WH/BK	WH	WH
9	ラインカード色	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー
10	HFU機能	可	可	可	可	可
11	オプション同時装着数	2	2	2	2	2
12	ヘッドセット接続	可	可	可	可	可
13	寸法（W×D×H）（mm）	175×227×70	175×227×92	175×227×92	193×227×92	175×240×96
14	重量（g）	710	810	820	860	870

項	項　目	DTR-16KH-1D	DTR-32KH-1D	DTR-32KPA-1D	DTR-32KPD-1D	DTR-16KR-1D
1	ファンクションボタン	16（2色）	32（2色）	32（2色）	32（2色）	16（2色）
2	固定機能ボタン	17	17	9	9	9
3	ボリュームボタン	2	2	2	2	2
4	ソフトキー	4	4	4	4	4
5	HELP、EXIT	2（注）	2（注）	2	2	2
6	大型ランプ	有	有	有	有	有
7	LCD表示器	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行
8	筐体色	WH	WH	WH	WH	WH
9	ラインカード色	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー
10	HFU機能	可	可	可	可	可 （子機では不可）
11	オプション同時装着数	2	2	1	1	ー
12	ヘッドセット接続	可	可	可	可	ー
13	寸法（W×D×H）（mm）	175×240×96	193×240×96	193×227×92	193×227×92	親機： 175×226×92 子機： 54×213×54 （アンテナ含まず）
14	重量（g）	870	900	910	920	905

（注）漢字表示電話機（電子電話帳機能付／センター電話帳機能付）では「ヘルプ、終了」と表記されています。

項	項　目	DTR-16KM-1D	DTR-32KM-1D	ITR-8D-1D	ITR-32K-1D
1	ファンクションボタン	16（2色）	32（2色）	8（2色）	32（2色）
2	固定機能ボタン	17	17	9	9
3	ボリュームボタン	2	2	2	2
4	ソフトキー	4	4	4	4
5	HELP、EXIT	2（注）	2（注）	2	2
6	大型ランプ	有	有	有	有
7	LCD表示器	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行	24桁×3行	全角：14桁×3行 半角：28桁×3行
8	筐体色	WH	WH	WH	WH
9	ラインカード色	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー	ライトメタリックグレー
10	HFU機能	可	可	可	可
11	オプション同時装着数	ー	ー	ー	2
12	ヘッドセット接続	ー	ー	ー	可
13	寸法（W×D×H）（mm）	175×240×96	193×240×96	175×227×92	193×227×92
14	重量（g）	870	900	810	860

■ マルチラインデジタルコードレス電話機

項　目	諸　元
無線周波数	1.9GHz帯
送信電力	10mW
音声符号化方式	32KbpsADPCM
使用電池	リチウムイオン電池
使用時間	連続通話時間：約5時間（フル充電時）（注1） 連続待受時間：約300時間（フル充電時）（注2）
充電時間	約3.5時間

（注1）使用モードによって異なる場合があります。
（注2）公衆一面待受時に充電完了後、充電器に置かず、一度も通話しない状態のときの時間です。通話したり、着信音が鳴ったりすると、連続待受時間が短くなります。

索　引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

数字

A～Z

取扱説明書

アフターサービスについて

1. 万一故障の際は、当社の保証規定にもとづき修理させていただきます。
2. 使用上の不明な点や故障が発生した場合は、下記にお問い合わせください。
   ① お買い求めの販売店
   ② NEC インフロンティアシステムサービス株式会社（保守サービス受付拠点）
   添付別紙「アフターサービスについて」をご覧ください。

本書は再生紙を使用しています。

販売店名

ニッケル水素電池のリサイクルにご協力ください。

ニカド電池のリサイクルにご協力ください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

小形シール鉛蓄電池のリサイクルにご協力ください。

NECインフロンティア株式会社

ND-105058-006　第6版
2006.1